

---

# 流山市 高齢者等実態調査報告書

---

平成 26 年 6 月  
流 山 市



# 目 次

第1章 調査実施の概要	1
1 目的	1
2 調査の種類	1
3 調査の方法と回収状況	1
4 報告書の見方	2
第2章 高齢者一般調査結果	3
1 あなたやご家族の生活状況について	3
1 年齢	3
2 性別	3
3 居住地区	4
4 家族構成	4
4-1 同居人数	5
4-2 同居人	5
4-3 日中、一人になることの有無	6
5 普段の生活での介護・介助の必要性	6
5-1 要支援・要介護の認定状況	7
5-2 介護・介助が必要になった主な原因	8
5-3 主な介護・介助者	9
5-4 主に介護・介助をしている方の年齢	9
6 年金の種類	10
7 現在の暮らしの状況	10
8 加入している健康保険	11
9 居住形態	12
10 住まいの所有形態	12
11 主に生活する部屋は2階以上か	13
11-1 エレベーターの設置	13
2 運動・閉じこもりについて	14
1 定期的に運動しているか	14
2 外出を控えているか	15
2-1 外出を控えている理由	15
3 外出する頻度	16
4 外出する際の移動手段	16
3 転倒について	17
1 この1年間に転んだことがあるか	17
1-1 転倒した場所	18
4 口腔・栄養について	19
1 一日の食事の回数	19
2 食事を抜くことがあるか	19
3 自分一人でなく、どなたかと食事をとる機会はあるか	20

3-1	食事をともにする人.....	20
4	1日2回以上主食、主菜、副菜のそろった食事をしているか.....	21
5	1日2回、肉・魚・卵、大豆等のいずれかをご自身のこぶし大くらい食べているか..	21
6	1日2回、野菜をご自身の片手に山盛り一杯食べているか.....	22
7	食事を楽しんでいるか.....	22
8	健康のために食事を大切にしているか.....	23
9	歯磨きを毎日しているか.....	23
10	定期的に歯科受診をしているか.....	24
11	入れ歯を使用しているか.....	24
11-1	噛み合わせは良いか.....	25
11-2	毎日入れ歯の手入れをしているか.....	25
12	どれくらいのものが噛めるか.....	26
5	日常生活について.....	27
1	日用品の買物をしているか.....	27
1-1	主に日用品の買い物をしている人.....	27
2	自分で食事の用意をしているか.....	28
2-1	主に食事の用意をする人.....	28
3	家事全般ができているか.....	29
6	社会参加・地域との関わりについて.....	30
1	趣味はあるか.....	30
2	生きがいはあるか.....	30
3	会・グループ等の参加頻度.....	31
4	活動（社会参加活動や仕事）頻度.....	32
5	本人とまわりの人の「たすけあい」について.....	34
6	家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手.....	36
7	友人関係について.....	37
7	健康について.....	39
1	健康状態.....	39
2	現在治療中、または後遺症のある病気.....	39
2-1	現在治療中、または後遺症のある病気と状況.....	40
3	薬を処方されている医療機関数.....	42
4	現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院しているか.....	42
4-1	通院頻度.....	43
4-2	通院の際の介助の必要性.....	43
5	かかりつけ医は決まっているか.....	44
6	かかりつけ医に最も期待すること.....	44
7	健（検）診の受診状況.....	45
7-1	健（検）診の内容.....	45
7-2	健（検）診を受けたことがない理由.....	46
8	飲酒状況.....	47
9	喫煙状況.....	47
10	健康について知りたい内容.....	48
11	自分の健康に気をつけているか.....	49

11-1	健康に気をつけて実行していること	50
8	介護保険制度や介護保険料について	51
1	介護保険制度の認知度	51
2	介護保険制度の負担についての感じ方	51
3	介護保険料段階	52
4	介護保険料の支払いについての感じ方	53
5	介護保険料と介護保険サービスについての考え	53
6	市の介護保険料段階のあり方についての考え	54
9	介護予防と地域での支援について	55
1	歳を重ねることに伴う心身の不安	55
2	介護予防に関する講座の認知度	55
3	介護支援サポーター事業の認知度	56
4	今後の介護支援サポーター事業の参加意向	56
5	いつまでも元気で暮らしていくためにあったらいいと思う講座や仕組み	57
10	地域包括支援センターについて	58
1	地域包括支援センターの認知度	58
1-1	地域包括支援センターの活動で知っている内容	58
1-2	地域包括支援センターの利用経験	59
1-2-1	地域包括支援センターを利用した感想	59
1-2-2	地域包括支援センターをもっと利用しやすくするために必要だと思うこと	60
11	保健福祉サービスの利用状況及び今後の利用意向について	61
1	現在の利用状況と今後の利用意向	61
12	成年後見制度について	63
1	成年後見制度の内容の認知度	63
1-1	成年後見制度を知った方法	63
2	成年後見制度を利用する場合、どのように利用したいか	64
3	市民後見人制度の認知度	64
4	成年後見制度を利用する場合に、依頼したい後見人	65
5	市民後見人制度のあり方に対する考え方	65
13	認知症について	66
1	認知症が病気であることの認知	66
2	認知症は早期発見し治療等につなげることで、進行を緩やかにすることの認知	66
3	認知症について講座に参加したり、本等で情報を得た経験	67
4	家族や近所の方に認知症が疑われる場合、最初に相談するところ	67
5	「認知症サポーター」を養成する講座の受講意向	68
6	認知症になっても地域で暮らしていくために必要だと思う支援	68
14	今後の暮らしや介護について	69
1	介護が必要になった時に望む暮らし方	69
2	住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために特に力を入れていくべきもの	70
3	定期巡回・随時対応型訪問介護のサービスの認知度	71
4	万一、介護が必要な状態になった場合、24時間対応の在宅サービスの利用意向	71
15	評価項目別の結果	72
1	基本チェックリスト項目による判定	72

1-1	虚弱	73
1-2	運動器の機能低下	73
1-3	低栄養	74
1-4	口腔機能の低下	74
1-5	閉じこもり	75
1-6	認知機能の低下	75
1-7	うつ傾向	76
2	老研式活動能力指標による評価	77
2-1	手段的自立	77
2-2	知的能動性	78
2-3	社会的役割	79
3	転倒リスク評価	80
4	バーセルインデックス	81
5	認知機能障害程度評価	82
<b>第3章 要支援・要介護認定者調査</b>		<b>84</b>
1	あなたやご家族の生活状況について	84
1	年齢	84
2	性別	84
3	居住地区	85
4	家族構成	85
4-1	同居人数	86
4-2	同居人	86
4-3	日中、一人になることの有無	87
5	現在の介護度（2月1日現在）	87
6	普段の生活での介護・介助の必要性	88
6-1	介護・介助が必要になった主な原因	89
6-2	主な介護・介助者	90
6-3	主に介護・介助をしている方の年齢	90
7	年金の種類	91
8	現在の暮らしの状況	91
9	加入している健康保険	92
10	居住形態	93
11	住まいの所有形態	93
12	主に生活する部屋は2階以上か	94
12-1	エレベーターの設置	94
2	運動・閉じこもりについて	95
1	定期的に運動しているか	95
2-1	外出を控えている理由	96
3	外出する頻度	97
4	外出する際の移動手段	97
3	転倒について	98
1	この1年間に転んだことがあるか	98

1-1	転倒した場所.....	99
4	口腔・栄養について.....	100
1	一日の食事の回数.....	100
2	食事を抜くことがあるか.....	100
3	自分一人でなく、どなたかと食事をともにする機会はあるか.....	101
3-1	食事をともにする人.....	101
4	1日2回以上主食、主菜、副菜のそろった食事をしているか.....	102
5	1日2回、肉・魚・卵、大豆等のいずれかをご自身のごぶし大くらい食べているか.....	102
6	1日2回、野菜をご自身の片手に山盛り一杯食べているか.....	103
7	食事を楽しんでいるか.....	103
8	健康のために食事を大切にしているか.....	104
9	歯磨きを毎日しているか.....	104
10	定期的に歯科受診をしているか.....	105
11	入れ歯を使用しているか.....	105
11-1	噛み合わせは良いか.....	106
11-2	毎日入れ歯の手入れをしているか.....	106
12	どれくらいのものが噛めるか.....	107
5	日常生活について.....	108
1	日用品の買物をしているか.....	108
1-1	主に日用品の買い物をする人.....	108
2	自分で食事の用意をしているか.....	109
2-1	主に食事の用意をする人.....	109
3	家事全般ができているか.....	110
6	社会参加・地域との関わりについて.....	111
1	趣味はあるか.....	111
2	生きがいはあるか.....	111
3	会・グループ等の参加頻度.....	112
4	活動（社会参加活動や仕事）の頻度.....	113
5	本人とまわりの人の「たすけあい」について.....	115
6	家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手.....	117
7	友人関係について.....	118
7	健康について.....	120
1	健康状態.....	120
2	現在治療中、または後遺症のある病気の有無.....	120
2-1	現在治療中の病気や後遺症のある病気とその状況.....	121
3	薬を処方されている医療機関数.....	123
4	現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院しているか.....	123
4-1	通院頻度.....	124
4-2	通院の際の介助の必要性.....	124
5	かかりつけ医は決まっているか.....	125
6	かかりつけ医に最も期待すること.....	125
7	健（検）診の受診状況.....	126
7-1	健（検）診内容.....	126

7-2	健（検）診を受けたことがない理由	127
8	飲酒状況	128
9	喫煙状況	128
10	健康について知りたい内容	129
11	自分の健康に気をつけているか	130
11-1	健康に気をつけて実行していること	131
8	要支援認定を受けている方の意識について	132
1	日常生活を送るうえで困っていることや不安な内容	132
2	介護保険制度の見直しが進められていることの認知	133
3	制度見直しが予定どおり実施された場合の介護予防事業の重視すべき点	134
9	地域包括支援センターについて	135
1	地域包括支援センターの認知度	135
1-1	地域包括支援センターの活動内容で知っている内容	135
1-2	地域包括支援センターの利用経験	136
1-2-1	地域包括支援センターを利用した感想	136
1-2-2	地域包括支援センターをもっと利用しやすくするために必要だと思うこと	137
10	成年後見制度について	138
1	成年後見制度の内容の認知度	138
1-1	成年後見制度を知った方法	138
2	成年後見制度を利用する場合、どのように利用したいか	139
3	市民後見人制度の認知度	139
4	成年後見制度を利用する場合に、依頼したい後見人	140
5	市民後見人制度のあり方に対する考え方	141
11	ケアマネジャーについて	142
1	ケアマネジャーのサービス利用に関する相談等への対応	142
2	介護サービス利用決定に当たってのケアマネジャーからの提案や説明	142
2-1	ケアマネジャーに対する総合的な満足度	143
12	介護保険サービスについて	144
1	介護保険サービス利用状況	144
1-1	現在利用しているサービス	144
1-2	介護保険サービスを利用した満足度	145
1-2-1	サービスの内容に不満がある原因	145
1-3	介護サービスを利用していない理由	146
2	利用したいのに利用できない在宅サービス	147
3	定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの認知度	148
4	24時間対応型の在宅サービスの利用意向	148
5	住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために特に力を入れていくべきもの	149
6	認知症対策をすすめていくうえで重点を置くべきこと	150
13	介護保険料について	151
1	介護保険料段階	151
2	介護保険料の支払いについての感じ方	152
3	介護保険料と介護保険サービスについての考え	152
4	市の介護保険料段階のあり方についての考え	153



14	評価項目別の結果	154
1	基本チェックリスト項目による判定	154
1-1	虚弱	155
1-2	運動器の機能低下	155
1-3	低栄養	156
1-4	口腔機能の低下	156
1-5	閉じこもり	157
1-6	認知機能の低下	157
1-7	うつ傾向	158
2	老研式活動能力指標による評価	159
2-1	手段的自立	159
2-2	知的能動性	160
2-3	社会的役割	161
3	転倒リスク評価	162
4	バーセルインデックス	163
5	認知機能障害程度評価	164
<b>第4章</b>	<b>介護保険サービス提供事業者調査</b>	<b>166</b>
1	事業所の概要について	166
1	事業所の概要	166
1-1	実施事業が通所介護を実施している場合の利用定員数と平均利用延人数	169
2	事業所が提供しているサービスについて	170
1	事業所が提供している介護サービスについて	170
3	今後の介護保険サービスの事業予定について	174
1	事業所における各サービスの今後の予定	174
4	要支援1・要支援2の方を対象とした訪問介護及び通所介護について	178
1	介護予防事業の実施に関する意向	178
5	サービス運営について	181
1	円滑な事業運営を進めていくうえで、支障となっていること	181
2	事業運営を進めていくうえで、今後優先的に取り組んでいこうと考えていること	182
3	サービスの質的向上を図るうえでの課題	183
4	対応に困難な利用者の有無	184
4-1	対応が困難と感ずる事	184
5	利用者や介護者のプライバシーへの配慮	185
6	利用者や介護者のプライバシー保護のためのマニュアルの作成	185
7	利用者や介護者からの苦情の内容	186
8	利用者や介護者から不満や苦情があった場合の対処方法	186
9	事故防止等のためにしている取組み	187
10	サービスの質を高めるために事業所が行っていること	188
6	従業者の処遇について	189
1	平成24年4月の介護報酬改定に伴う介護職員処遇改善加算の需給状況	189
1-1	介護職員処遇改善加算による給与月額での増額	190
1-2	従業者の現在の給与水準を保つていくために必要だと考えること	191

7	地域包括支援センターについて	192
1	業務ごとの取組状況の評価	192
2	地域包括支援センターとの連携についての姿勢	193
3	地域包括支援センターの活動に期待する点や力を入れてほしい点	194
8	居宅介護支援事業所について	196
1	ケアプラン作成にあたっての利用者が複数のサービスから選べるような配慮	196
2	流山市内で供給量が不足していると感じる在宅サービスの有無	196
3	サービス提供後、サービス利用の見直しについての提案	197
4	サービス利用による利用者の心身状態の改善への影響	198
4-1	改善した内容	198
5	利用者の介護者負担軽減についての認識	199
6	ケアマネジャーへの利用者や介護者からの相談の有無	199
7	利用者や介護者から訪問の要請があった場合のケアマネジャーの対処	200
8	流山市で進めている「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の利用者を増加・定着させるための課題	201
9	居宅介護支援事業所の事業者指定権限が、県から流山市移行することが検討されていることで期待すること	204
9	認知症対策について	206
1	サービス利用者のうち認知症を抱える方の割合	206
2	以前と比べた認知症を抱える利用者の状況	206
3	認知症を抱える利用者への対応で困ったことの有無	207
4	認知症を抱える利用者への対応で困ったことの有無	208
5	認知症を抱える利用者の受け入れにおける考え	210
6	認知症を抱える利用者の家族（介護者）についての印象	211
7	事業所の従業員の認知症への理解、取組みについての姿勢	211
8	認知症対策として重要であると考える取組み	212
9	介護保険サービスの組み合わせ	213
10	認知症の方が介護保険サービス以外のサービス・制度で利用しているもの	214
11	認知症の方へのケアプランに期待する介護保険サービス以外のサービス・制度	215
10	高齢者権利擁護（虐待）について	217
1	過去1年間で利用者に家庭内における虐待と思われる状態を発見したことの有無	217
1-1	虐待の事例	218
1-2	虐待をした人	219
1-3	虐待と思われる状態を発見した場合の対応	220
2	身体拘束に対する取組みや検討会などの実施状況	220
3	過去1年間に施設内で従業員による高齢者虐待と思われる状態の発生の有無	221
4	虐待や不適切な行為の防止策や対応策として施設で行っていること	222
5	従業員が、他の従業員による虐待を目撃した場合の報告体制	223
6	高齢者虐待を防止するために重要であると考える取組み	224
11	高齢者権利擁護（成年後見制度）について	225
1	従業員の成年後見制度への理解度	225
2	成年後見制度の利用が望ましいと思われるサービス利用者の有無	225
3	成年後見制度の利用に対する考え	226

12	今後の高齢者介護について .....	227
1	高齢者が住み慣れた地域でできる限り住み続けていくために重要だと思うこと .....	227
2	介護保険制度や介護保険サービス、制度改正についての意見等 .....	228



# 第 1 章 調査実施の概要

## 1 目的

高齢者のための施策を総合的かつ計画的に推進していくため、「流山市高齢者支援計画（高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画）」の策定を進めており、計画策定の基礎資料に資することを目的とする。

## 2 調査の種類

調査は、下記の 3 対象へ、それぞれ調査票を分けて実施した。

調査名	調査対象	規模
1 高齢者一般調査	要支援・要介護認定を受けていない 65 歳以上の高齢者	無作為抽出 (2,000 人)
2 要支援・要介護認定者調査	要支援・要介護認定を受けている 65 歳以上の高齢者（施設サービス利用者を除く）	無作為抽出 (1,977)
3 介護サービス事業所調査	流山市被保険者に対して介護サービスの提供実績がある事業所	(173 事業所)

## 3 調査の方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査（お礼兼督促ハガキの発送 1 回）

調査期間：平成 26 年 2 月 21 日（金）～平成 26 年 3 月 14 日（金）

### <回収状況>

調査名	調査対象数（人）	有効回収数（人）	有効回収率（%）
1 高齢者一般調査	2,000	1,688	84.4
2 要支援・要介護認定者調査	1,977	1,428	72.2
3 介護サービス事業所調査	173	128	74.0

#### 4 報告書の見方

- ① 集計は、小数点以下第2位を四捨五入している。従って、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- ② 基数となるべき実数は、(n : number of cases の略) として表示している。
- ③ 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。従って、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- ④ 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑤ 分析の軸(=表側:「ひょうそく」と読む)とした調査回答者の属性等は、無回答を除いている場合がある。そのため、各調査回答者の属性のnの合計が全体と一致しない場合がある。
- ⑥ 分析の軸(=表側)とした調査回答者の属性等でnが少ないもの(20人未満)は、標本誤差が大きくなるため、参考として図示しているが、分析の対象からは除いている。

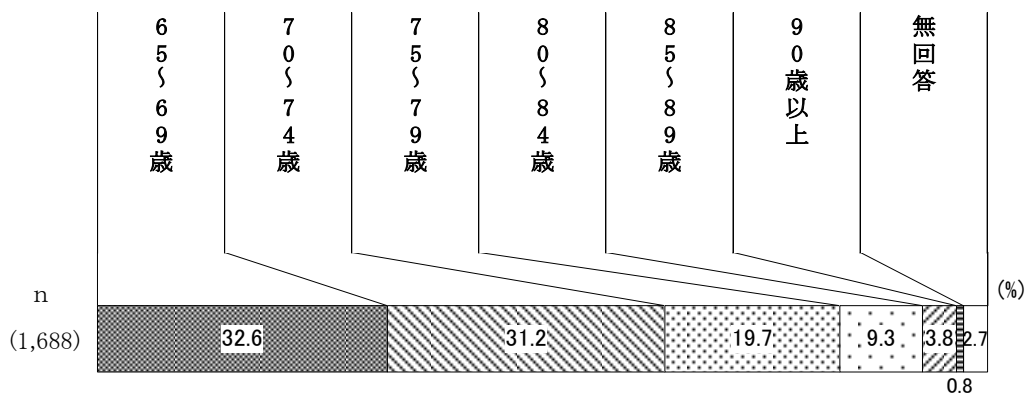
# 第2章 高齢者一般調査結果

## 1 あなたやご家族の生活状況について

### 1 年齢

Q1：年齢をお答えください。

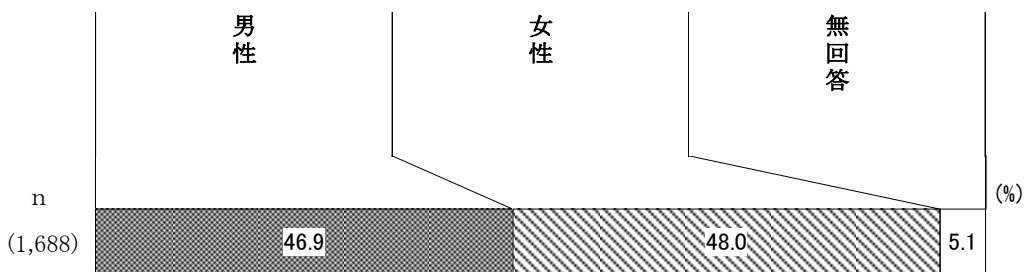
「65～69歳」が32.6%、「70～74歳」が31.2%、「75～79歳」が19.7%となっている。なお、「前期高齢者」は63.8%である。



### 2 性別

Q2：性別をお答えください。

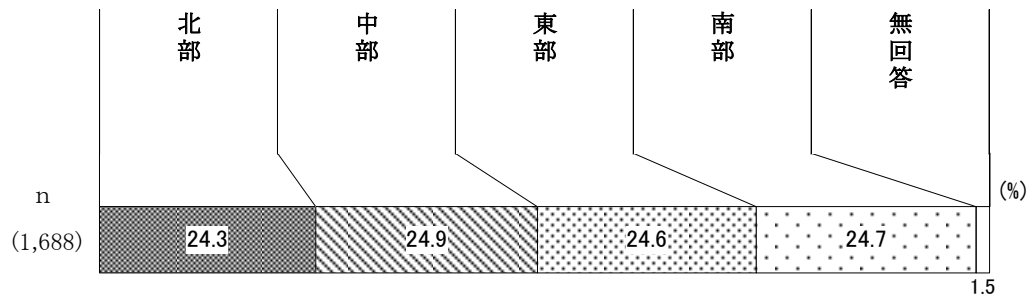
「男性」が46.9%、「女性」が48.0%となっている。



### 3 居住地区

Q3：お住まいの地区はどちらですか。（番号に○をつけてください）

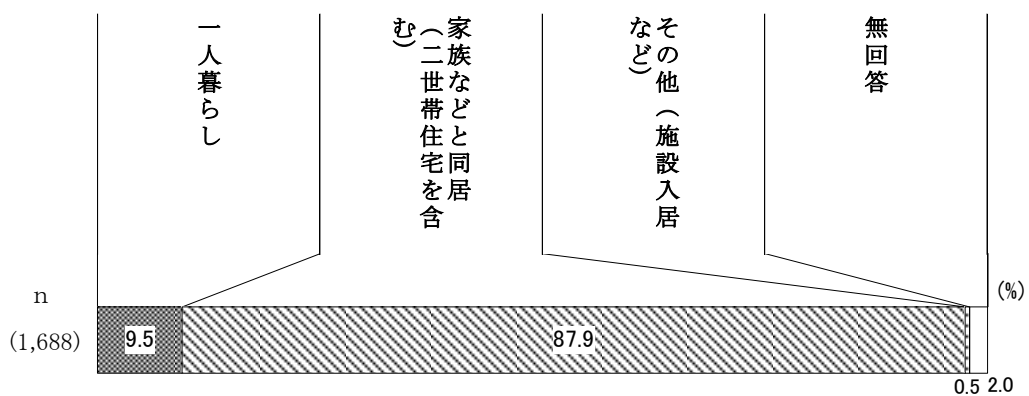
居住地区は、「北部」が24.3%、「中部」が24.9%、「東部」が24.6%、「南部」が24.7%とほぼ同じ割合となっている。



### 4 家族構成

Q4：家族構成をお教えてください。

家族構成は、「家族など同居（二世帯住宅を含む）」が87.9%を占めており、「一人暮らし」は9.5%となっている。



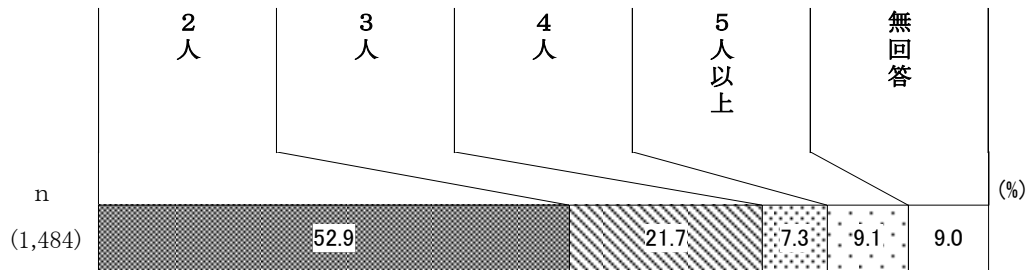


#### 4-1 同居人数

(ご家族などと同居されている方のみ)

Q4-1①：宛名のご本人を含めて何人で暮らしていますか。

家族などと同居していると回答した方に、同居人数をたずねたところ、「2人」が52.9%と半数を超え、「3人」が21.7%、「4人」が7.3%、「5人以上」が9.1%となっている。

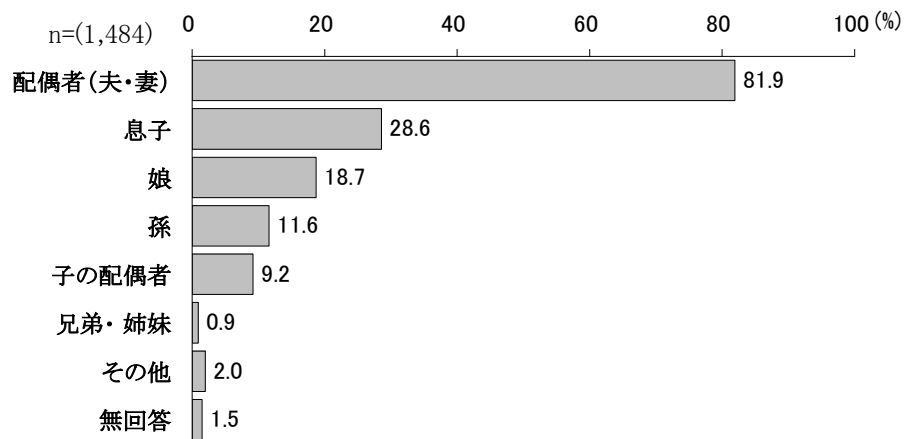


#### 4-2 同居人

(ご家族などと同居されている方のみ)

Q4-1②：同居されている方はどなたですか。(〇はいくつでも)

家族などと同居していると回答した方に、同居人をたずねたところ、「配偶者(夫・妻)」が81.9%で最も多くなっている。次いで「息子」が28.6%、「娘」が18.7%である。

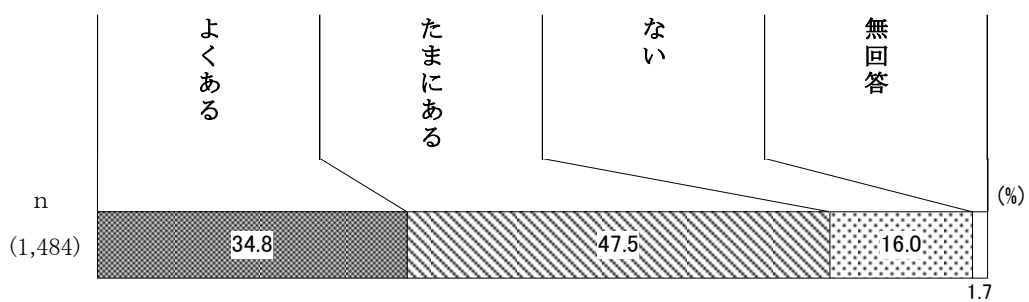


### 4-3 日中、一人になることの有無

(ご家族など同居されている方のみ)

Q4-2：日中、一人になることがありますか。

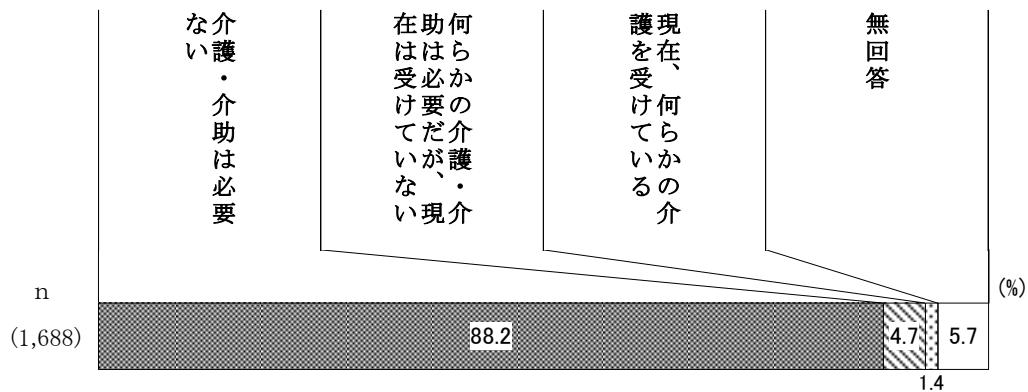
家族など同居していると回答した方に、日中、一人になることの有無をたずねたところ、「たまにある」が47.5%で最も多く、「よくある」が34.8%となっている。一方、「ない」は16.0%である。



### 5 普段の生活での介護・介助の必要性

Q5：普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

普段の生活での介護・介助の必要性は、「介護・介助は必要ない」が88.2%で最も多くなっている。また、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は4.7%である。

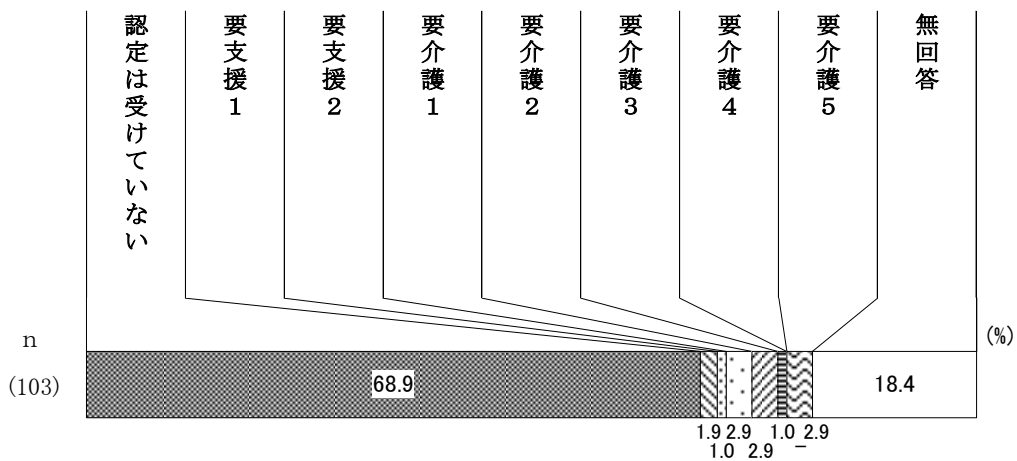


## 5-1 要支援・要介護の認定状況

(介護・介助が必要な方のみ)

Q5-1：2月1日現在、要支援・要介護の認定は受けていますか。(○は1つ)

介護・介助が必要と回答した方に、認定状況をたずねたところ、「認定は受けていない」が68.9%で最も多くなっている。認定を受けた中では「要介護1」、「要介護2」、「要介護5」がそれぞれ2.9%となっている。

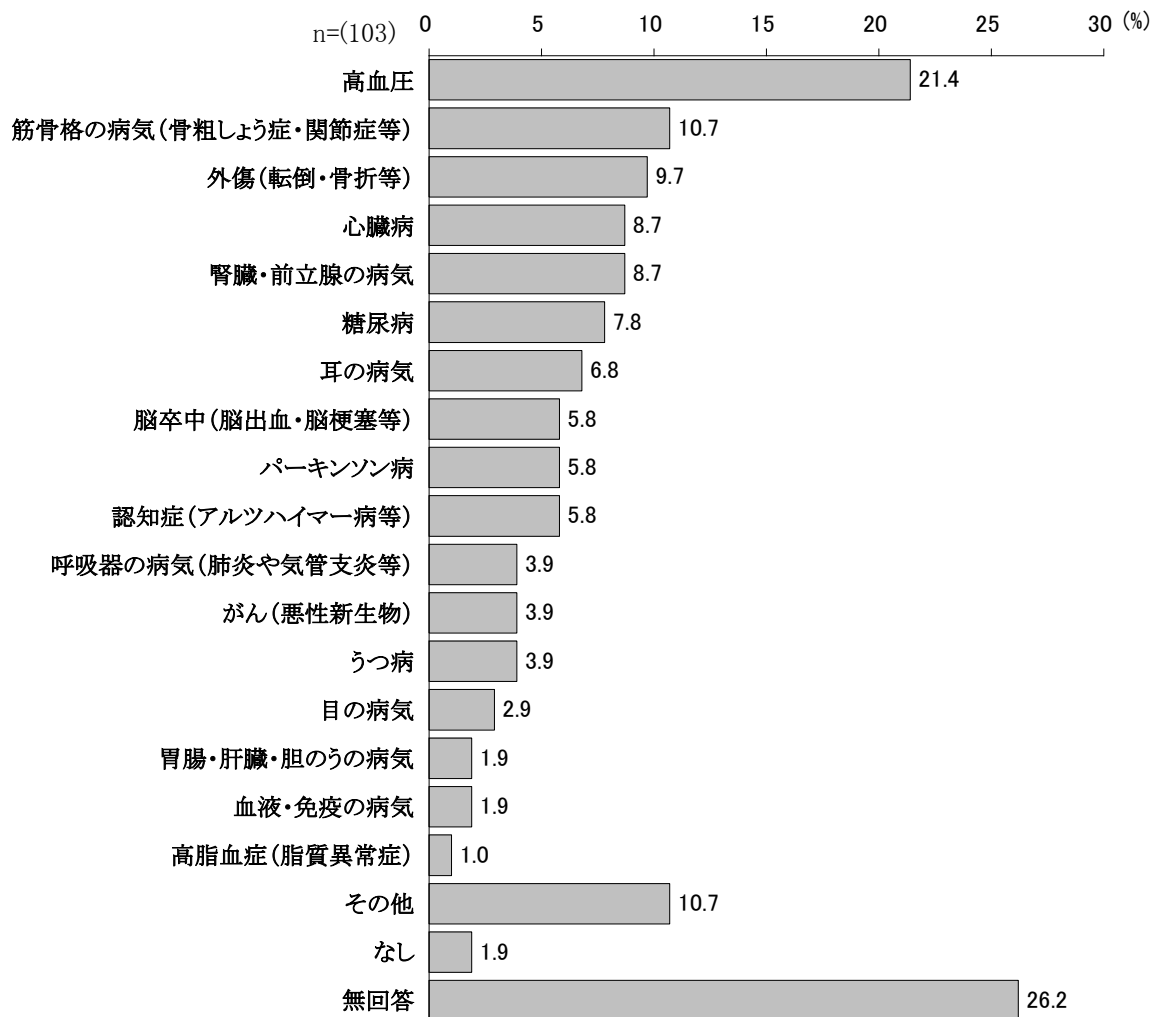


## 5-2 介護・介助が必要になった主な原因

(介護・介助が必要な方のみ)

Q5-2：介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(〇はいくつでも)

介護・介助が必要と回答した方に、介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、「高血圧」が21.4%で最も多く、次いで「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」が10.7%、「外傷(転倒・骨折等)」が9.7%、「心臓病」と「腎臓・前立腺の病気」がともに8.7%となっている。

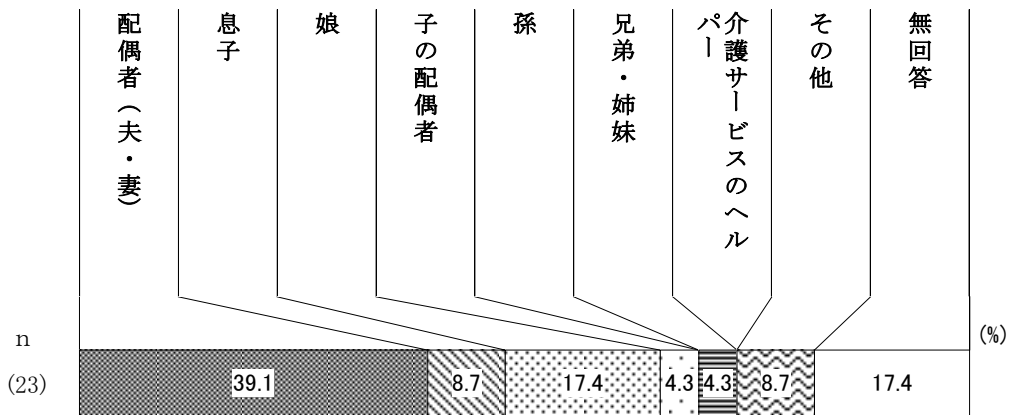


### 5-3 主な介護・介助者

(介護・介助を受けている方のみ)

Q5-3：主にどなたの介護・介助を受けていますか。

介護・介助が必要と回答した方に、主に介護・介助をする人をたずねたところ、「配偶者（夫・妻）」が39.1%で最も多く、次いで「娘」が17.4%、「息子」が8.7%となっている。

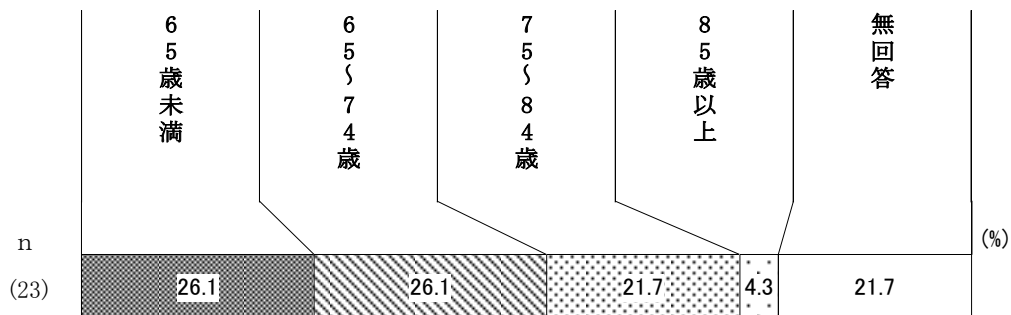


### 5-4 主に介護・介助をしている方の年齢

(介護・介助を受けている方のみ)

Q5-4：主に介護・介助している方の年齢は、次のどれですか。

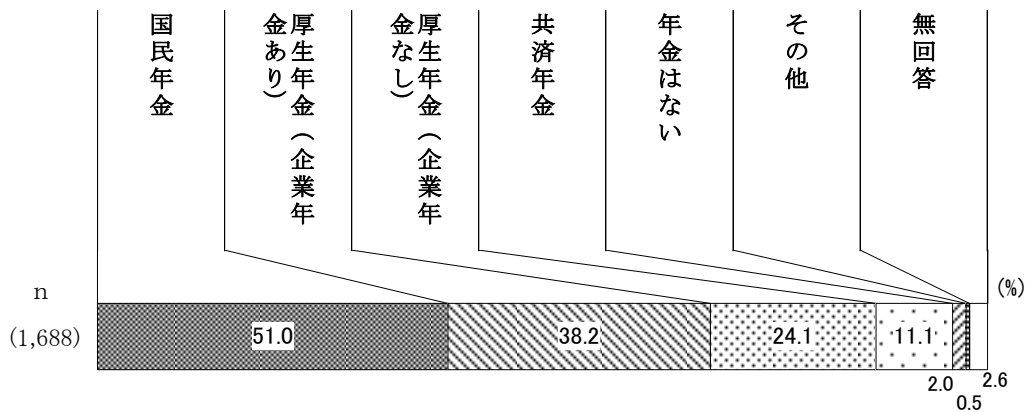
介護・介助が必要と回答した方に、主に介護・介助をしている方の年齢をたずねたところ、「65歳未満」と「65～74歳」がともに26.1%で最も多く、「75～84歳」が21.7%となっている。



## 6 年金の種類

Q6：年金の種類は次のどれですか。（〇はいくつでも）

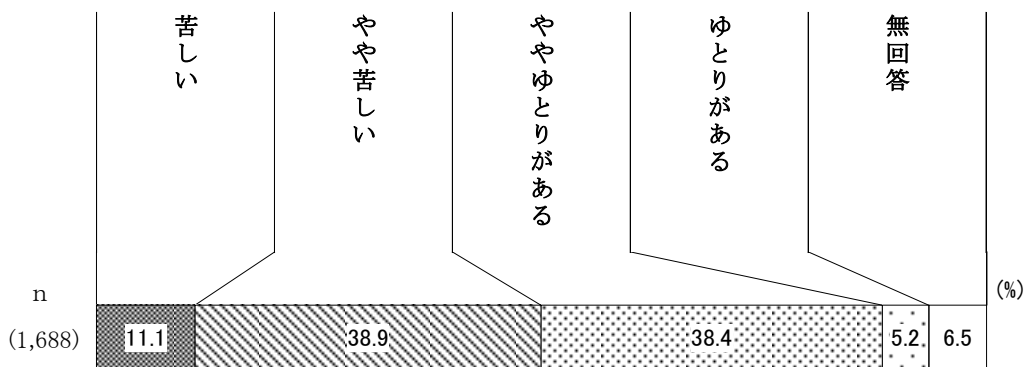
年金の種類は、「国民年金」が51.0%で最も多く、次いで「厚生年金（企業年金あり）」が38.2%、「厚生年金（企業年金なし）」が24.1%、「共済年金」が11.1%となっている。



## 7 現在の暮らしの状況

Q7：現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（〇は1つ）

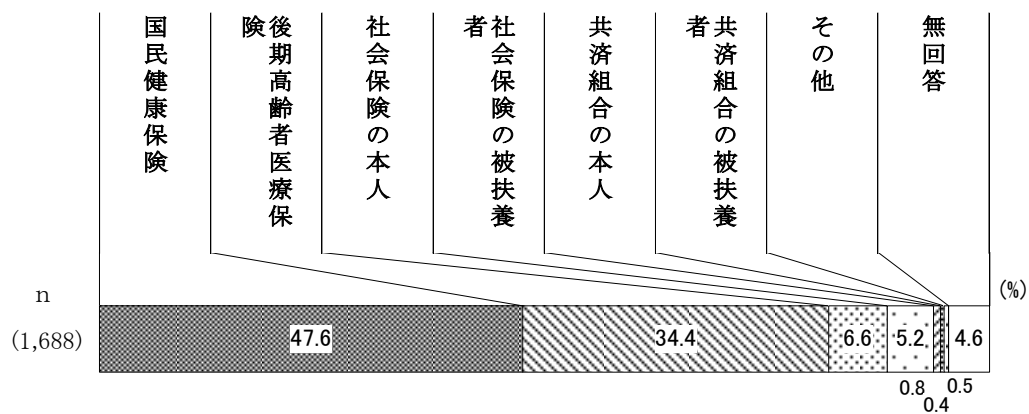
現在の暮らしの状況は、「やや苦しい」が38.9%で最も多く、「苦しい」（11.1%）を合わせた《苦しい》は50.0%となる。一方、「ややゆとりがある」（38.4%）と「ゆとりがある」（5.2%）を合わせた《ゆとりがある》は43.6%となっている。



## 8 加入している健康保険

Q8：加入している健康保険は次のうちどれですか。（〇は1つ）

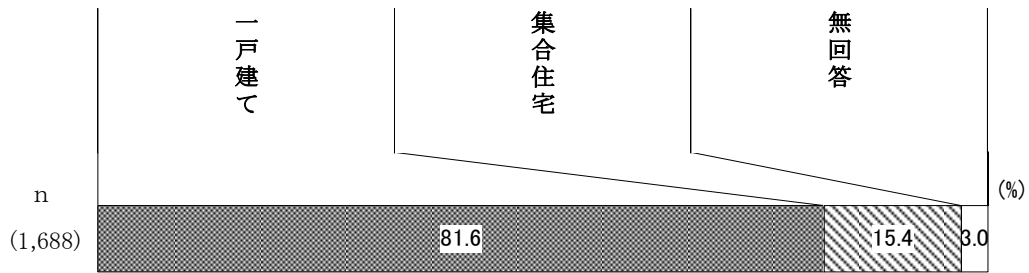
加入している健康保険は、「国民健康保険」が47.6%で最も多く、次いで「後期高齢者医療保険」が34.4%、「社会保険の本人」が6.6%となっている。



## 9 居住形態

Q9：お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

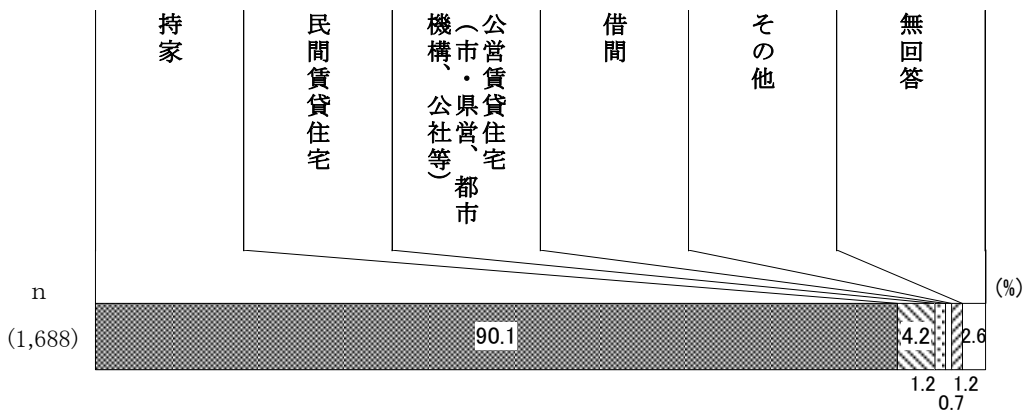
居住形態は、「一戸建て」が81.6%で、「集合住宅」が15.4%となっている。



## 10 住まいの所有形態

Q10：お住まいは、次のどれにあたりますか（○は1つ）

住まいの所有形態は、「持家」が90.1%を占めている。

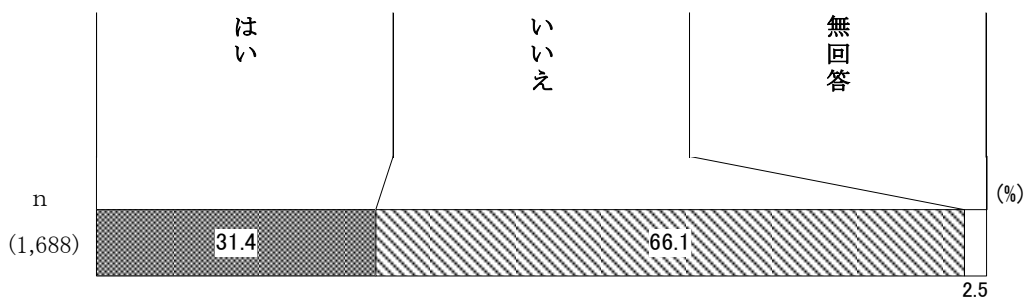




## 11 主に生活する部屋は2階以上か

Q11：お住まい(主に生活する部屋)は2階以上にありますか

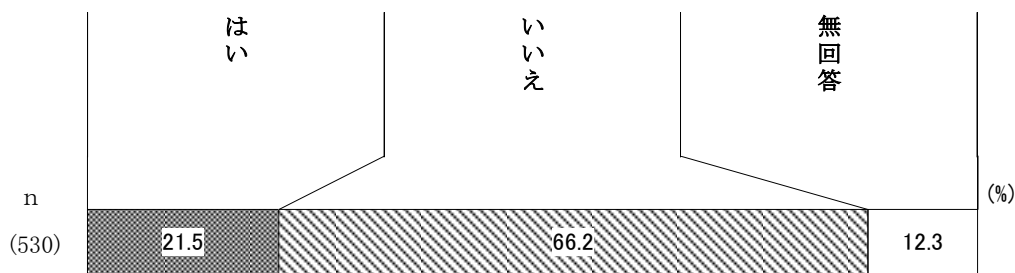
主に生活する部屋が2階以上かについては、「はい」が31.4%で、「いいえ」が66.1%となっている。



### 11-1 エレベーターの設置

(主に2階以上の階で生活している方のみ)  
Q11-1：お住まいにエレベーターは設置されていますか

主に生活する部屋が2階以上と回答した方に、エレベーター設置の有無をたずねたところ、「いいえ」が66.2%となっている。



対象者の方にお送りした調査票では、ここから国の示す日常生活圏域ニーズ調査の内容をふまえた調査項目をたずねている。

日常生活圏域ニーズ調査の調査項目は、組み合わせることにより「基本チェックリスト項目による二次予防事業対象者の判定」をはじめ、老研式活動能力指標による「手段的日常生活動作（IADL）の判定」、常生活動作（ADL）評価指標として広く用いられている「バーセルインデックスの評価方法」などを行うことができる。

本報告書では、判定及び評価で利用しない項目は他の設問と同様に掲載することとし、判定及び評価に利用する項目は、後述してまとめて整理するものとした（72 ページ 「評価項目別の結果」参照）。

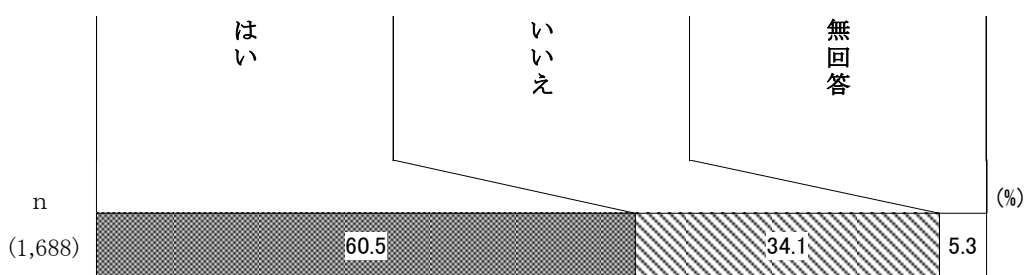
そのため、問番号は必ずしも連続しない。

## 2 運動・閉じこもりについて

### 1 定期的に運動しているか

Q6：定期的に運動していますか。（1回20～30分以上の運動を週2回以上）

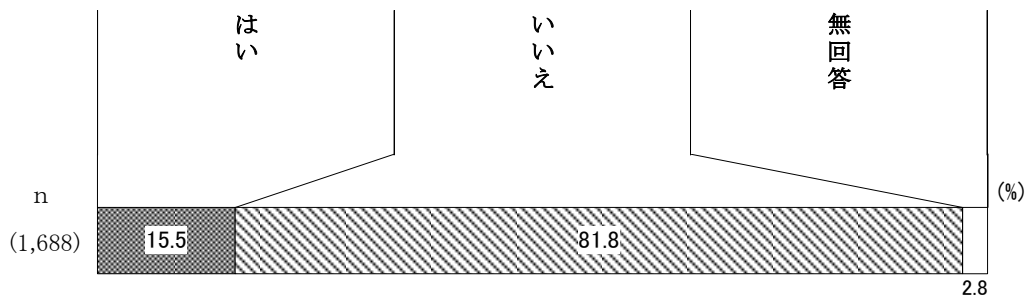
定期的に運動をしているかについては、「はい」が60.5%で、「いいえ」が34.1%となっている。



## 2 外出を控えているか

Q8：外出を控えていますか。

外出を控えているかでは、「はい」が15.5%で、「いいえ」が81.8%となっている。

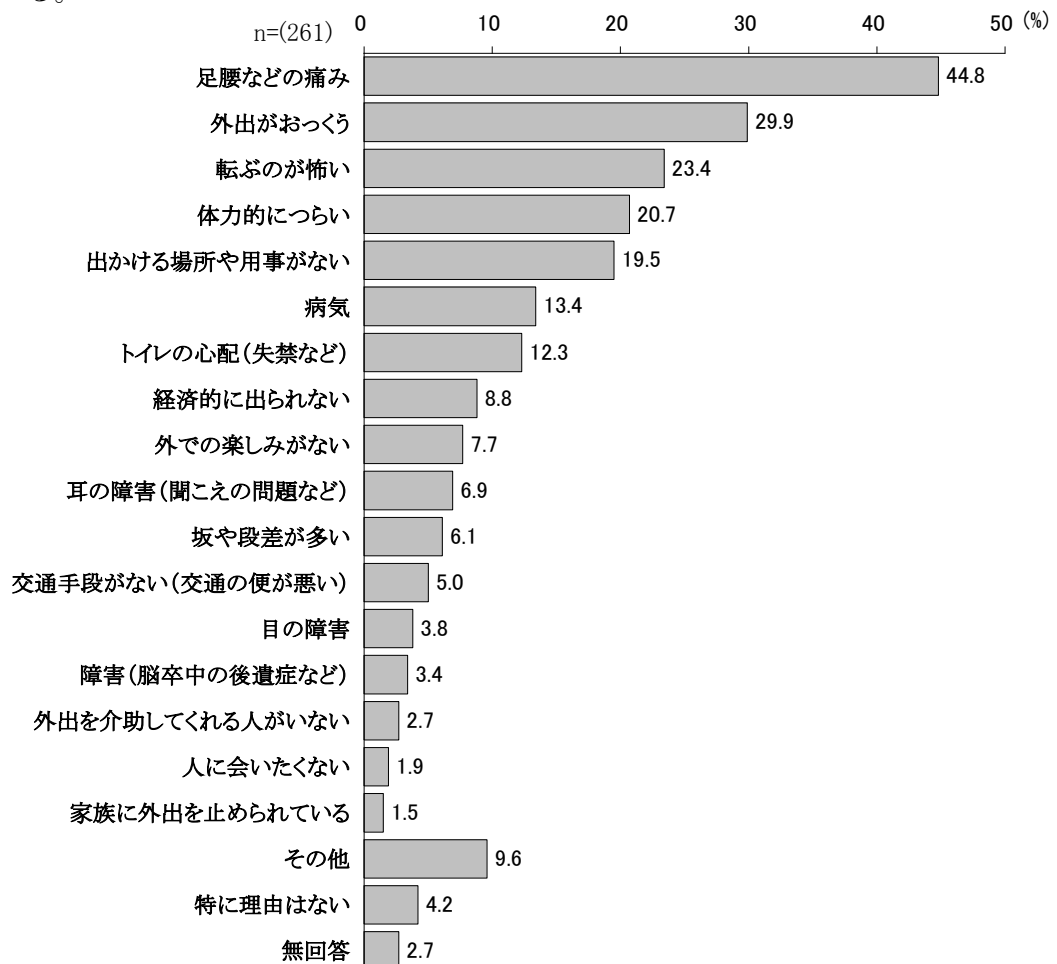


### 2-1 外出を控えている理由

(外出を控えている方のみ)

Q8-1：外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

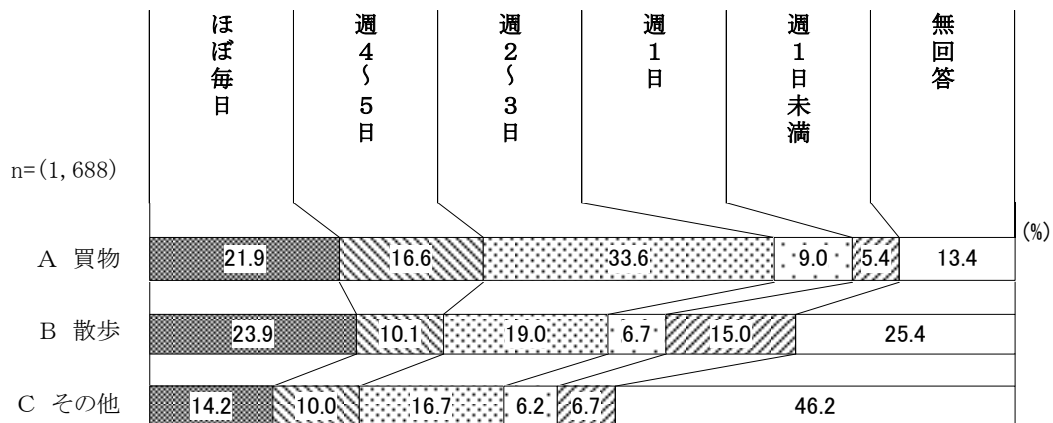
外出を控えていると回答した方にその理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が44.8%で最も多く、次いで「外出がおっくう」が29.9%、「転ぶのが怖い」が23.4%、「体力的につらい」が20.7%となっている。



### 3 外出する頻度

Q9：外出する頻度はどのくらいですか。（それぞれ〇は1つ）

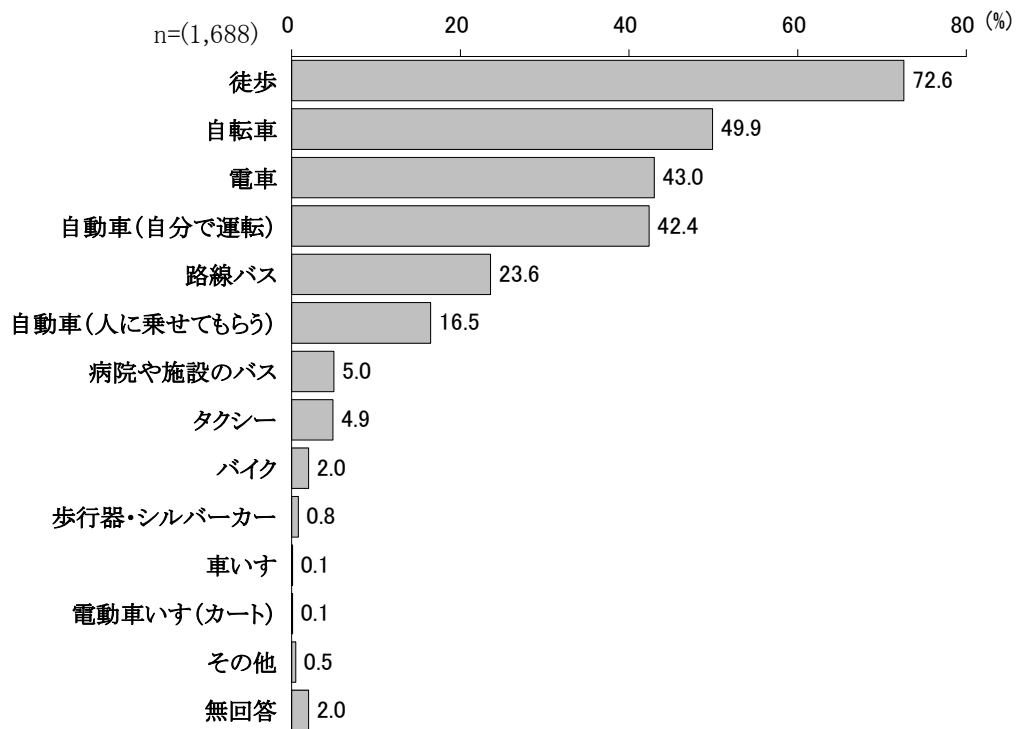
外出の頻度は、買物では、「週2～3日」が33.6%で最も多く、次いで「ほぼ毎日」が21.9%、「週4～5日」が16.6%となっている。散歩では、「ほぼ毎日」が23.9%で最も多く、次いで「週2～3日」が19.0%、「週1日未満」が15.0%となっている。



### 4 外出する際の移動手段

Q10：外出する際の移動手段は何ですか。（〇はいくつでも）

外出する際の移動手段は、「徒歩」が72.6%で最も多く、次いで「自転車」が49.9%、「電車」が43.0%、「自動車（自分で運転）」が42.4%となっている。



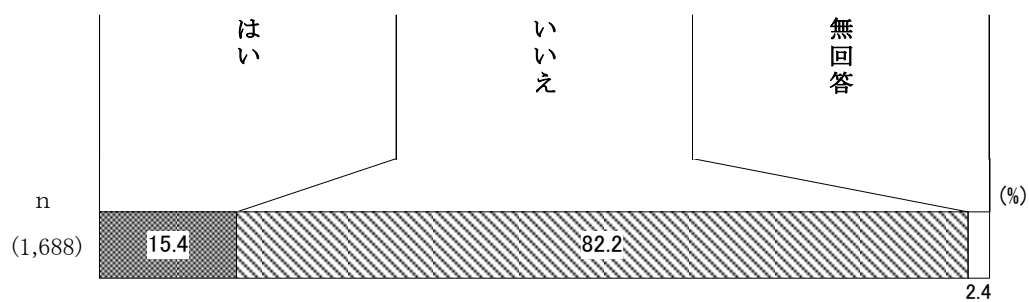
### 3 転倒について

※設問番号の並び順については、14ページのことわり書きを参照

#### 1 この1年間に転んだことがあるか

Q1：この1年間に転んだことがありますか。

この1年間に転んだことがあるかでは、「はい」が15.4%で、「いいえ」が82.2%となっている。



## 1-1 転倒した場所

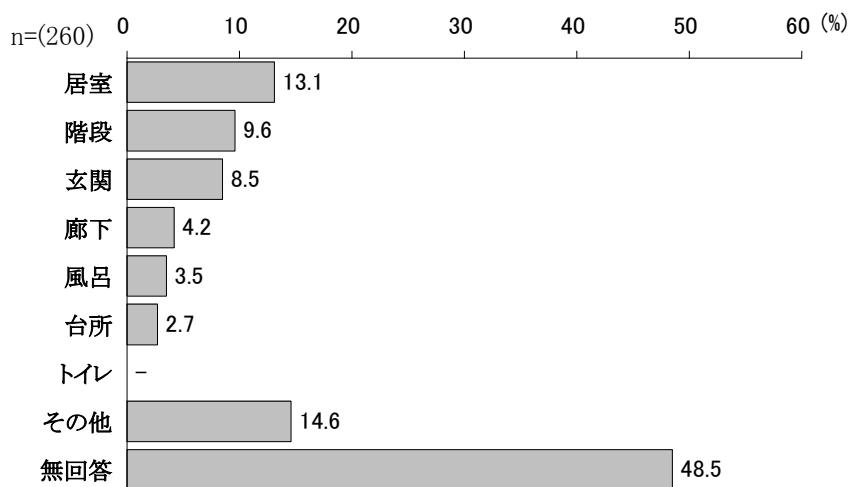
(Q1で「1. はい」と回答した方のみ)

Q1-1：転倒した場所はどこですか。(それぞれ〇はいくつでも)

この1年間に転んだことがあると回答した方に、転倒した場所をたずねた。

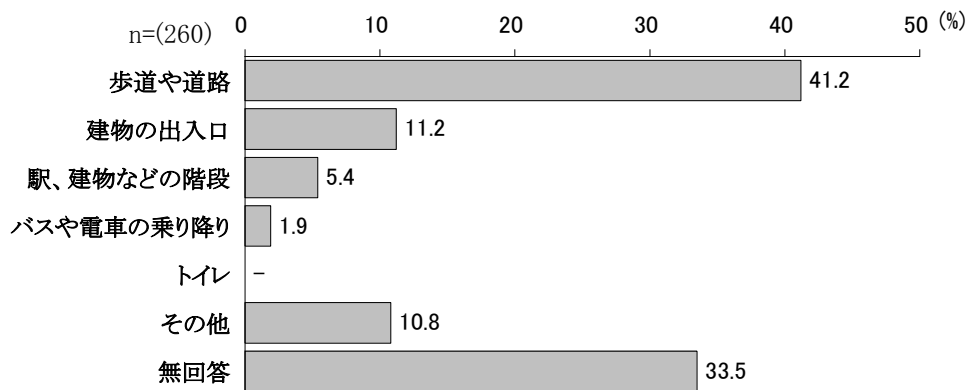
### A 自宅

自宅では、「居室」が13.1%、「階段」が9.6%、「玄関」が8.5%となっている。



### B 自宅以外

自宅以外では、「歩道や道路」が41.2%で最も多く、次いで「建物の出入口」が11.2%、「駅、建物などの階段」が5.4%となっている。



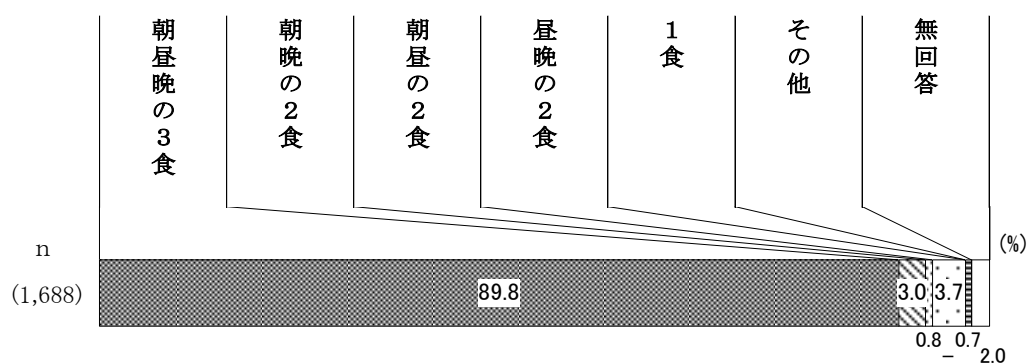
## 4 口腔・栄養について

※設問番号の並び順については、14ページのことわり書きを参照

### 1 一日の食事の回数

Q3：一日の食事の回数は何回ですか。

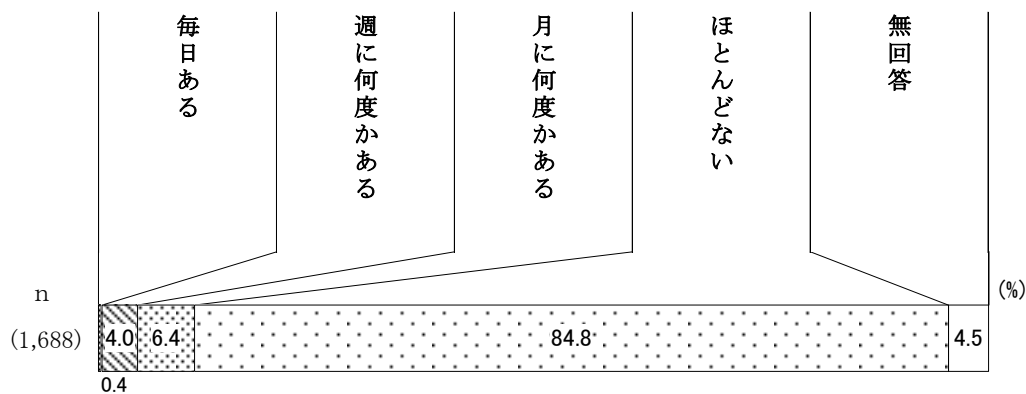
一日の食事の回数は、「朝昼晩の3食」が89.8%を占めている。



### 2 食事を抜くことがあるか

Q4：食事を抜くことがありますか。

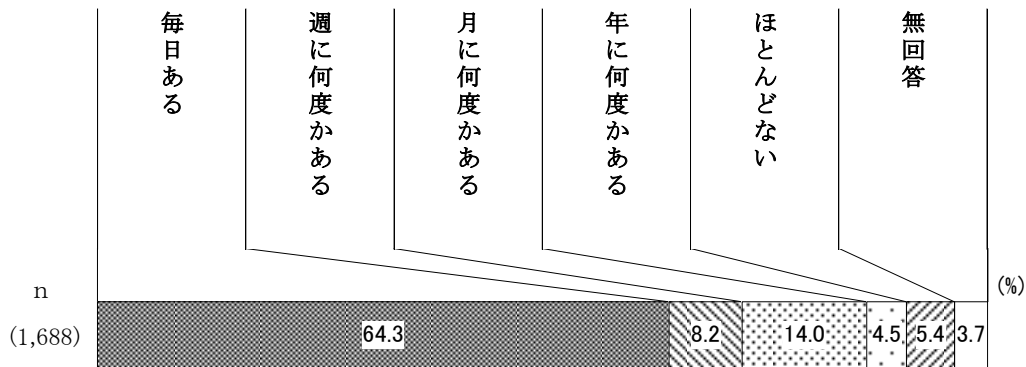
食事を抜くことがあるかでは、「ほとんどない」が84.8%を占めている。



### 3 自分一人でなく、どなたかと食事をとる機会はあるか

Q5：自分一人でなく、どなたかと食事をとる機会がありますか。

自分一人でなく、どなたかと食事をとる機会はあるかでは、「毎日ある」が64.3%と最も多く、「月に何度かある」が14.0%、「週に何度かある」が8.2%となっている。

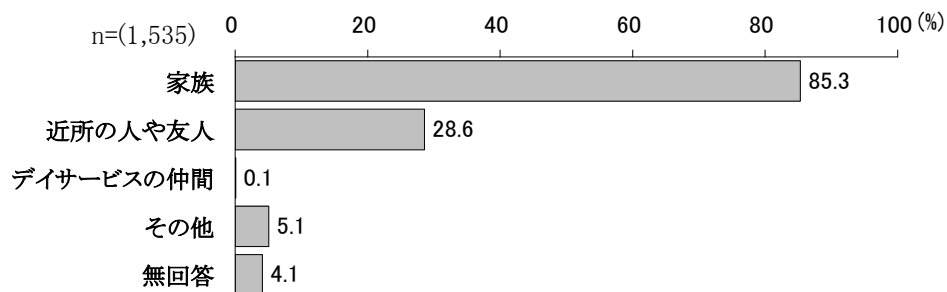


#### 3-1 食事をとる人

(どなたかと食事をとる機会がある方のみ)

Q5-1：食事をとる人はどなたですか。(〇はいくつでも)

食事をとる機会があると回答した方に、食事をとる人をたずねたところ、「家族」が85.3%で最も多く、次いで「近所の人や友人」が28.6%となっている。

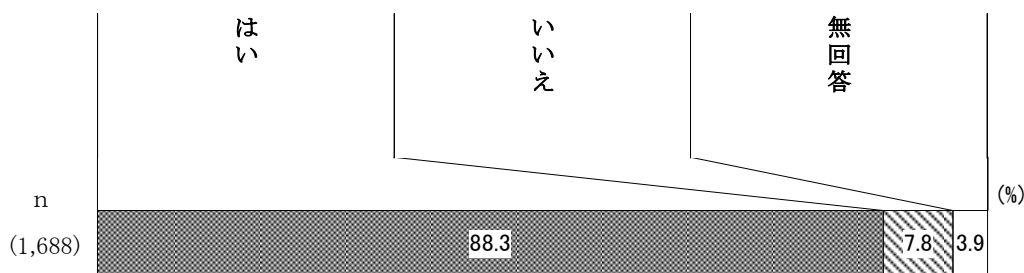




#### 4 1日2回以上主食、主菜、副菜のそろった食事をしているか

Q6：1日2回以上主食、主菜、副菜のそろった食事をしていますか。

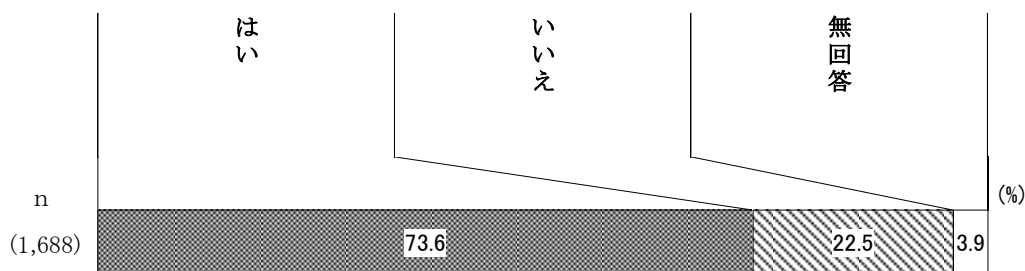
1日2回以上主食、主菜、副菜のそろった食事をしているかでは、「はい」が88.3%を占めている。



#### 5 1日2回、肉・魚・卵、大豆等のご自身のこぶし大くらい食べているか

Q7：1日2回、肉・魚・卵・大豆及びその製品のいずれかをご自身のこぶし大くらい食べていますか。

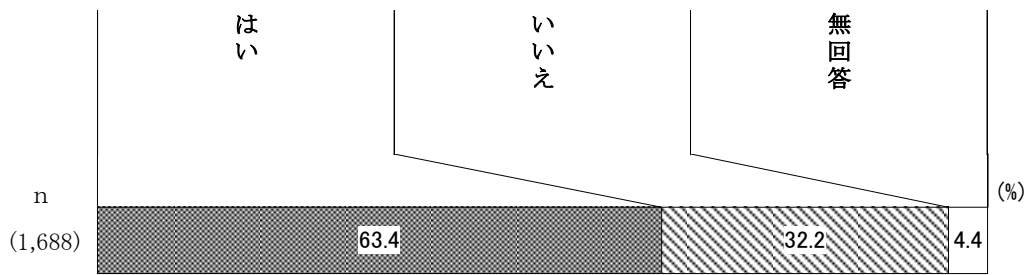
1日2回、肉・魚・卵、大豆等のご自身のこぶし大くらい食べているでは、「はい」が73.6%で、「いいえ」が22.5%となっている。



## 6 1日2回、野菜をご自身の片手に山盛り一杯食べているか

Q8：1日2回、野菜（色の濃いもの薄いものを混ぜて）ご自身の片手に山盛り一杯食べていますか。

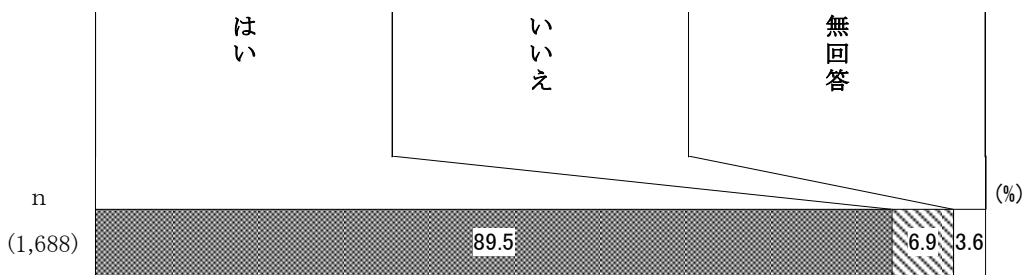
1日2回、野菜をご自身の片手に山盛り一杯食べているかでは、「はい」が63.4%で、「いいえ」が32.2%となっている。



## 7 食事を楽しんでいるか

Q9：食事を楽しんでいますか。

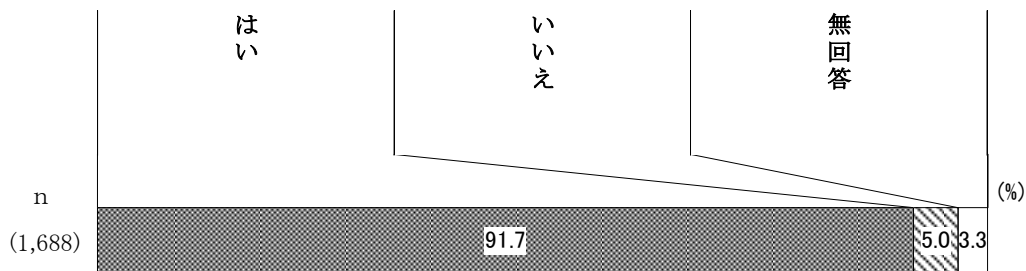
食事を楽しんでいるかでは、「はい」が89.5%で、「いいえ」が6.9%となっている。



## 8 健康のために食事を大切にしているか

Q10：健康のために食事を大切にしていますか。

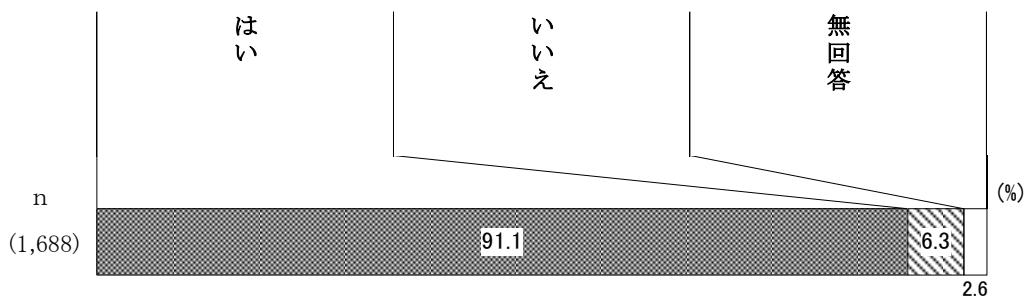
健康のために食事を大切にしているかでは、「はい」が91.7%を占めている。



## 9 歯磨きを毎日しているか

Q14：歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。

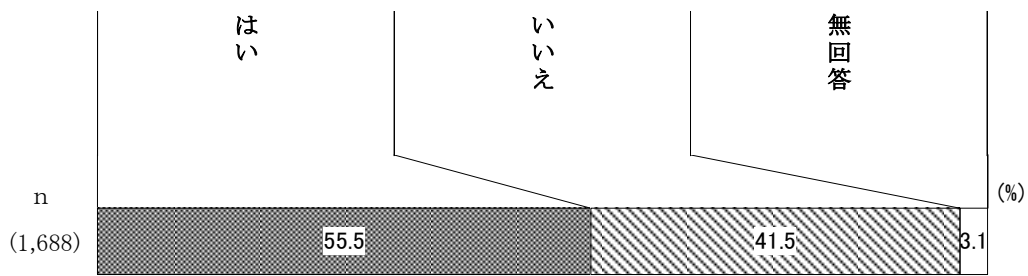
歯磨きを毎日しているかでは、「はい」が91.1%で、「いいえ」が6.3%となっている。



## 10 定期的に歯科受診をしているか

Q15：定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか。

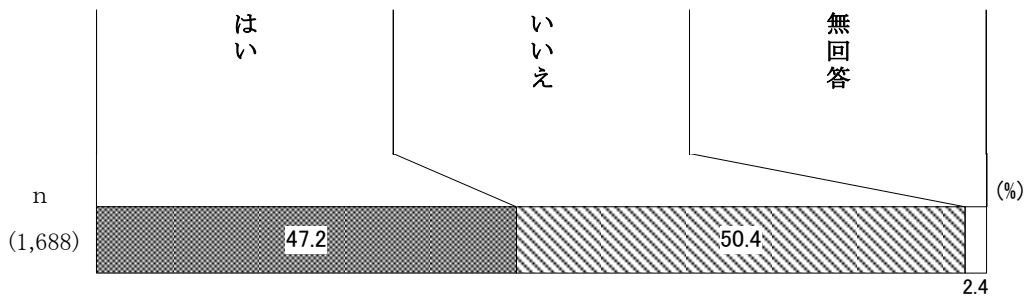
定期的に歯科受診をしているかでは、「はい」が55.5%で、「いいえ」が41.5%となっている。



## 11 入れ歯を使用しているか

Q16：入れ歯を使用していますか。

入れ歯の使用状況は、「はい」が47.2%で、「いいえ」が50.4%となっている。

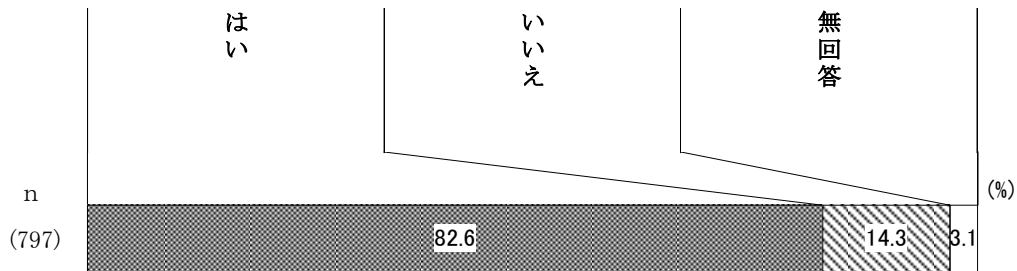


### 11-1 噛み合わせは良いか

(入れ歯のある方のみ)

Q16-1：噛み合わせは良いですか。

入れ歯を使用している方に、その噛み合わせが良いかをたずねたところ、「はい」が82.6%となっている。

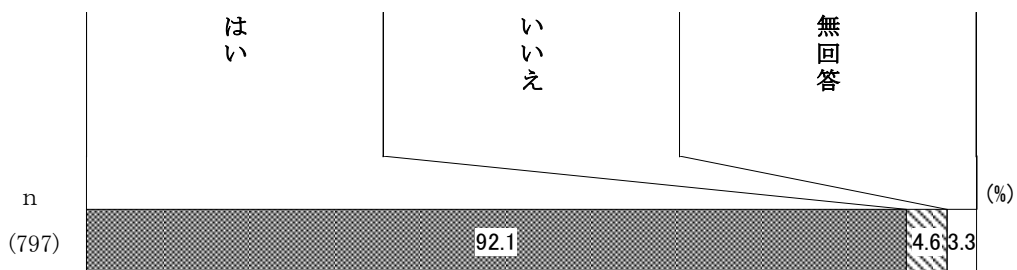


### 11-2 毎日入れ歯の手入れをしているか

(入れ歯のある方のみ)

Q16-2：毎日入れ歯の手入れをしていますか。

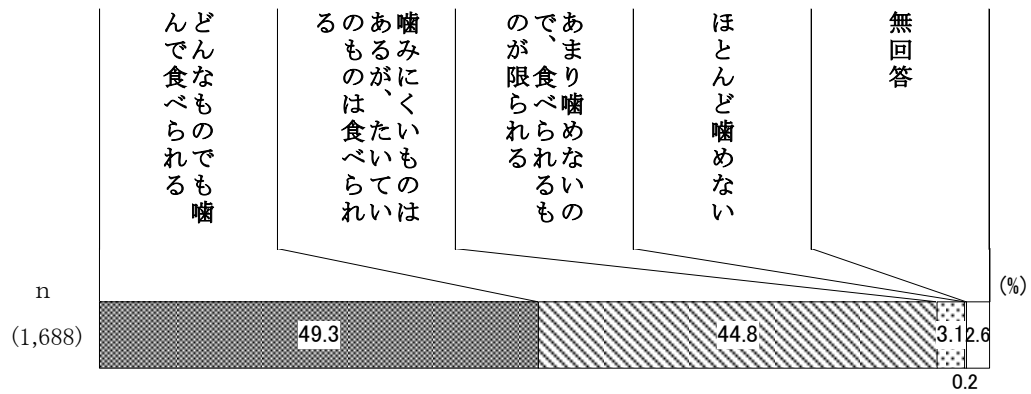
入れ歯を使用している方に、毎日手入れをしているかをたずねたところ、「はい」が92.1%を占めている。



## 12 どれくらいのが噛めるか

Q17：現在、どれくらいのが噛めますか。（入れ歯を使っても結構です）

どれくらいのが噛めるかでは、「どんなものでも噛んで食べられる」が 49.3%で最も多く、次いで「噛みにくいものはあるが、たいていのは食べられる」が 44.8%となっている。



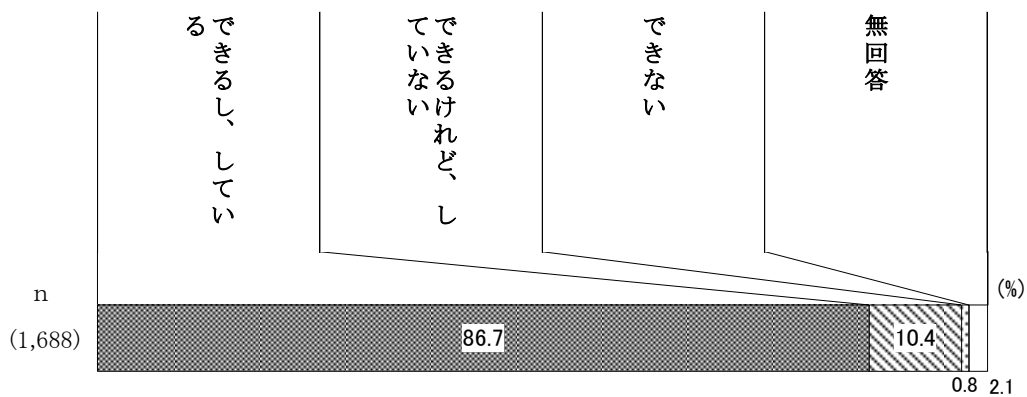
## 5 日常生活について

※設問番号の並び順については、14ページのことわり書きを参照

### 1 日用品の買物をしているか

Q2：日用品の買物をしていますか。

日用品の買物では、「できるし、している」が86.7%で最も多く、「できるけれど、していない」が10.4%となっている。

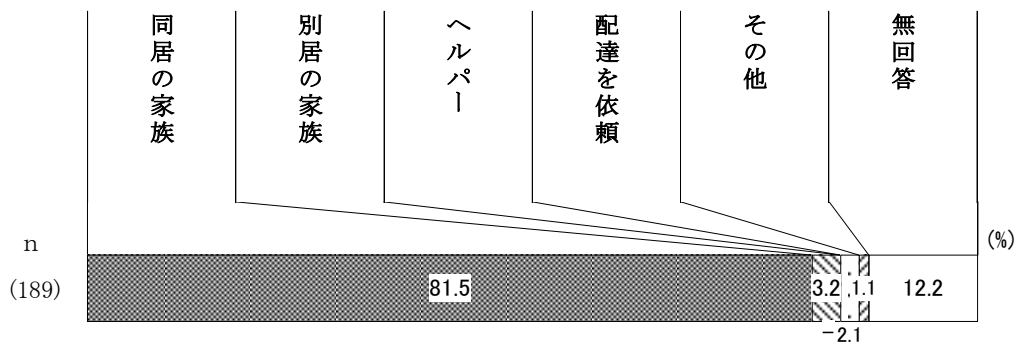


#### 1-1 主に日用品の買い物をしている人

(日用品の買い物をしていない、できない方のみ)

Q2-1：日用品の買い物をする人は主にどなたですか。(〇は1つ)

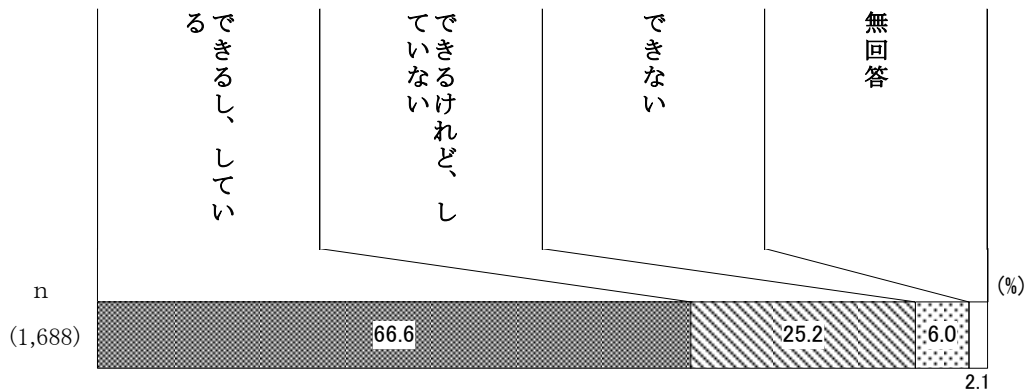
日用品の買い物をしていない、またはできないと回答した方に、主に日用品の買い物をしている人をたずねたところ、「同居の家族」が81.5%で最も多くなっている。



## 2 自分で食事の用意をしているか

Q3：自分で食事の用意をしていますか。

自分で食事の用意をしているかでは、「できるし、している」が66.6%で最も多く、「できるけれど、していない」は25.2%、「できない」は6.0%となっている。

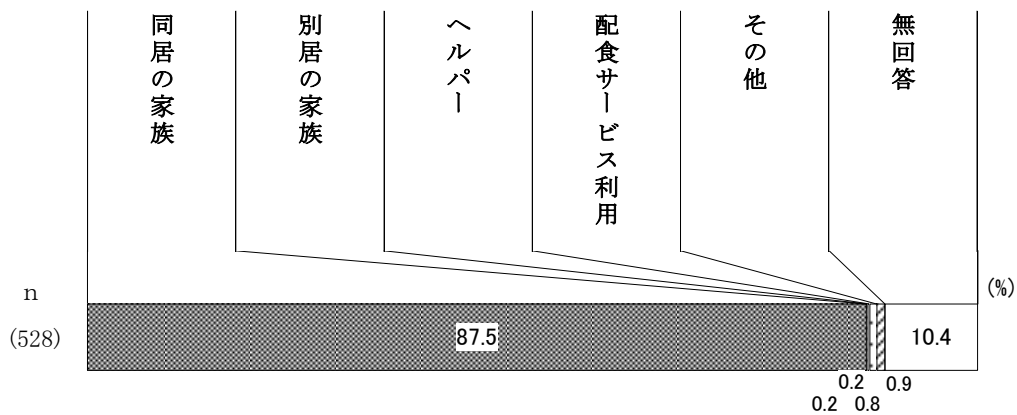


### 2-1 主に食事の用意をする人

(自分で食事の用意をしていない、できない方のみ)

Q3-1：食事の用意をする人は主にどなたですか。(〇は1つ)

自分で食事の用意をしていない、またはできないと回答した方に、主に食事の用意をする人をたずねたところ、「同居の家族」が87.5%で最も多くなっている。

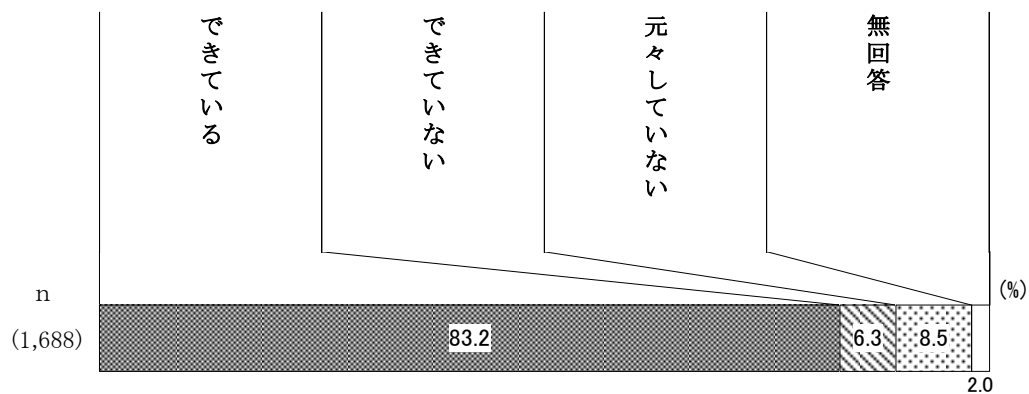




### 3 家事全般ができていますか

Q17：家事全般ができていますか。

家事全般ができていますかでは、「できている」が83.2%で最も多く、「元々していない」は8.5%、「できていない」は6.3%となっている。



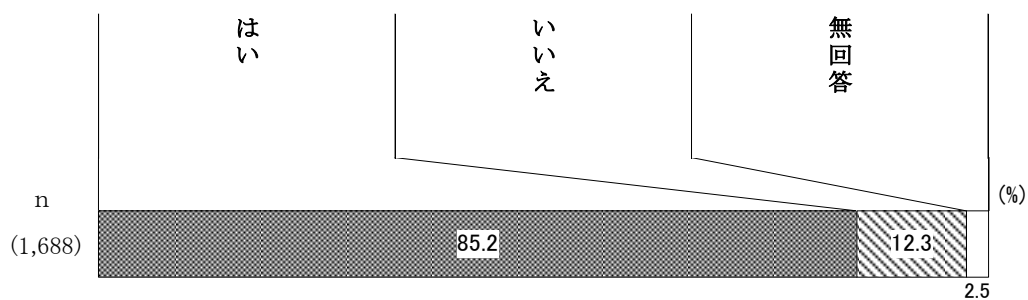
## 6 社会参加・地域との関わりについて

※設問番号の並び順については、14ページのことわり書きを参照

### 1 趣味はあるか

Q9：趣味はありますか。

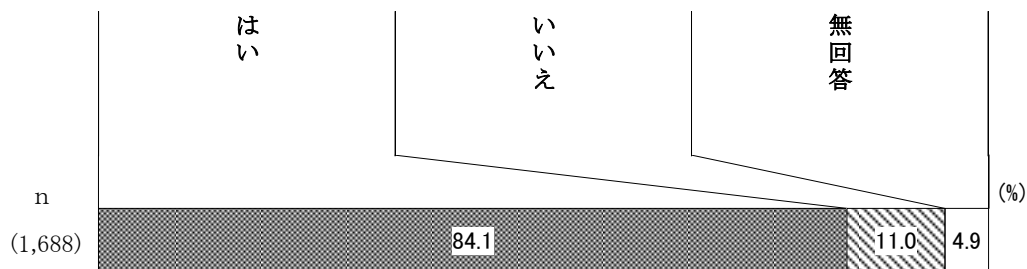
趣味があるかでは、「はい」が85.2%で、「いいえ」が12.3%となっている。



### 2 生きがいはあるか

Q10：生きがいがありますか。

生きがいはあるかでは、「はい」が84.1%で、「いいえ」が11.0%となっている。



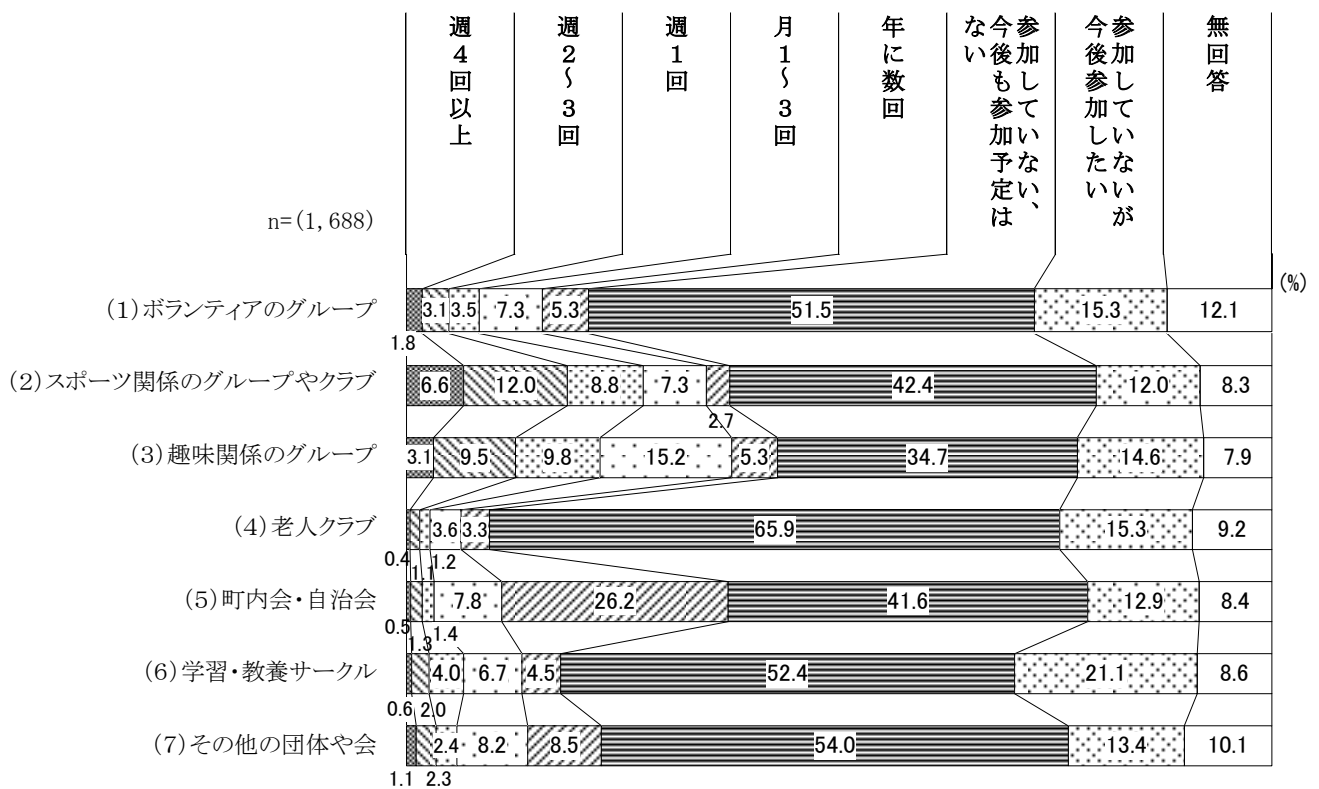
### 3 会・グループ等の参加頻度

Q11：以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

すべての会・グループ等において、「参加していない、今後も参加予定はない」が最も多く、特に、老人クラブ、その他の団体や会、学習・教養サークル、ボランティアのグループで5割を超えている。

《年に数回以上》としてみると、参加率が高いのは、趣味関係のグループで42.8%、次いで、スポーツ関係のグループやクラブ(37.3%)、町内会・自治会(37.1%)となっている。

また、「参加していないが今後参加したい」は、学習・教養サークルが21.1%で最も多く、次いで、ボランティアのグループと老人クラブが15.3%となっている。



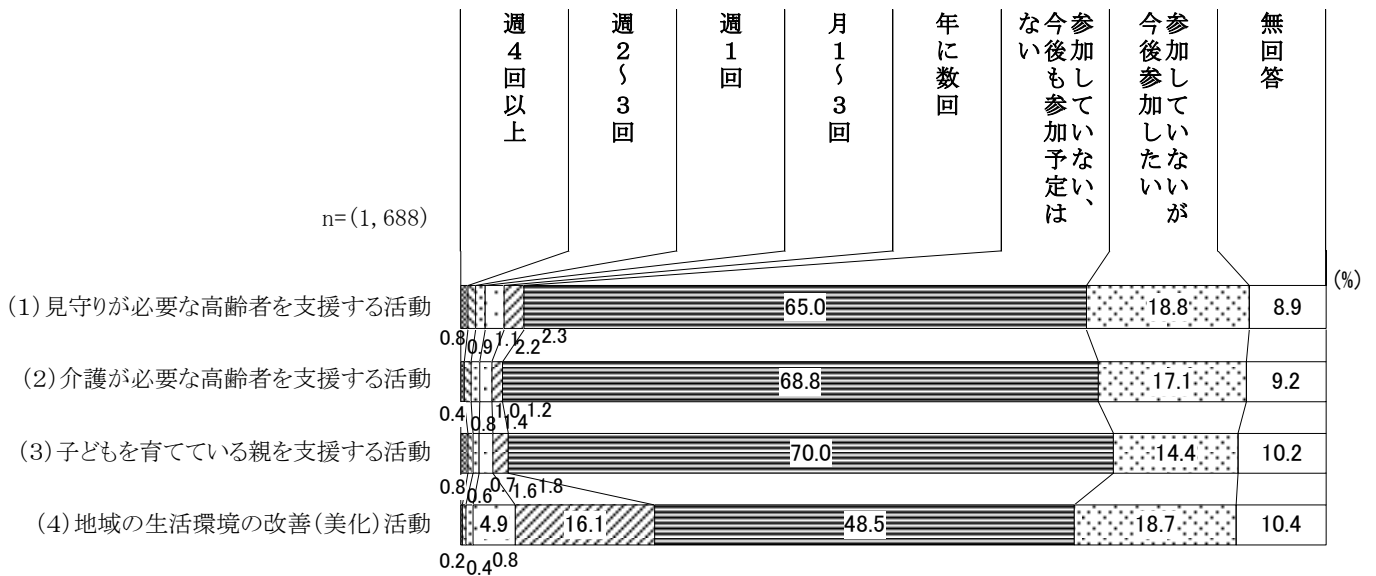
#### 4 活動（社会参加活動や仕事）頻度

Q12：以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか。

社会参加活動や仕事の頻度は、「参加していない、今後も参加予定はない」が最も多くなっている。

《年に数回以上》としてみると、参加率が高いのは、(4)地域の生活環境の改善（美化）活動で22.4%、次いで、(1)見守りが必要な高齢者を支援する活動が7.3%となっている。

また、「参加していないが今後参加したい」は、(1)見守りが必要な高齢者を支援する活動が18.8%と最も多く、(4)地域の生活環境の改善（美化）活動（18.7%）、(2)介護が必要な高齢者を支援する活動（17.1%）、(3)子どもを育てている親を支援する活動（14.4%）の順となっている。



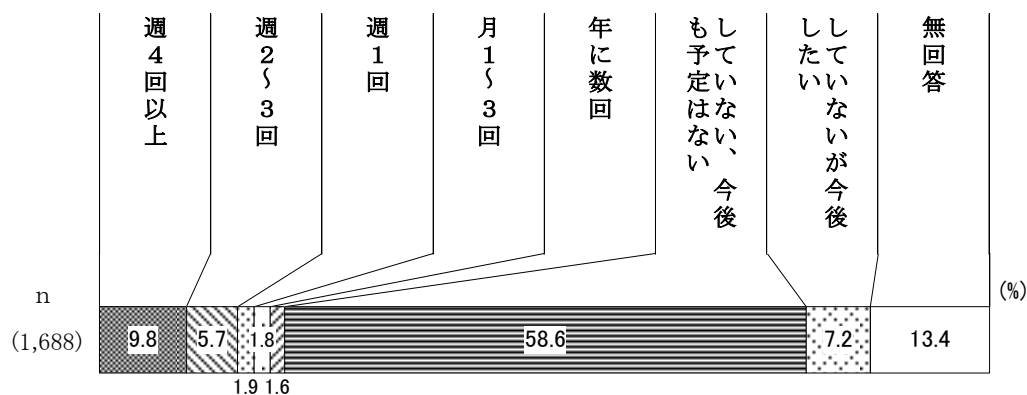
## 【その他】

(その他にしている、又はしたいと思っている) 具体的な活動内容(と頻度)をお書き下さい

	調査数	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	したいが今後参加しない	参加している	無回答
全 体	288 100.0	26 9.0	35 12.2	32 11.1	77 26.7	69 24.0	18 6.4	31 10.8	
社会福祉活動・ボランティア活動等	37 100.0	2 5.4	- -	13 35.1	10 27.0	6 16.2	5 13.5	1 2.7	
清掃・草取り・ゴミ拾い等	59 100.0	2 3.4	1 1.7	3 5.1	15 25.4	26 44.1	2 3.4	10 16.9	
防犯パトロール・子どもの見守り等	38 100.0	9 23.7	3 7.9	8 21.1	13 34.2	3 7.9	1 2.6	1 2.6	
自治会・町内会・老人会等	43 100.0	1 2.3	2 4.7	- -	14 32.6	17 39.5	1 2.3	8 18.6	
親睦会・宗教活動等	22 100.0	2 9.1	4 18.2	- -	8 36.4	6 27.3	2 9.1	- -	
趣味・スポーツ・習い事等	51 100.0	4 7.8	13 25.5	6 11.8	11 21.6	6 11.8	5 9.8	6 11.8	
仕事・教室主催(講師)・アルバイト等	25 100.0	6 24.0	11 44.0	1 4.0	2 8.0	2 8.0	- -	3 12.0	
その他	13 100.0	- -	1 7.7	1 7.7	4 30.8	3 23.1	2 15.4	2 15.4	

## 【収入のある仕事】

収入のある仕事については、「していない、今後も予定はない」が58.6%で最も多く、「週4回以上している」が9.8%となっている。



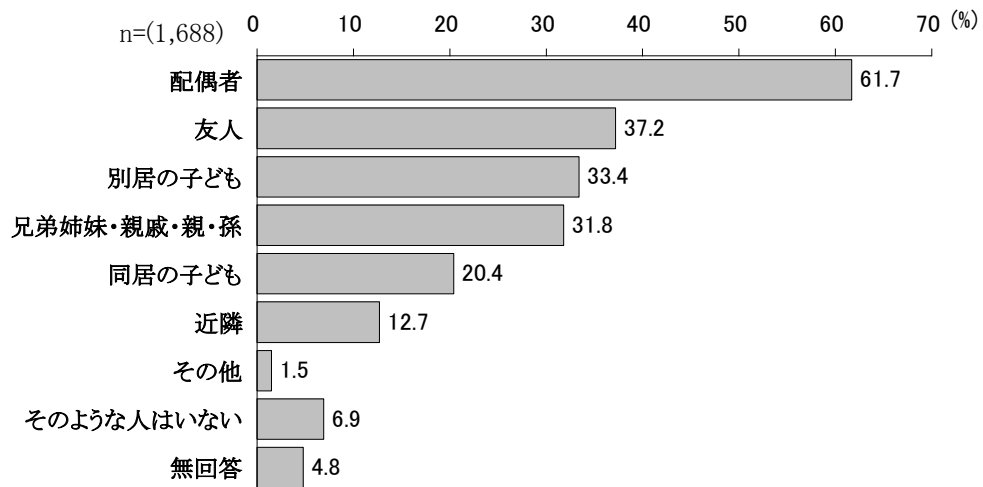
## 5 本人とまわりの人の「たすけあい」について

Q13：あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。あてはまるすべてに○をしてください。

あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

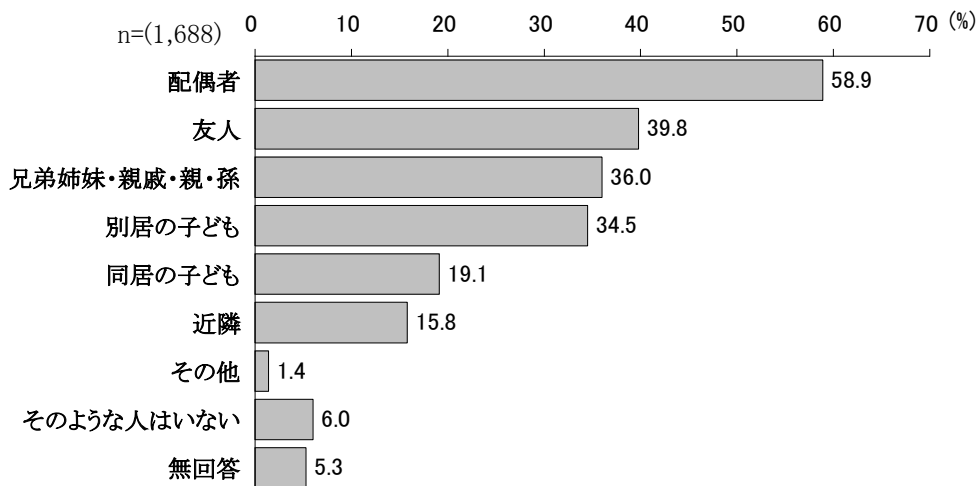
### (1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は「配偶者」が 61.7%で最も多く、次いで「友人」が 37.2%、「別居の子ども」が 33.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 31.8%となっている。



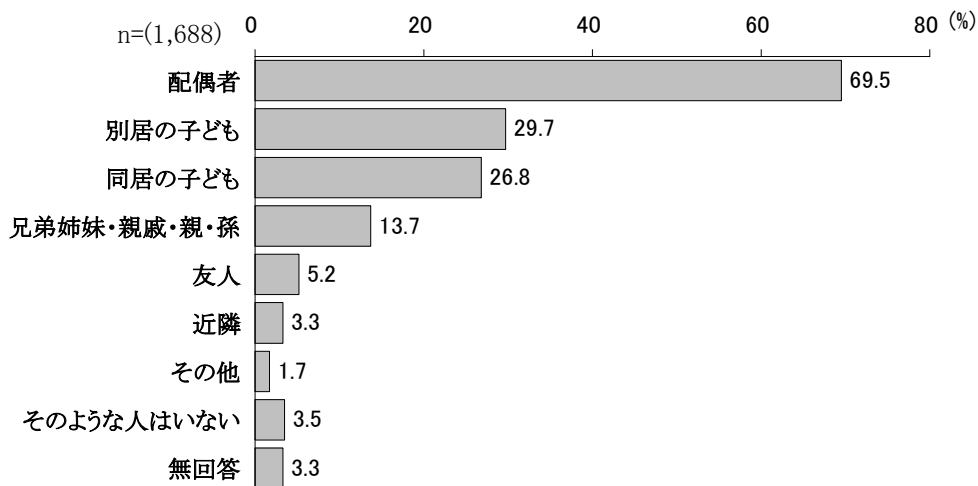
### (2) あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」が 58.9%で最も多く、次いで「友人」が 39.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 36.0%、「別居の子ども」が 34.5%となっている。



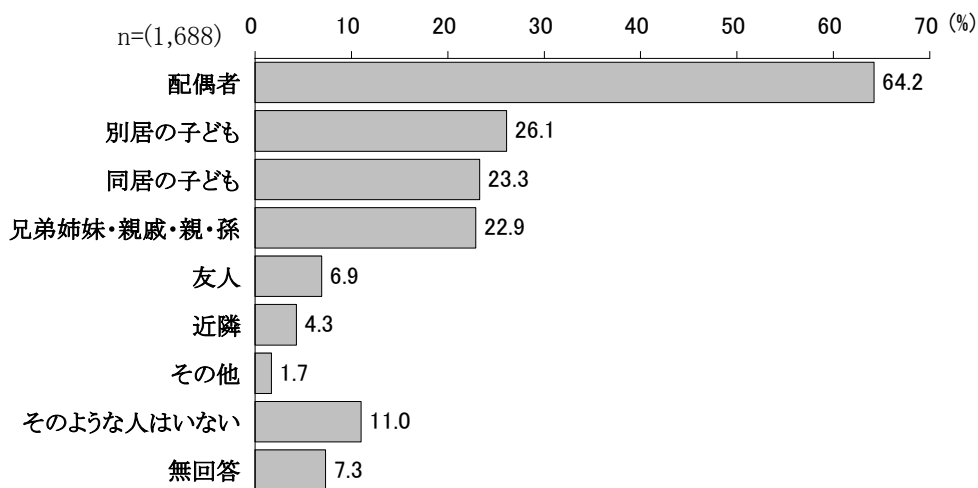
### (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が69.5%で最も多く、次いで「別居の子ども」が29.7%、「同居の子ども」が26.8%となっている。



### (4) 看病や世話をしてあげる人

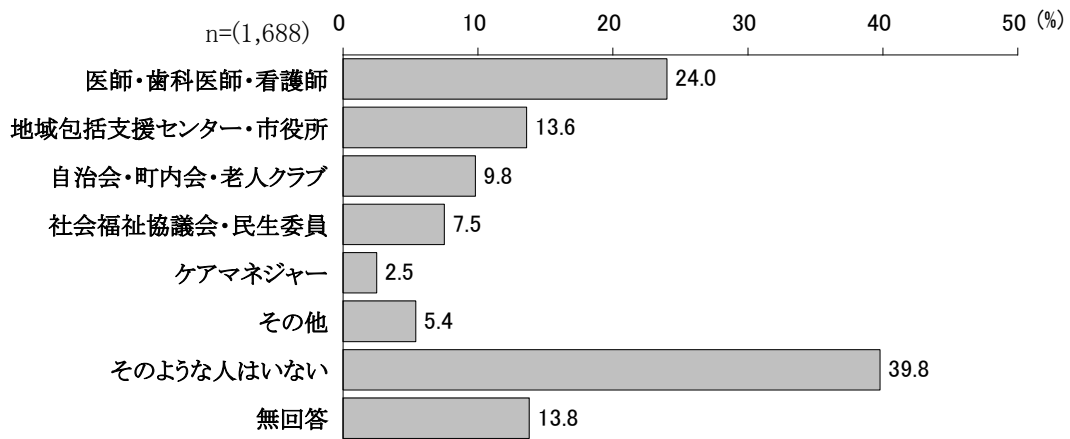
看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が64.2%で最も多く、次いで「別居の子ども」が26.1%、「同居の子ども」が23.3%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が22.9%となっている。



## 6 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手

Q14：家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（〇はいくつでも）

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「そのような人はいない」が 39.8%で最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が 24.0%、「地域包括支援センター・市役所」が 13.6%となっている。



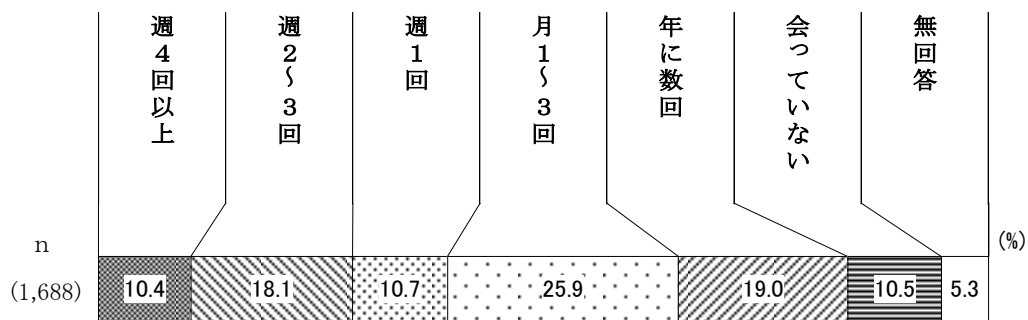


## 7 友人関係について

Q15：友人関係についてお伺いします。

(1) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

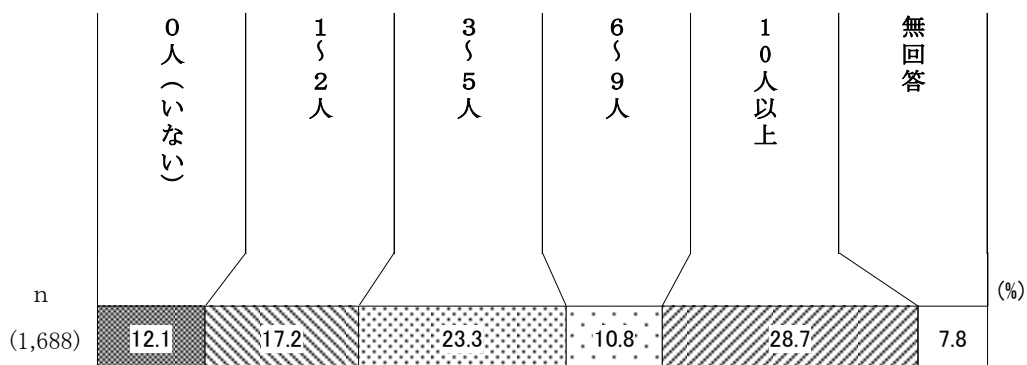
友人・知人と会う頻度は、「月1～3回」が25.9%で最も多く、次いで「年に数回」が19.0%、「週2～3回」が18.1%となっている。



(2) この一か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

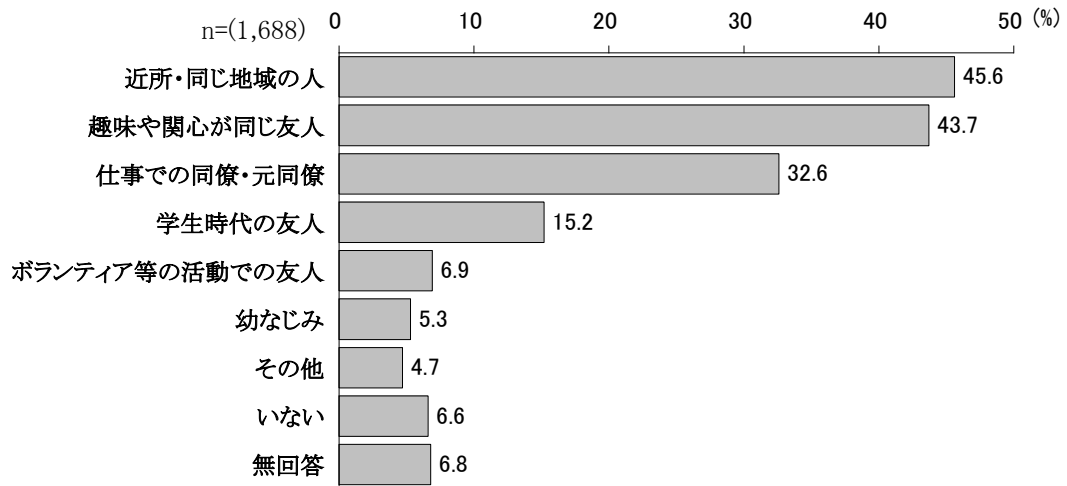
同じ人には何度会っても一人と数えることとします。

この一か月間に会った友人・知人の人数は、「10人以上」が28.7%で最も多く、「3～5人」が23.3%、「1～2人」が17.2%、「0人(いない)」が12.1%となっている。



(3) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。

よく会う友人・知人の関係は、「近所・同じ地域の人」が45.6%で最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が43.7%、「仕事での同僚・元同僚」が32.6%となっている。



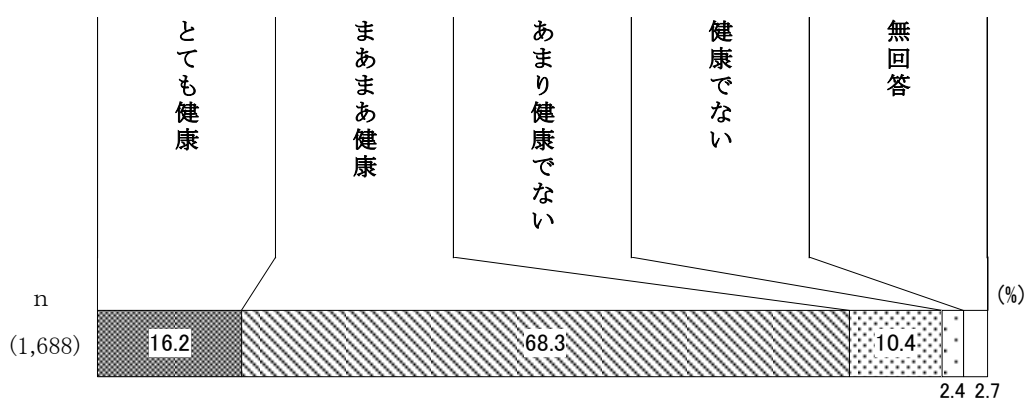
## 7 健康について

※設問番号の並び順については、14ページのことわり書きを参照

### 1 健康状態

Q1：普段、健康だと思いますか。(○は1つ)

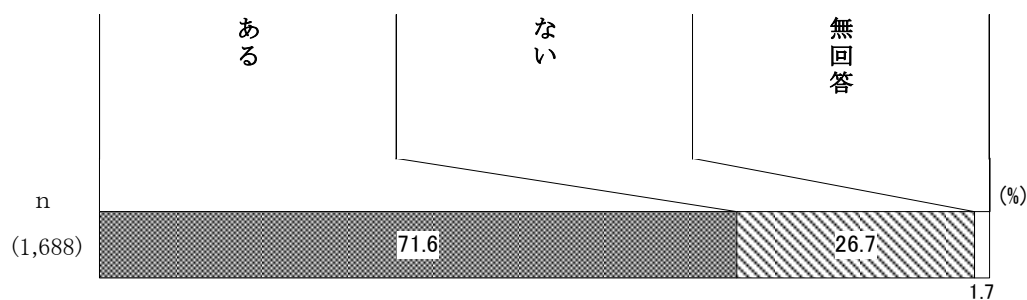
健康状態について、「まあまあ健康」が68.3%で最も多く、「とても健康」(16.2%)を合わせた《健康である》は84.5%となる。一方、「あまり健康でない」(10.4%)と「健康でない」(2.4%)を合わせた《健康でない》は12.8%となっている。



### 2 現在治療中、または後遺症のある病気

Q2：現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(○は1つ)

現在治療中、または後遺症のある病気が「ある」は71.6%で、「ない」は26.7%となっている。



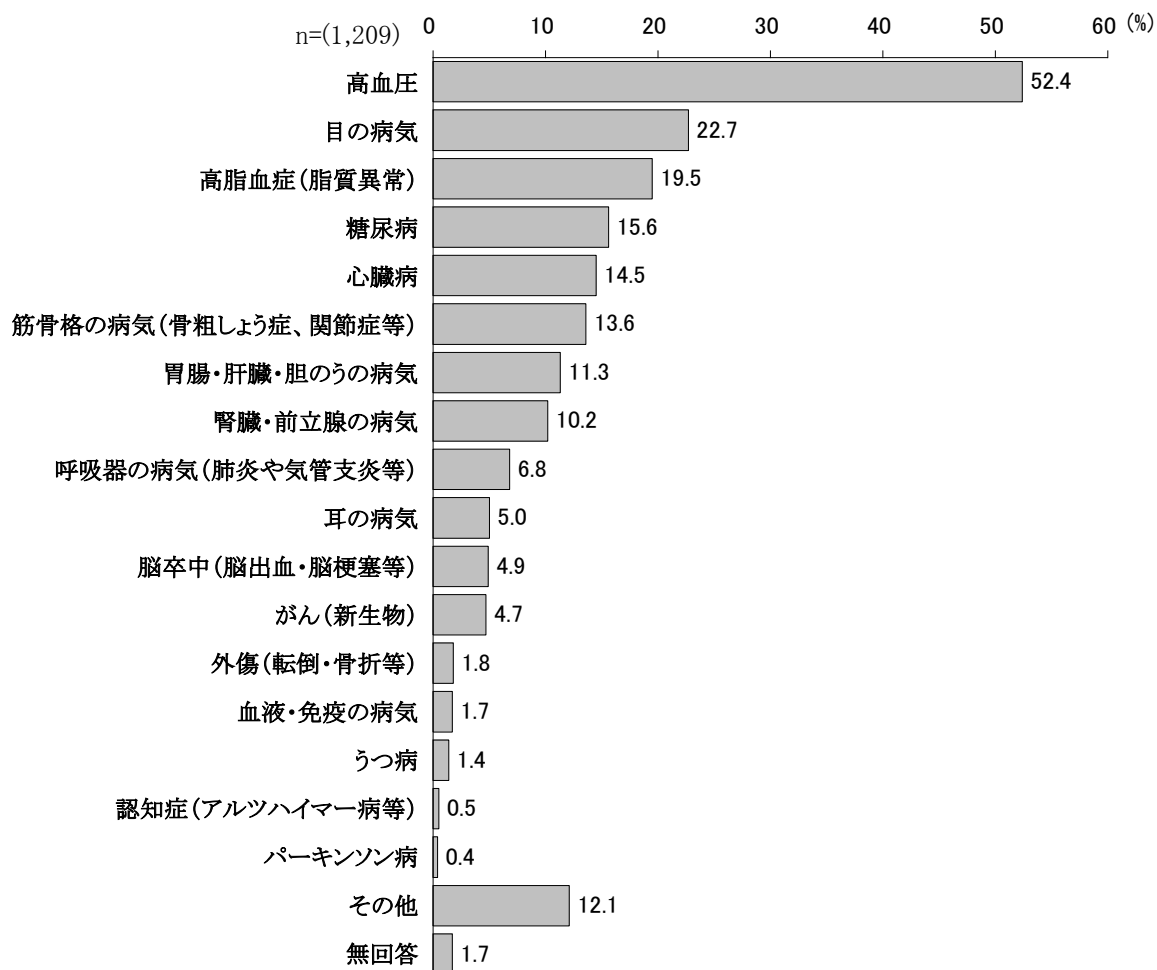
## 2-1 現在治療中、または後遺症のある病気と状況

(現在治療中、または後遺症のある病気がある方のみ)

Q2-1：①現在治療中の病気や後遺症のある病気は何ですか。(該当する病気については②治療の状況についてもお答えください)

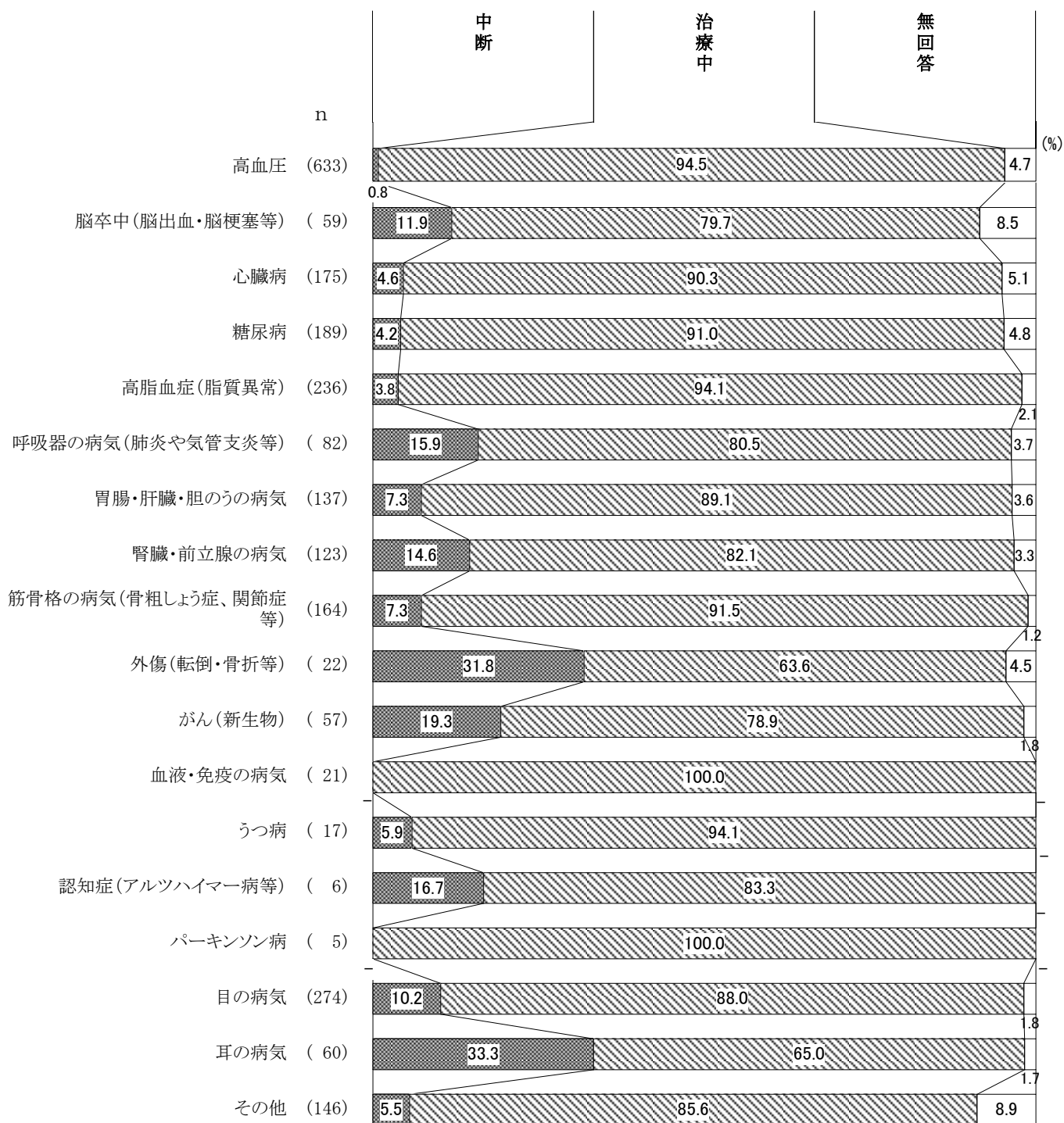
### ①現在治療中の病気や後遺症のある病気

現在治療中の病気や後遺症のある病気があると回答した方に、その病気をたずねたところ、「高血圧」が52.4%で最も多く、次いで「目の病気」が22.7%、「高脂血症(脂質異常)」が19.5%となっている。



## ②治療の状況

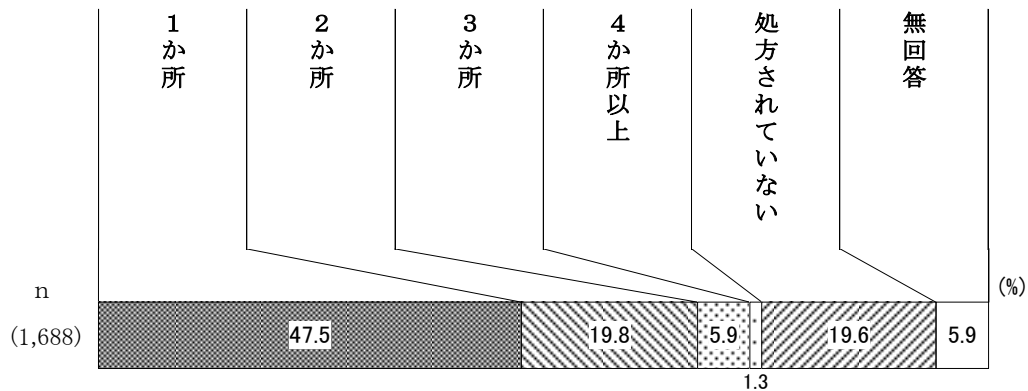
現在の治療の状況についてたずねたところ、「中断」している病気は、「耳の病気」が33.3%で最も多く、次いで「外傷」(31.8%)、「がん(新生物)」(19.3%)、「認知症(アルツハイマー病等)」(16.7%)、「呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)」(15.9%)となっている。



### 3 薬を処方されている医療機関数

Q3：現在何か所の医療機関から薬を処方されていますか。(〇は1つ)

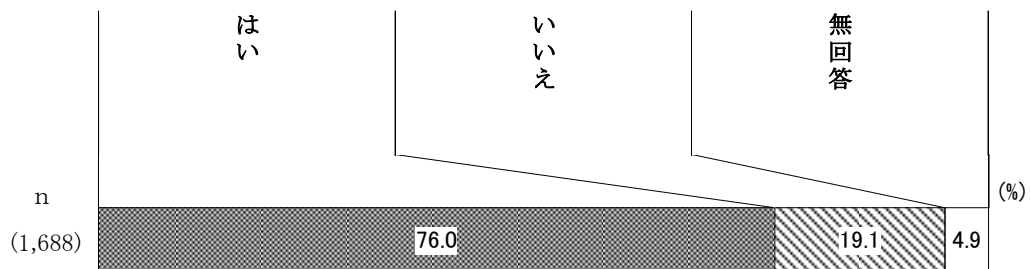
薬を処方されている医療機関数は、「1か所」が47.5%で最も多く、「2か所」が19.8%、「処方されていない」が19.6%となっている。



### 4 現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院しているか

Q5：現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。(〇は1つ)

現在の病院・医院（診療所、クリニック）への通院状況は、「はい」が76.0%で、「いいえ」が19.1%となっている。

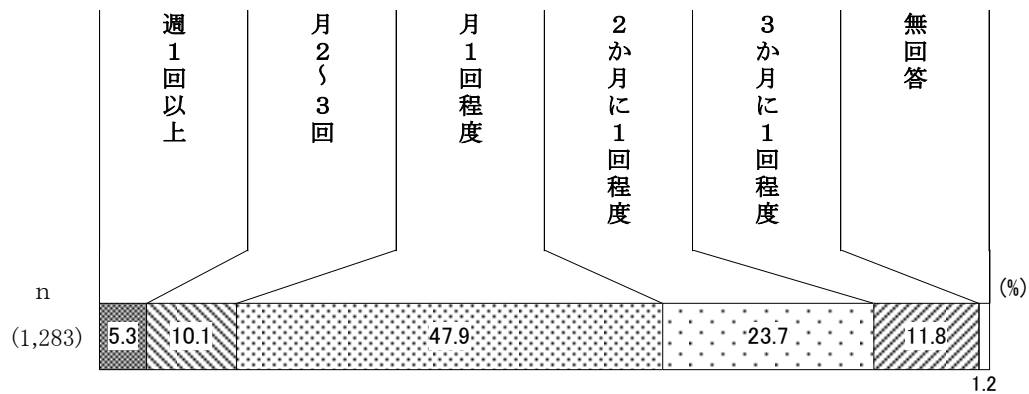


#### 4-1 通院頻度

(通院している方のみ)

Q5-1：その頻度は次のどれですか。(〇は1つ)

通院をしていると回答した方に通院頻度をたずねたところ、「月1回程度」が47.9%で最も多く、次いで「2か月に1回程度」が23.7%、「3か月に1回程度」が11.8%となっている。

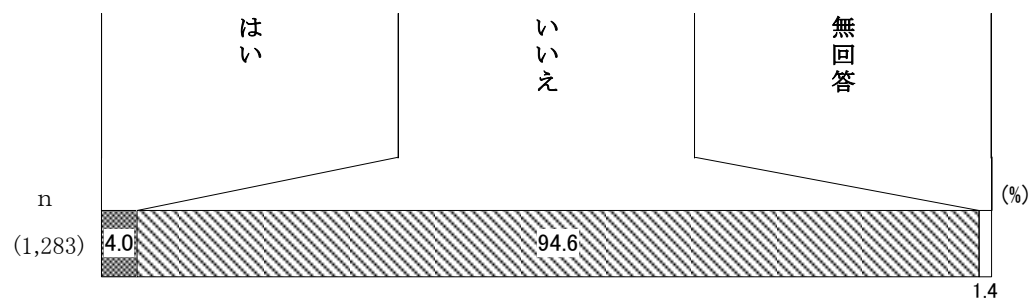


#### 4-2 通院の際の介助の必要性

(通院している方のみ)

Q5-2：通院に介助が必要ですか。(〇は1つ)

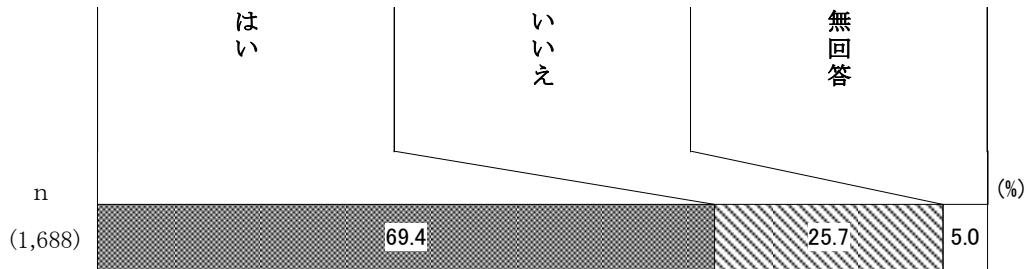
通院をしていると回答した方に、通院の際の介助の必要性をたずねたところ、「いいえ」が94.6%で、「はい」が4.0%となっている。



## 5 かかりつけ医は決まっているか

Q6：かかりつけのお医者さんは決まっていますか。(〇は1つ)

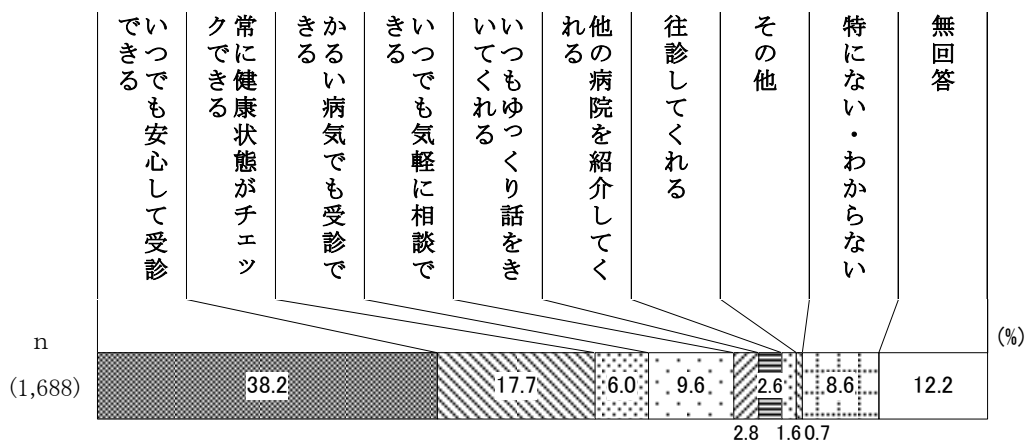
かかりつけ医は決まっているかでは、「はい」が69.4%で、「いいえ」は25.7%となっている。



## 6 かかりつけ医に最も期待すること

Q7：かかりつけのお医者さんに最も期待することは何ですか。(〇は1つ)

かかりつけ医に最も期待することは、「いつでも安心して受診できる」が38.2%で最も多く、次いで「常に健康状態がチェックできる」が17.7%、「いつでも気軽に相談できる」が9.6%となっている。

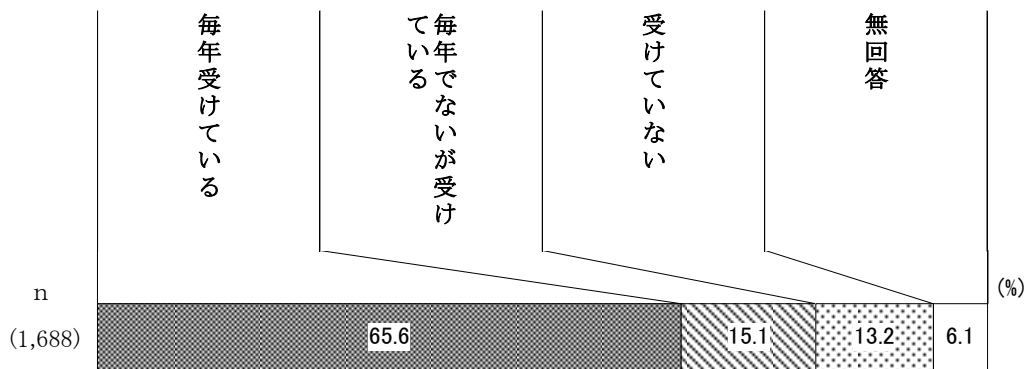




## 7 健（検）診の受診状況

Q8：定期的に健（検）診を受けていますか。（○は1つ）

健（検）診の受診状況は、「毎年受けている」が65.6%で最も多く、次いで「毎年でないが受けている」が15.1%、「受けていない」が13.2%となっている。

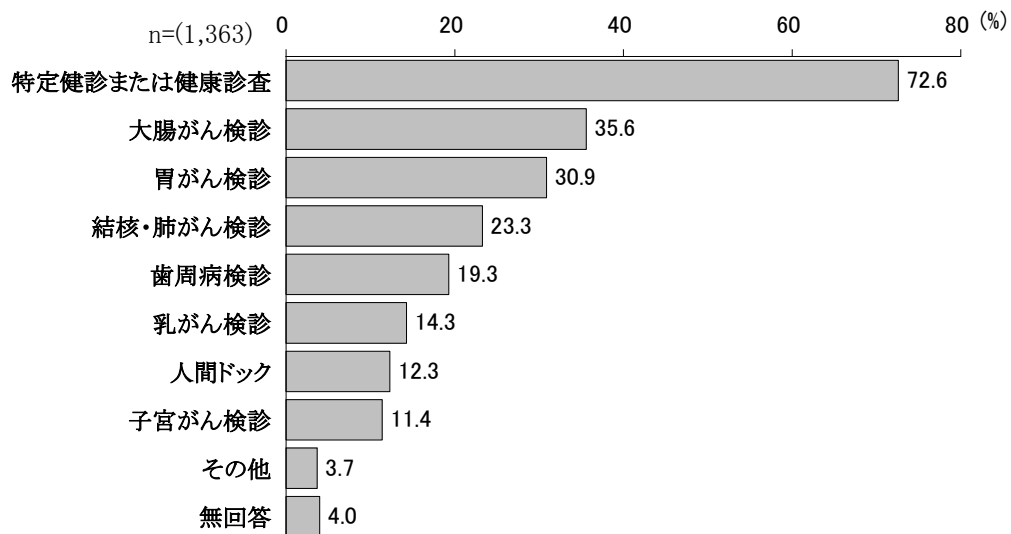


### 7-1 健（検）診の内容

（定期的に健（検）診を受けている方のみ回答）

Q8-1：どの健（検）診を受けられていますか。（○はいくつでも）

健（検）診を受けていると回答した方にその内容をたずねたところ、「特定健診または健康診査」が72.6%で最も多く、次いで「大腸がん検診」が35.6%、「胃がん検診」が30.9%、「結核・肺がん検診」が23.3%となっている。

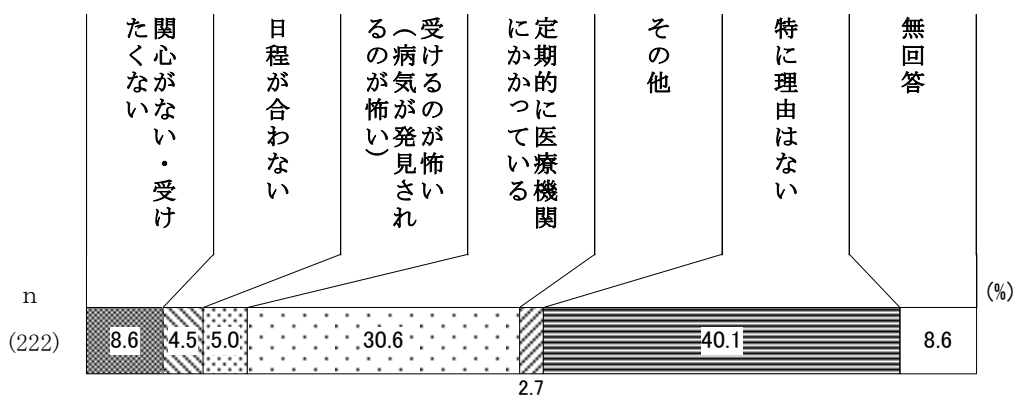


## 7-2 健（検）診を受けたことがない理由

（定期的に健（検）診を受けていない方のみ回答）

Q8-2：健（検）診を受けたことがない理由をお聞かせください。（○は1つ）

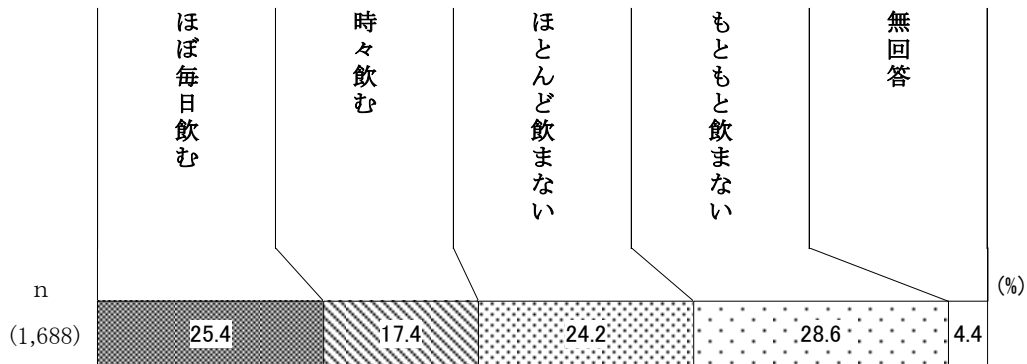
健（検）診を受けていないと回答した方に、その理由をたずねたところ、「特に理由はない」が40.1%で最も多く、次いで「定期的に医療機関にかかっている」が30.6%、「関心がない・受けたくない」が8.6%となっている。



## 8 飲酒状況

Q9：お酒は飲みますか。(〇は1つ)

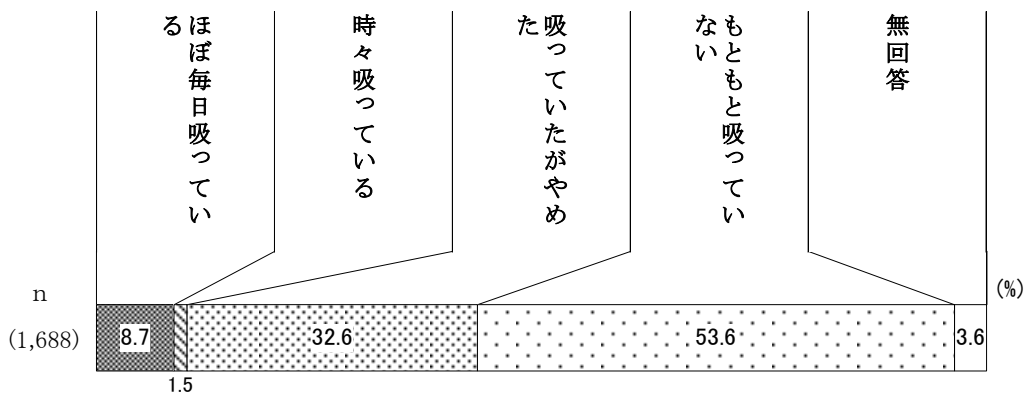
飲酒状況は、「もともと飲まない」が28.6%で最も多く、「ほとんど飲まない」(24.2%)を合わせた《飲まない》は52.8%となる。一方、「ほぼ毎日飲む」(25.4%)と「時々飲む」(17.4%)を合わせた《飲む》は42.8%となっている。



## 9 喫煙状況

Q10：タバコは吸っていますか。(〇は1つ)

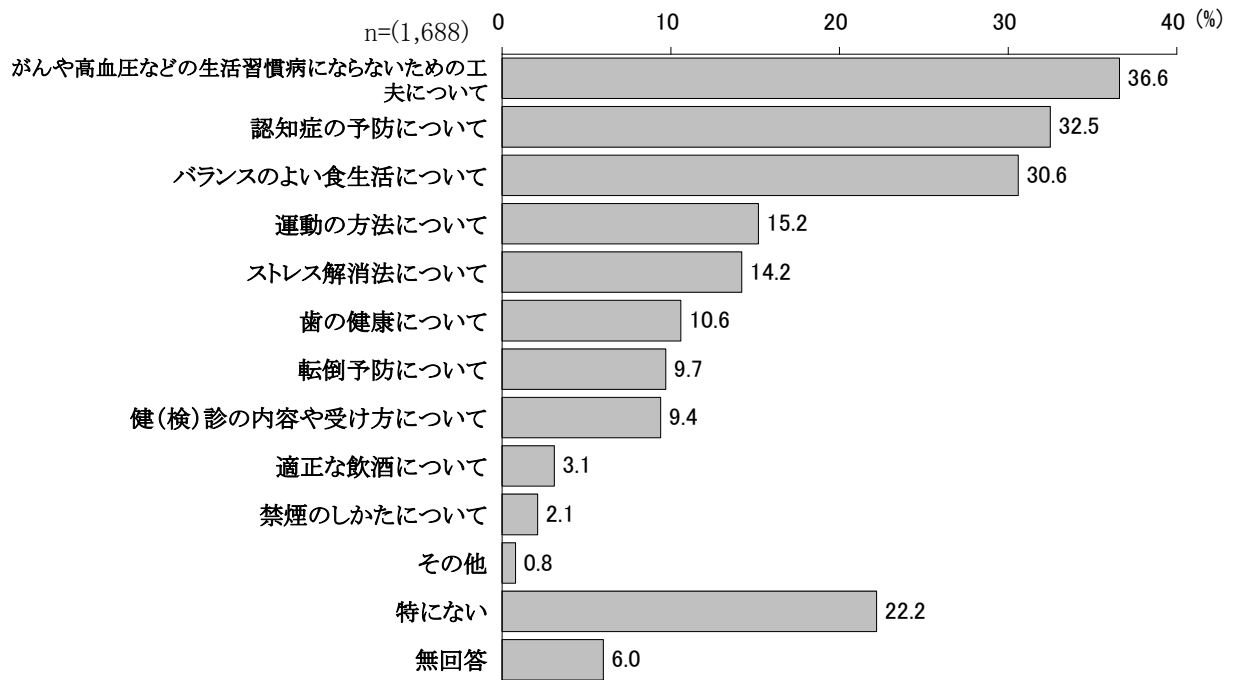
喫煙状況は、「もともと吸っていない」が53.6%で最も多く、「吸っていたがやめた」(32.6%)を合わせた《吸っていない》は86.2%となる。一方、「ほぼ毎日吸っている」(8.7%)と「時々吸っている」(1.5%)を合わせた《吸っている》は10.2%となっている。



## 10 健康について知りたい内容

Q16：健康について、どのようなことが知りたいですか。（〇はいくつでも）

健康について知りたい内容は、「がんや高血圧などの生活習慣病にならないための工夫について」が36.6%で最も多く、次いで「認知症の予防について」が32.5%、「バランスのよい食生活について」が30.6%となっている。一方、「特にない」は22.2%となっている。

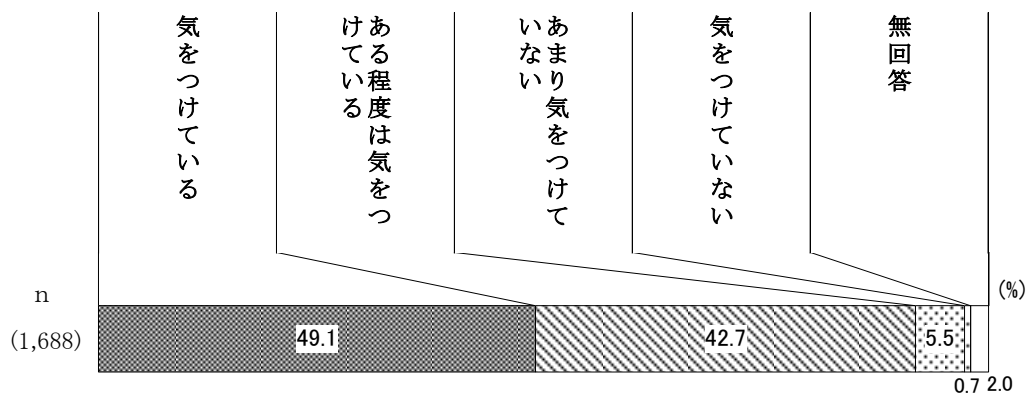


## 11 自分の健康に気をつけているか

Q17：日頃、自分の健康に気をつけていますか。(〇は1つ)

自分の健康に気をつけているかでは、「気をつけている」が49.1%で最も多く、「ある程度は気をつけている」(42.7%)を合わせた《気をつけている》は91.8%となる。

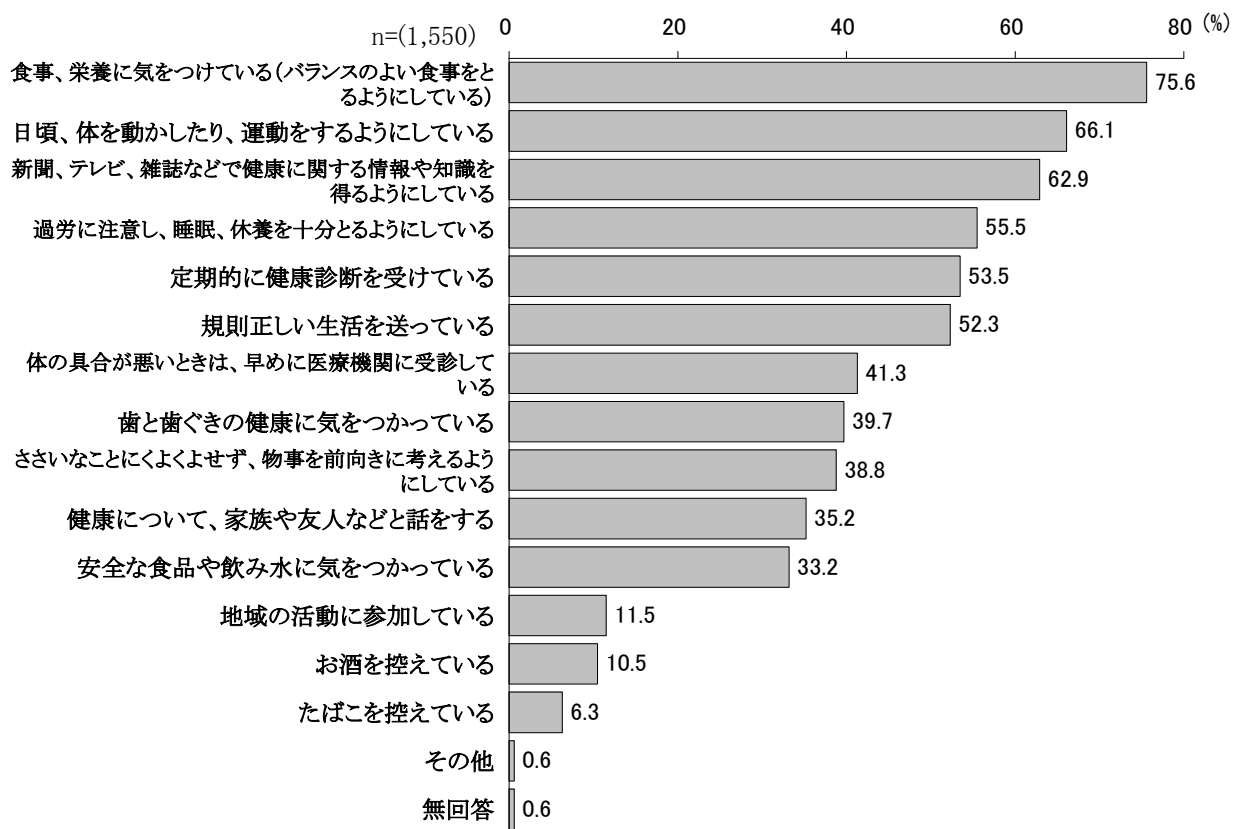
一方、「あまり気をつけていない」(5.5%)と「気をつけていない」(0.7%)を合わせた《気をつけていない》は6.2%となっている。



## 11-1 健康に気をつけて実行していること

(Q17で「1. 気をつけている」「2. ある程度は気をつけている」と回答した方のみ)  
 Q17-1：何か実行していることがありますか。(〇はいくつでも)

健康に《気をつけている》と回答した方に、何か実行していることがあるかをたずねたところ、「食事、栄養に気をつけている(バランスのよい食事をとるようにしている)」が75.6%で最も多く、次いで「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」が66.1%、「新聞、テレビ、雑誌などで健康に関する情報や知識を得るようにしている」が62.9%となっている。

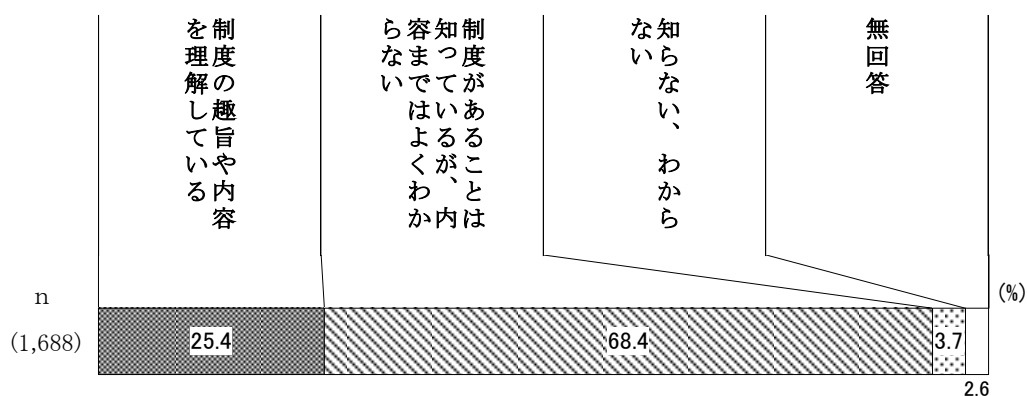


## 8 介護保険制度や介護保険料について

### 1 介護保険制度の認知度

Q1：介護保険制度についてどの程度ご存じですか。（〇は1つ）

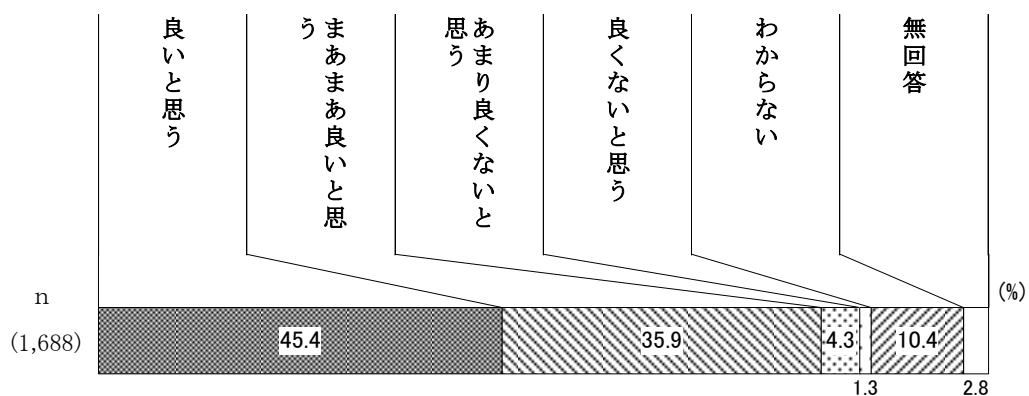
介護保険制度の認知度は、「制度があることは知っているが、内容まではよくわからない」が68.4%で最も多く、「制度の趣旨や内容を理解している」が25.4%となっている。



### 2 介護保険制度の負担についての感じ方

Q2：介護保険制度は家族だけで介護を負担するのではなく、社会全体で支えることを目指し、創設された制度です。介護保険制度についてどのように感じますか。（〇は1つ）

介護保険制度の負担についての感じ方では、「良いと思う」が45.4%で最も多く、これに「まあまあ良いと思う」(35.9%)を合わせた《良いと思う》は81.3%となっている。

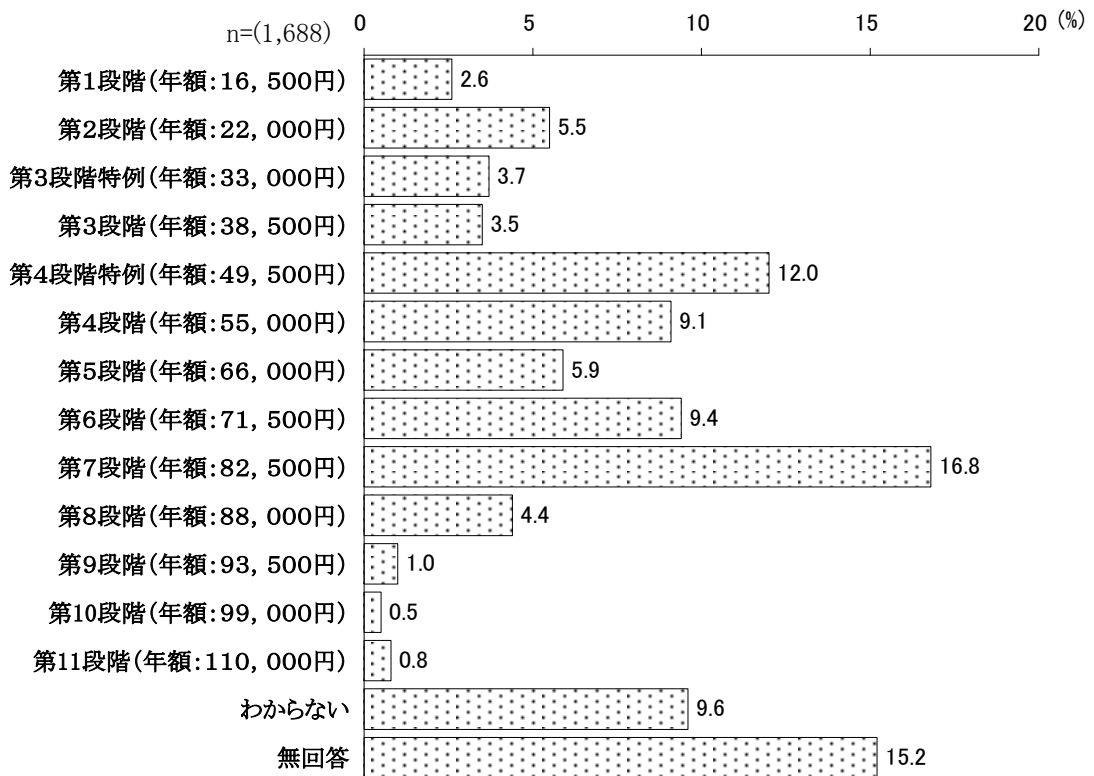


### 3 介護保険料段階

Q3：介護保険料段階は次のうちどれですか。(〇は1つ)

※介護保険料額決定通知書または介護保険料納入通知書をご覧ください。

介護保険料段階では、「第7段階（年額：82,500円）」が16.8%で最も多く、「第4段階特例（年額：49,500円）」が12.0%、「第6段階（年額：71,500円）」が9.4%、「第4段階（年額：55,000円）」が9.1%となっている。

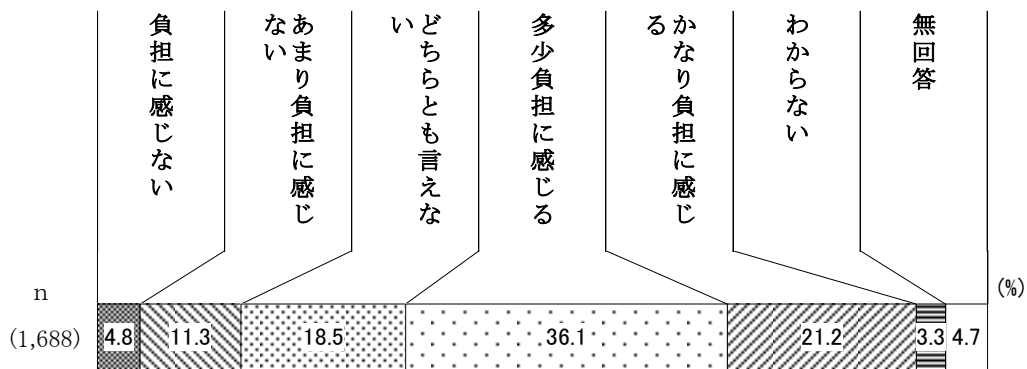




#### 4 介護保険料の支払いについての感じ方

Q4：介護保険料の支払いについてどのように感じていますか。(〇は1つ)

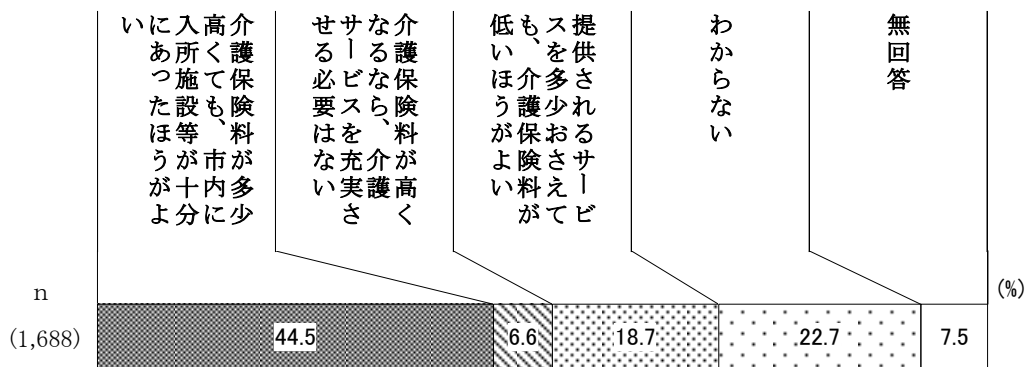
介護保険料の支払いについての感じ方では、「多少負担を感じる」が36.1%で最も多く、これに「かなり負担を感じる」(21.2%)を合わせた《負担を感じる》は57.3%となる。一方、「負担に感じない」(4.8%)と「あまり負担に感じない」(11.3%)を合わせた《負担に感じない》は16.1%となっている。



#### 5 介護保険料と介護保険サービスについての考え

Q5：介護保険料と介護保険サービスについて、どのように思われますか。(〇は1つ)

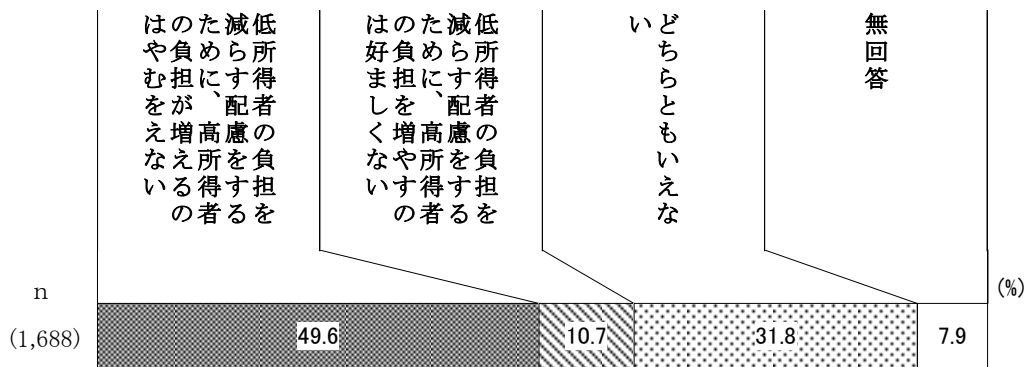
介護保険料と介護保険サービスについての考えでは、「介護保険料が多少高くても、市内に入所施設等が十分にあったほうがよい」が44.5%で最も多く、「提供されるサービスを多少おさえても、介護保険料が低いほうがよい」は18.7%となっている。



## 6 市の介護保険料段階のあり方についての考え

Q6：流山市では、介護保険料について、所得に応じた負担をしていただくため11段階（13区分）の保険料段階を設けています。保険料段階のあり方について、あなたはどのようにお考えですか。（〇は1つ）

市の介護保険料段階のあり方についての考えは、「低所得者の負担を減らす配慮をするために、高所得者の負担が増えるのはやむをえない」が49.6%で最も多くなっている。

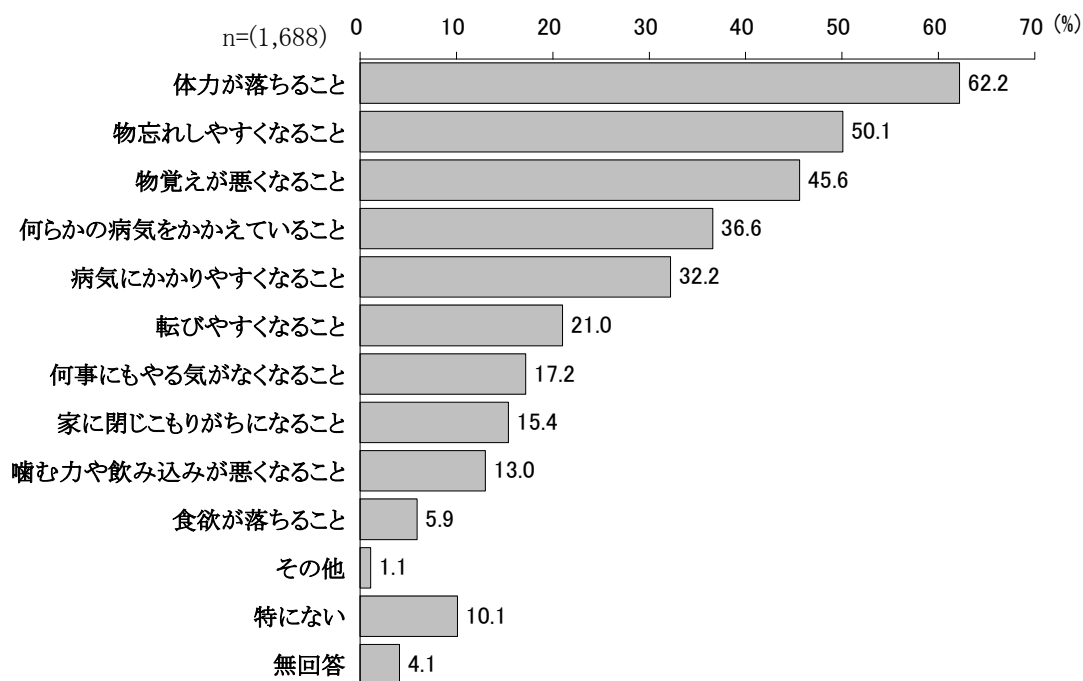


## 9 介護予防と地域での支援について

### 1 歳を重ねることに伴う心身の不安

Q1：歳を重ねることに伴う心身の不安がありますか。(〇はいくつでも)

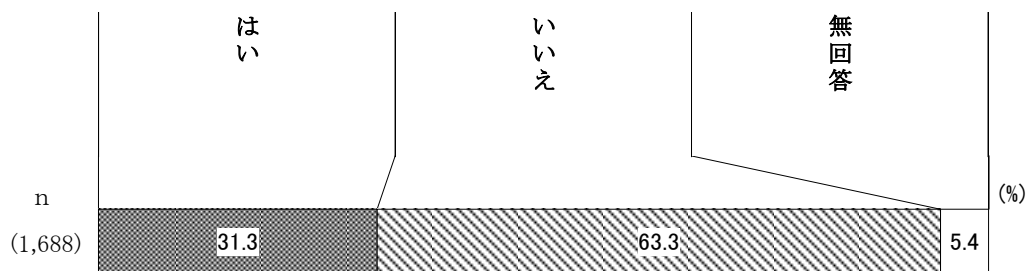
歳を重ねることに伴う心身の不安では、「体力が落ちること」が62.2%で最も高く、次いで「物忘れしやすくなること」が50.1%、「物覚えが悪くなること」が45.6%、「何らかの病気をかかえていること」が36.6%となっている。



### 2 介護予防に関する講座の認知度

Q2：流山市では、いつまでも元気に暮らしていただくために介護予防に関する講座を行っていますが、ご存知ですか。

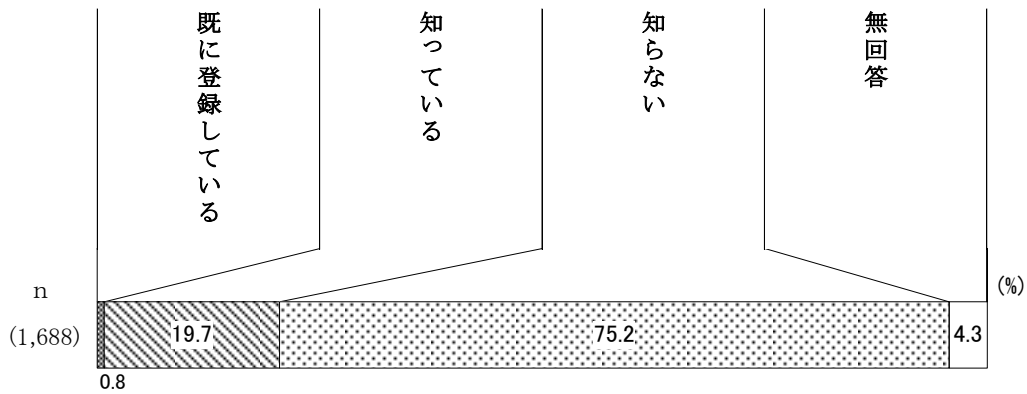
介護予防に関する講座を知っているかでは、「いいえ」が63.3%で、「はい」が31.3%となっている。



### 3 介護支援サポーター事業の認知度

Q3：介護支援サポーター事業を知っていますか。

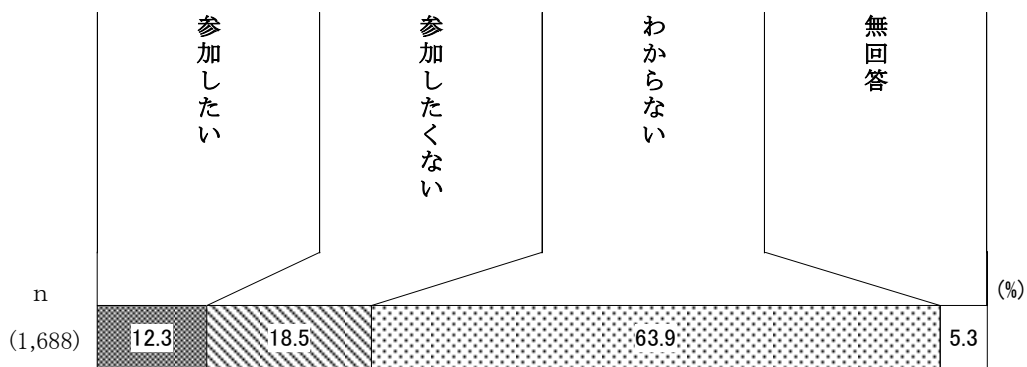
介護支援サポーター事業の認知度は、「知らない」が75.2%で、「知っている」が19.7%となっている。



### 4 今後の介護支援サポーター事業の参加意向

Q4：今後介護支援サポーター事業に参加したいと思いますか。

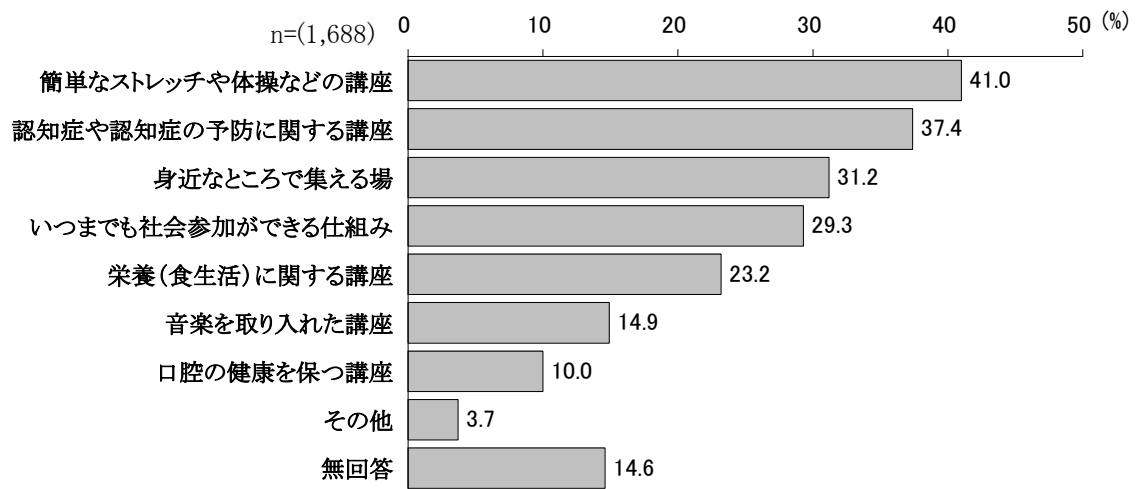
今後の介護支援サポーター事業の参加意向は、「参加したくない」が18.5%で、「参加したい」が12.3%となっている。



## 5 いつまでも元気で暮らしていくためにあったらいいと思う講座や仕組み

Q5：いつまでも元気で暮らしていくためにどのような講座や仕組みがあったらいいと思いますか。(〇はいくつでも)

いつまでも元気で暮らしていくためにあったらいいと思う講座や仕組みは、「簡単なストレッチや体操などの講座」が41.0%で最も多く、次いで「認知症や認知症の予防に関する講座」が37.4%、「身近なところで集える場」が31.2%となっている。

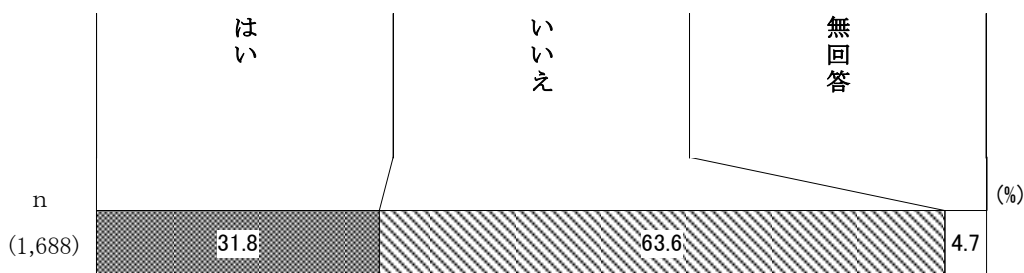


## 10 地域包括支援センターについて

### 1 地域包括支援センターの認知度

Q1：地域包括支援センターをご存知ですか。（〇は1つ）

「地域包括支援センター」を知っているかでは、「はい」が31.8%で、「いいえ」が63.6%となっている。

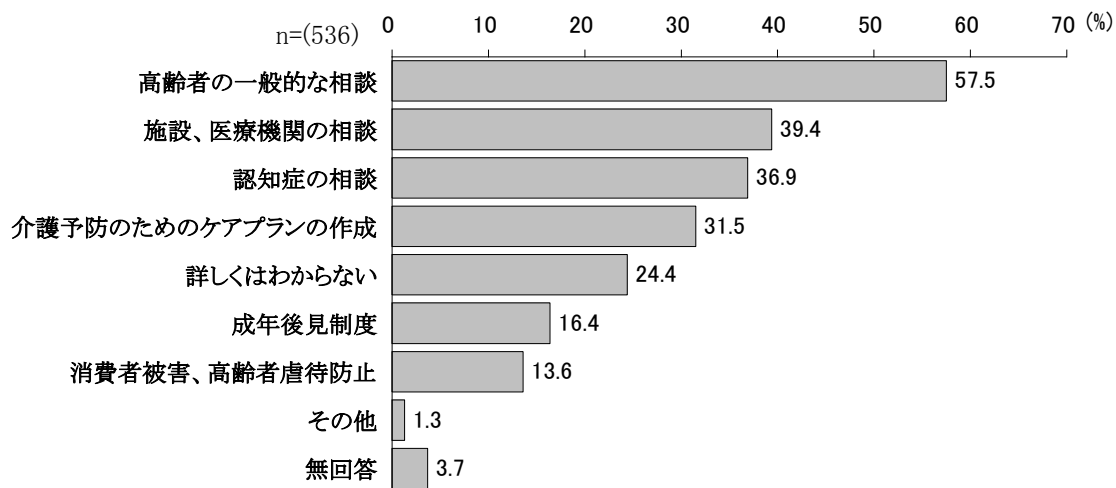


#### 1-1 地域包括支援センターの活動で知っている内容

（Q1で「1. はい」と答えた方のみ）

Q1-1：地域包括支援センターの活動内容をご存知ですか。（〇はいくつでも）

地域包括支援センターを知っていると回答した方に、知っている活動内容をたずねたところ、「高齢者の一般的な相談」が57.5%で最も多く、次いで「施設、医療機関の相談」が39.4%、「認知症の相談」が36.9%、「介護予防のためのケアプランの作成」が31.5%となっている。

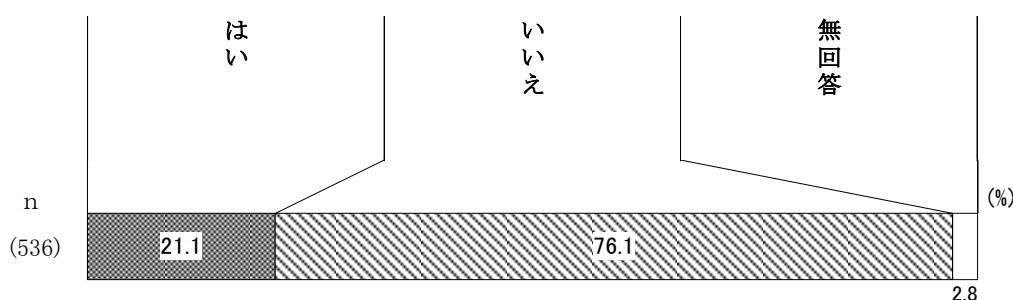


## 1-2 地域包括支援センターの利用経験

(Q1で「1. はい」と答えた方のみ)

Q1-2：地域包括支援センターを実際に利用したことがありますか。自宅や入院先に地域包括支援センターの職員が訪問した場合の利用も含まれます。(〇は1つ)

地域包括支援センターを知っていると回答した方に、利用経験をたずねたところ、「はい」が21.1%で、「いいえ」が76.1%となっている。

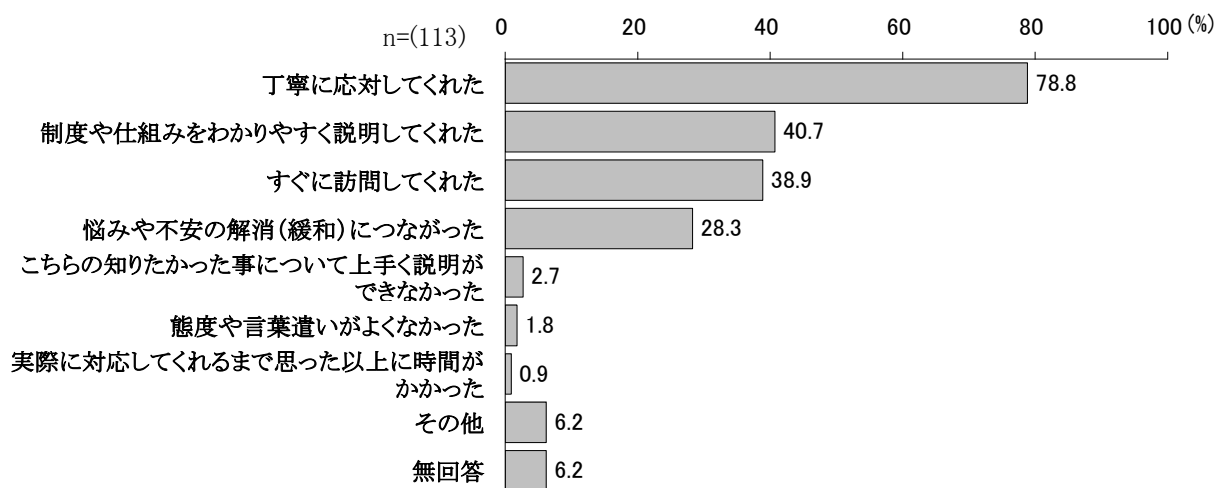


### 1-2-1 地域包括支援センターを利用した感想

(Q1-2で「1. はい」と答えた方のみ)

Q1-2-1：地域包括支援センターを利用した感想を教えてください。(〇はいくつでも)

地域包括支援センターを利用したことがあると回答した方に、その感想をたずねたところ、「丁寧に應對してくれた」が78.8%で最も多く、次いで「制度や仕組みをわかりやすく説明してくれた」が40.7%、「すぐに訪問してくれた」が38.9%、「悩みや不安の解消(緩和)につながった」が28.3%となっている。

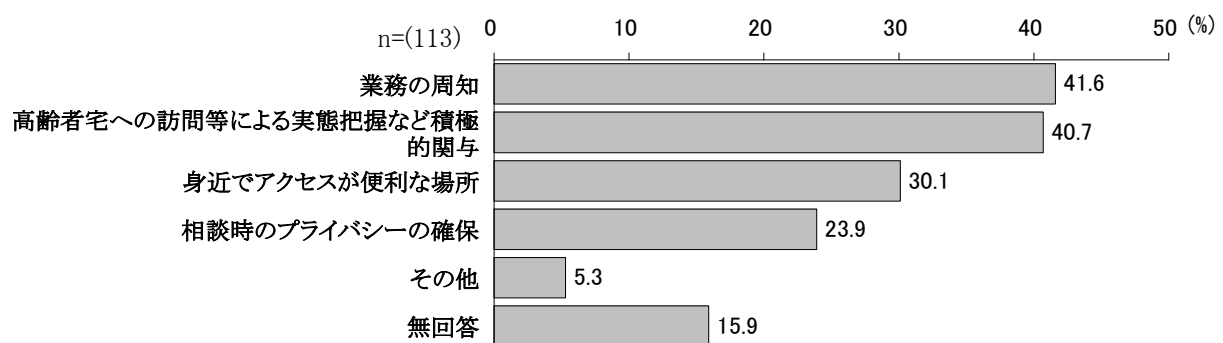


## 1-2-2 地域包括支援センターをもっと利用しやすくするために必要だと思うこと

(Q1-2で「1. はい」と答えた方のみ)

Q1-2-2：もっと利用しやすくするためにどのようなことが必要と思いますか。(〇はいくつでも)

地域包括支援センターを利用したことがあると回答した方に、もっと利用しやすくするために必要だと思うことをたずねたところ、「業務の周知」が41.6%で最も多く、次いで「高齢者宅への訪問等による実態把握など積極的関与」が40.7%、「身近でアクセスが便利な場所」が30.1%となっている。





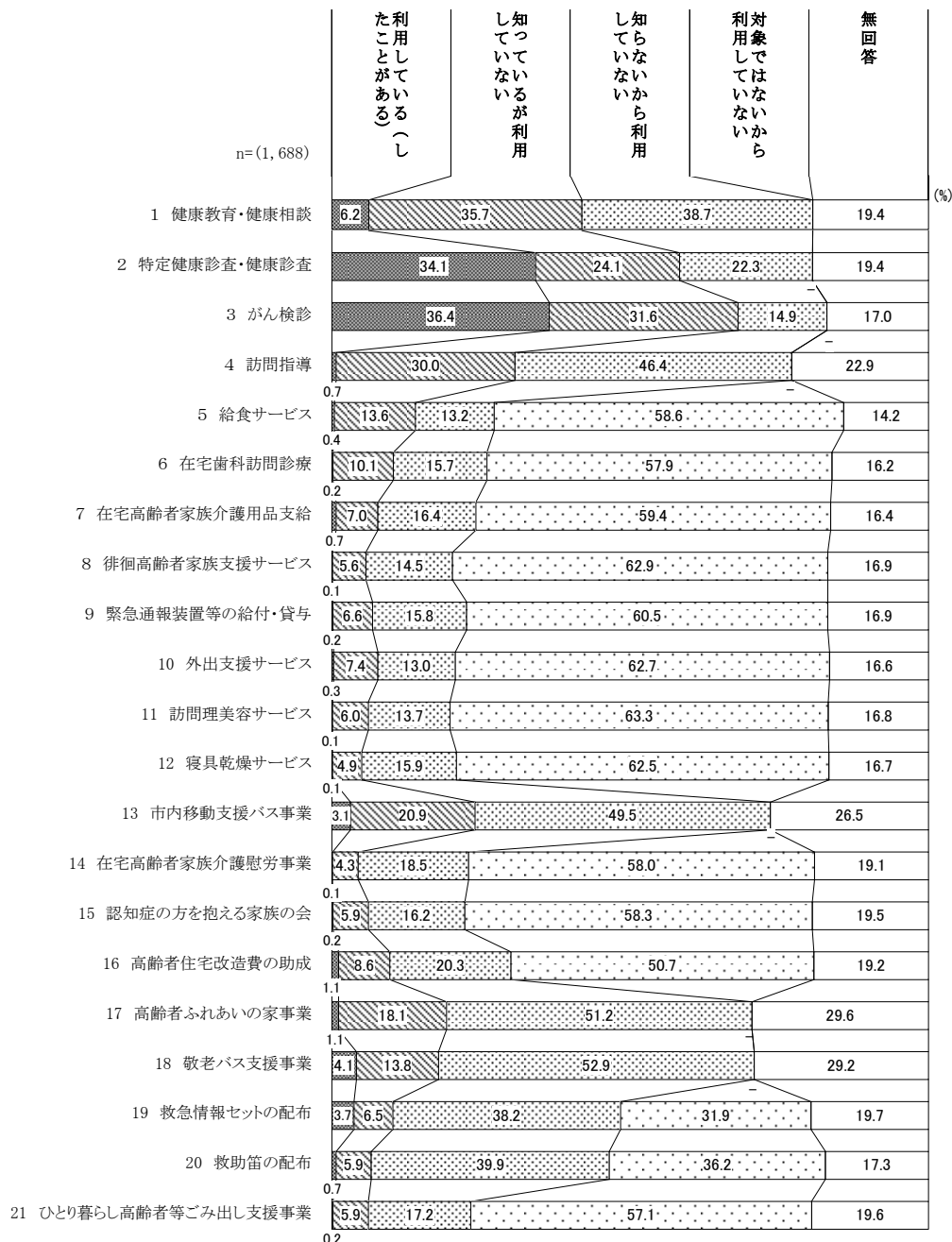
# 11 保健福祉サービスの利用状況及び今後の利用意向について

## 1 現在の利用状況と今後の利用意向

Q1：以下の保健福祉サービスについて、①現在の利用状況と②今後の利用意向についてお伺いします。(①と②それぞれについて〇は1つ)

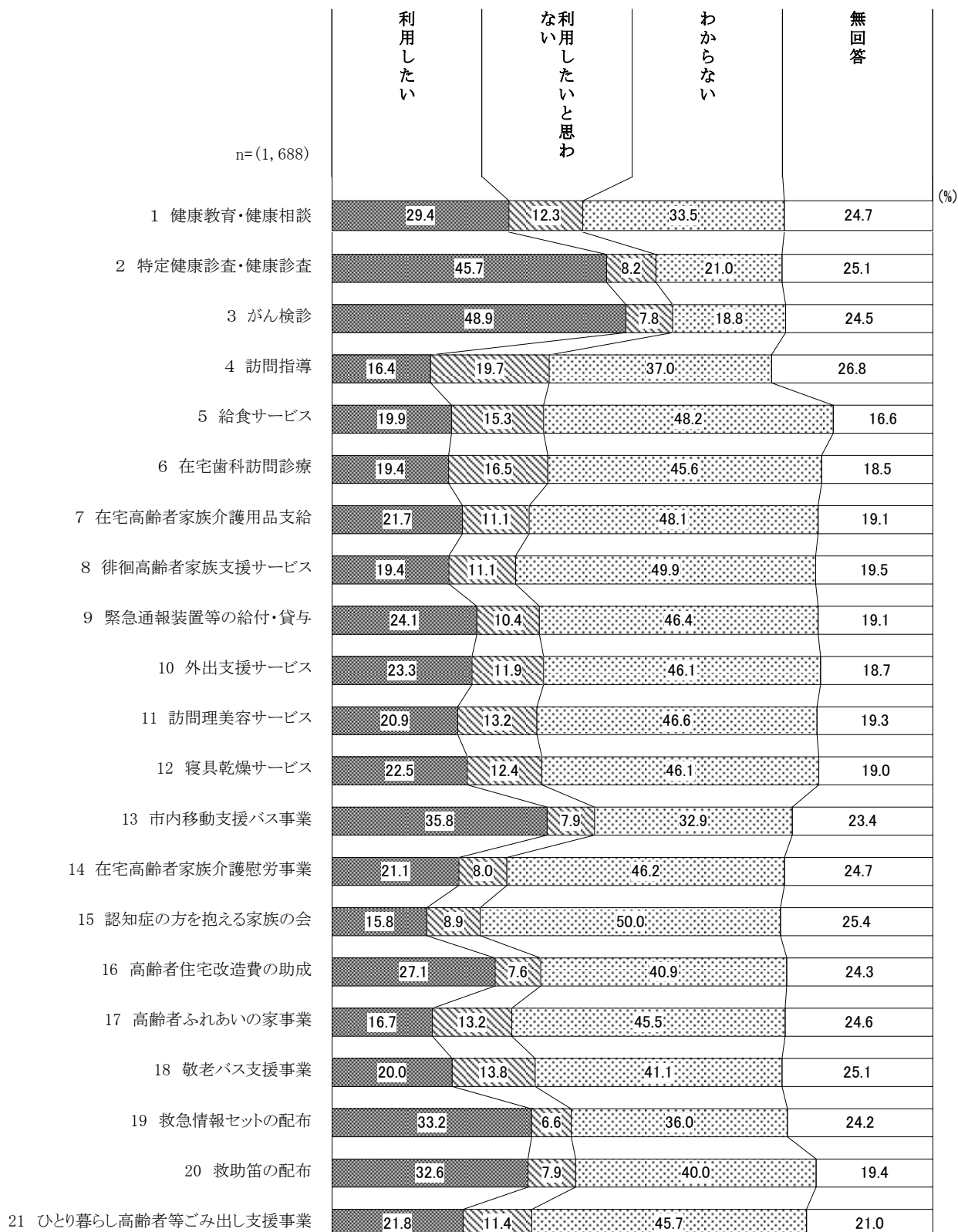
### ①現在の利用状況

「利用している(したことがある)」は、「がん検診」が36.4%で最も多く、次いで「特定健康診査・健康診査」が34.1%となっている。「知っているが利用していない」は、「健康教育・健康相談」が35.7%で最も多く、次いで「がん検診」が31.6%、「訪問指導」が30.0%、「特定健康診査・健康診査」が24.1%となっている。



## ②今後の利用意向

「利用したい」は、「がん検診」が48.9%で最も多く、次いで「特定健康診査・健康診査」(45.7%)、「市内移動支援バス事業」が35.8%となっている。「利用したいと思わない」は、「訪問指導」が19.7%で最も高く、次いで「在宅歯科訪問診療」が16.5%、求職サービスが15.3%となっている。

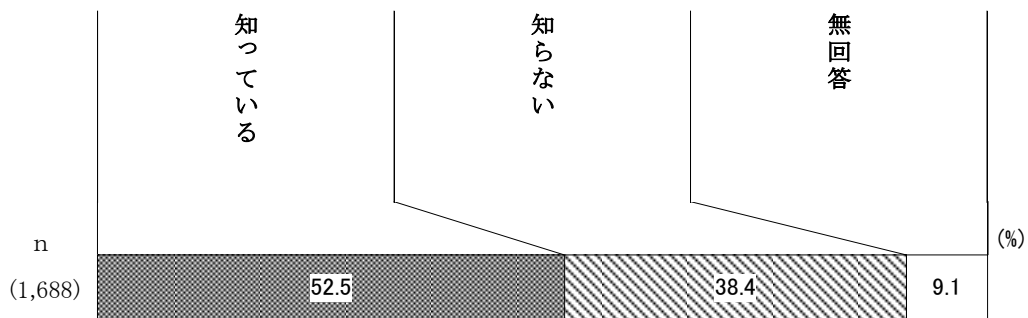


## 12 成年後見制度について

### 1 成年後見制度の内容の認知度

Q1：成年後見制度の内容を知っていますか。（○は1つ）

成年後見制度の内容を「知っている」は52.5%で、「知らない」が38.4%となっている。

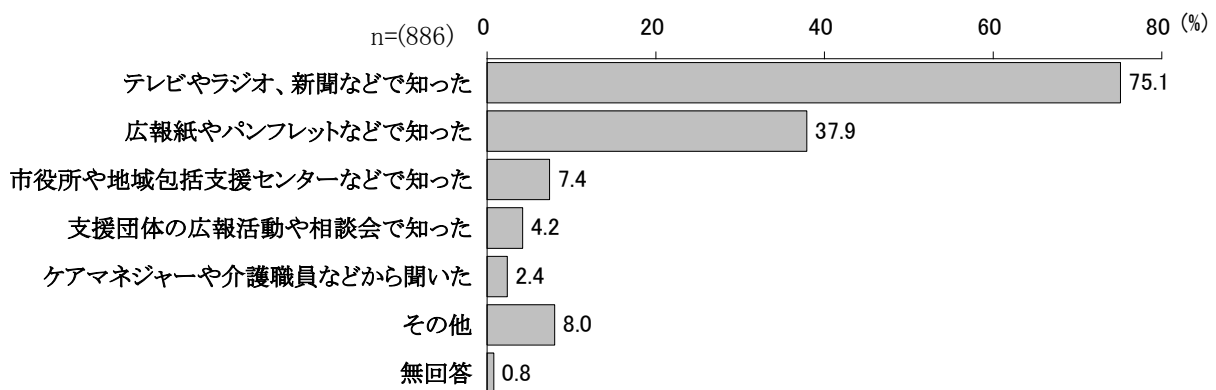


#### 1-1 成年後見制度を知った方法

（Q1で「1. 知っている」と回答した方のみ）

Q1-1：成年後見制度をどのように知りましたか。（○はいくつでも）

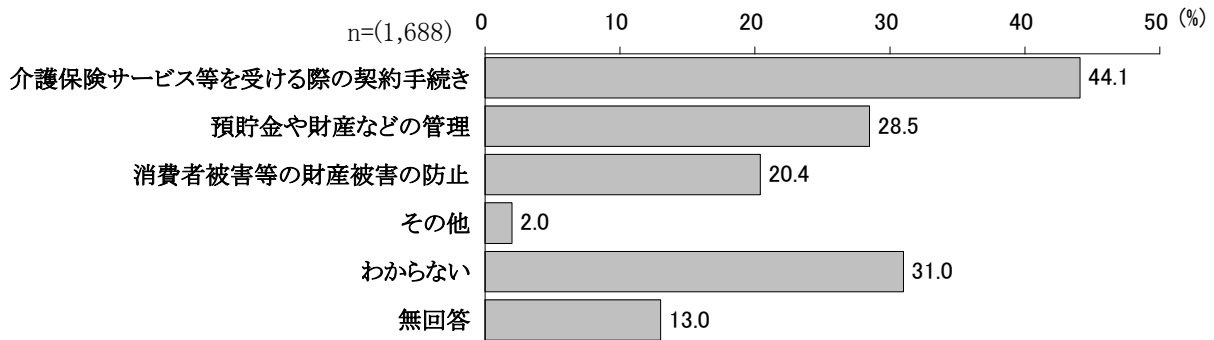
成年後見制度を知っていると回答した方に、どのように知ったのかをたずねたところ、「テレビやラジオ、新聞などで知った」が75.1%で最も多く、次いで「広報紙やパンフレットなどで知った」が37.9%となっている。



## 2 成年後見制度を利用する場合、どのように利用したいか

Q2：成年後見制度を利用するとしたら、どのように利用したいですか。(〇はいくつでも)

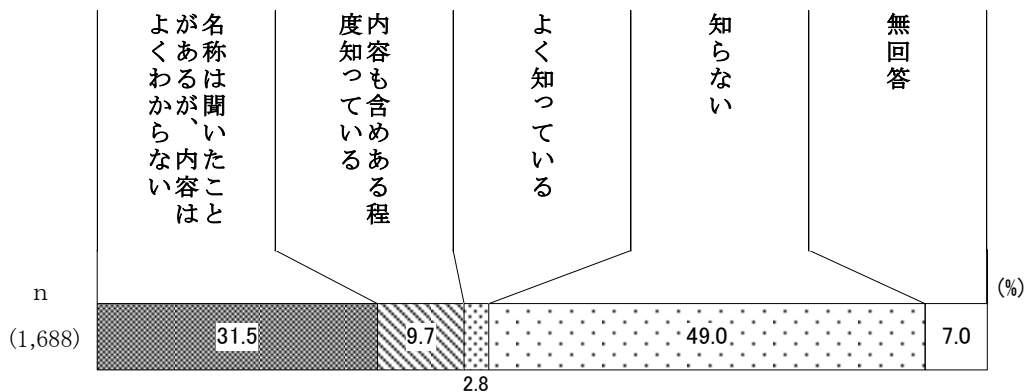
成年後見制度を利用する場合、どのように利用したいかでは、「介護保険サービス等を受ける際の契約手続き」が44.1%で最も多く、次いで「預貯金や財産などの管理」が28.5%、「消費者被害等の財産被害の防止」が20.4%となっている。



## 3 市民後見人制度の認知度

Q3：市民後見人制度についてご存知ですか。(〇は1つ)

市民後見人制度の認知度は、「知らない」が49.0%で最も多く、「名称は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が31.5%となっている。

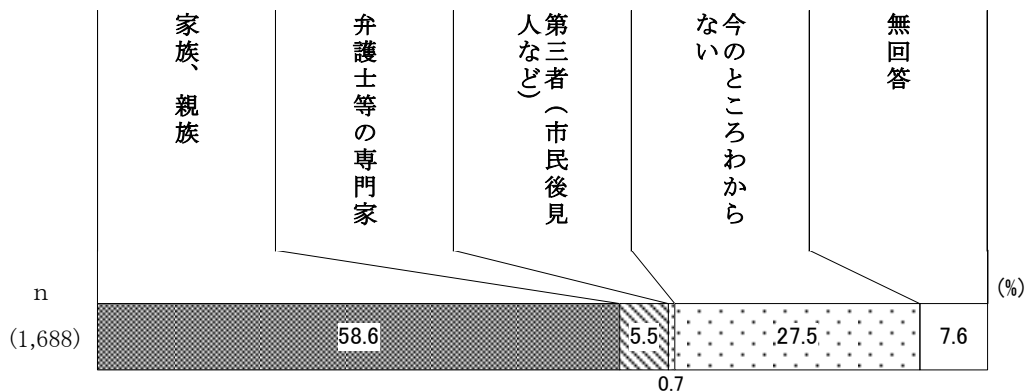


#### 4 成年後見制度を利用する場合に、依頼したい後見人

Q4：あなたが、もし成年後見制度を利用するとしたら、誰に後見人を頼みたいですか。

(○は1つ)

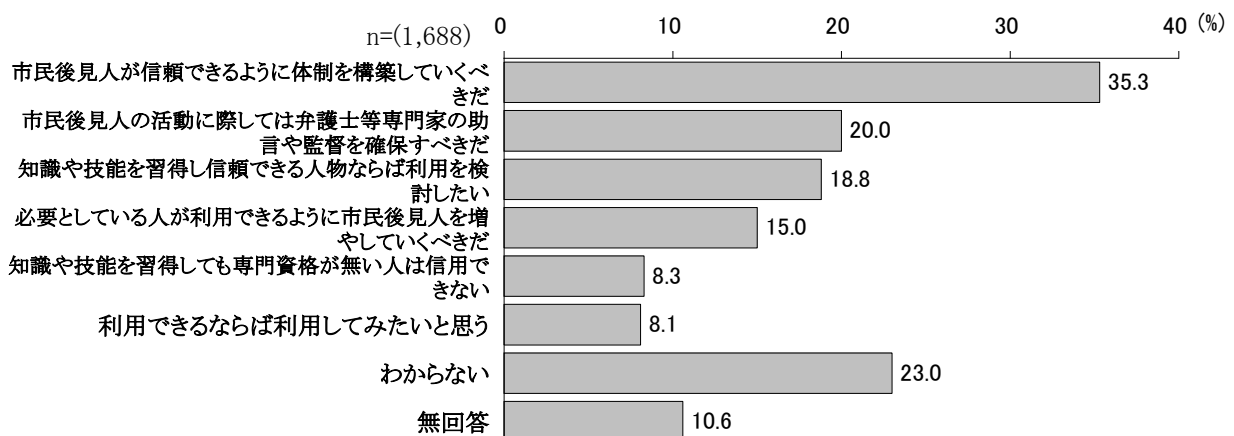
成年後見制度を利用する場合に、依頼したい後見人では、「家族、親族」が58.6%と最も多くなっている。一方、「今のところわからない」が27.5%となっている。



#### 5 市民後見人制度のあり方に対する考え方

Q5：今後、成年後見制度を利用する方がますます増えていった場合、市民後見人を養成し、活用する仕組みが必要になっていきます。あなたは市民後見人のあり方についてどう考えますか。また、何を望みますか。(○は2つまで)

市民後見人制度のあり方に対する考え方は、「市民後見人が信頼できるように体制を構築していくべきだ」が35.3%で最も多く、次いで「市民後見人の活動に際しては弁護士等専門家の助言や監督を確保すべきだ」が20.0%、「知識や技能を習得し信頼できる人物ならば利用を検討したい」が18.8%となっている。

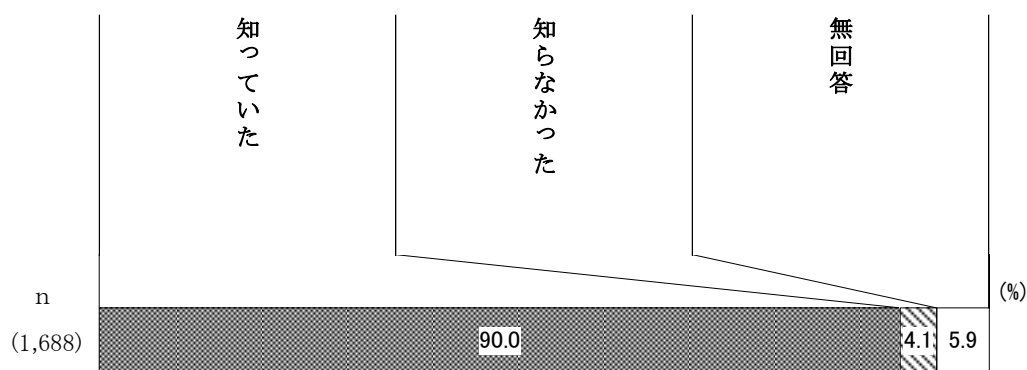


## 13 認知症について

### 1 認知症が病気であることの認知

Q1：認知症は病気であることを知っていましたか。(〇は1つ)

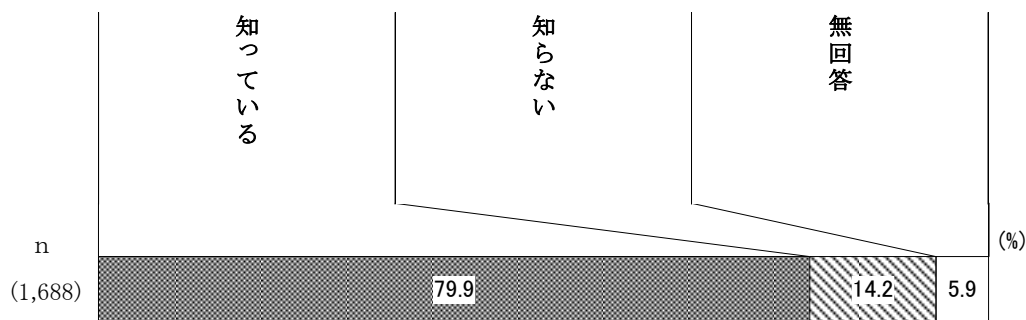
認知症が病気であるということを「知っていた」は90.0%を占めている。



### 2 認知症は早期発見し治療等につなげることで、進行を緩やかにすることの認知

Q2：認知症は早期に発見して治療や介護サービスにつなげることで、病気の進行を緩やかにすることができると言われていますが、ご存知ですか。(〇は1つ)

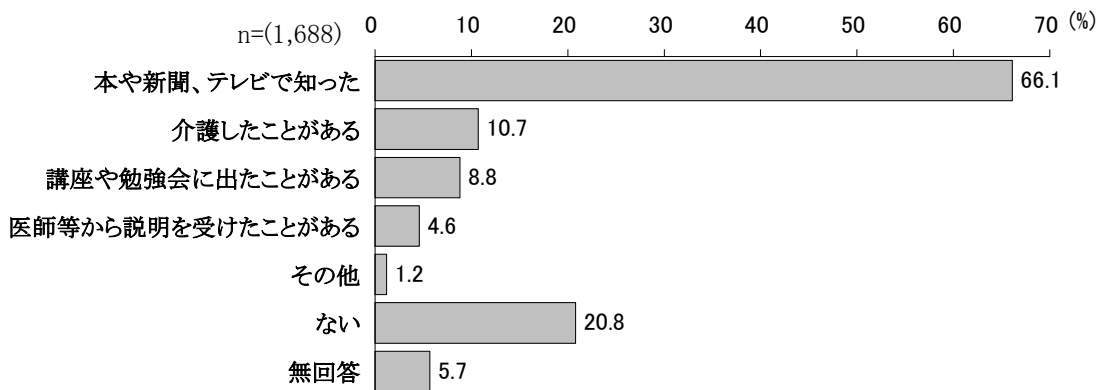
認知症は早期発見し治療等につなげることで、進行を緩やかにするというを「知っている」は79.9%で、「知らない」が14.2%となっている。



### 3 認知症について講座に参加したり、本等で情報を得た経験

Q3：認知症について講座に参加したり、本等で情報を得たことがありますか。  
 (〇はいくつでも)

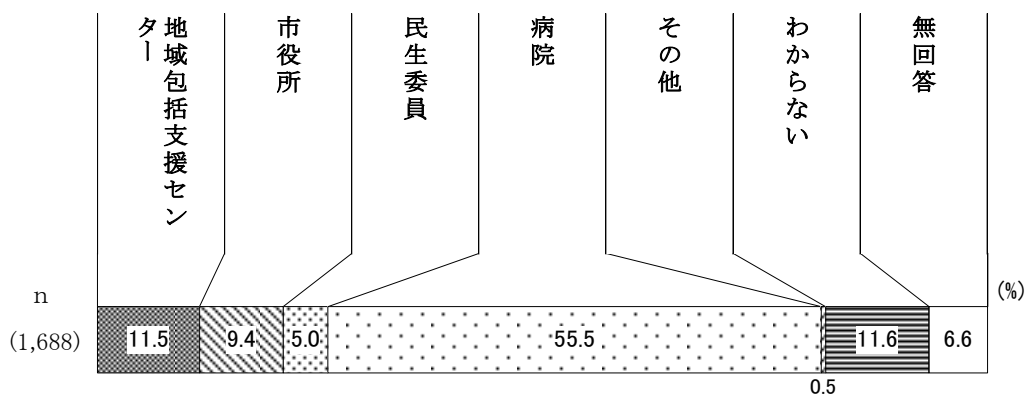
認知症について「本や新聞、テレビで知った」が66.1%で最も多く、次いで「介護したことがある」が10.7%、「講座や勉強会に出たことがある」が8.8%となっている。一方、「ない」が20.8%となっている。



### 4 家族や近所の方に認知症が疑われる場合、最初に相談するところ

Q4：家族や近所の方に認知症が疑われる場合、最初にどこに相談に行きますか。(〇は1つ)

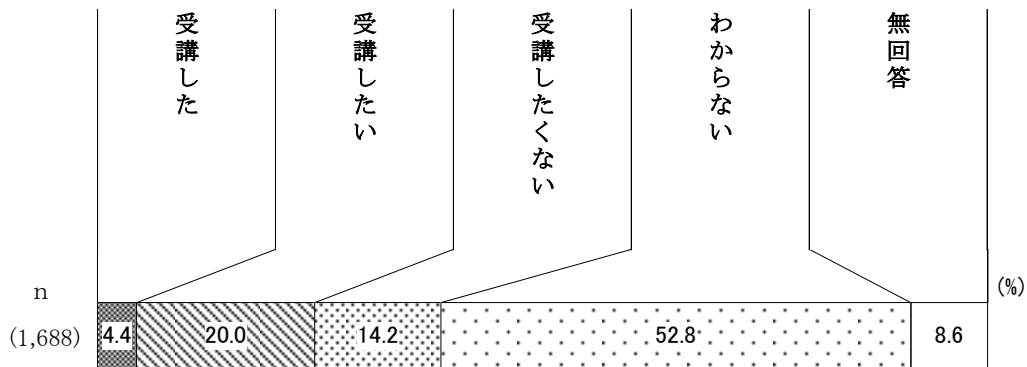
家族や近所の方に認知症が疑われる場合、最初に相談するところでは、「病院」が55.5%で最も多く、「地域包括支援センター」が11.5%、「市役所」が9.4%となっている。



## 5 「認知症サポーター」を養成する講座の受講意向

Q5：あなたは認知症の人やその家族を見守り支える「認知症サポーター」を養成する講座を受講したいと思いますか。

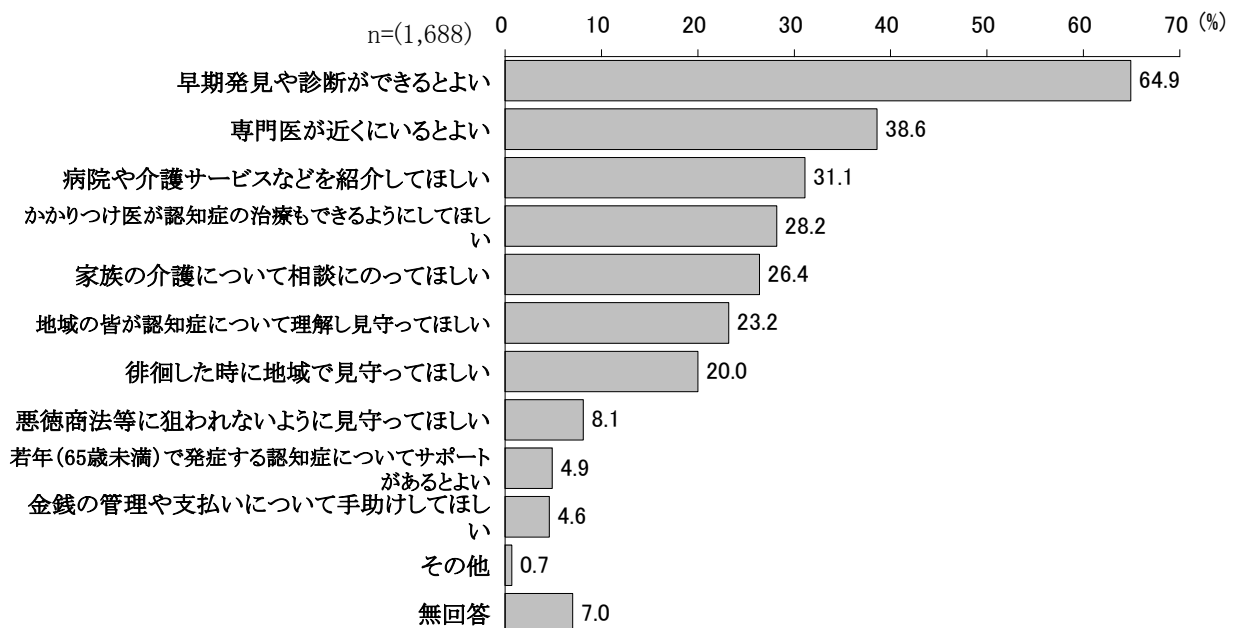
「認知症サポーター」を養成する講座の受講意向では、「受講したい」が20.0%、「受講したくない」が14.2%となっている。



## 6 認知症になっても地域で暮らしていくために必要だと思う支援

Q6：認知症になっても地域で暮らしていくために、どのような支援が必要だと思いますか。  
(〇は3つまで)

認知症になっても地域で暮らしていくために必要だと思う支援は、「早期発見や診断ができる」とよい」が64.9%で最も多く、次いで「専門医が近くにいる」とよい」が38.6%、「病院や介護サービスなどを紹介してほしい」が31.1%、「かかりつけ医が認知症の治療もできるようにしてほしい」が28.2%となっている。



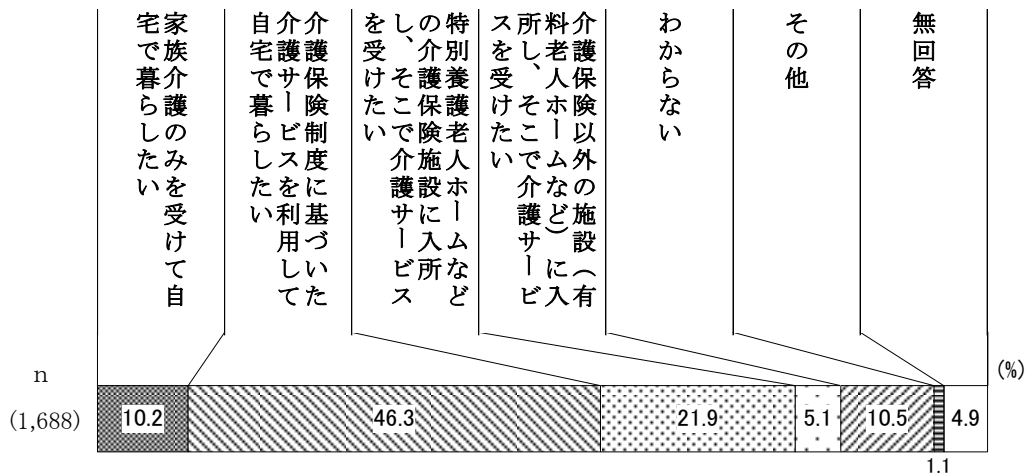


## 14 今後の暮らしや介護について

### 1 介護が必要になった時に望む暮らし方

Q1：あなた自身が介護が必要になった時、どんな暮らし方を望みますか。（〇は1つ）

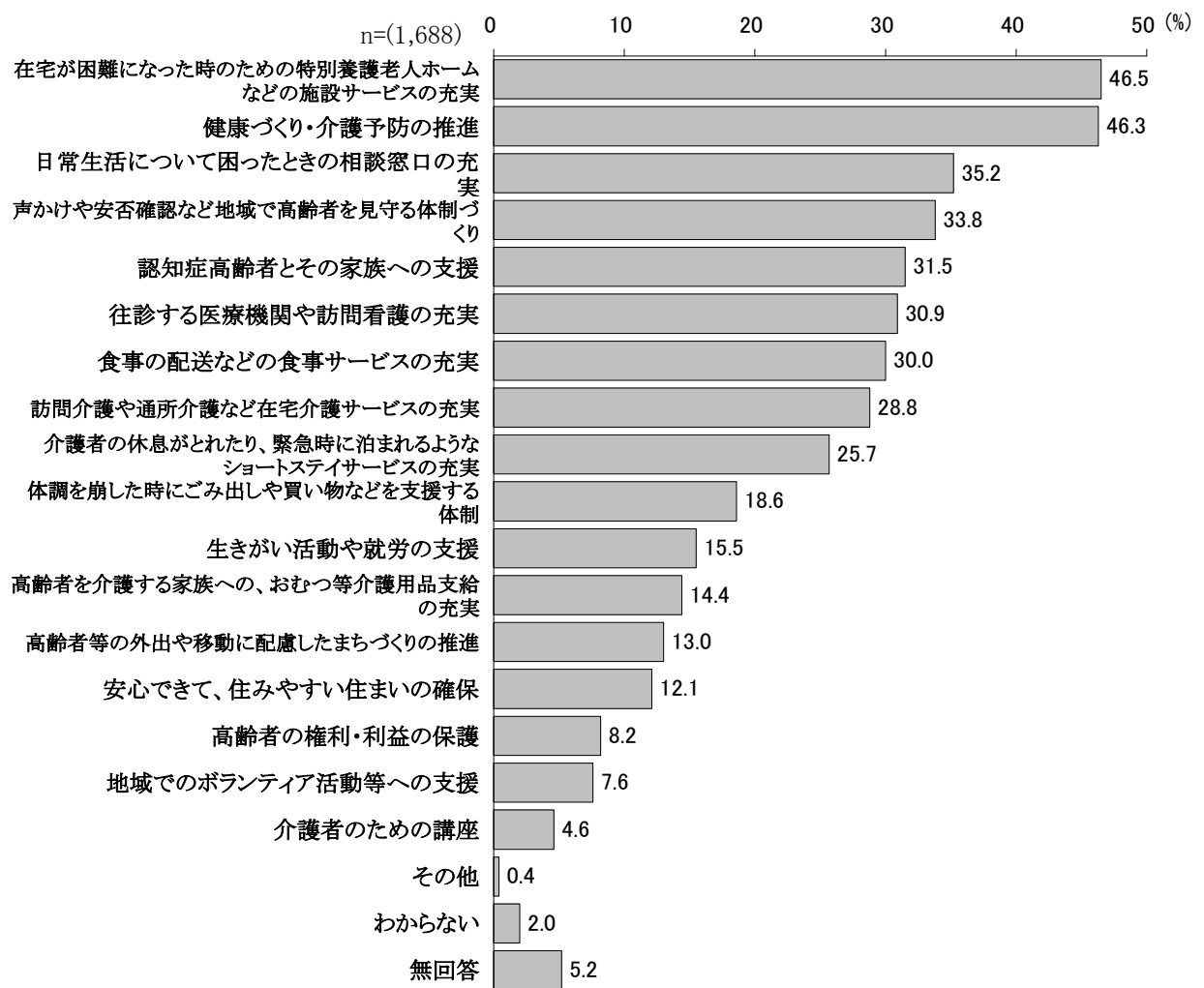
介護が必要になった時に望む暮らし方では、「介護保険制度に基づいた介護サービスを利用して自宅で暮らしたい」が46.3%で最も多く、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所し、そこで介護サービスを受けたい」が21.9%、「家族介護のみを受けて自宅で暮らしたい」が10.2%、「介護保険以外の施設（有料老人ホームなど）に入所し、そこで介護サービスを受けたい」が5.1%となっている。



## 2 住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために特に力を入れていくべきもの

Q2：できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために、特に力を入れていくべきものはどれだと思いますか。(〇は5つまで)

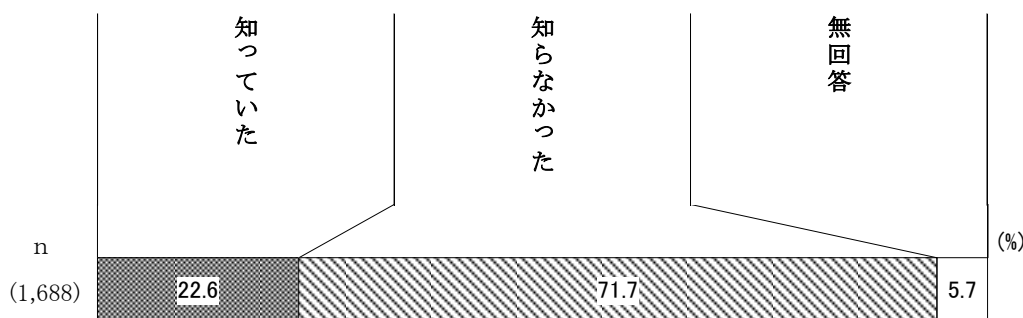
住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために特に力を入れていくべきものでは、「在宅が困難になった時のための特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が46.5%最も多く、次いで「健康づくり・介護予防の推進」が46.3%、「日常生活について困ったときの相談窓口の充実」が35.2%、「声かけや安否確認など地域で高齢者を見守る体制づくり」が33.8%、「認知症高齢者とその家族への支援」が31.5%となっている。



### 3 定期巡回・随時対応型訪問介護のサービスの認知度

Q3：あなたは、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスを知っていましたか。  
 (〇は1つ)

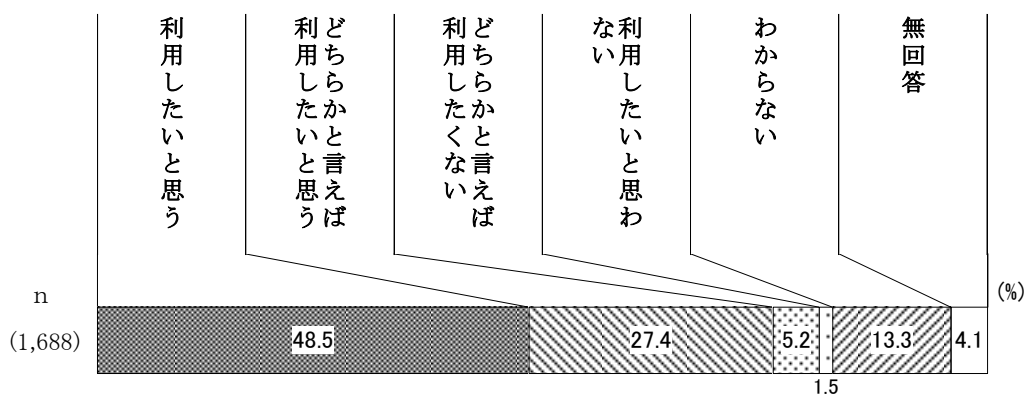
定期巡回・随時対応型訪問介護のサービスを「知っていた」が22.6%で、「知らなかった」が71.7%となっている。



### 4 万一、介護が必要な状態になった場合、24時間対応の在宅サービスの利用意向

Q4：あなたは、万一、介護が必要な状態になった場合、こうした24時間対応の在宅サービスを利用してみたいと思いますか。(〇は1つ)

万一、介護が必要な状態になった場合、24時間対応の在宅サービスの利用意向は、「利用したいと思う」が48.5%で最も多く、これに「どちらかと言えば利用したいと思う」(27.4%)を合わせた《利用したい》は75.9%を占める。一方、「どちらかと言えば利用したくない」(5.2%)と「利用したいと思わない」(1.5%)を合わせた《利用したくない》は6.7%となっている。



## 15 評価項目別の結果

### 1 基本チェックリスト項目による判定

ここでは、基本チェックリストによる二次予防事業対象者の判定基準に従い、各機能のリスク該当者（判定基準に該当した方）の割合を算出している。

各機能の判定基準は、次のとおりである。（ア）～（エ）のリスクが1つでもある場合、「二次予防事業対象者」となる。

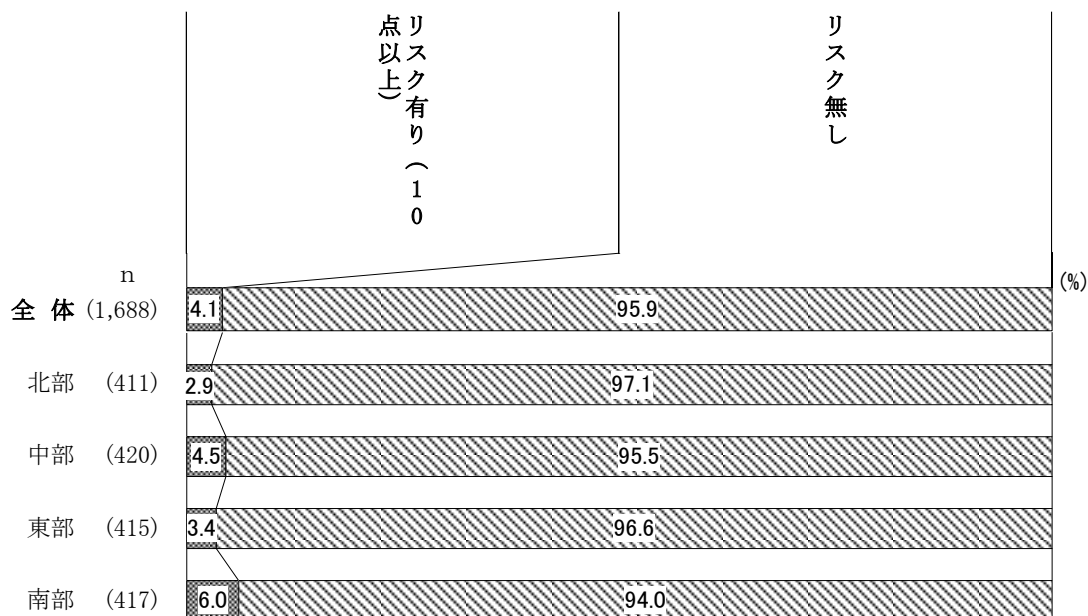
項目		配点		
1	バスや電車で、一人で外出していますか	0.はい	1.いいえ	↑ (ア) 虚弱 20項目のうち、 点数が10点以上の方
2	日用品の買い物をしていますか	0.はい	1.いいえ	
3	預貯金の出し入れをしていますか	0.はい	1.いいえ	
4	友人の家を訪ねていますか	0.はい	1.いいえ	
5	家族や友人の相談にのっていますか	0.はい	1.いいえ	
6	階段を、手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0.はい	1.いいえ	↑ (イ) 運動器の機能 低下 5項目のうち、 点数が3点以上の方
7	椅子に座った状態から、何もつかまらずに立ちあがっていますか	0.はい	1.いいえ	
8	15分くらい続けて歩いていますか	0.はい	1.いいえ	
9	この1年間に転んだことがありますか	1.はい	0.いいえ	
10	転倒に対する不安は大きいですか	1.はい	0.いいえ	
11	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1.はい	0.いいえ	↑ (ウ) 低栄養 2項目のうち、 点数が2点以上の方
12	身長 ____cm , 体重 ____kg	※BMI < 18.5 なら 「1.」		
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい	0.いいえ	↑ (エ) 口腔機能の 低下 3項目のうち、 点数が2点以上の方
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい	0.いいえ	
15	口の渇きが気になりますか	1.はい	0.いいえ	
16	週に1回以上は外出していますか	0.はい	1.いいえ	↑ 閉じこもり 1項目のうち、 点数が1点以上の方
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1.はい	0.いいえ	
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると 言われますか	1.はい	0.いいえ	↑ 認知機能の 低下 3項目のうち、 点数が1点以上の方
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0.はい	1.いいえ	
20	今日が何月何日かわからないときがありますか	1.はい	0.いいえ	
21	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1.はい	0.いいえ	↑ うつ傾向 5項目のうち、 点数が2点以上の方
22	(ここ2週間) これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなった	1.はい	0.いいえ	
23	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	1.はい	0.いいえ	
24	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だとは思えない	1.はい	0.いいえ	
25	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1.はい	0.いいえ	

※調査の選択肢において、「できるけどしていない」、「できない」と回答したものを「1. いいえ」とした。

### 1-1 虚弱

全体では、「リスク有り（10点以上）」は4.1%となっている。

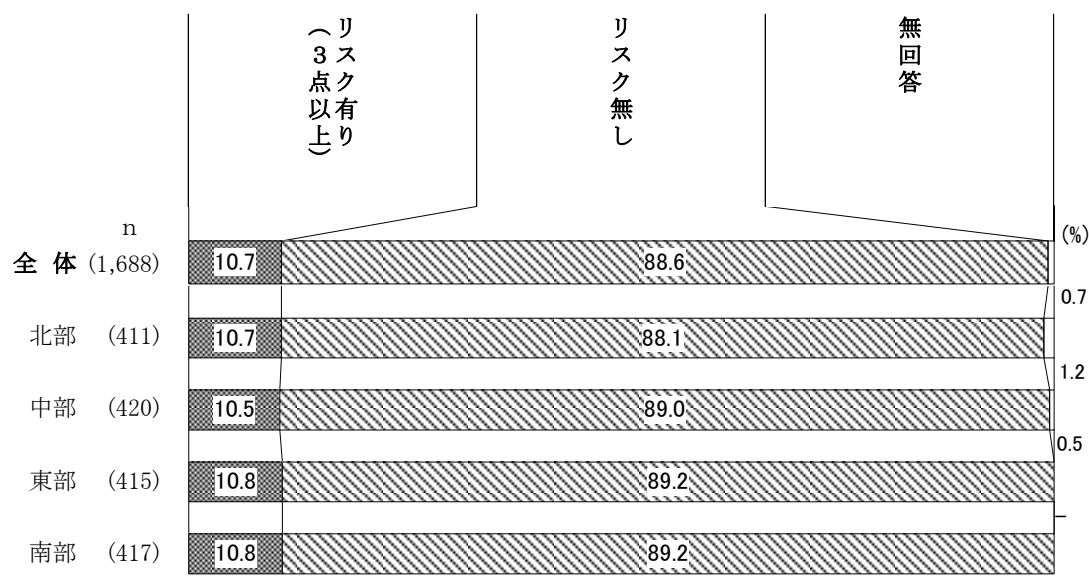
居住地区別で見ると、「リスク有り（10点以上）」は、南部（6.0%）と中部（4.5%）が、全体より高い割合となっている。



### 1-2 運動器の機能低下

全体では、「リスク有り（3点以上）」は10.7%となっている。

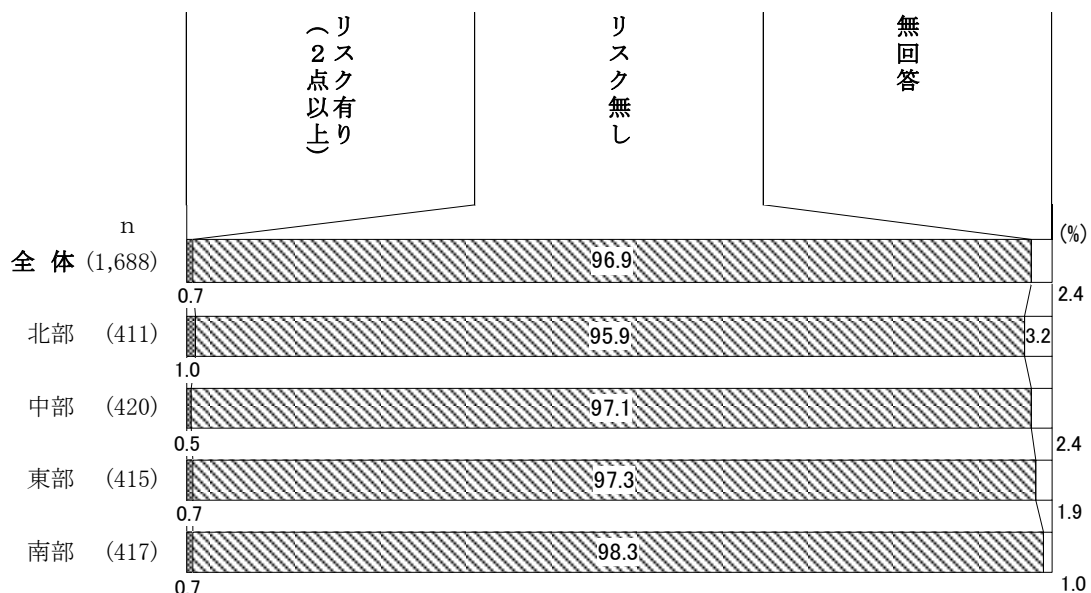
居住地区別では、特に大きな違いはみられない。



### 1-3 低栄養

全体では、「リスク有り（2点以上）」は0.7%となっている。

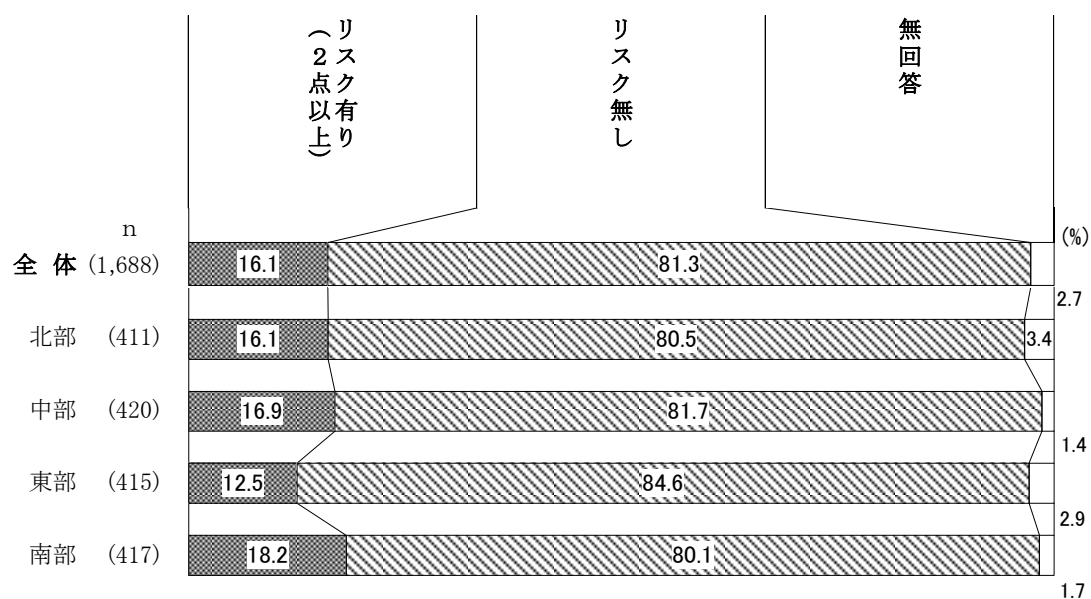
居住地区別では、特に大きな違いはみられない。



### 1-4 口腔機能の低下

全体では、「リスク有り（2点以上）」は16.1%となっている。

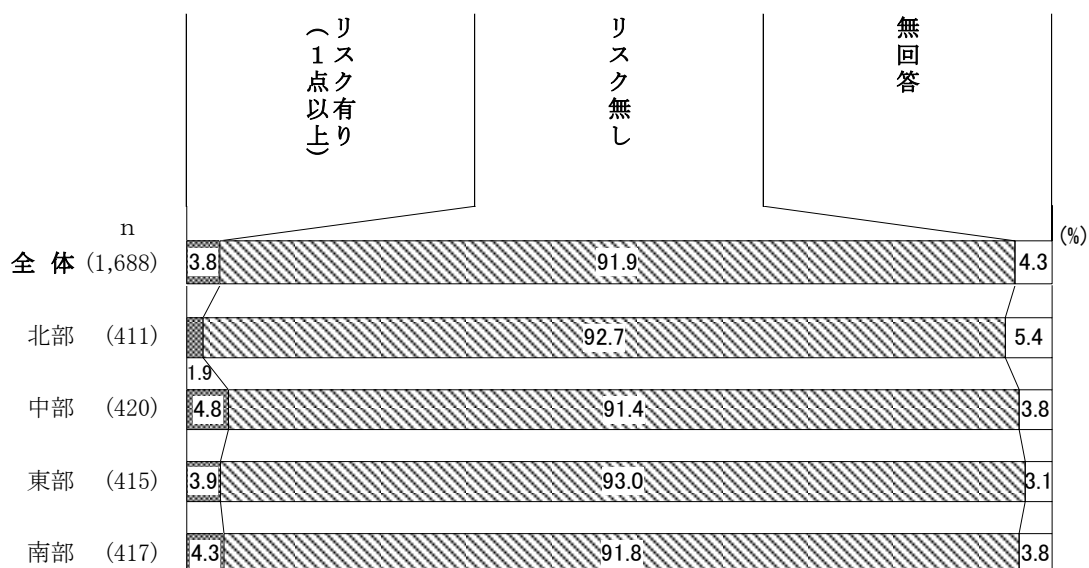
居住地区別で見ると、「リスク有り（2点以上）」は、南部（18.2%）と中部（16.9%）が、全体より高い割合となっている。



### 1-5 閉じこもり

全体では、「リスク有り（1点以上）」は3.8%となっている。

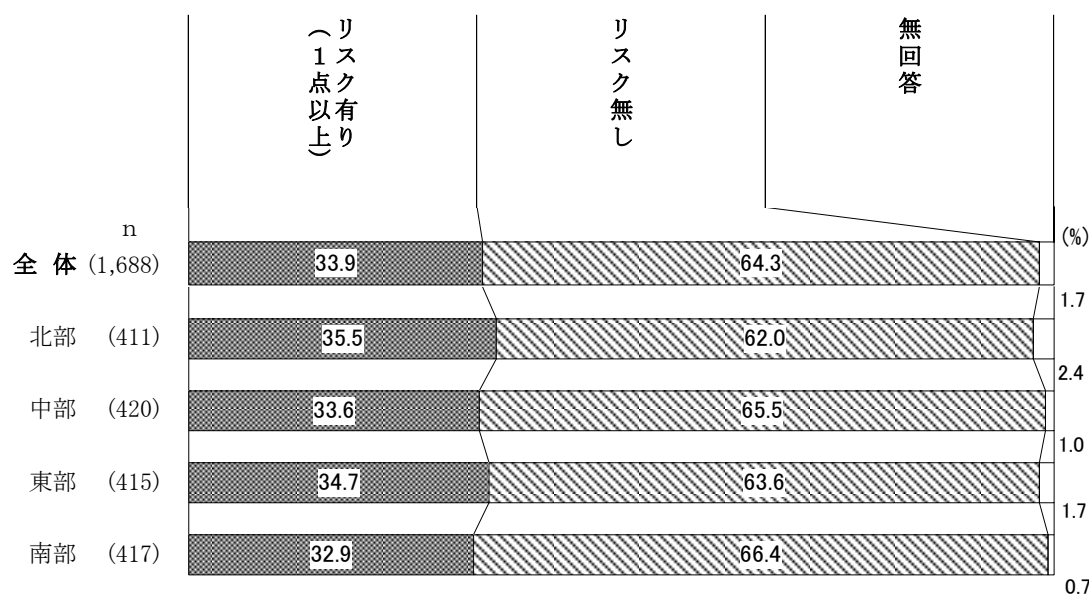
居住地区別で見ると、「リスク有り（1点以上）」は、中部（4.8%）、南部（4.3%）、東部（3.9%）が、全体（3.8%）より高い割合となっている。



### 1-6 認知機能の低下

全体では、「リスク有り（1点以上）」は33.9%となっている。

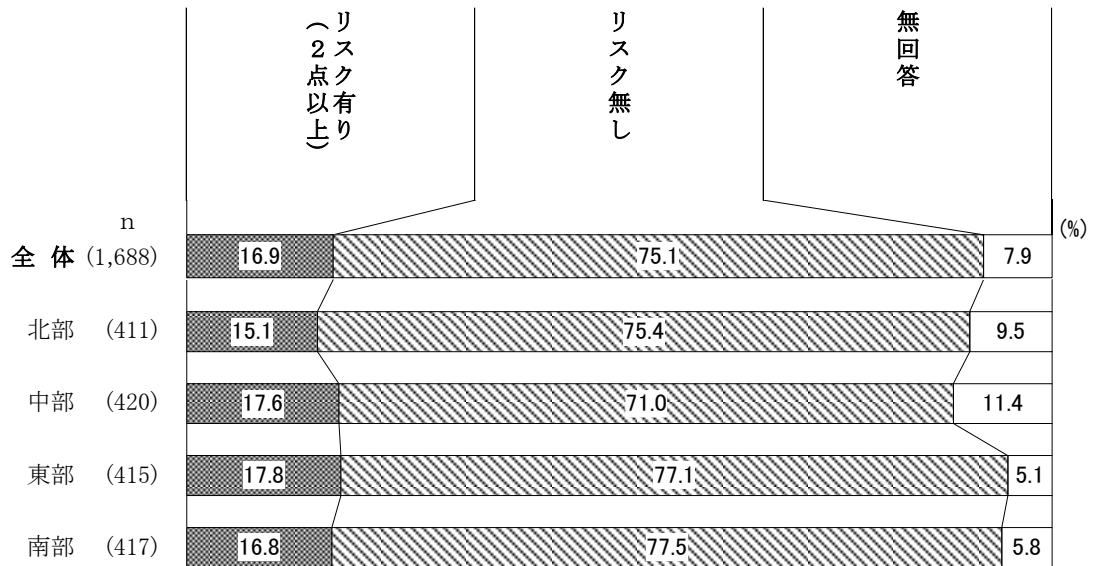
居住地区別で見ると、「リスク有り（1点以上）」は、北部（35.5%）と東部（34.7%）が、全体より高い割合となっている。



## 1-7 うつ傾向

全体では、「リスク有り（2点以上）」は16.9%となっている。

居住地区別で見ると、「リスク有り（2点以上）」は、東部（17.8%）と中部（17.6%）が、全体より高い割合となっている。





## 2 老研式活動能力指標による評価

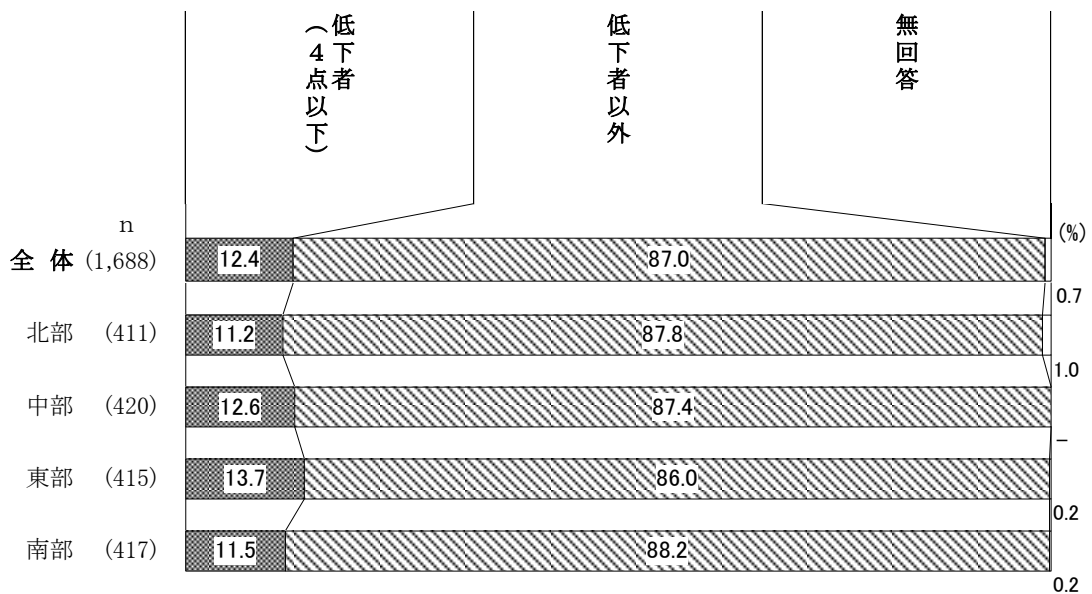
### 2-1 手段的自立

老研式活動能力指標による手段的自立度（IADL）の評価方法は、次のとおりである。なお、下表のとおり各項目の選択肢に1点または0点が設定され、5点満点中、4点以下が手段的日常生活動作の低下者となる。

項目		配点（5点満点）		
1	バスや電車で一人で外出しているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない
2	日用品の買物をしているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない
3	自分で食事の用意をしているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない
4	請求書の支払いをしているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない
5	預貯金の出し入れをしているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない

全体では、「低下者（4点以下）」は12.4%となっている。

居住地区別で見ると、「低下者（4点以下）」は、東部（13.7%）と中部（12.6%）が、全体より高い割合となっている。



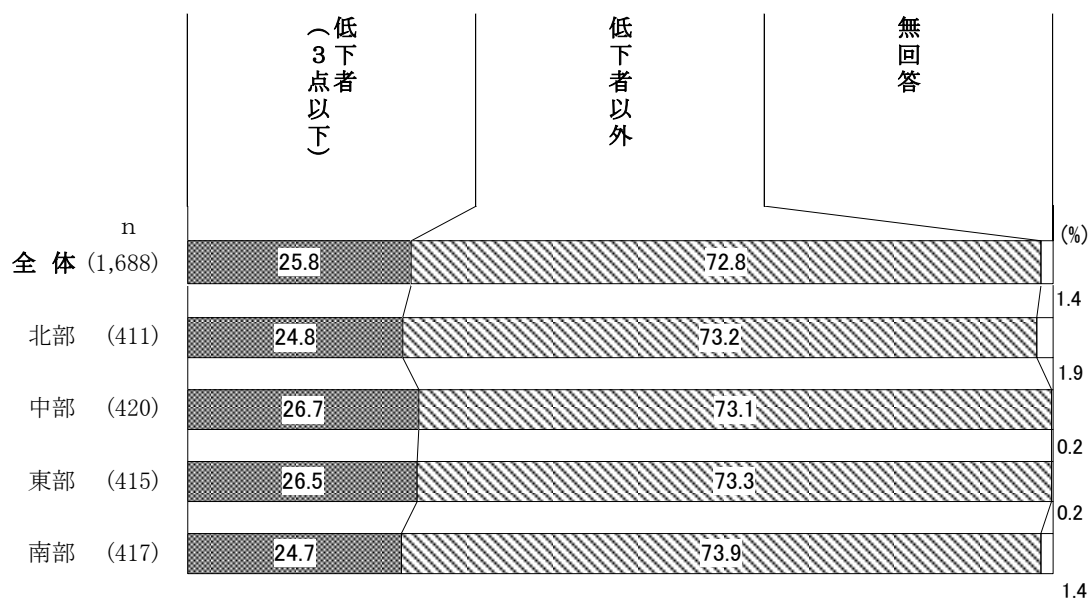
## 2-2 知的能動性

老研式活動能力指標による知的能動性の評価方法は、次のとおりである。なお、下表のとおり各項目の選択肢に1点または0点が設定され、4点満点中、3点以下が知的能動性の低下者となる。

項目		配点（4点満点）	
1	年金などの書類が書けるか	1.はい	0.いいえ
2	新聞を読んでいるか	1.はい	0.いいえ
3	本や雑誌を読んでいるか	1.はい	0.いいえ
4	健康についての記事や番組に関心があるか	1.はい	0.いいえ

全体では、「低下者（3点以下）」は25.8%となっている。

居住地区別でみると、「低下者（3点以下）」は、中部（26.7%）と東部（26.5%）が、全体より高い割合となっている。



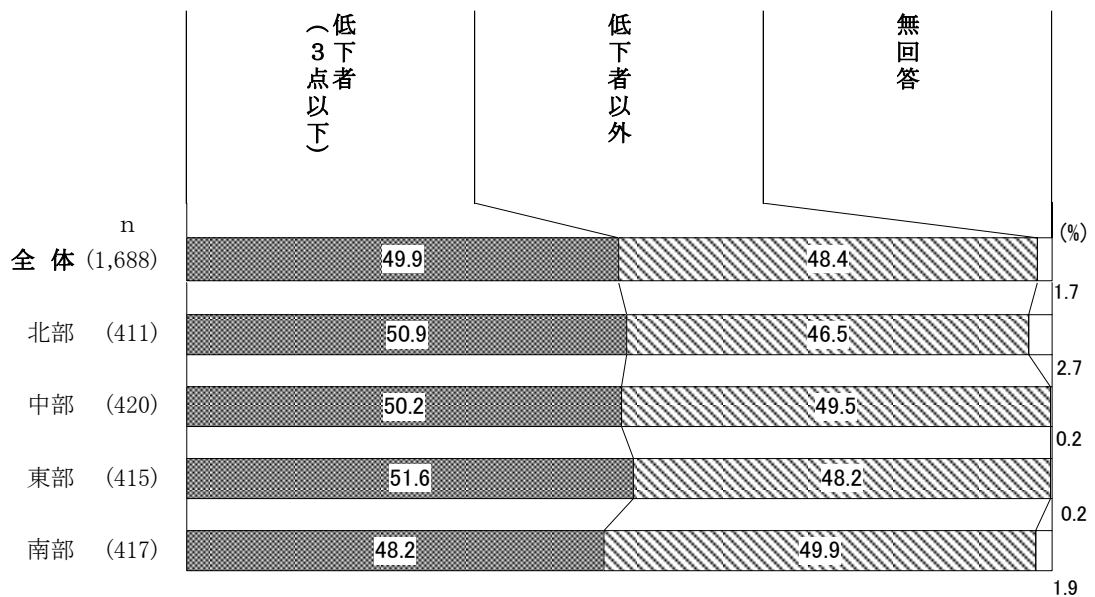
## 2-3 社会的役割

老研式活動能力指標による社会的役割の評価方法は、次のとおりである。なお、下表のとおり各項目の選択肢に1点または0点が設定され、4点満点中、3点以下が社会的役割の低下者となる。

項目		配点（4点満点）	
1	友人の家を訪ねるか	1.はい	0.いいえ
2	家族や友人の相談にのっているか	1.はい	0.いいえ
3	病人を見舞うことができるか	1.はい	0.いいえ
4	若い人に自分から話しかけることがあるか	1.はい	0.いいえ

全体では、「低下者（3点以下）」は49.9%となっている。

居住地区別で見ると、「低下者（3点以下）」は、東部（51.6%）、北部（50.9%）、中部（50.2%）が、全体より高い割合となっている。



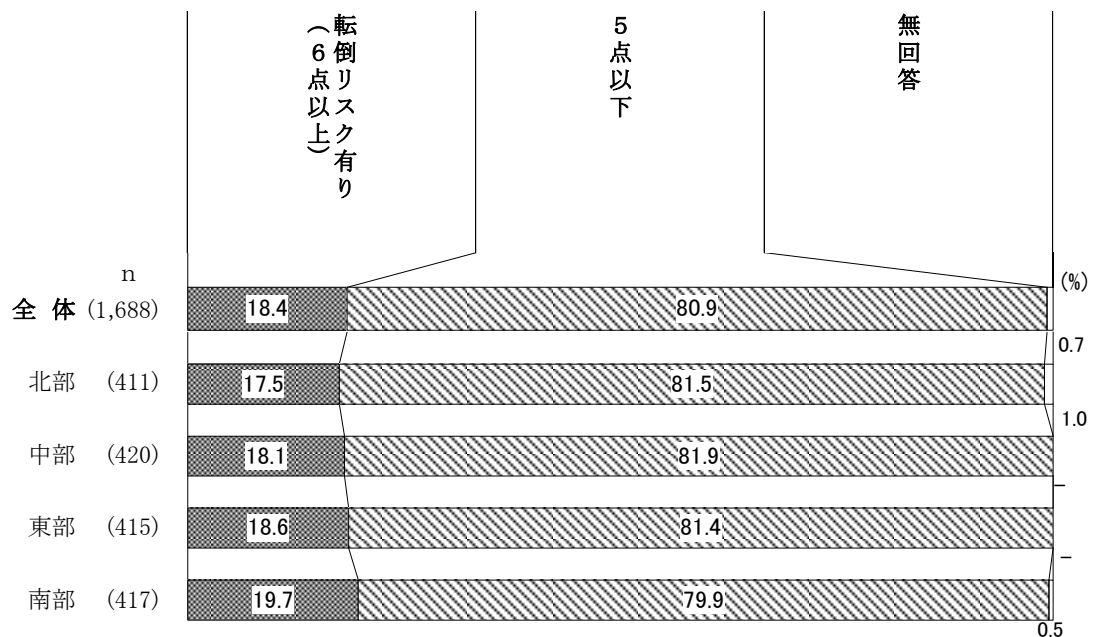
### 3 転倒リスク評価

基本チェックリストの運動器の機能低下とは別に、転倒リスクを評価した方法は、次のとおりである。なお、下表のとおり各項目の選択肢に5点、2点、0点が設定され、13点満点中、6点以下が「転倒リスク有り」となる。

項目		配点（13点満点）	
1	1年間に転んだことはあるか	5.はい	0.いいえ
2	背中が丸くなってきたか	2.はい	0.いいえ
3	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うか	2.はい	0.いいえ
4	杖を使っているか	2.はい	0.いいえ
5	医師の処方した薬の数	2.5種類以上	

全体では、「転倒リスク有り（6点以下）」は18.4%となっている。

居住地区別で見ると、「転倒リスク有り（6点以下）」は、南部（19.7%）と東部（18.6%）が、全体より多い割合となっている。



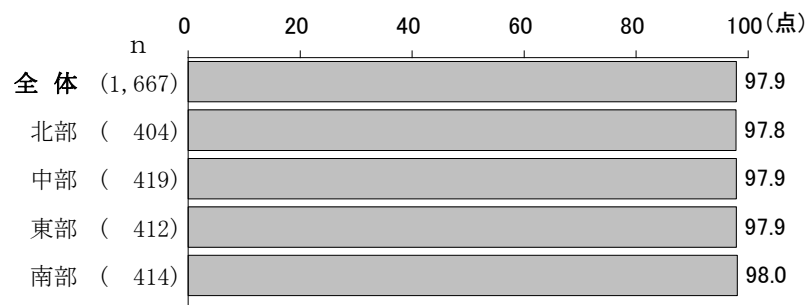
#### 4 バーセルインデックス

バーセルインデックスは、基本的な日常生活動作（ADL）を評価する方法の一つで、食事、移動、整容、トイレ、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の10項目を、それぞれ数段階の選択肢で評価するものである。下表のとおり各項目の選択肢に点数が設定されており、完全に自立している場合は10項目で100点満点となる。

項目		配点（100点満点）
1	食事は自分で食べられますか	10.できる 5.一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる 0.できない
2	寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか	15.受けない 10.一部介助があればできる 5.全面的な介助が必要 （かつ、座っていることができるか「できる」「支えが必要」）
	座っていることができますか	0.全面的な介助が必要 （かつ、座っていることができるか「できない」）
3	自分で洗面や歯磨きができますか	5.できる 0.一部介助があればできる 0.できない
4	自分でトイレができますか	10.できる 5.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 0.できない
5	自分で入浴ができますか	5.できる 0.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 0.できない
6	50m以上歩けますか	15.できる 10.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 0.できない
7	階段を昇り降りできますか	10.できる 5.介助があればできる 0.できない
8	自分で着替えができますか	10.できる 5.介助があればできる 0.できない
9	大便の失敗がありますか	10.ない 5.ときどきある 0.よくある
10	尿もれや尿失禁がありますか	10.ない 5.ときどきある 0.よくある

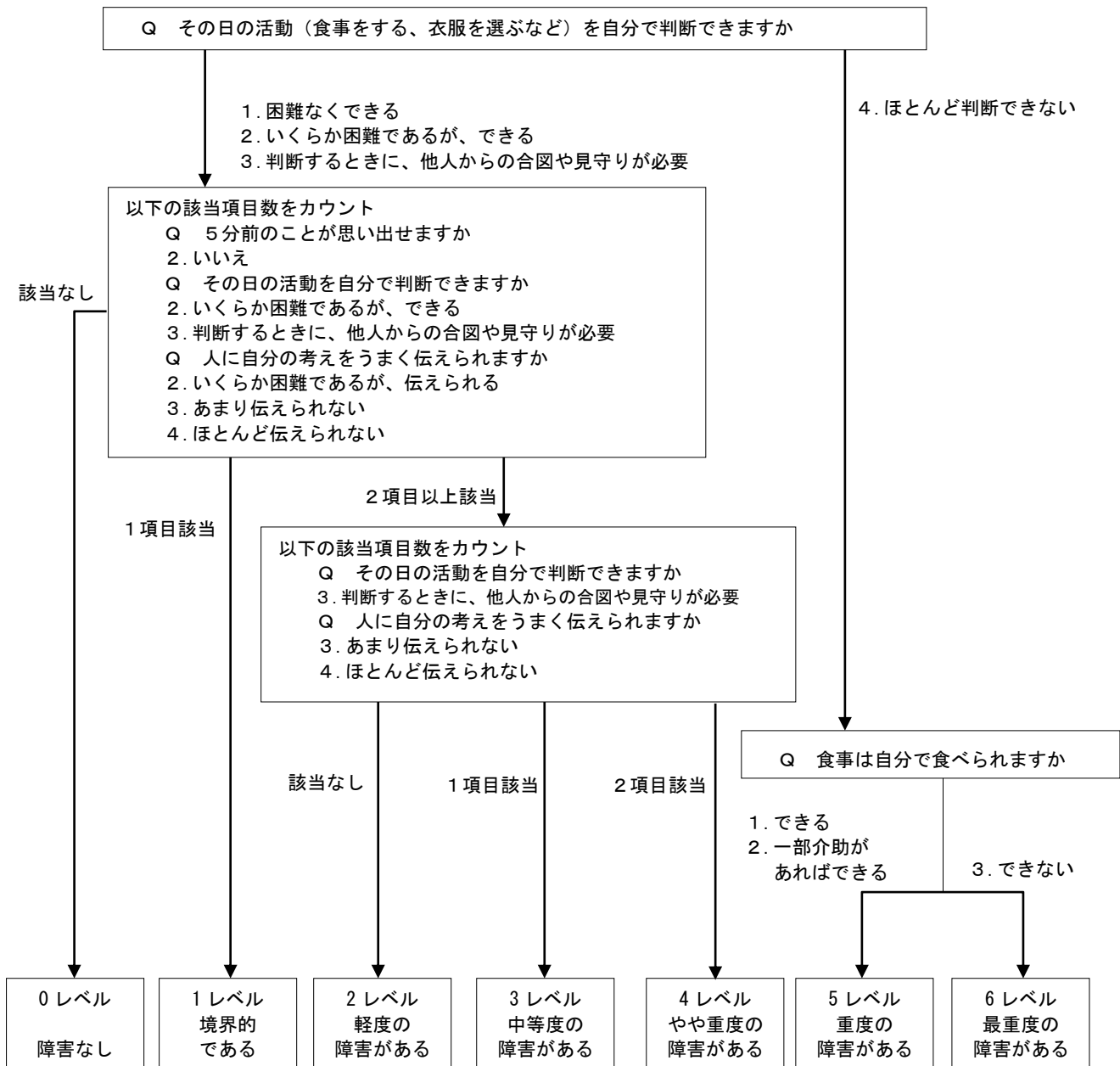
バーセルインデックスによる点数の平均は97.9点である。

地域別では、特に大きな違いはみられない。



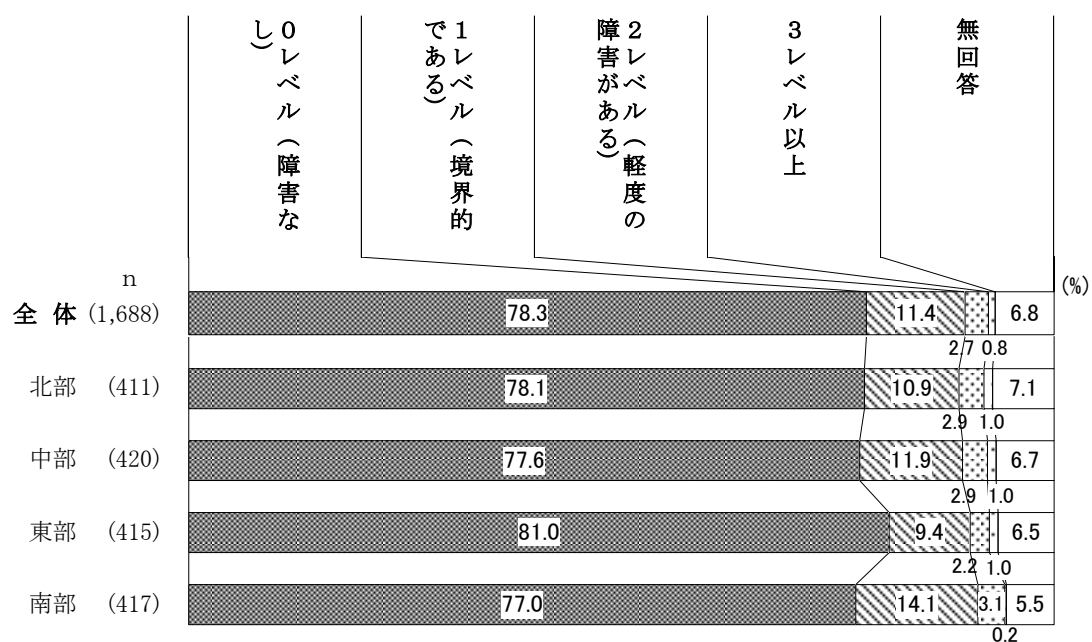
## 5 認知機能障害程度評価

認知機能の障害程度の指標として有用とされる認知機能障害程度 (C P S ; Cognitive Performance Scale) による評価方法は、次のとおりである。



全体では、認知機能障害程度評価の「0レベル（障害なし）」が78.3%となっている。

居住地区別でみると、「0レベル（障害なし）」は、東部（81.0%）が全体より高い割合となっている。「1レベル（境界的である）」は、南部（14.1%）と中部（11.9%）が、全体より高い割合となっている。



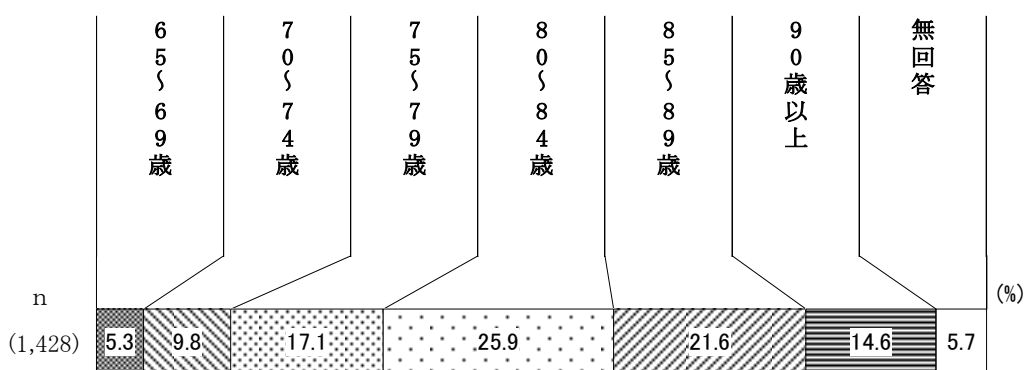
# 第3章 要支援・要介護認定者調査

## 1 あなたやご家族の生活状況について

### 1 年齢

Q1：年齢をお答えください。

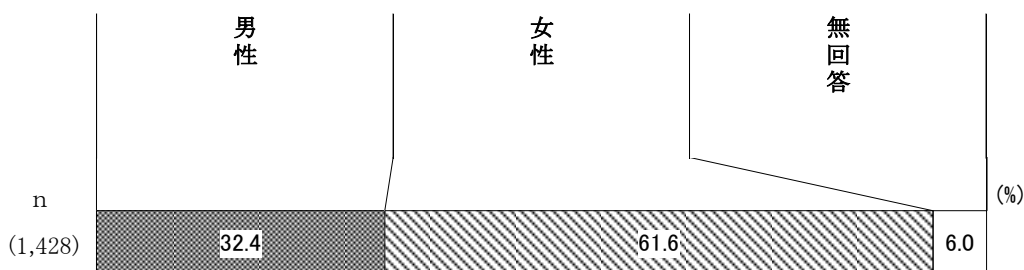
「80～84歳」が25.9%と最も多く、これに「75～79歳」(17.1%)と「85～89歳」(21.6%)、「90歳以上」(14.6%)を合わせた75歳以上の《後期高齢者》は79.2%を占める。



### 2 性別

Q2：性別をお答えください。

「女性」が61.6%で、「男性」(32.4%)より多くなっている。

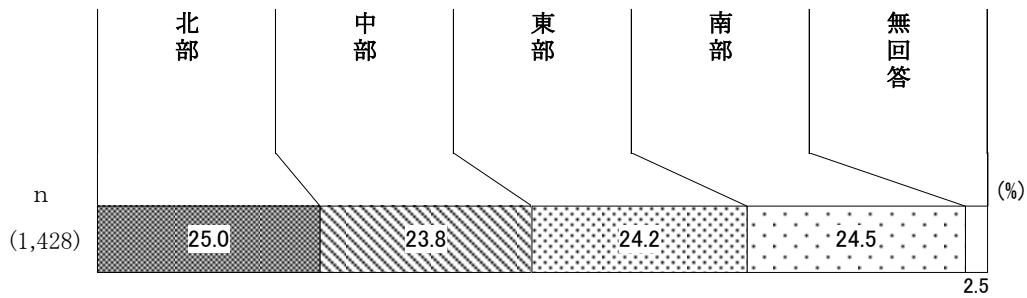




### 3 居住地区

Q3：お住まいの地区はどちらですか。（番号に○をつけてください）

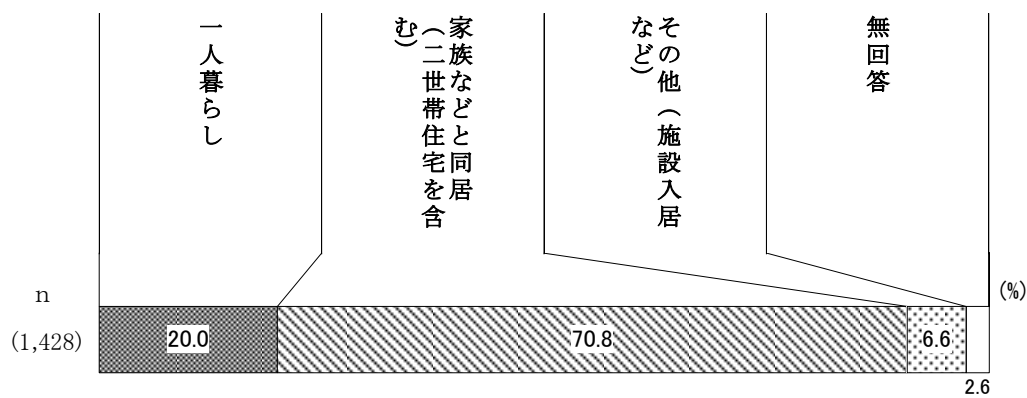
居住地区は、「北部」が25.0%、「中部」が23.8%、「東部」が24.2%、「南部」が24.5%となっており、4地区はほぼ同じ割合となっている。



### 4 家族構成

Q4：家族構成をお教えてください。

家族構成は、「家族などと同居（二世帯住宅を含む）」が70.8%を占めており、「一人暮らし」は20.0%となっている。

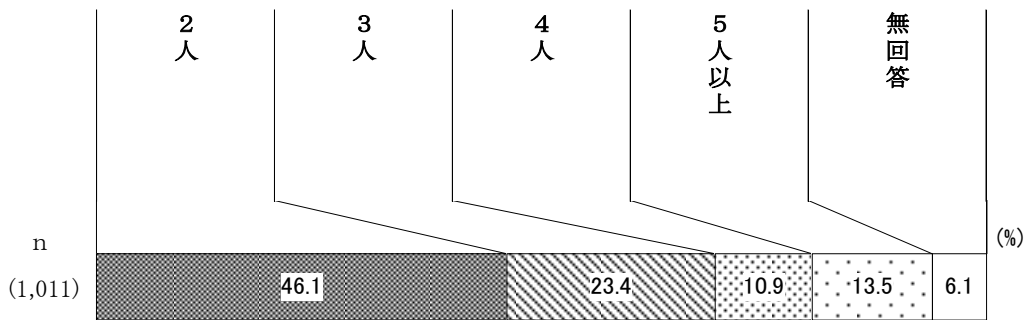


#### 4-1 同居人数

(ご家族など同居されている方のみ)

Q4-1：宛名のご本人を含めて何人で暮らしていますか。

家族など同居していると回答した方に、同居人数をたずねたところ、「2人」が46.1%と最も多く、次いで「3人」が23.4%、「4人」10.9%、「5人以上」が13.5%となっている。

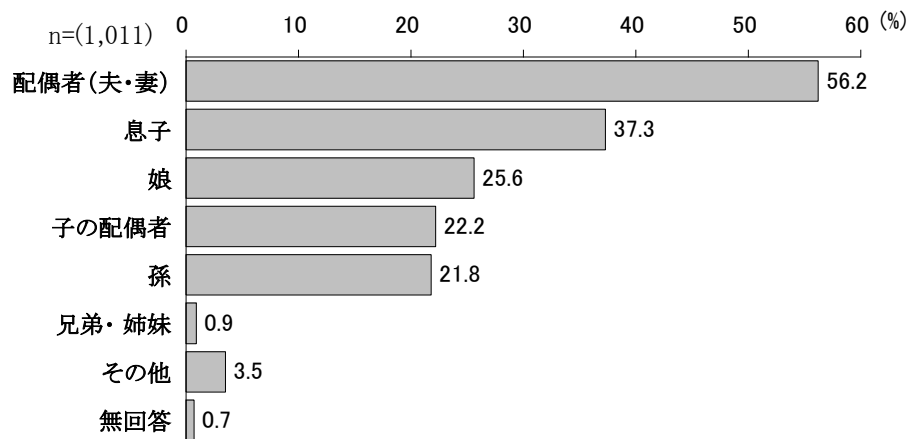


#### 4-2 同居人

(ご家族など同居されている方のみ)

Q4-2：同居されている方はどなたですか。(〇はいくつでも)

家族など同居していると回答した方に、同居人をたずねたところ、「配偶者(夫・妻)」が56.2%で最も多く、次いで「息子」が37.3%、「娘」が25.6%、「子の配偶者」が22.2%となっている。

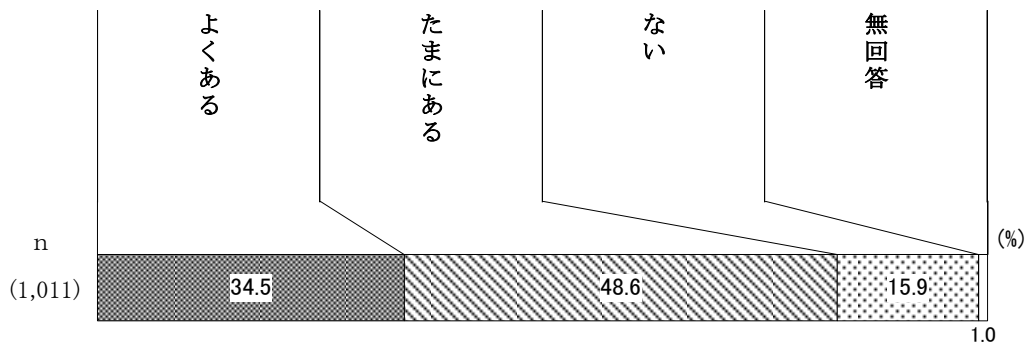


### 4-3 日中、一人になることの有無

(ご家族など同居されている方のみ)

Q4-3：日中、一人になることがありますか。

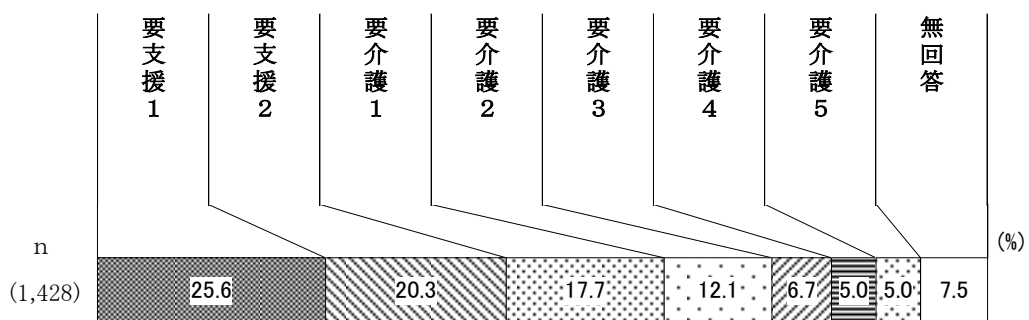
家族など同居していると回答した方に、日中、一人になることの有無をたずねたところ、「たまにある」が48.6%で最も多くなっており、「よくある」が34.5%となっている。一方、「ない」は15.9%である。



### 5 現在の介護度（2月1日現在）

Q5：2月1日現在の介護度を教えてください。（○は1つ）

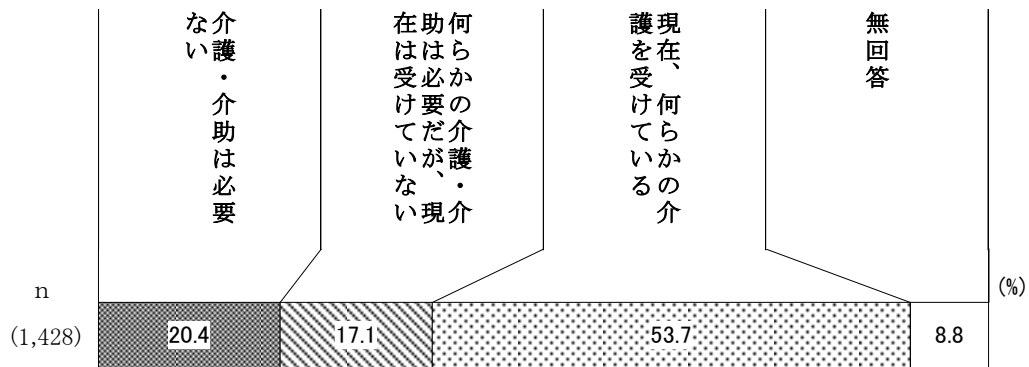
「要支援1」が25.6%で最も多くなっており、次いで「要支援2」が20.3%、「要介護1」が17.7%、「要介護2」が12.1%、「要介護3」が6.7%、「要介護4」と「要介護5」が5.0%となっている。



## 6 普段の生活での介護・介助の必要性

Q6：普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(〇は1つ)

普段の生活での介護・介助の必要性は、「現在、何らかの介護を受けている」が53.7%で最も多くなっている。次いで「介護・介助は必要ない」が20.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は17.1%となっている。

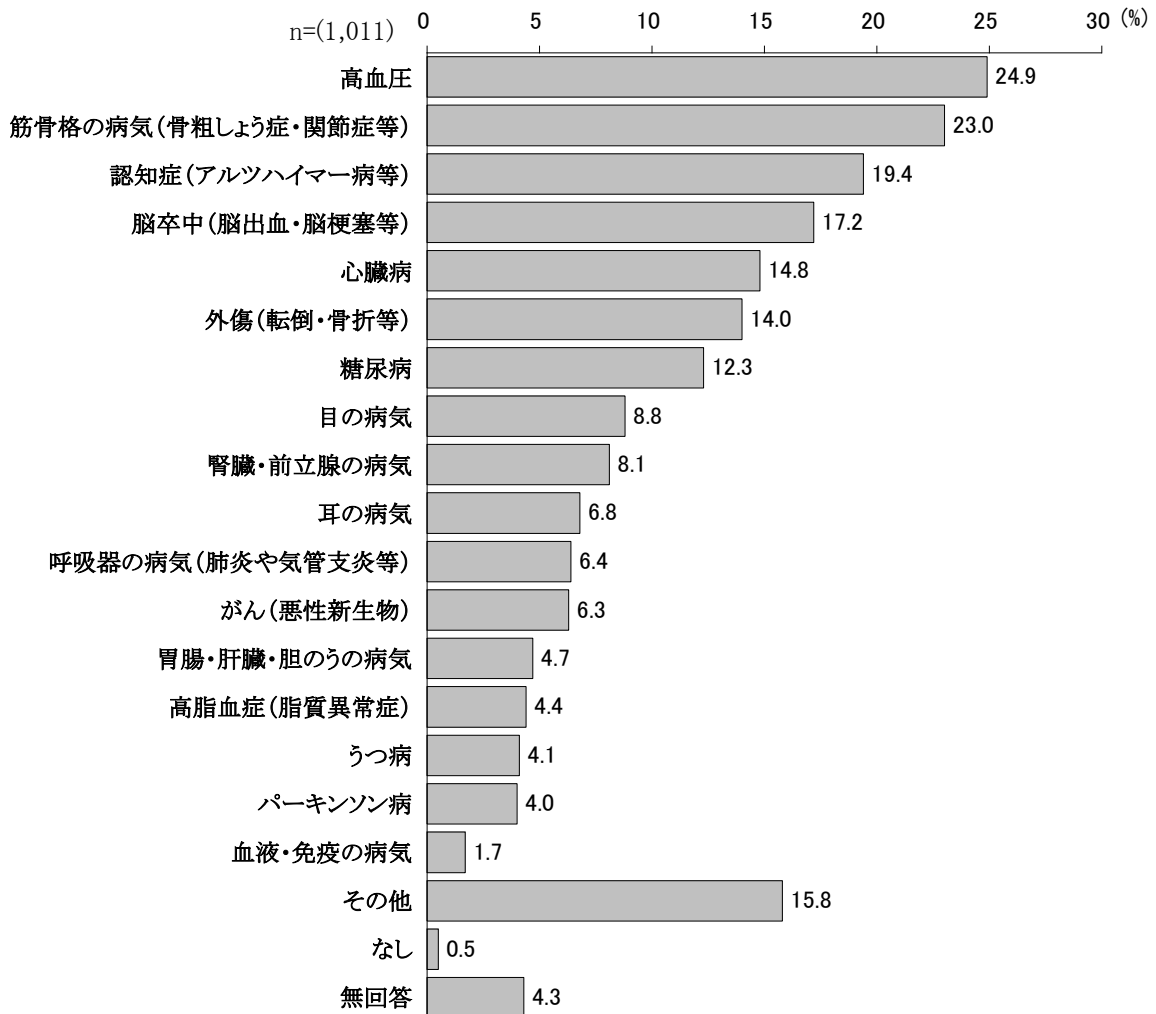


## 6-1 介護・介助が必要になった主な原因

(介護・介助が必要な方のみ)

Q6-1：介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(〇はいくつでも)

介護・介助が必要と回答した方に、介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、「高血圧」が24.9%で最も多く、次いで「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」が23.0%、「認知症(アルツハイマー病等)」が19.4%、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が17.2%となっている。

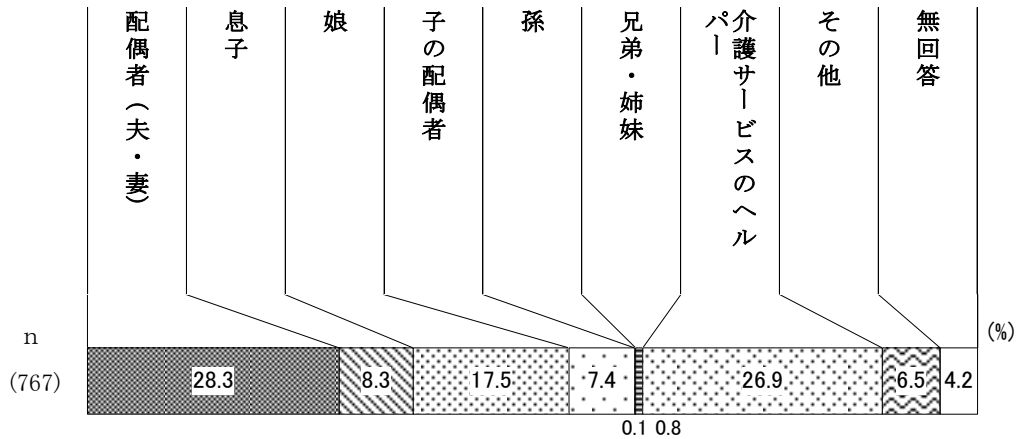


## 6-2 主な介護・介助者

(介護・介助を受けている方のみ)

Q6-2：主にどなたの介護・介助を受けていますか。

介護・介助が必要と回答した方に、主に介護・介助をする方をたずねたところ、「配偶者（夫・妻）」が28.3%で最も多く、次いで「介護サービスのヘルパー」が26.9%、「娘」が17.5%となっている。

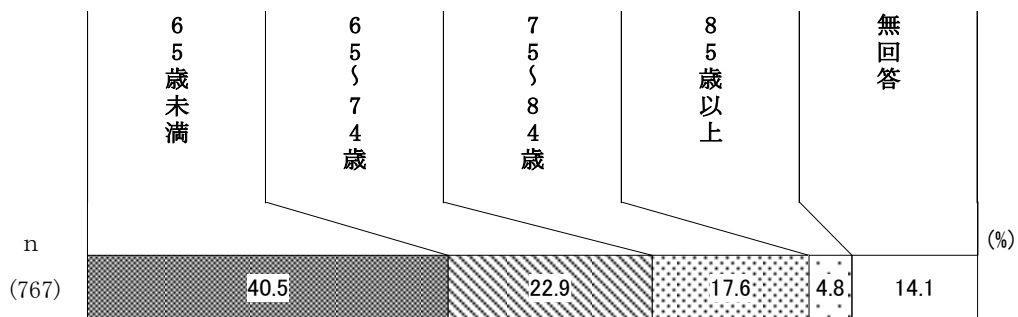


## 6-3 主に介護・介助をしている方の年齢

(介護・介助を受けている方のみ)

Q6-3：主に介護・介助している方の年齢は、次のどれですか。

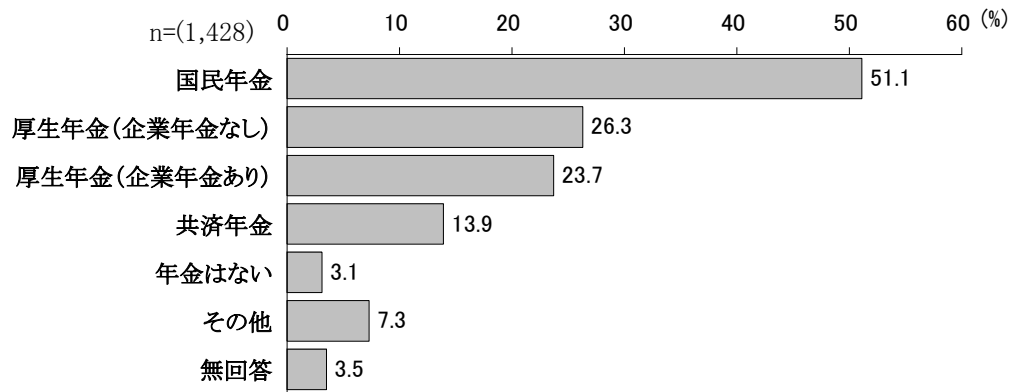
介護・介助が必要と回答した方に、主に介護・介助をしている方の年齢をたずねたところ、「65歳未満」が40.5%で最も多く、「65～74歳」が22.9%、「75～84歳」が17.6%となっている。



## 7 年金の種類

Q7：年金の種類は次のどれですか。（〇はいくつでも）

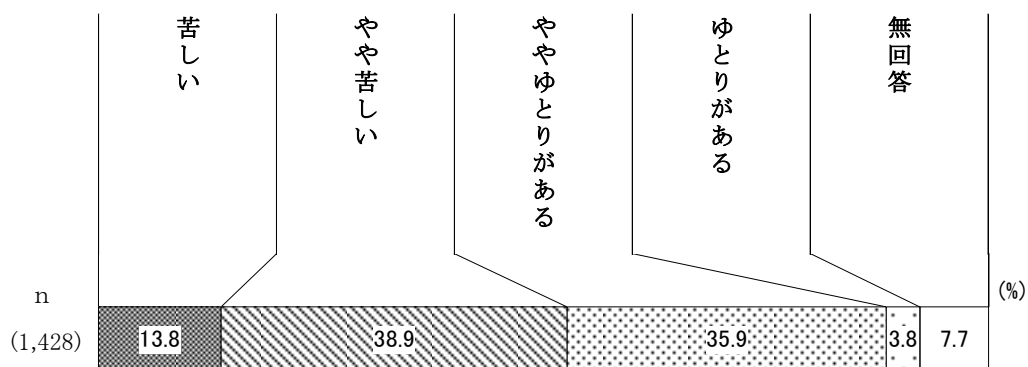
年金の種類は、「国民年金」が51.1%で最も多く、次いで「厚生年金（企業年金なし）」が26.3%、「厚生年金（企業年金あり）」が23.7%となっている。



## 8 現在の暮らしの状況

Q8：現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（〇は1つ）

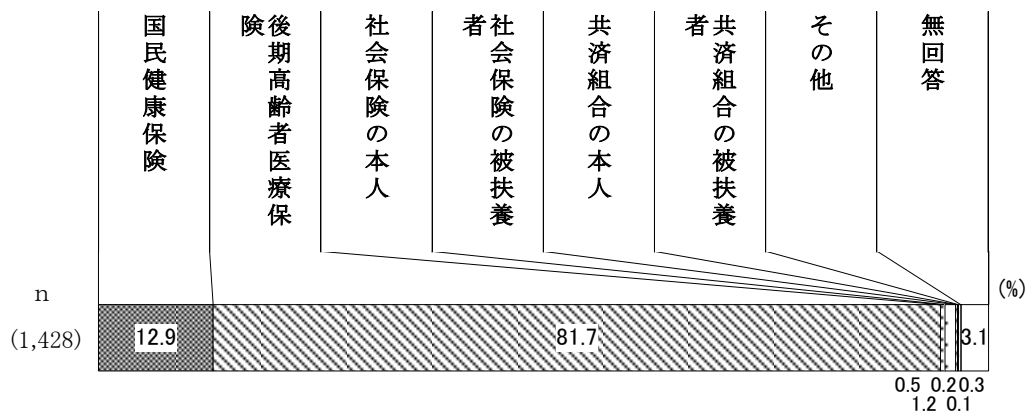
現在の暮らしの状況は、「やや苦しい」が38.9%で最も多く、「苦しい」（13.8%）を合わせた《苦しい》は52.7%となる。一方、「ややゆとりがある」（35.9%）と「ゆとりがある」（3.8%）を合わせた《ゆとりがある》は39.7%となっている。



## 9 加入している健康保険

Q9：加入している健康保険は次のうちどれですか。（〇は1つ）

加入している健康保険は、「後期高齢者医療保険」が81.7%で最も多く、次いで「国民健康保険」が12.9%となっている。

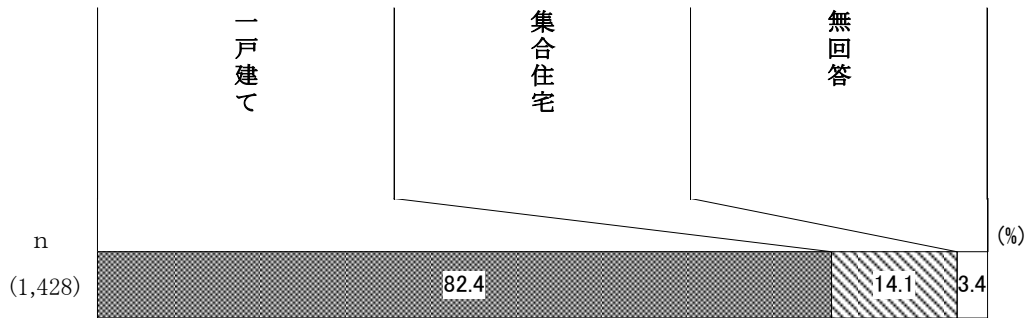




## 10 居住形態

Q10：お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

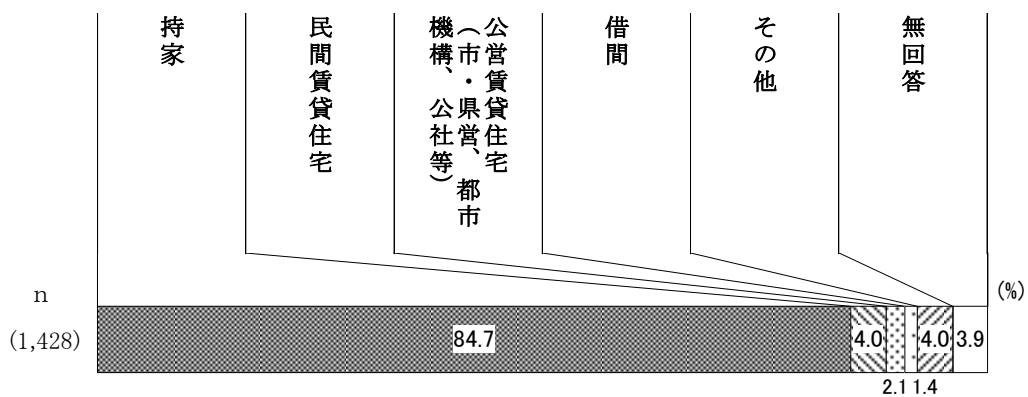
居住形態は、「一戸建て」が82.4%で、「集合住宅」が14.1%となっている。



## 11 住まいの所有形態

Q11：お住まいは、次のどれにあたりますか（○は1つ）

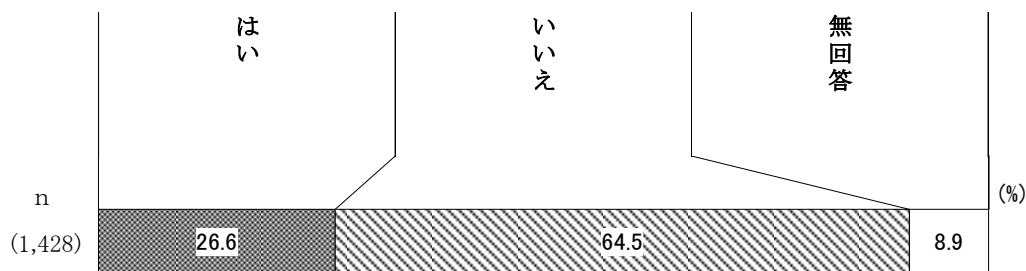
住まいの所有形態は、「持家」が84.7%を占めている。



## 12 主に生活する部屋は2階以上か

Q12：お住まい(主に生活する部屋)は2階以上にありますか。

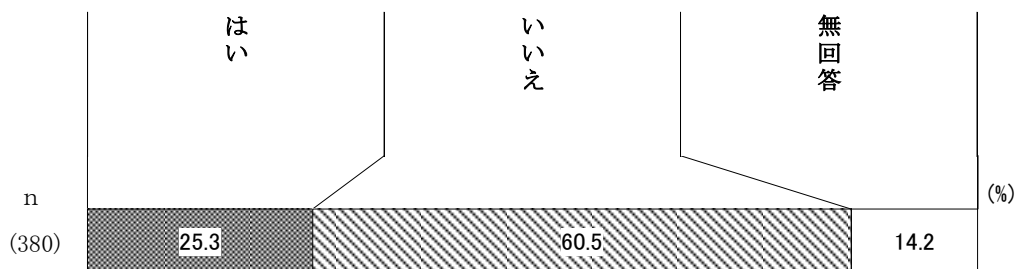
主に生活する部屋が2階以上かについては、「はい」が26.6%で、「いいえ」が64.5%となっている。



### 12-1 エレベーターの設置

(主に2階以上の階で生活している方のみ)  
Q12-1：お住まいにエレベーターは設置されていますか。

主に生活する部屋が2階以上と回答した方に、エレベーター設置の有無をたずねたところ、「いいえ」が60.5%となっている。



対象者の方にお送りした調査票では、ここから国の示す日常生活圏域ニーズ調査の内容をふまえた調査項目をたずねている。

日常生活圏域ニーズ調査の調査項目は、組み合わせることにより「基本チェックリスト項目による二次予防事業対象者の判定」をはじめ、老研式活動能力指標による「手段的日常生活動作（IADL）の判定」、常生活動作（ADL）評価指標として広く用いられている「バーセルインデックスの評価方法」などを行うことができる。

本報告書では、判定及び評価で利用しない項目は他の設問と同様に掲載することとし、判定及び評価に利用する項目は、後述してまとめて整理するものとした（154 ページ 「評価項目別の結果」参照）。

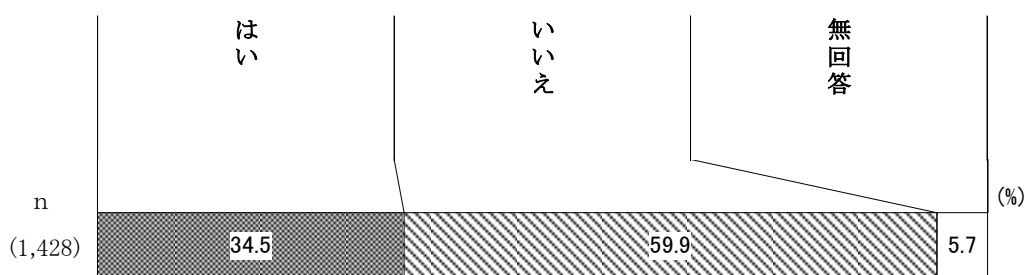
そのため、問番号は必ずしも連続しない。

## 2 運動・閉じこもりについて

### 1 定期的に運動しているか

Q6：定期的に運動していますか。（1回20～30分以上の運動を週2回以上）

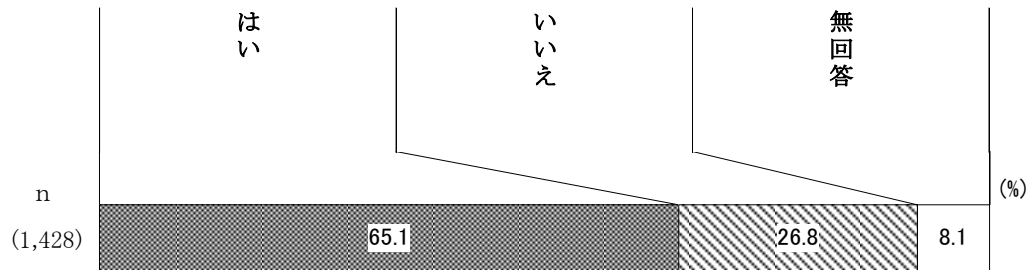
定期的に運動をしているかについては、「はい」が34.5%で、「いいえ」が59.9%となっている。



## 2 外出を控えているか

Q8：外出を控えていますか。

外出を控えているかでは、「はい」が65.1%で、「いいえ」が26.8%となっている。

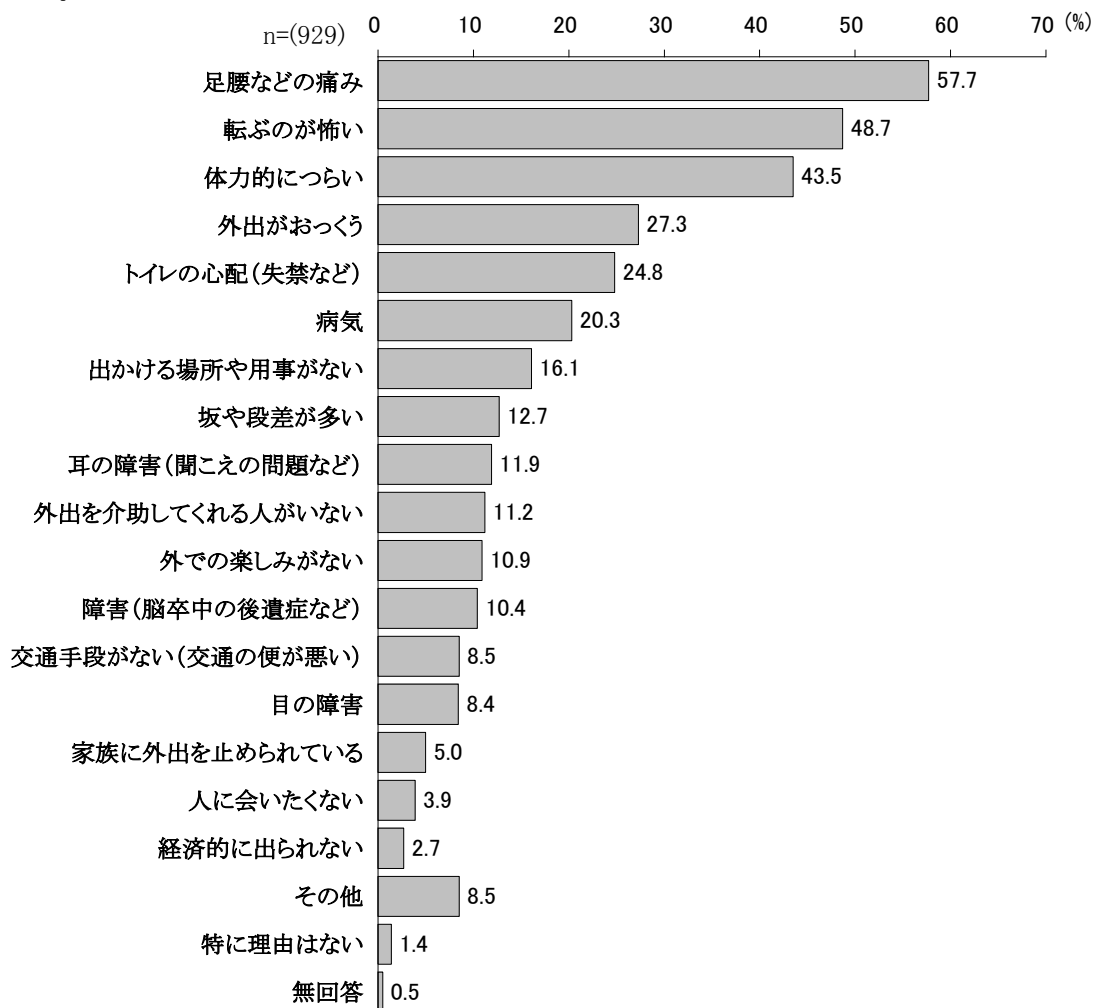


### 2-1 外出を控えている理由

(外出を控えている方のみ)

Q8-1：外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

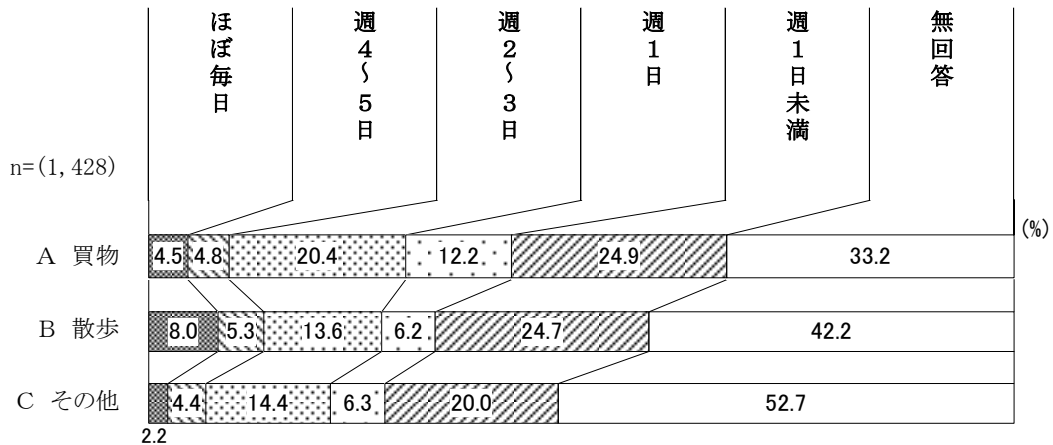
外出を控えていると回答した方にその理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が57.7%で最も多く、次いで「転ぶのが怖い」が48.7%、「体力的につらい」が43.5%、「外出がおっくう」が27.3%となっている。



### 3 外出する頻度

Q9：外出する頻度はどのくらいですか。（それぞれ〇は1つ）

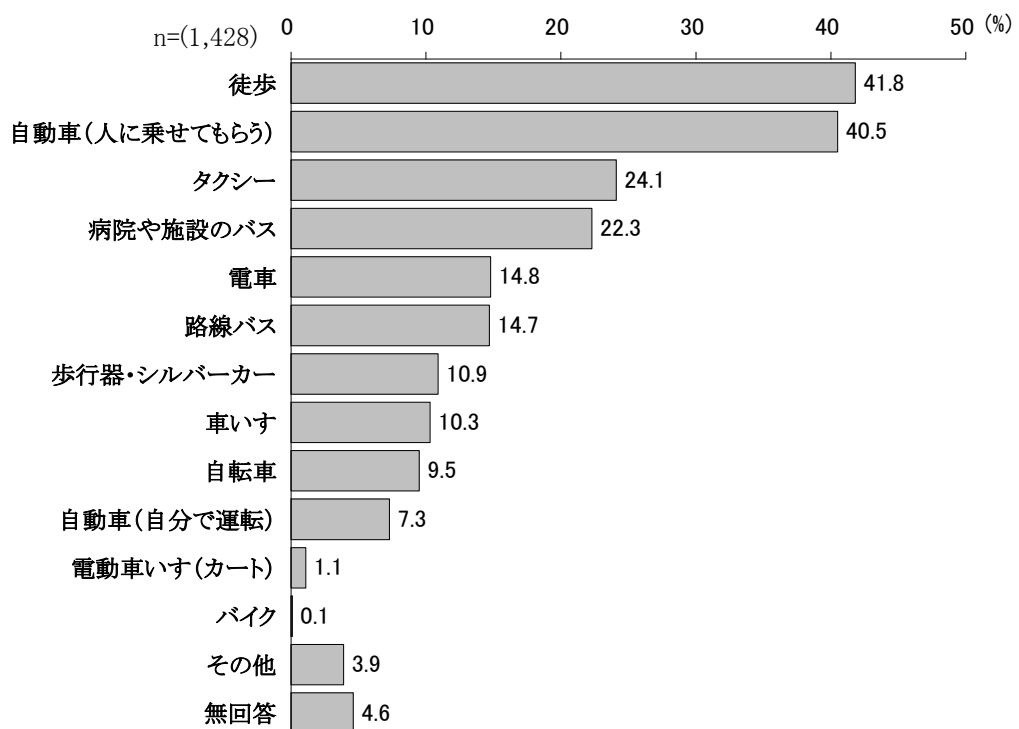
外出の頻度は、買物では、「週1日未満」が24.9%で最も多く、次いで「週4～5日」が20.4%、「週2～3日」が12.2%となっている。散歩では、「週1日未満」が24.7%で最も多く、次いで「週4～5日」が13.6%、「ほぼ毎日」が8.0%となっている。



### 4 外出する際の移動手段

Q10：外出する際の移動手段は何ですか。（〇はいくつでも）

外出する際の移動手段は、「徒歩」が41.8%で最も多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」が40.5%、「タクシー」が24.1%、「病院や施設のバス」が22.3%となっている。



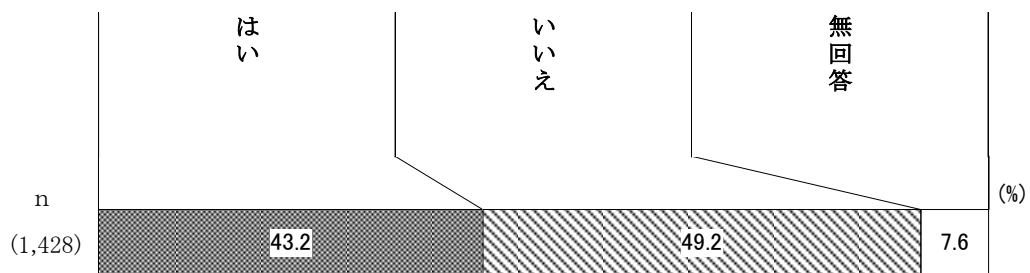
### 3 転倒について

※設問番号の並び順については、95ページのことわり書きを参照

#### 1 この1年間に転んだことがあるか

Q1：この1年間に転んだことがありますか。

この1年間に転んだことがあるかでは、「はい」が43.2%、「いいえ」が49.2%となっている。



## 1-1 転倒した場所

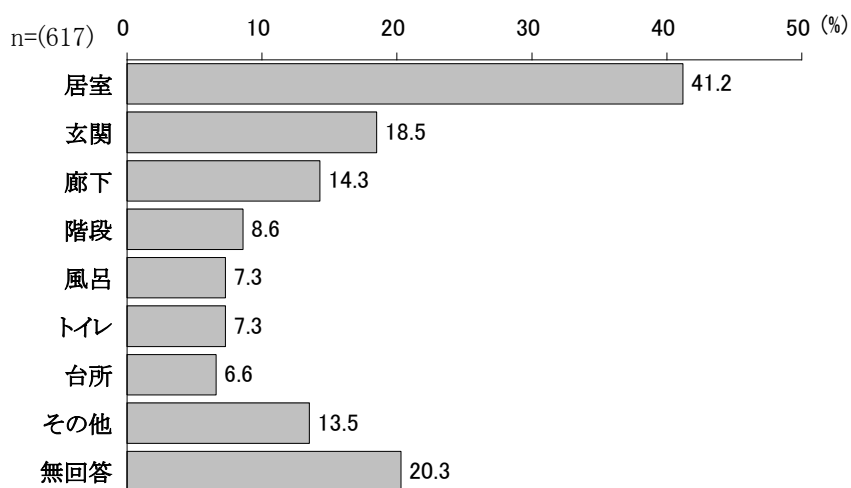
(Q1で「1. はい」と回答した方のみ)

Q1-1：転倒した場所はどこですか。(それぞれ〇はいくつでも)

この1年間に転んだことがあると回答した方に、転倒した場所をたずねた。

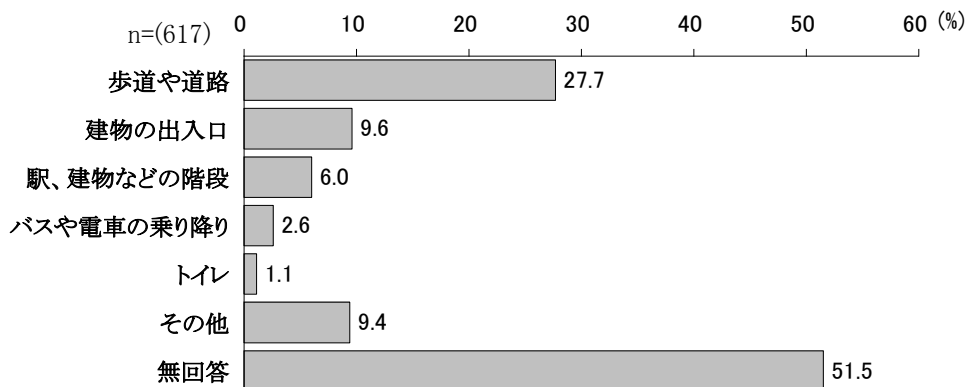
### A 自宅

自宅では、「居室」が41.2%で最も多く、「玄関」が18.5%、「廊下」が14.3%となっている。



### B 自宅以外

自宅以外では、「歩道や道路」が27.7%で最も多く、次いで「建物の出入口」が9.6%、「駅、建物などの階段」が6.0%となっている。



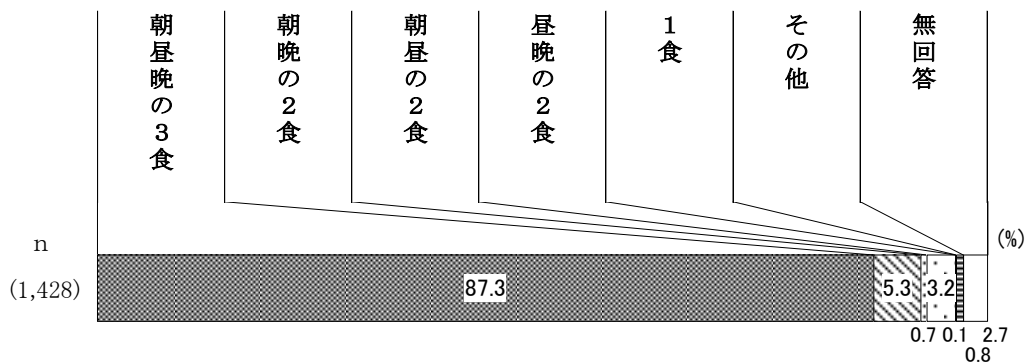
## 4 口腔・栄養について

※設問番号の並び順については、95ページのことわり書きを参照

### 1 一日の食事の回数

Q3：一日の食事の回数は何回ですか。

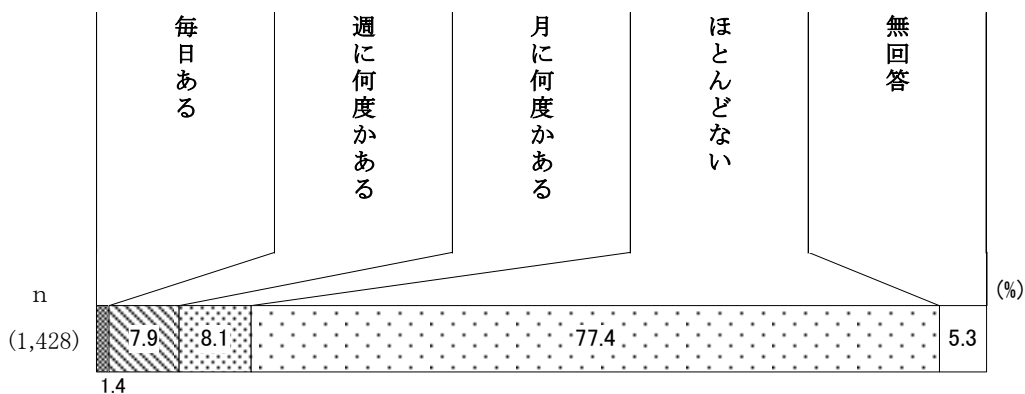
一日の食事の回数は、「朝昼晩の3食」が87.3%を占めている。



### 2 食事を抜くことがあるか

Q4：食事を抜くことがありますか。

食事を抜くことがあるかでは、「ほとんどない」が77.4%を占めている。

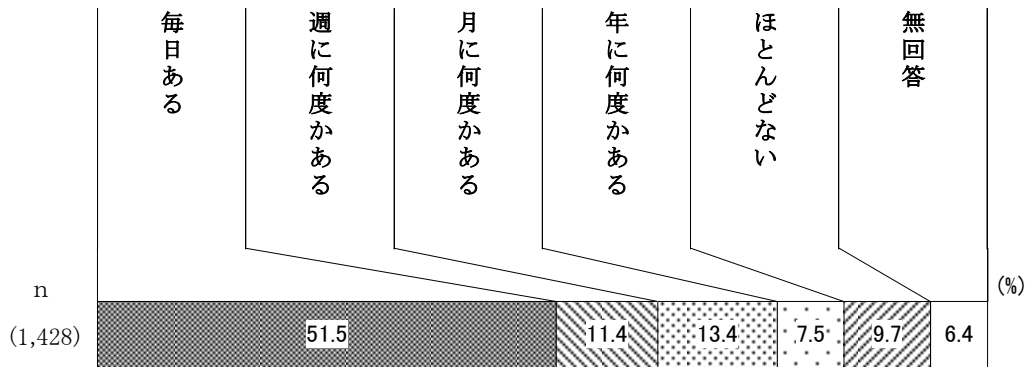




### 3 自分一人でなく、どなたかと食事をとにもする機会はあるか

Q5：自分一人でなく、どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

自分一人でなく、どなたかと食事をとにもする機会はあるかでは、「毎日ある」が51.5%で最も多く、「月に何度かある」が13.4%、「週に何度かある」が11.4%となっている。

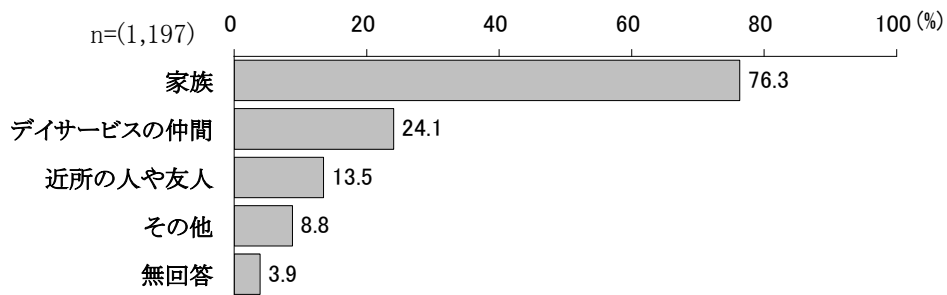


#### 3-1 食事をとにもする人

(どなたかと食事をとにもする機会がある方のみ)

Q5-1：食事をとにもする人はどなたですか。(〇はいくつでも)

食事をとにもする機会があると回答した方に、食事をとにもする人をたずねたところ、「家族」が76.3%で最も多くなっている。次いで「デイサービスの仲間」が24.1%、「近所の人や友人」が13.5%となっている。



#### 4 1日2回以上主食、主菜、副菜のそろった食事をしているか

Q6：1日2回以上主食、主菜、副菜のそろった食事をしていますか。

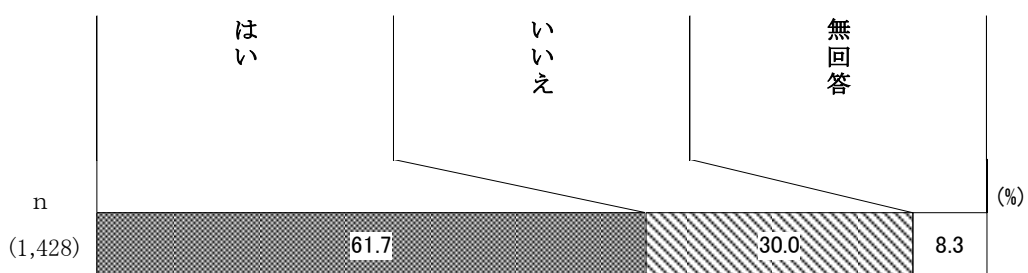
1日2回以上主食、主菜、副菜のそろった食事をしているかでは、「はい」が83.1%を占めている。



#### 5 1日2回、肉・魚・卵、大豆等のご自身のこぶし大くらい食べているか

Q7：1日2回、肉・魚・卵・大豆及びその製品のいずれかをご自身のこぶし大くらい食べていますか。

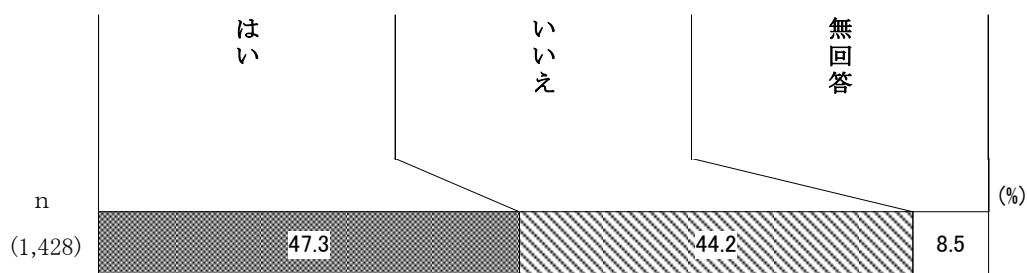
1日2回、肉・魚・卵、大豆等のご自身のこぶし大くらい食べているかでは、「はい」が61.7%で、「いいえ」が30.0%となっている。



## 6 1日2回、野菜をご自身の片手に山盛り一杯食べているか

Q8：1日2回、野菜（色の濃いもの薄いものを混ぜて）ご自身の片手に山盛り一杯食べていますか。

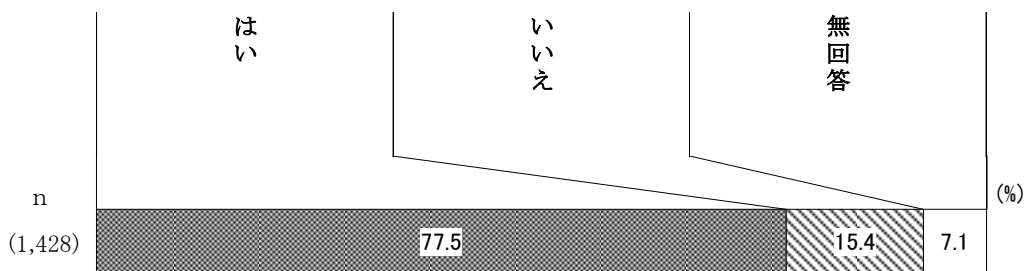
1日2回、野菜をご自身の片手に山盛り一杯食べているかでは、「はい」が47.3%で、「いいえ」が44.2%となっている。



## 7 食事を楽しんでいるか

Q9：食事を楽しんでいますか。

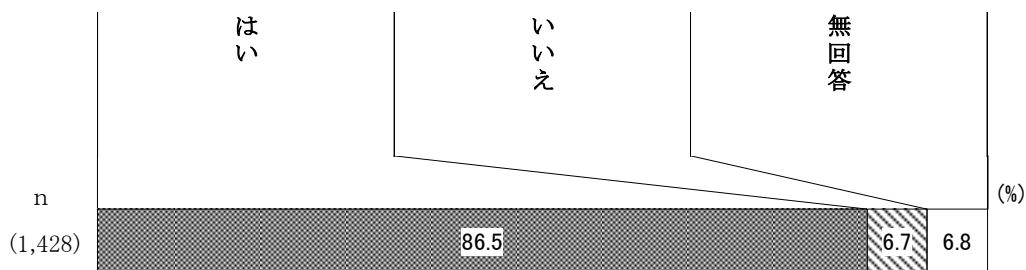
食事を楽しんでいるかでは、「はい」が77.5%で、「いいえ」が15.4%となっている。



## 8 健康のために食事を大切にしているか

Q10：健康のために食事を大切にしていますか。

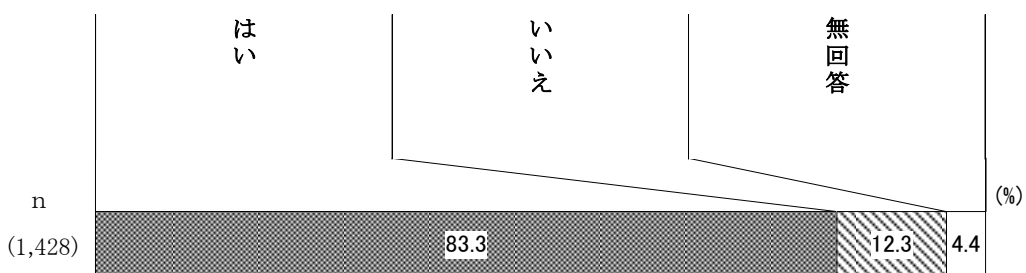
健康のために食事を大切にしているかでは、「はい」が86.5%を占めている。



## 9 歯磨きを毎日しているか

Q14：歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。

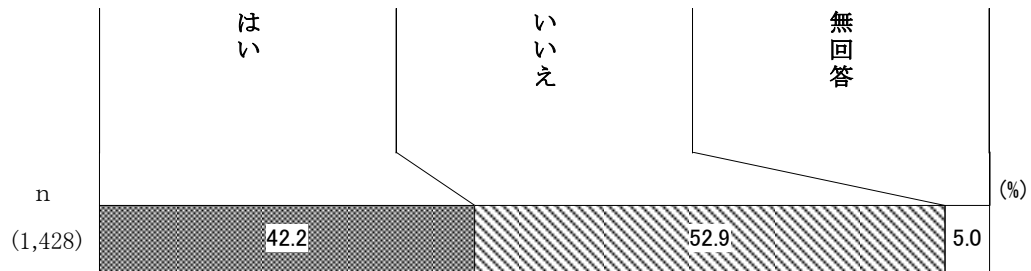
歯磨きを毎日しているかでは、「はい」が83.3%で、「いいえ」が12.3%となっている。



## 10 定期的に歯科受診をしているか

Q15：定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか。

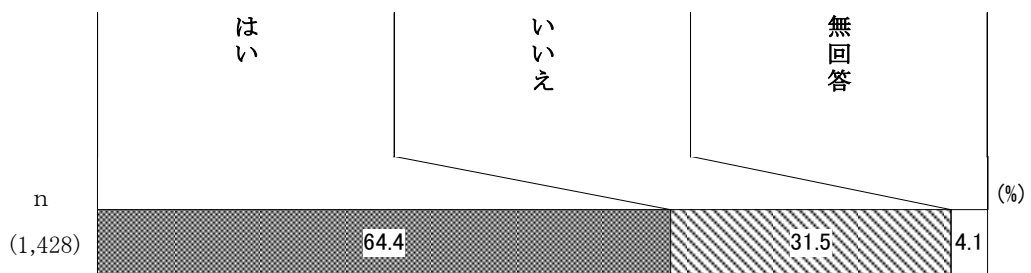
定期的に歯科受診をしているかでは、「はい」が42.2%で、「いいえ」が52.9%となっている。



## 11 入れ歯を使用しているか

Q16：入れ歯を使用していますか。

入れ歯の使用状況は、「はい」が64.4%で、「いいえ」が31.5%となっている。

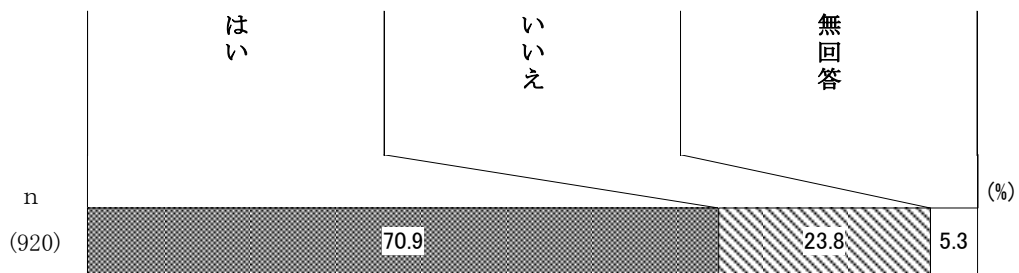


### 11-1 噛み合わせは良いか

(入れ歯のある方のみ)

Q16-1：噛み合わせは良いですか。

入れ歯を使用している方に、噛み合わせが良いかをたずねたところ、「はい」が70.9%となっている。

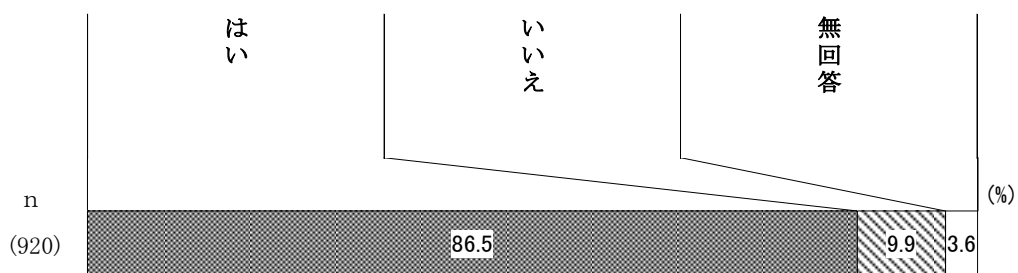


### 11-2 毎日入れ歯の手入れをしているか

(入れ歯のある方のみ)

Q16-2：毎日入れ歯の手入れをしていますか。

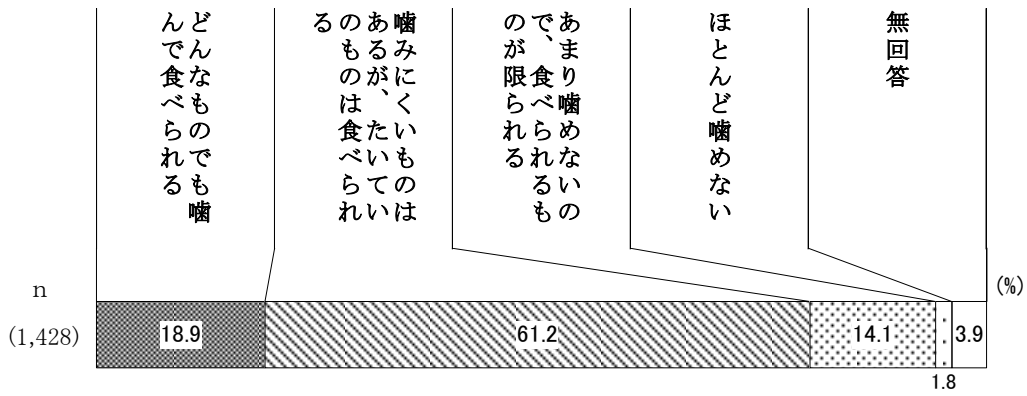
入れ歯を使用している方に、毎日手入れをしているかたずねたところ、「はい」が86.5%を占めている。



## 12 どれくらいのもものが噛めるか

Q17：現在、どれくらいのもものが噛めますか。（入れ歯を使っても結構です）

どれくらいのもものが噛めるかでは、「噛みにくいものはあるが、たいていのもものは食べられる」が61.2%で最も多く、次いで「どんなものでも噛んで食べられる」が18.9%となっている。



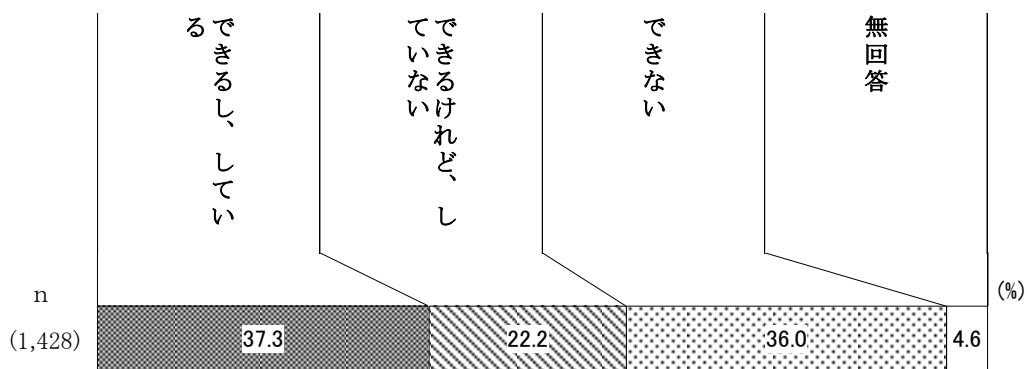
## 5 日常生活について

※設問番号の並び順については、95ページのことわり書きを参照

### 1 日用品の買物をしているか

Q2：日用品の買物をしていますか。

日用品の買物では、「できるし、している」が37.3%で最も多く、「できない」が36.0%、「できるけれど、していない」が22.2%となっている。

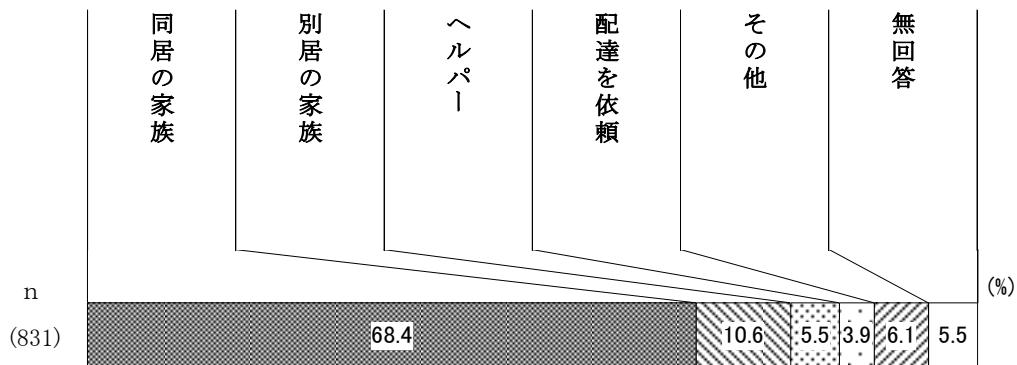


#### 1-1 主に日用品の買い物をする人

(日用品の買い物をしていない、できない方のみ)

Q2-1：日用品の買い物をする人は主にどなたですか。(〇は1つ)

日用品の買物をしていない、またはできないと回答した方に、主に日用品の買い物をしている人をたずねたところ、「同居の家族」が68.4%で最も多くなっている。

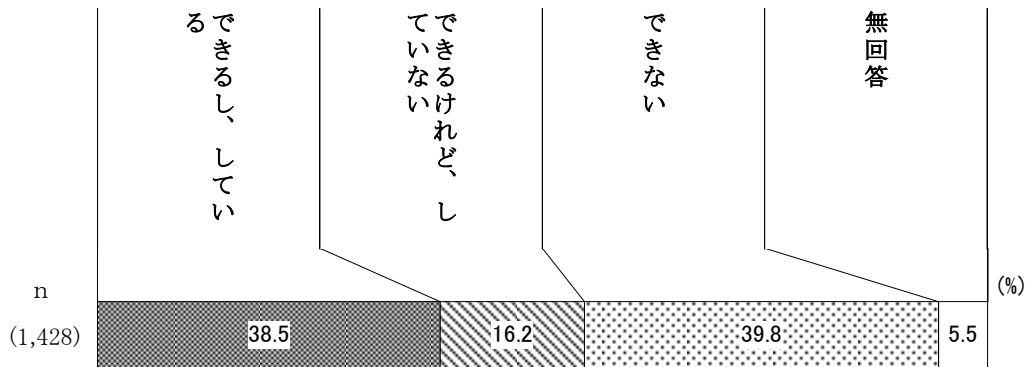




## 2 自分で食事の用意をしているか

Q3：自分で食事の用意をしていますか。

自分で食事の用意をしているかでは、「できるし、している」が38.5%、「できない」が39.8%で最も多く、「できるけれど、していない」が16.2%となっている。

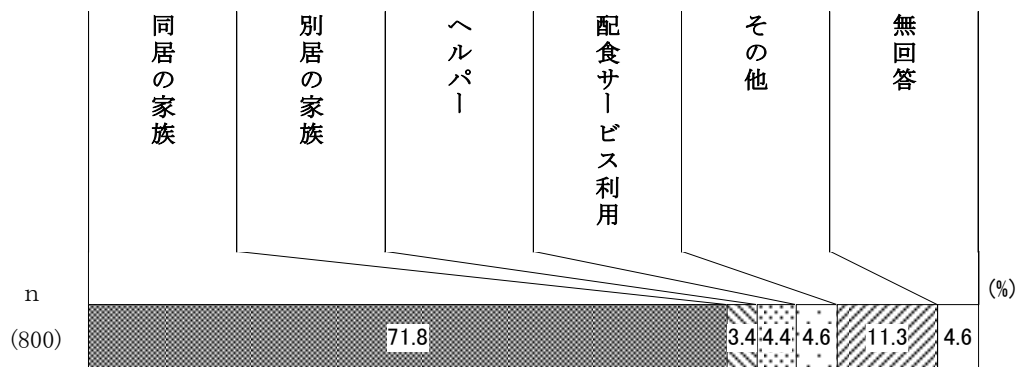


### 2-1 主に食事の用意をする人

(自分で食事の用意をしていない、できない方のみ)

Q3-1：食事の用意をする人は主にどなたですか。(〇は1つ)

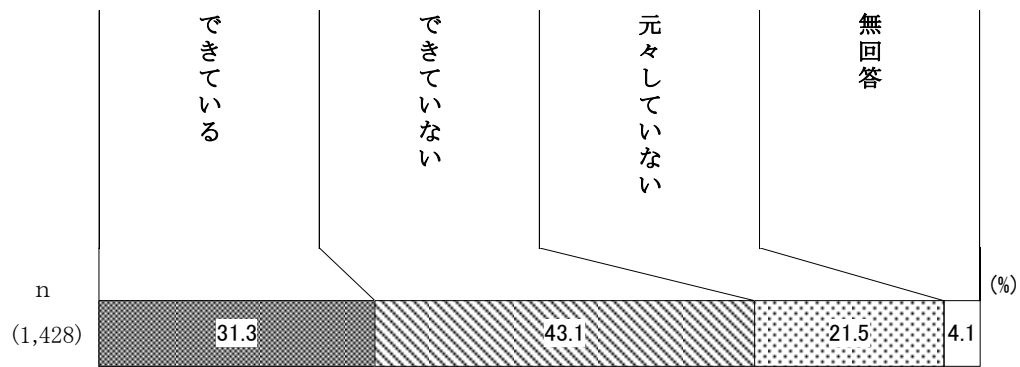
自分で食事の用意をしていない、またはできないと回答した方に、主に食事の用意をする人をたずねたところ、「同居の家族」が71.8%で最も多くなっている。



### 3 家事全般ができているか

Q17：家事全般ができていますか。

家事全般ができているかでは、「できている」が31.3%で、「できていない」が43.1%、「元々していない」が21.5%となっている。



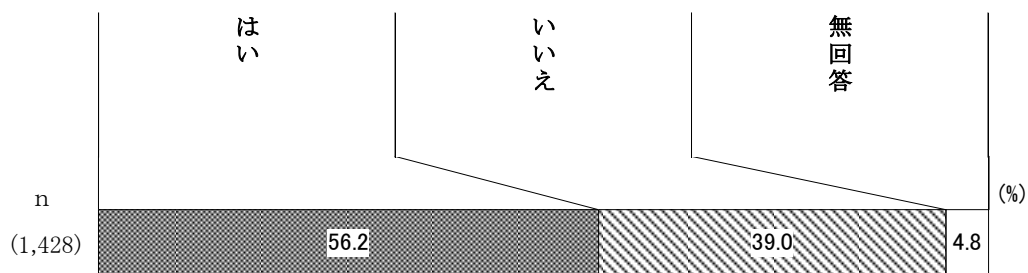
## 6 社会参加・地域との関わりについて

※設問番号の並び順については、95ページのことわり書きを参照

### 1 趣味はあるか

Q9：趣味はありますか。

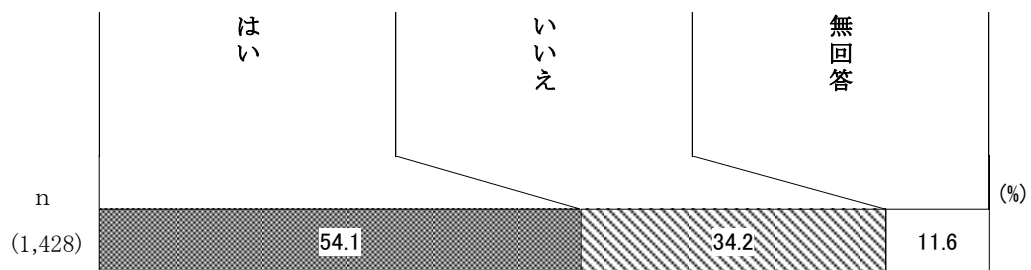
趣味があるかでは、「はい」が56.2%で、「いいえ」が39.0%となっている。



### 2 生きがいはあるか

Q10：生きがいはありますか。

生きがいはあるかでは、「はい」が54.1%で、「いいえ」が34.2%となっている。



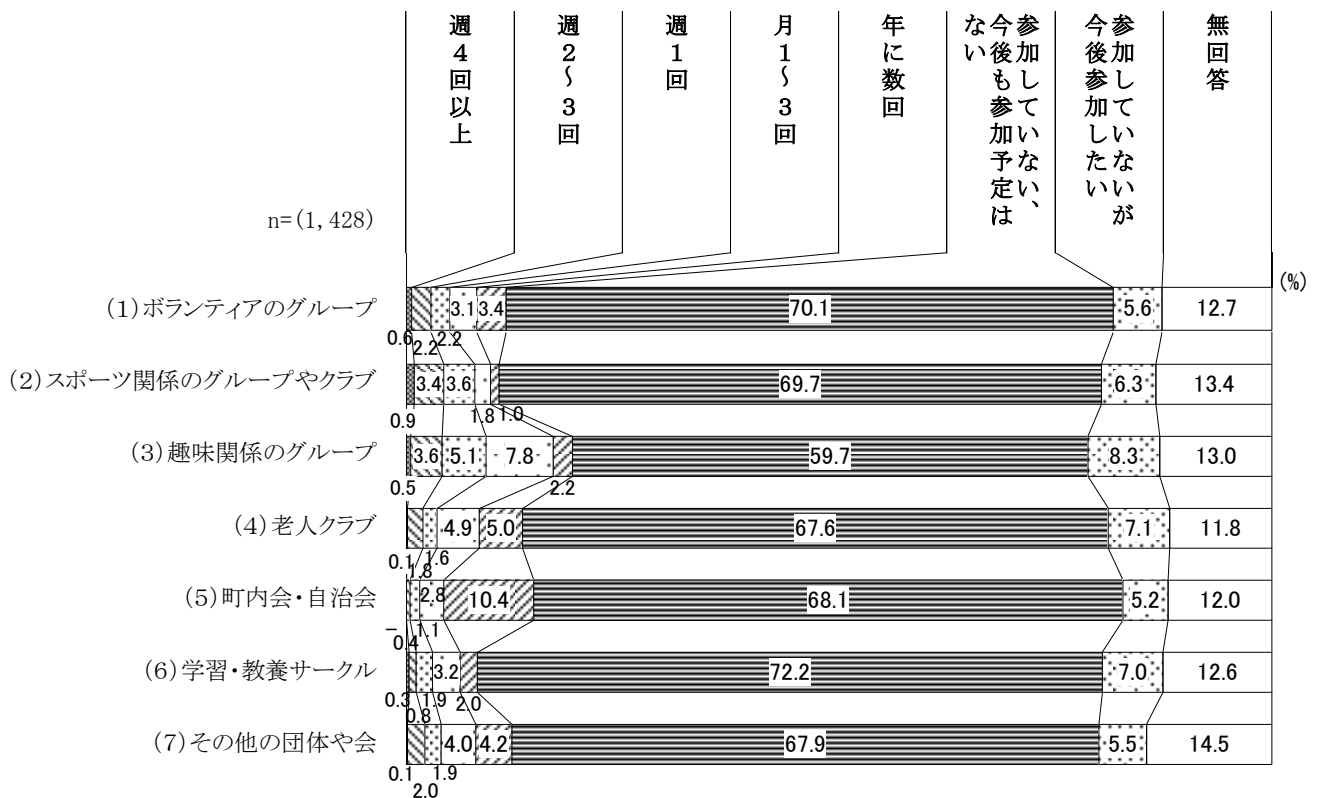
### 3 会・グループ等の参加頻度

Q11：以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

すべての会・グループ等において、「参加していない、今後も参加予定はない」が最も多く、特に、学習・教養サークル、ボランティアのグループで7割を超えている。

《年に数回以上》としてみると、参加率が高いのは、趣味関係のグループで19.1%、次いで、町内会・自治会（14.7%）、老人クラブ（13.4%）となっている。

また、「参加していないが今後参加したい」は、趣味関係のグループで8.3%、次いで、老人クラブ（7.1%）、学習・教養サークル（7.0%）となっている。



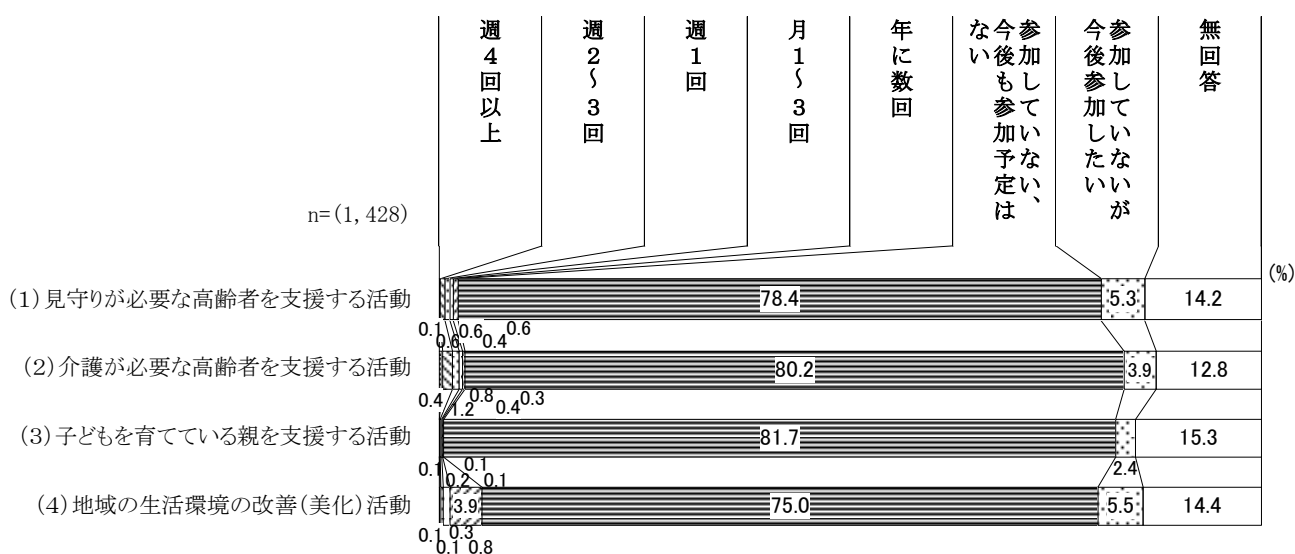
#### 4 活動（社会参加活動や仕事）の頻度

Q12：以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか。

社会参加活動や仕事の頻度は、「参加していない、今後も参加予定はない」が最も多くなっている。

《年に数回以上》としてみると、参加率が高いのは、(4)地域の生活環境の改善(美化)活動で5.1%、次いで、(2)介護が必要な高齢者を支援する活動が3.1%となっている。

また、「参加していないが今後参加したい」は、(4)地域の生活環境の改善(美化)活動が5.5%と最も多く、(1)見守りが必要な高齢者を支援する活動が5.3%となっている。



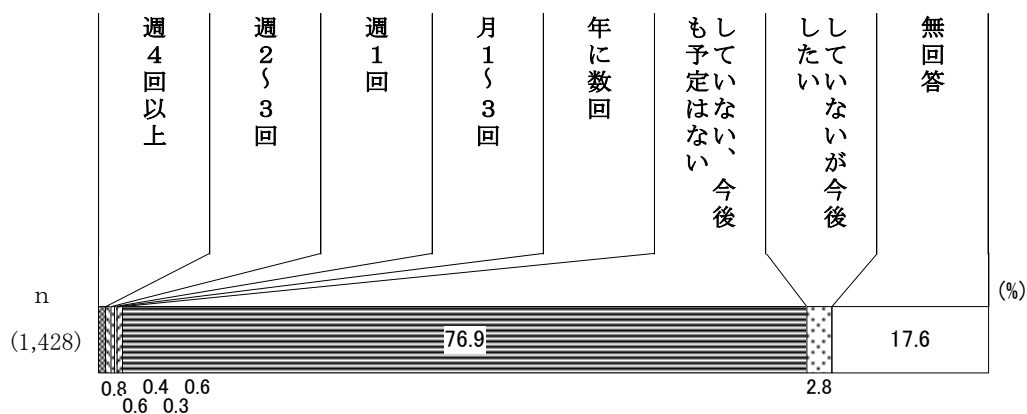
## 【その他】

(その他にしている、又はしたいと思っている) 具体的な活動内容 (と頻度) をお書き下さい

	調査数	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	したいが今後参加しない	無回答
全 体	81 100.0	6 7.4	12 14.8	9 11.1	19 23.5	19 23.5	4 4.9	12 14.8
社会福祉活動・ボランティア活動等	9 100.0	-	2 22.2	-	3 33.3	1 11.1	-	3 33.3
清掃・草取り・ゴミ拾い等	12 100.0	1 8.3	-	-	3 25.0	7 58.3	-	1 8.3
防犯パトロール・子どもの見守り等	4 100.0	1 25.0	-	-	-	-	-	3 75.0
自治会・町内会・老人会等	9 100.0	-	-	-	4 44.4	3 33.3	-	2 22.2
親睦会・宗教活動等	7 100.0	-	1 14.3	-	3 42.9	3 42.9	-	-
趣味・スポーツ・習い事等	21 100.0	1 4.8	3 14.3	6 28.6	5 23.8	3 14.3	3 14.3	-
デイケア・ショートステイ・リハビリ等	15 100.0	3 20.0	4 26.7	3 20.0	-	1 6.7	1 6.7	3 20.0
仕事・教室主催(講師)・アルバイト等	4 100.0	-	2 50.0	-	1 25.0	1 25.0	-	-

## 【収入のある仕事】

収入のある仕事については、「していない、今後も予定はない」が76.9%で最も多くなっている。

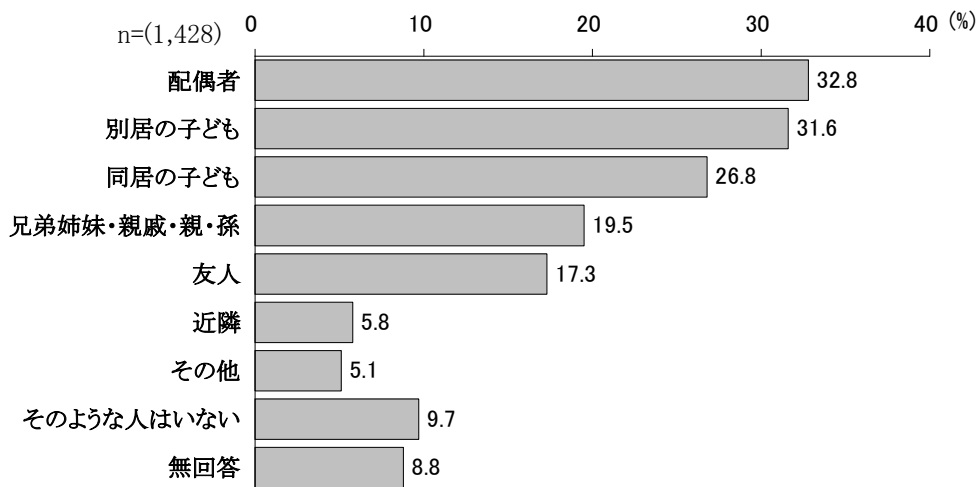


## 5 本人とまわりの人の「たすけあい」について

Q13：あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。あてはまるすべてに○をしてください。  
あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

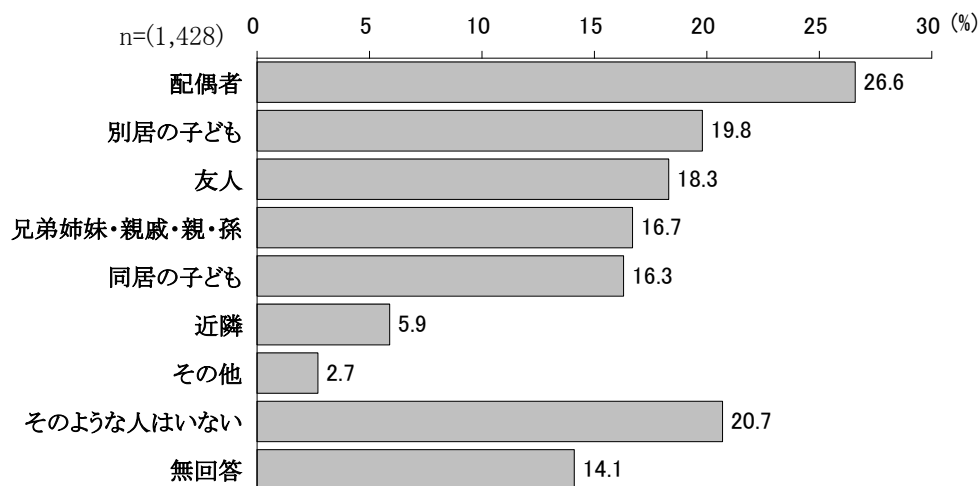
### (1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「配偶者」が32.8%で最も多く、次いで「別居の子ども」が31.6%、「同居の子ども」が26.8%となっている。



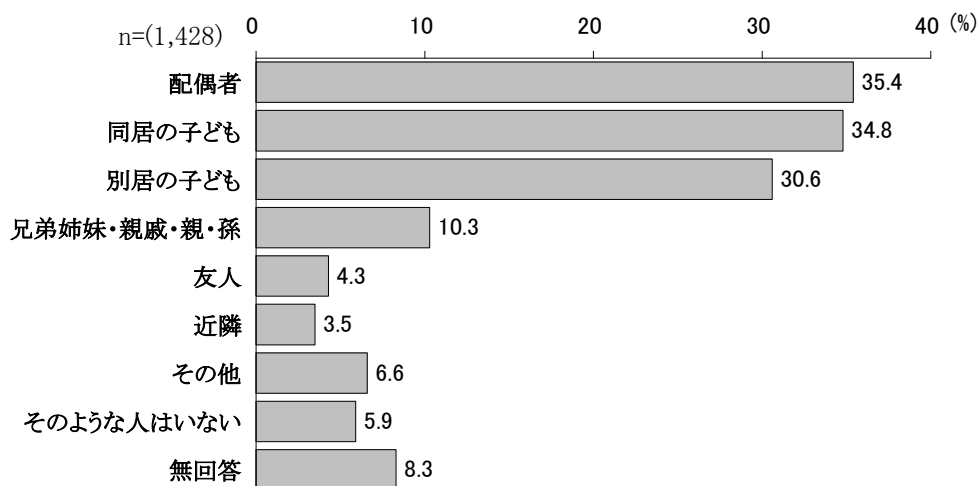
### (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」が26.6%で最も多く、次いで「別居の子ども」が19.8%、「友人」が18.3%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が16.7%となっている。



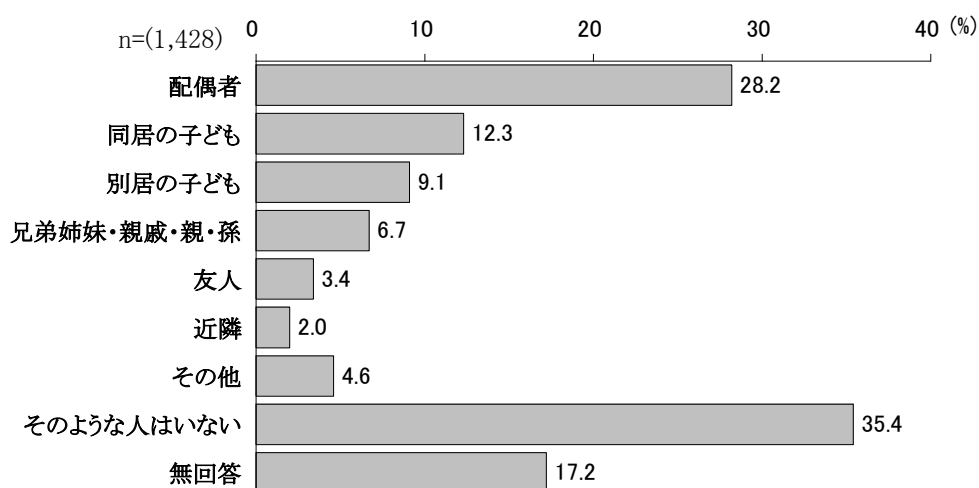
### (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が35.4%で最も多く、これに「同居の子ども」が34.8%と僅差が続いている。さらに「別居の子ども」が30.6%となっている。



### (4) 反対に看病や世話をしてあげる人 (〇はいくつでも)

看病や世話をしてあげる人は、「そのような人はいない」が35.4%で最も多く、次いで「配偶者」が28.2%、「同居の子ども」が12.3%となっている。

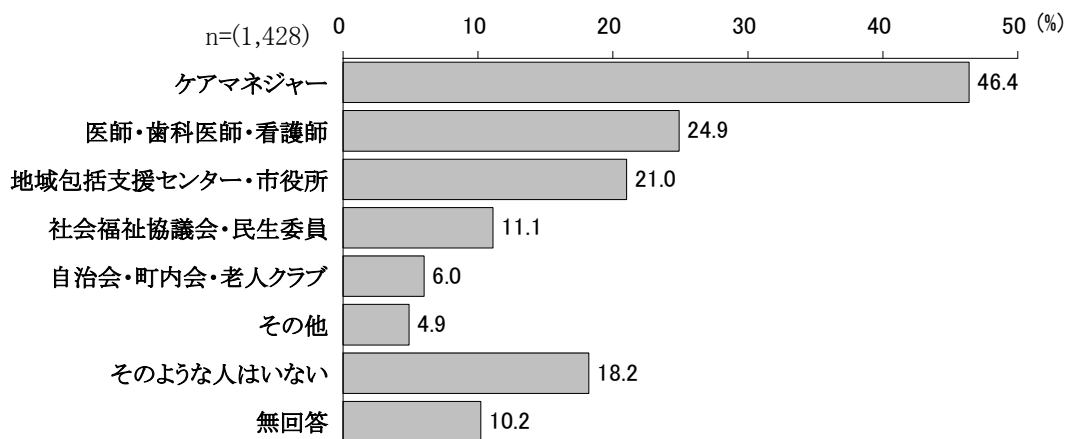




## 6 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手

Q14：家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（〇はいくつでも）

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手は、「ケアマネジャー」が46.4%で最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が24.9%、「地域包括支援センター・市役所」が21.0%、「そのような人はいない」が18.2%となっている。

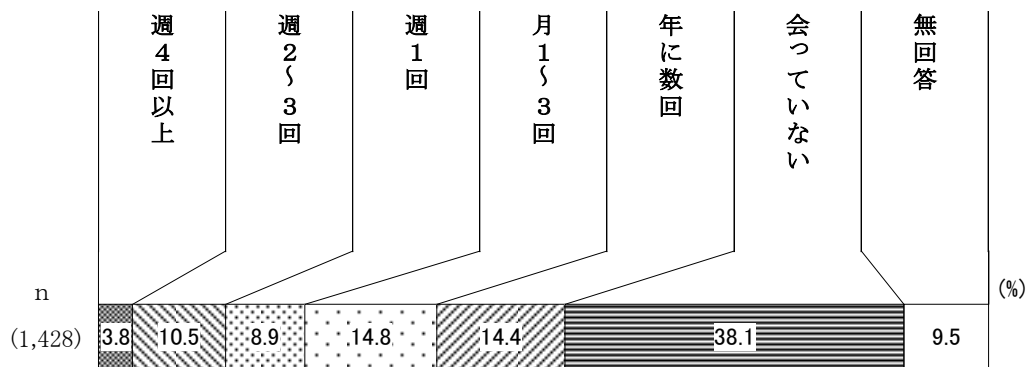


## 7 友人関係について

Q15：友人関係についてお伺いします。

(1) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

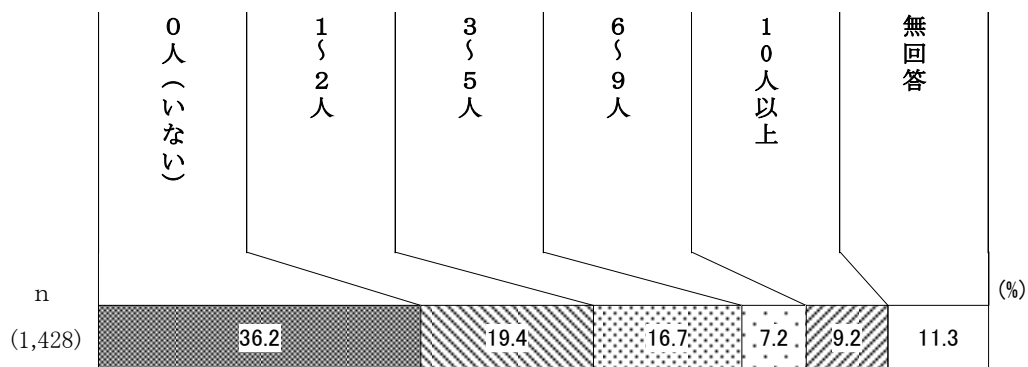
友人・知人と会う頻度は、「会っていない」が38.1%で最も多く、次いで「月1～3回」が14.8%、「年に数回」が14.4%などとなっている。



(2) この一か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

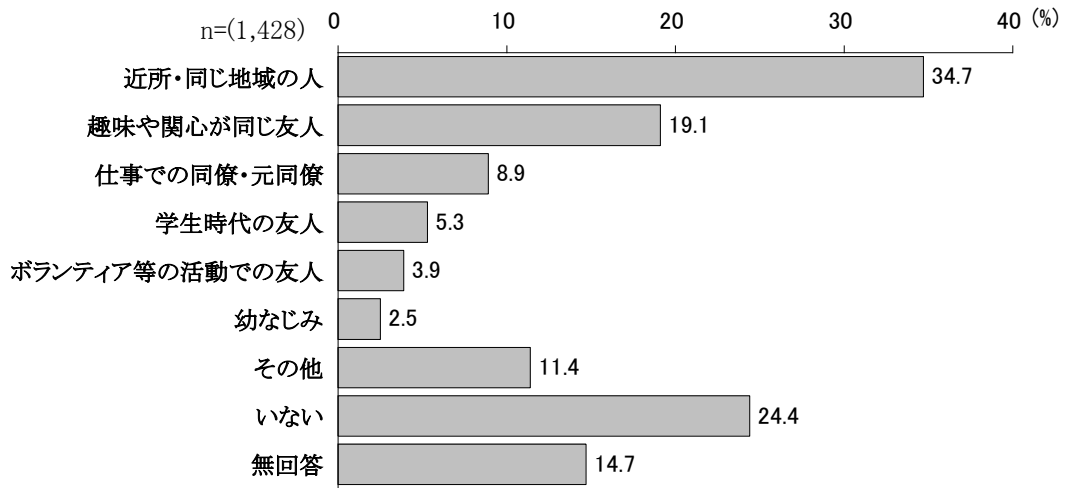
同じ人には何度会っても一人と数えることとします。

この一か月間に会った友人・知人の人数は、「0人（いない）」が36.2%で最も多く、次いで「1～2人」が19.4%、「3～5人」が16.7%となっている。



(3) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(〇はいくつでも)

よく会う友人・知人の関係は、「近所・同じ地域の人」が34.7%で最も多く、次いで「いない」が24.4%、「趣味や関心が同じ友人」が19.1%となっている。



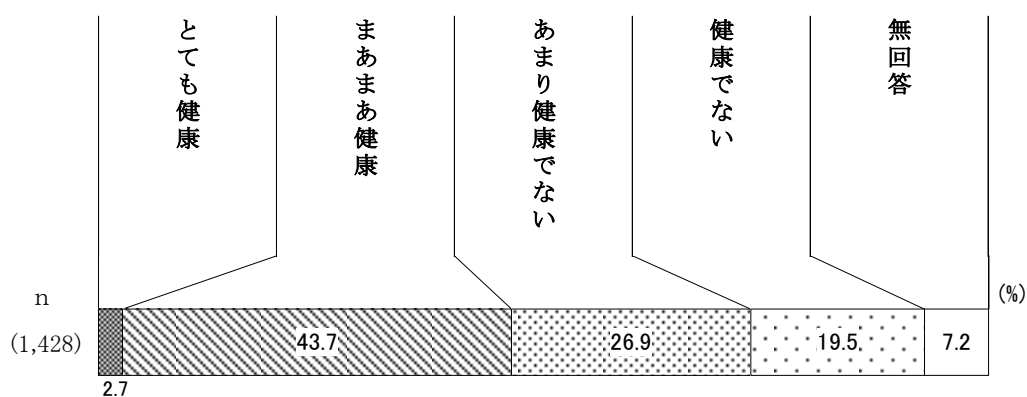
## 7 健康について

※設問番号の並び順については、95ページのことわり書きを参照

### 1 健康状態

Q1：普段、健康だと思いますか。(○は1つ)

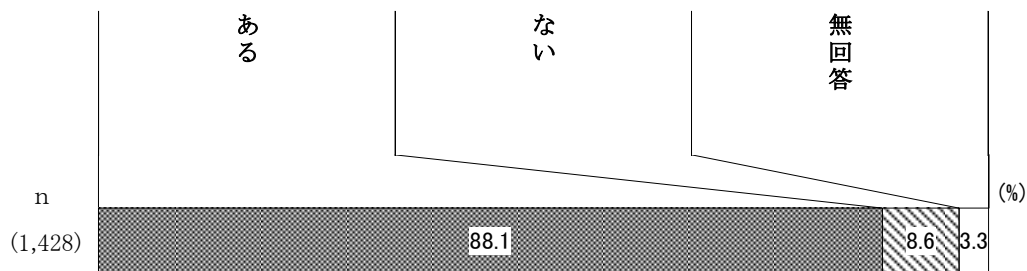
健康状態について、「まあまあ健康」が43.7%で最も多く、「とても健康」(2.7%)を合わせた《健康である》は46.4%となる。一方、「あまり健康でない」(26.9%)と「健康でない」(19.5%)を合わせた《健康でない》は46.4%となっている。



### 2 現在治療中、または後遺症のある病気の有無

Q2：現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(○は1つ)

現在治療中、または後遺症のある病気が「ある」は88.1%で、「ない」は8.6%となっている。



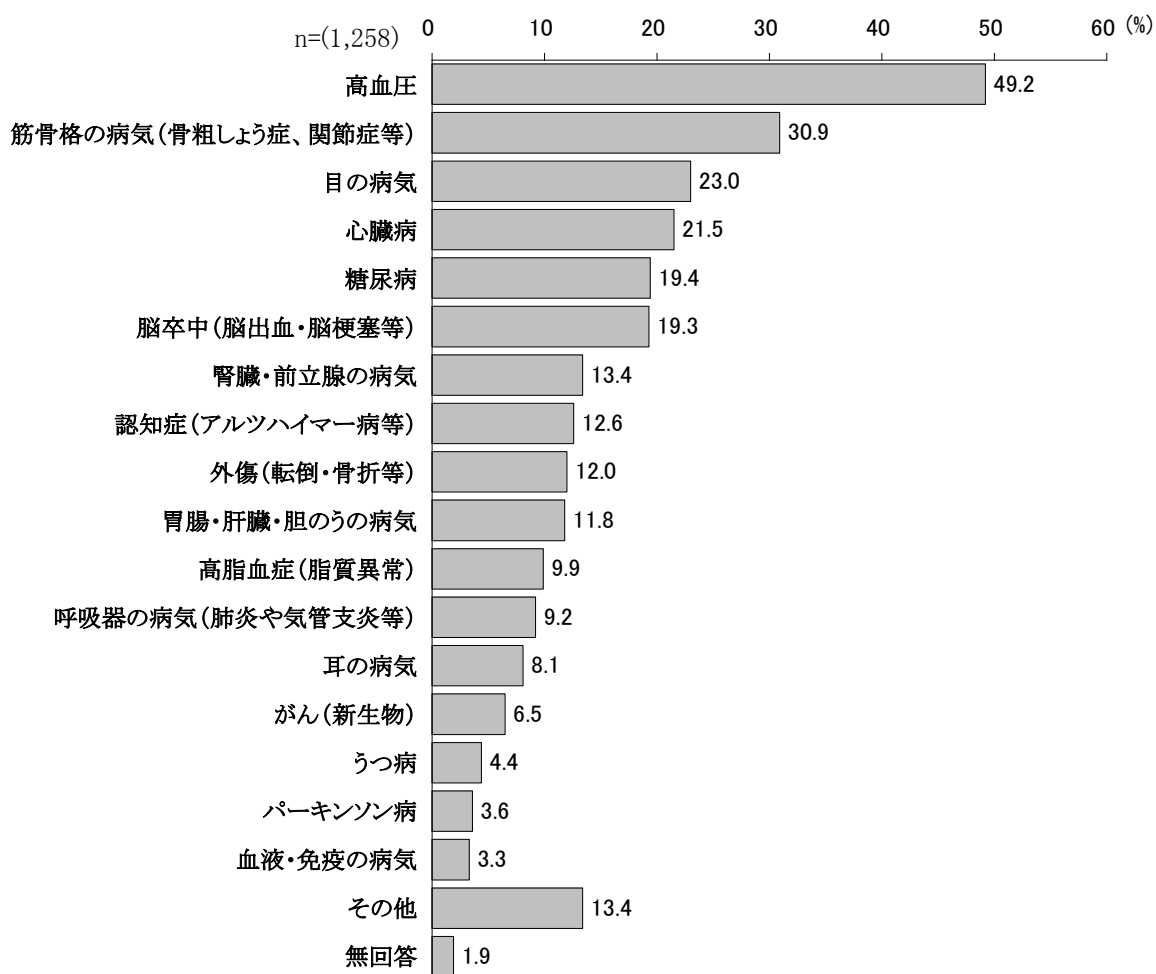
## 2-1 現在治療中の病気や後遺症のある病気とその状況

(現在治療中、または後遺症のある病気がある方のみ)

Q2-1：①現在治療中の病気や後遺症のある病気は何ですか。(該当する病気については②治療の状況についてもお答えください)

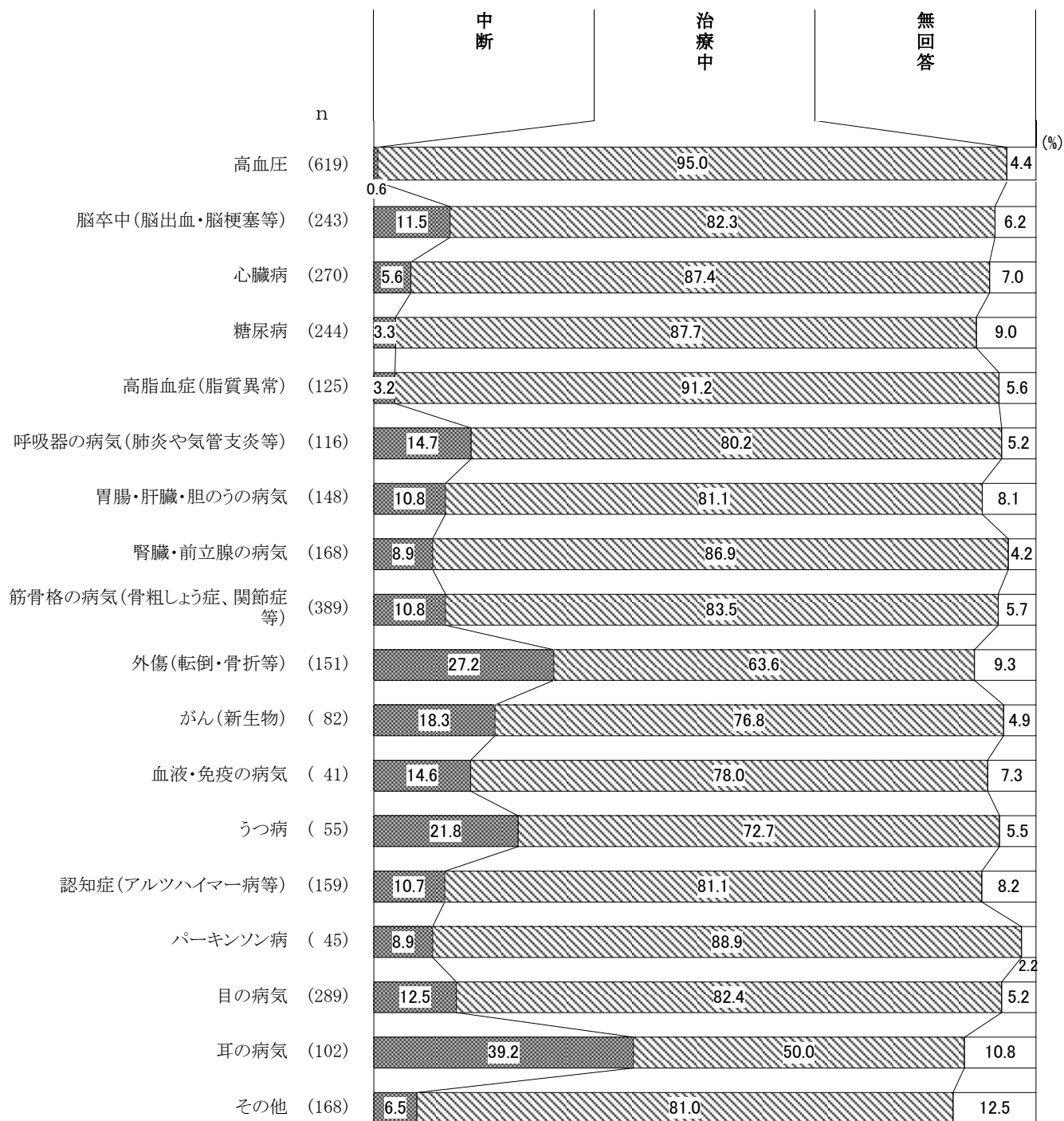
### ①現在治療中の病気や後遺症のある病気

現在治療中の病気や後遺症の病気があると回答した方に、その病気をたずねたところ、「高血圧」が49.2%で最も多く、次いで「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が30.9%、「目の病気」が23.0%、「心臓病」が21.5%となっている。



## ②治療の状況

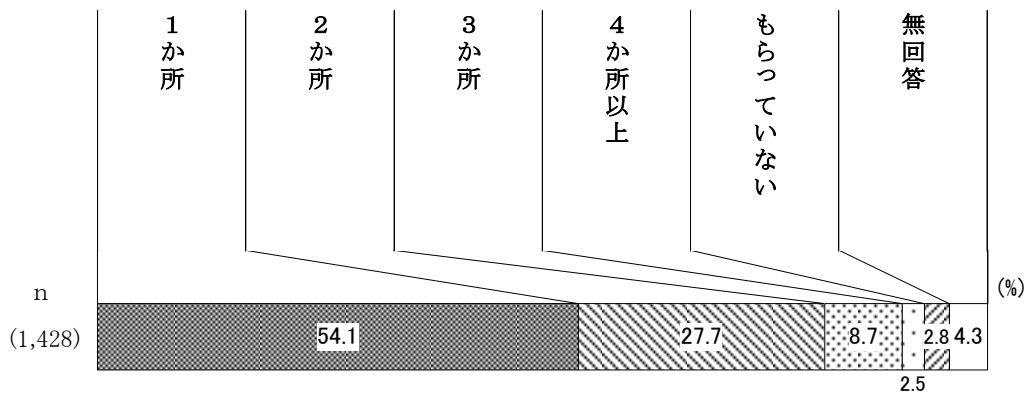
現在の治療状況についてたずねたところ、「中断」している病気は、「耳の病気」が39.2%で最も多く、次いで「外傷（転倒・骨折等）」（27.2%）、うつ病（21.8%）、「がん（新生物）」（18.3%）となっている。



### 3 薬を処方されている医療機関数

Q3：現在何か所の医療機関から薬を処方されていますか？（〇はひとつ）

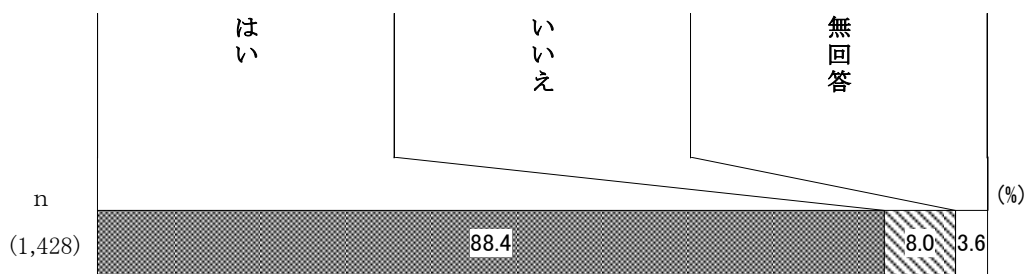
薬を処方されている医療機関数は、「1か所」が54.1%で最も多く、次いで「2か所」が27.7%、「3か所」が8.7%となっている。



### 4 現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院しているか

Q5：現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。（〇は1つ）

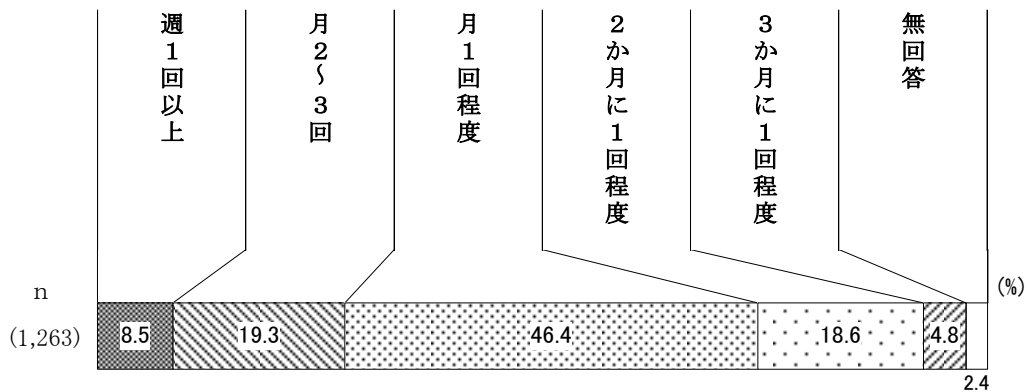
現在の病院・医院（診療所、クリニック）への通院状況は、「はい」が88.4%で、「いいえ」が8.0%となっている。



#### 4-1 通院頻度

(通院している方のみ)  
Q5-1: その頻度は次のどれですか。(〇は1つ)

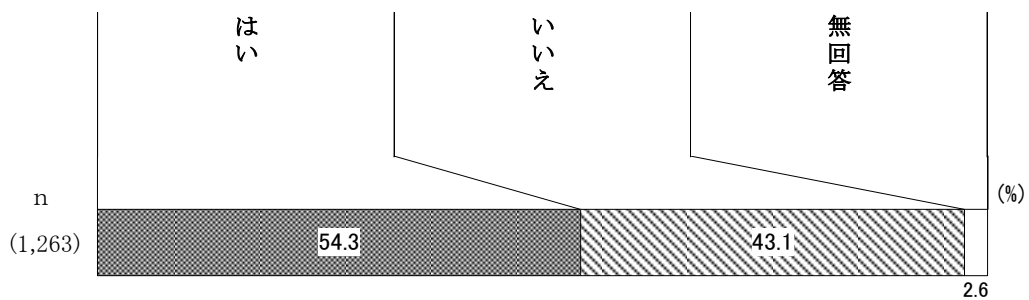
通院をしていると回答した方に通院頻度をたずねたところ、「月1回程度」が46.4%で最も多く、次いで「月2～3回」が19.3%、「2か月に1回程度」が18.6%となっている。



#### 4-2 通院の際の介助の必要性

(通院している方のみ)  
Q5-2: 通院に介助が必要ですか。(〇は1つ)

通院をしていると回答した方に、通院の際の介助の必要性をたずねたところ、「はい」が54.3%で、「いいえ」が43.1%となっている。

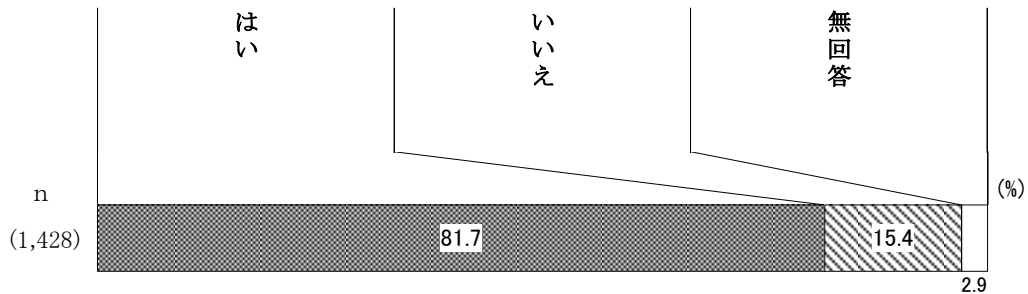




## 5 かかりつけ医は決まっているか

Q6：かかりつけのお医者さんは決まっていますか。(〇は1つ)

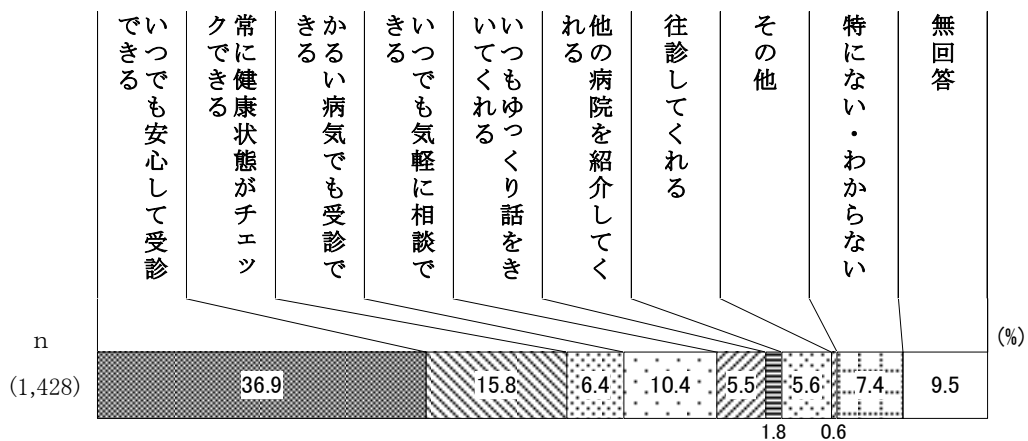
かかりつけ医は決まっているかでは、「はい」が81.7%で、「いいえ」は15.4%となっている。



## 6 かかりつけ医に最も期待すること

Q7：かかりつけのお医者さんに最も期待することはなんですか。(〇は1つ)

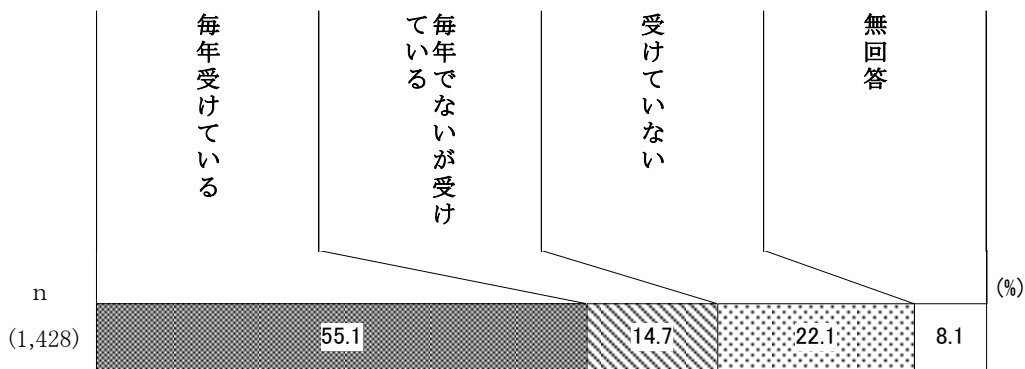
かかりつけ医に最も期待することは、「いつでも安心して受診できる」が36.9%で最も多く、次いで「常に健康状態がチェックできる」が15.8%、「いつでも気軽に相談できる」が10.4%となっている。



## 7 健（検）診の受診状況

Q8：定期的に健（検）診を受けていますか。（○は1つ）

健（検）診の受診状況は、「毎年受けている」が55.1%で最も多く、次いで「受けていない」が22.1%、「毎年でないが受けている」が14.7%となっている。

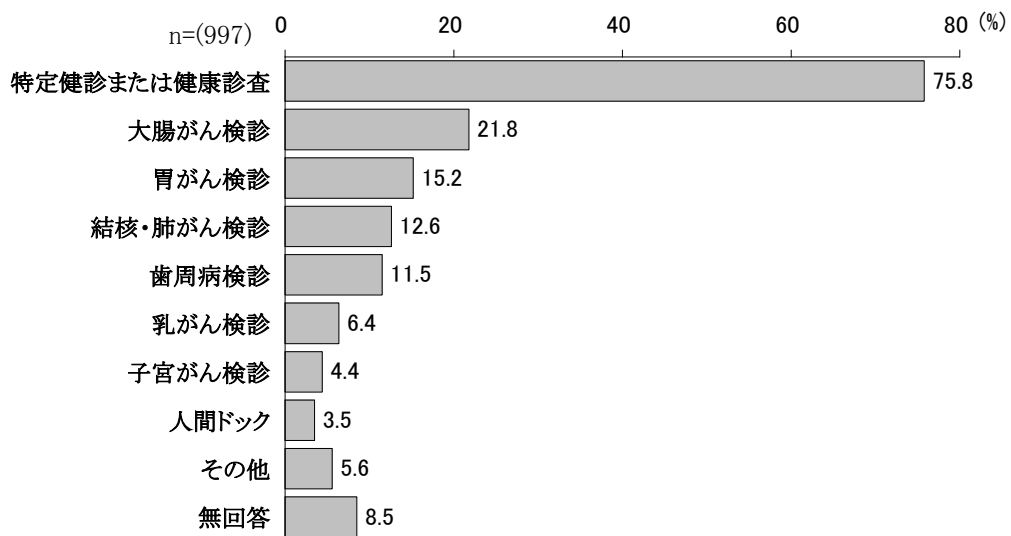


### 7-1 健（検）診内容

（定期的に健（検）診を受けている方のみ回答）

Q8-1：どの健（検）診を受けていますか。（○はいくつでも）

健（検）診を受けていると回答した方にその内容をたずねたところ、「特定健診または健康診査」が75.8%で最も多く、次いで「大腸がん検診」が21.8%、「胃がん検診」が15.2%、「結核・肺がん検診」が12.6%となっている。

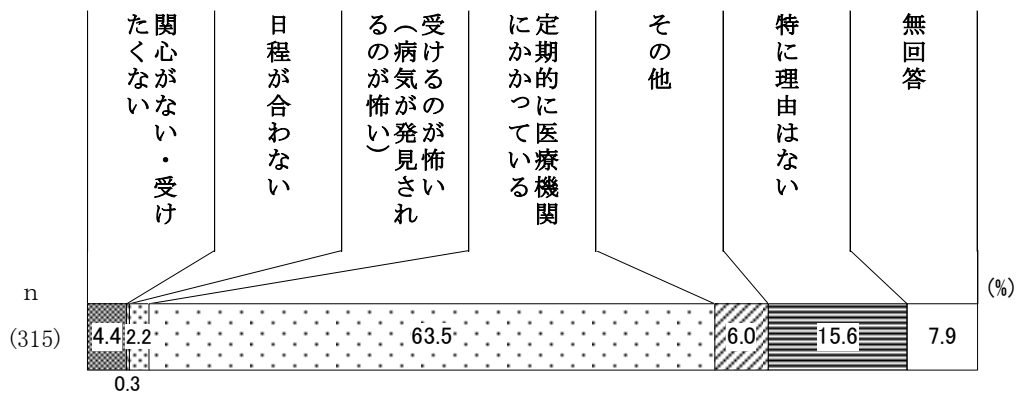


## 7-2 健（検）診を受けたことがない理由

（定期的に健（検）診を受けていない方のみ回答）

Q8-2：健（検）診を受けたことがない理由をお聞かせください。（〇は1つ）

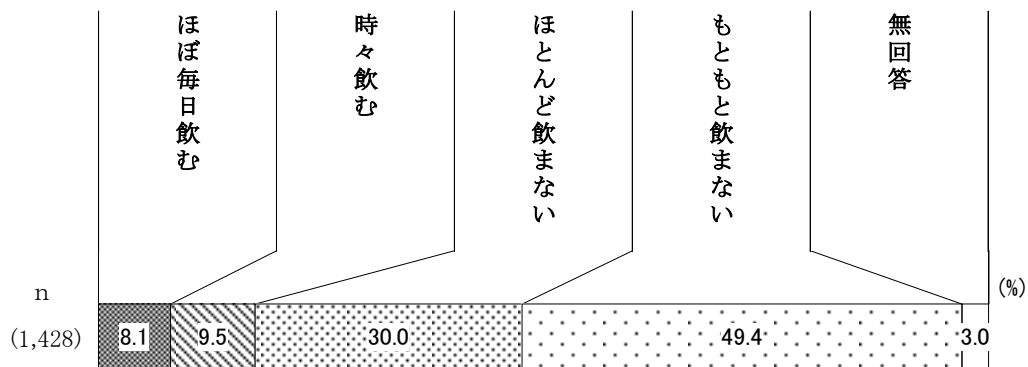
健（検）診を受けていないと回答した方に、その理由をたずねたところ、「定期的に医療機関にかかっている」が63.5%で最も多く、「特に理由はない」が15.6%となっている。



## 8 飲酒状況

Q9：お酒は飲みますか。(○は1つ)

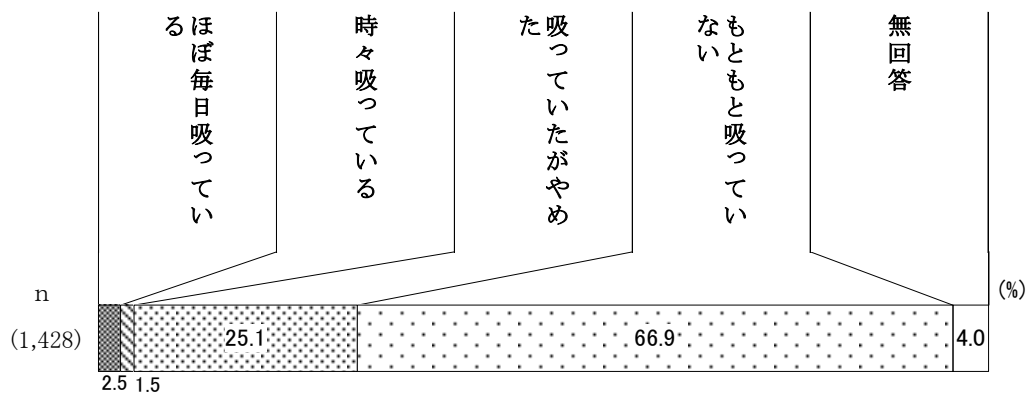
飲酒状況は、「もともと飲まない」が49.4%で最も多く、「ほとんど飲まない」(30.0%)を合わせた《飲まない》は79.4%となる。一方、「ほぼ毎日飲む」(8.1%)と「時々飲む」(9.5%)を合わせた《飲む》は17.6%となっている。



## 9 喫煙状況

Q10：タバコは吸っていますか。(○は1つ)

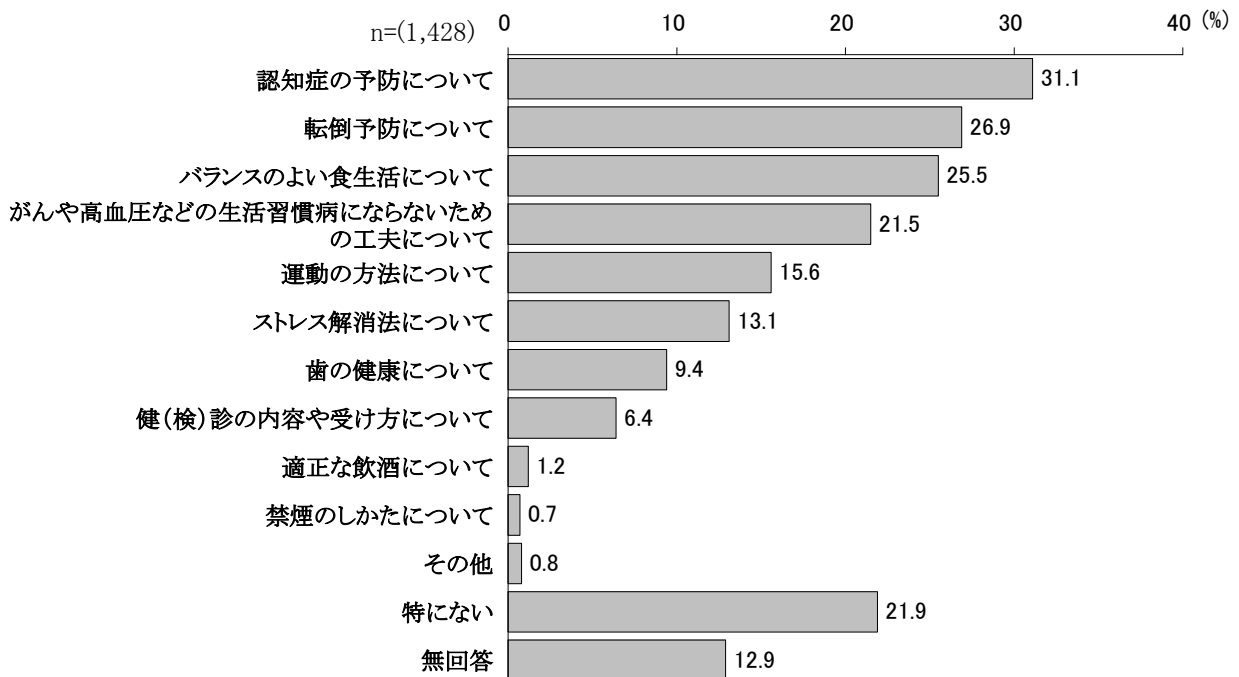
喫煙状況は、「もともと吸っていない」が66.9%で最も多く、「吸っていたがやめた」(25.1%)を合わせた《吸わない》は92.0%となる。一方、「ほぼ毎日吸っている」(2.5%)と「時々吸っている」(1.5%)を合わせた《吸っている》は4.0%となっている。



## 10 健康について知りたい内容

Q16：健康について、どのようなことが知りたいですか。（〇はいくつでも）

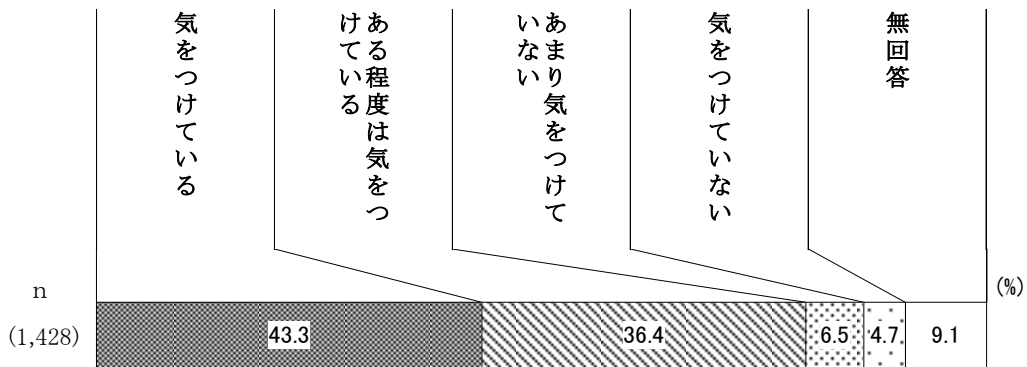
健康について知りたい内容は、「認知症の予防について」が31.1%で最も多く、次いで「転倒予防について」が26.9%、「バランスのよい食生活について」が25.5%、「がんや高血圧などの生活習慣病にならないための工夫について」が21.5%となっている。一方、「特にない」は21.9%となっている。



## 11 自分の健康に気をつけているか

Q17：日頃、自分の健康に気をつけていますか。（○は1つ）

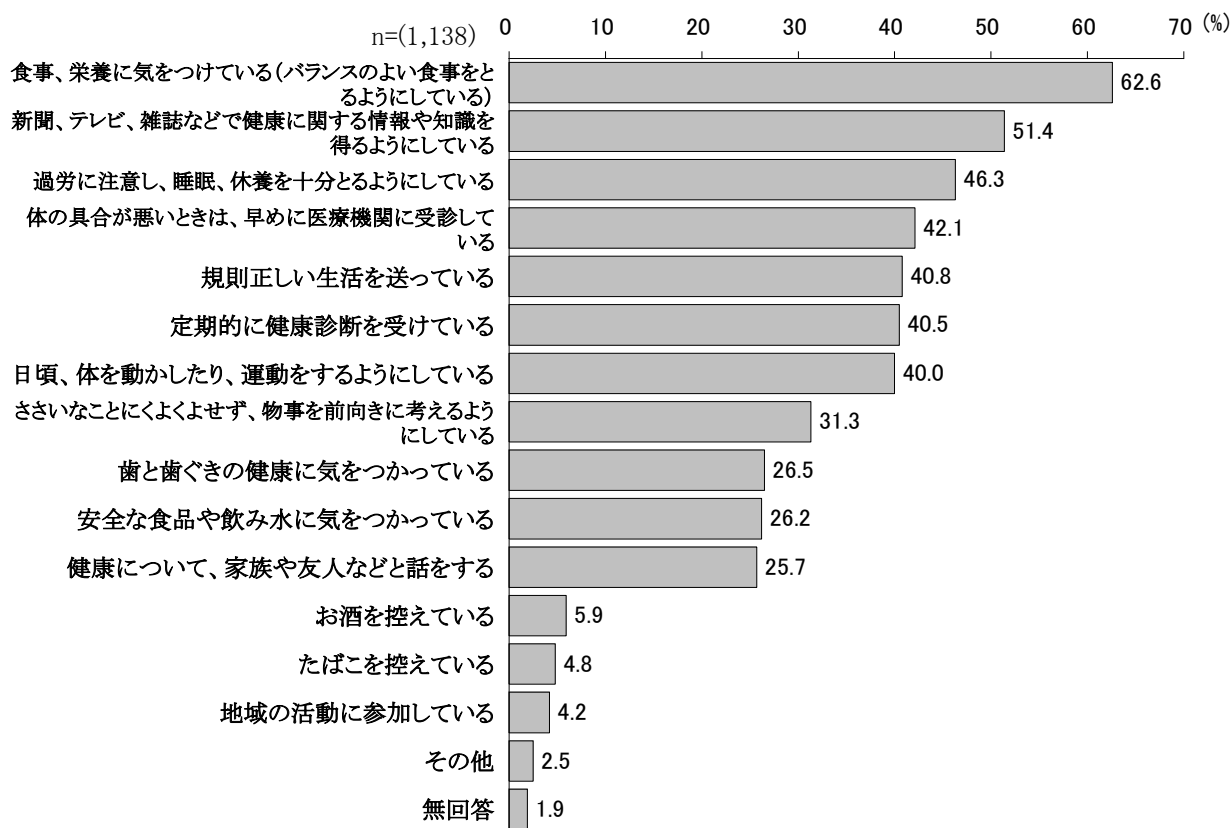
自分の健康に気をつけているかでは、「気をつけている」が43.3%で最も多く、「ある程度は気をつけている」（36.4%）を合わせた《気をつけている》は79.7%となる。一方、「あまり気をつけていない」（6.5%）と「気をつけていない」（4.7%）を合わせた《気をつけていない》は11.2%となっている。



## 11-1 健康に気をつけて実行していること

(Q17で「1. 気をつけている」「2. ある程度は気をつけている」と回答した方のみ)  
 Q17-1：何か実行していることがありますか。(〇はいくつでも)

健康に《気をつけている》と回答した方に、何か実行していることがあるかをたずねたところ、「食事、栄養に気をつけている(バランスのよい食事をとるようにしている)」が62.6%で最も多く、次いで「新聞、テレビ、雑誌などで健康に関する情報や知識を得るようにしている」が51.4%、「過労に注意し、睡眠、休養を十分とるようにしている」が46.3%、「体の具合が悪いときは、早めに医療機関に受診している」が42.1%となっている。



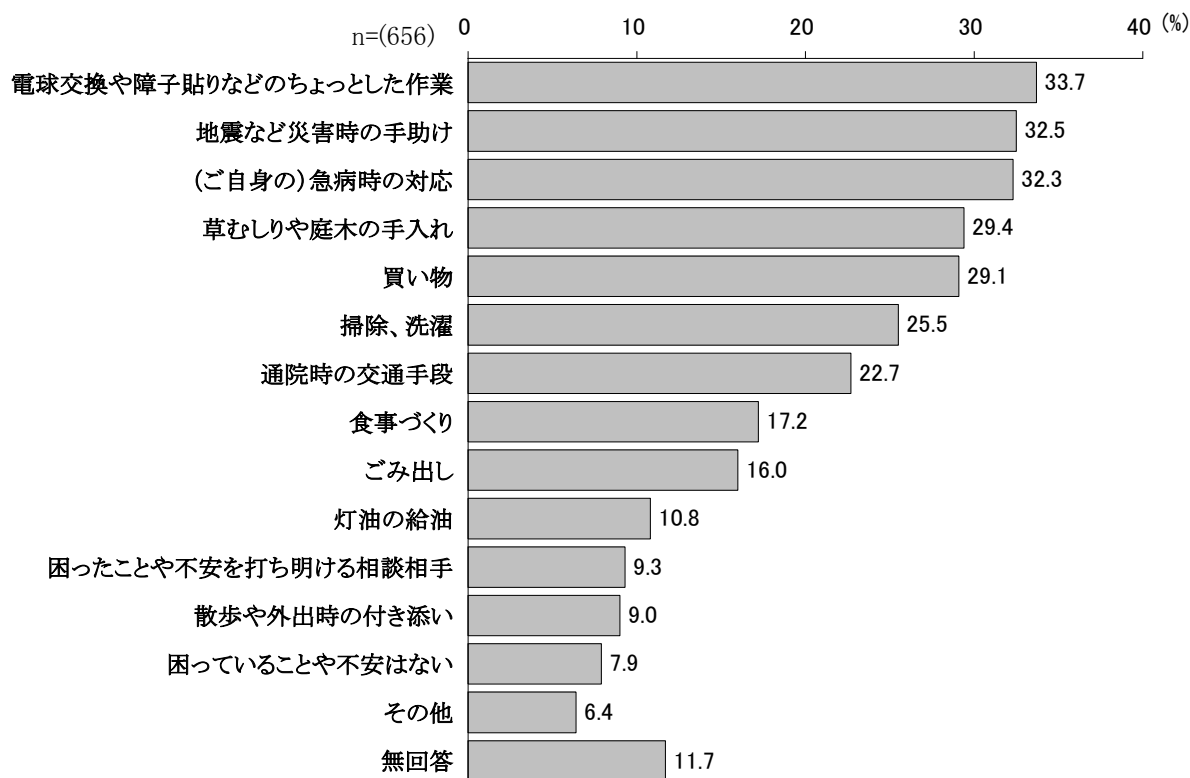
## 8 要支援認定を受けている方の意識について

【要支援1及要支援2の認定を受けている方のみ】

### 1 日常生活を送るうえで困っていることや不安な内容

Q1：あなたが、いま日常生活を送るうえで、お困り・ご不安なことはどのようなことですか。  
(〇はいくつでも)

日常生活を送るうえで困っていることや不安な内容は、「電球交換や障子貼りなどのちょっとした作業」が33.7%で最も多く、次いで「地震など災害時の手助け」が32.5%、「(ご自身の)急病時の対応」が32.3%、「草むしりや庭木の手入れ」が29.4%「買い物」が29.1%となっている。





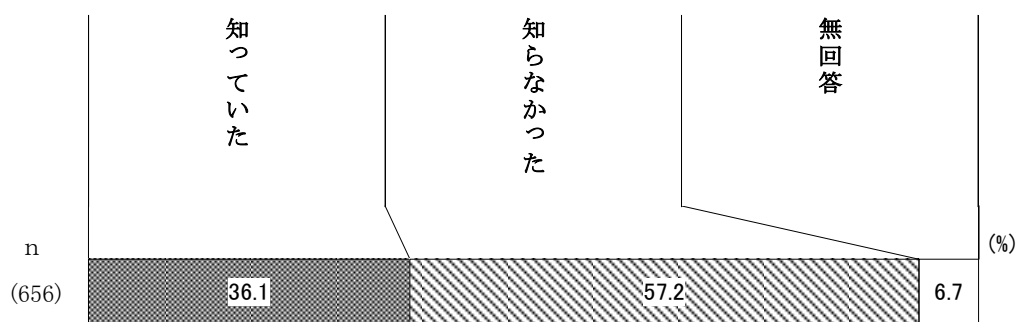
## 2 介護保険制度の見直しが進められていることの認知

Q2：あなたは、上記のような介護保険制度の見直しが進められていることご存じでしたか。

※上記とは、調査実施時に、次のような説明文を掲載していたことを指している。

「現在国では、要支援1及び要支援2の認定を受けている方を対象とした介護保険給付の見直しを進めています。それによれば、平成27年度から平成29年度までの間において、介護予防給付のうち、介護予防訪問介護と介護予防通所介護が、全国一律のサービス内容から、市町村の実施する介護予防事業に基づいて実施することになる予定です。」

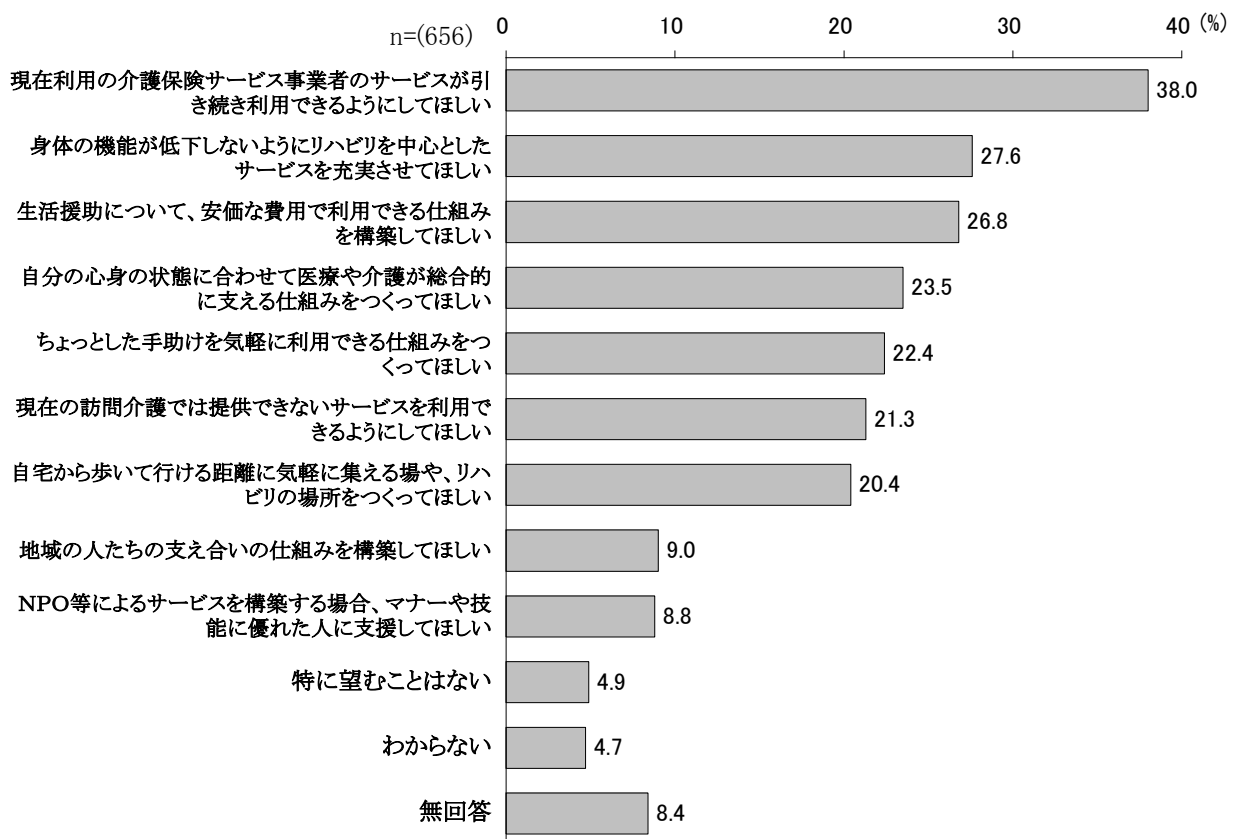
介護保険制度の見直しが進められていることを「知っていた」は36.1%で、「知らなかった」が57.2%となっている。



### 3 制度見直しが予定どおり実施された場合の介護予防事業の重視すべき点

Q3：仮に、現在国で検討されている制度見直しが予定どおり実施された場合、流山市は、要支援認定の方に適した介護予防事業を用意していく計画ですが、その場合に重視すべき点として、どのようなことを望みますか。（〇は3つまで）

制度見直しが予定どおり実施された場合の介護予防事業の重視すべき点は、「現在利用の介護保険サービス事業者のサービスが引き続き利用できるようにしてほしい」が38.0%で最も多く、次いで「身体の機能が低下しないようにリハビリを中心としたサービスを充実させてほしい」が27.6%、「生活援助について、安価な費用で利用できる仕組みを構築してほしい」が26.8%、「自分の心身の状態に合わせて医療や介護が総合的に支える仕組みをつくってほしい」が23.5%となっている。

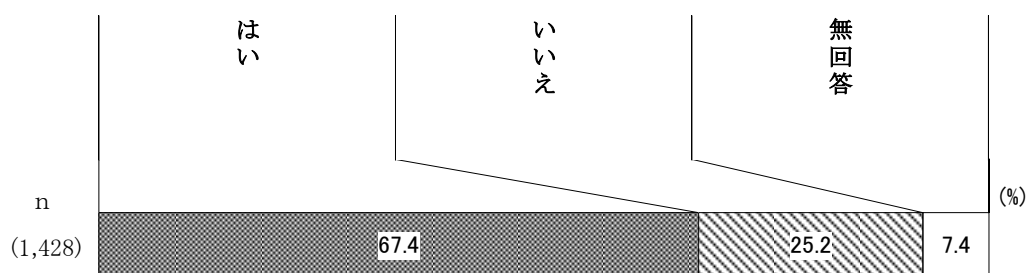


## 9 地域包括支援センターについて

### 1 地域包括支援センターの認知度

Q1：地域包括支援センターをご存知ですか。（〇は1つ）

地域包括支援センターを知っているかでは、「はい」が67.4%で、「いいえ」が25.2%となっている。

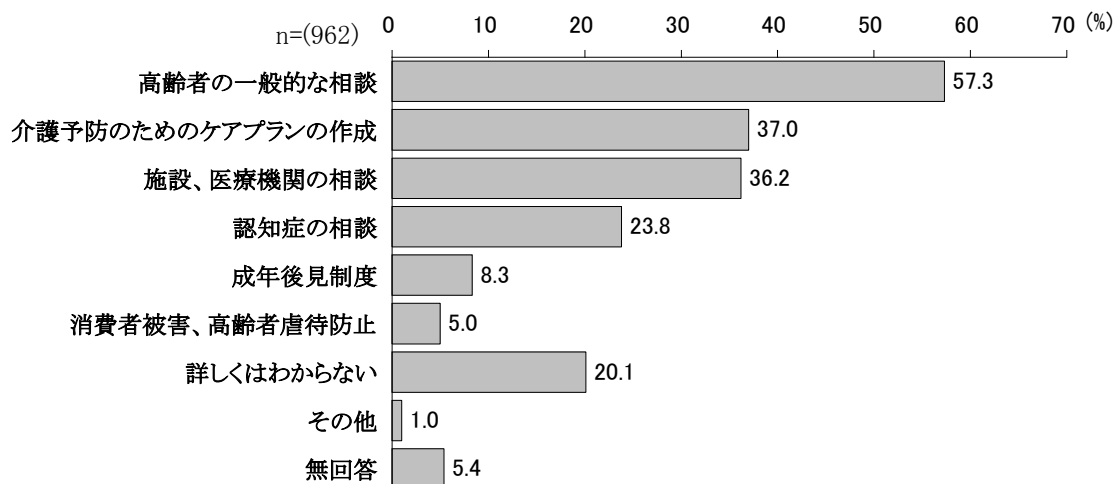


#### 1-1 地域包括支援センターの活動内容で知っている内容

（Q1で「1. はい」と答えた方のみ）

Q1-1：地域包括支援センターの活動内容をご存知ですか。（〇はいくつでも）

地域包括支援センターを知っていると回答した方に、知っている活動内容をたずねたところ、「高齢者の一般的な相談」が57.3%で最も多く、次いで「介護予防のためのケアプランの作成」が37.0%、「施設、医療機関の相談」が36.2%となっている。



## 1-2 地域包括支援センターの利用経験

(Q1で「1. はい」と答えた方のみ)

Q1-2: 地域包括支援センターを実際に利用したことがありますか。自宅や入院先に地域包括支援センターの職員が訪問した場合の利用も含まれます。(〇は1つ)

地域包括支援センターを知っていると回答した方に、利用経験をたずねたところ、「はい」が76.0%で、「いいえ」が18.5%となっている。

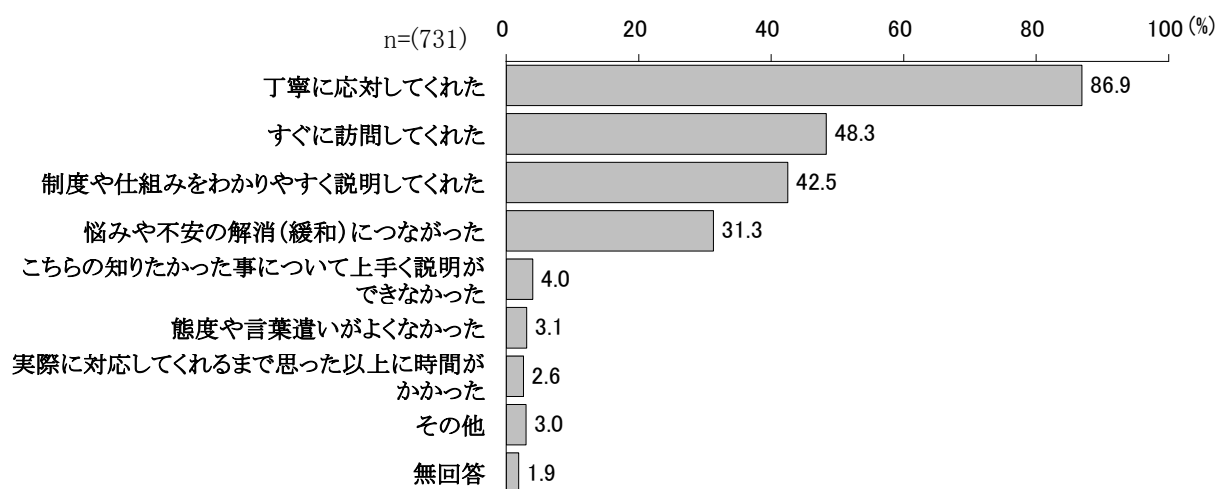


### 1-2-1 地域包括支援センターを利用した感想

(Q1-2で「1. はい」と答えた方のみ)

Q1-2-1: 地域包括支援センターを利用した感想を教えてください。(〇はいくつでも)

地域包括支援センターを利用したことがあると回答した方に、その感想をたずねたところ、「丁寧に應對してくれた」が86.9%で最も多く、次いで「すぐに訪問してくれた」が48.3%、「制度や仕組みをわかりやすく説明してくれた」が42.5%、「悩みや不安の解消(緩和)につながった」が31.3%となっている。

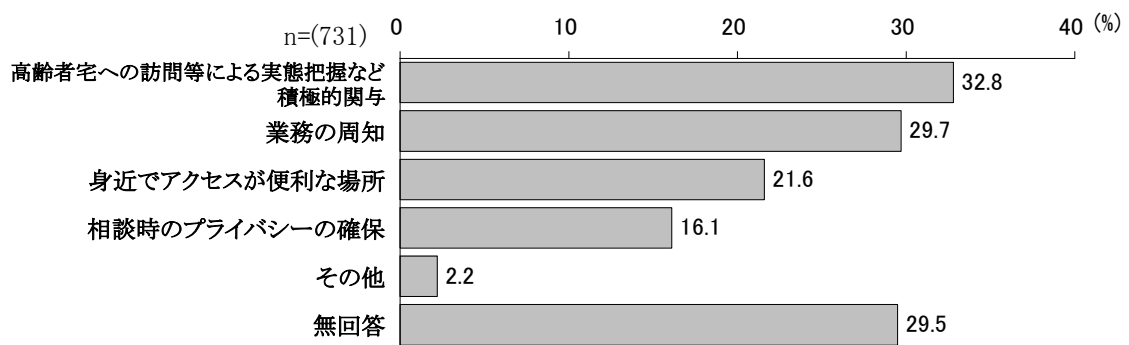


## 1-2-2 地域包括支援センターをもっと利用しやすくするために必要だと思うこと

(Q1-2で「1. はい」と答えた方のみ)

Q1-2-2：もっと利用しやすくするためにどのようなことが必要と思いますか。(〇はいくつでも)

地域包括支援センターを利用したことがあると回答した方に、もっと利用しやすくするために必要だと思うことをたずねたところ、「高齢者宅への訪問等による実態把握など積極的関与」が32.8%で最も多く、次いで「業務の周知」が29.7%、「身近でアクセスが便利な場所」が21.6%、「相談時のプライバシーの確保」が16.1%となっている。

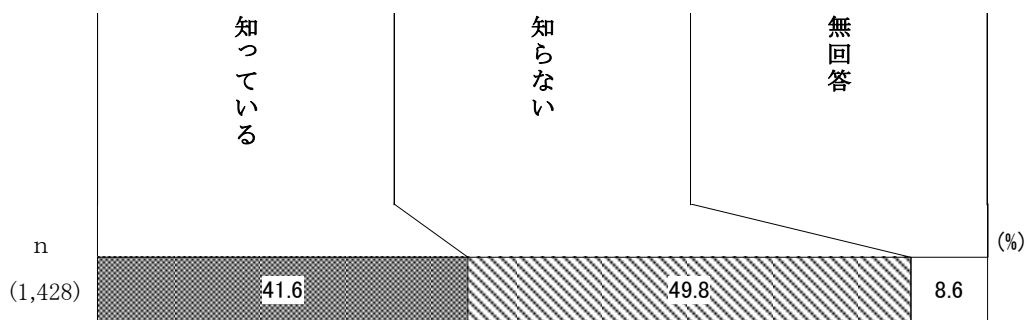


## 10 成年後見制度について

### 1 成年後見制度の内容の認知度

Q1：成年後見制度の内容を知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度の内容を「知っている」は41.6%で、「知らない」が49.8%となっている。

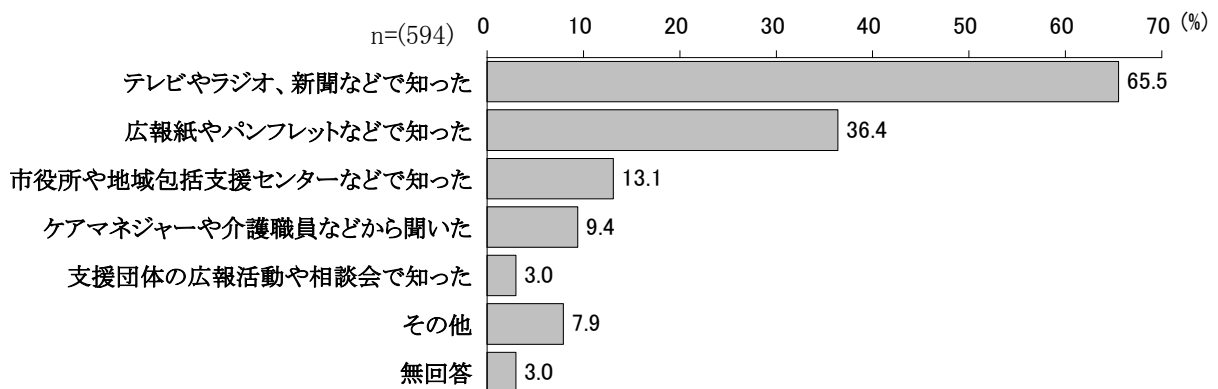


#### 1-1 成年後見制度を知った方法

(Q1で「1. 知っている」と回答した方のみ)

Q1-1：成年後見制度をどのように知りましたか。(○はいくつでも)

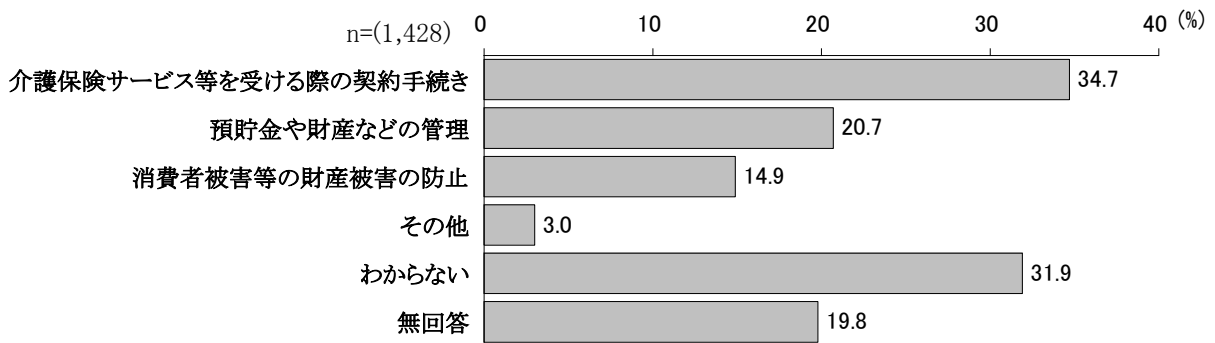
成年後見制度を知っていると回答した方に、どのように知ったのかをたずねたところ、「テレビやラジオ、新聞などで知った」が65.5%で最も多く、次いで「広報紙やパンフレットなどで知った」が36.4%となっている。



## 2 成年後見制度を利用する場合、どのように利用したいか

Q2：成年後見制度を利用するとしたら、どのように利用したいですか。(〇はいくつでも)

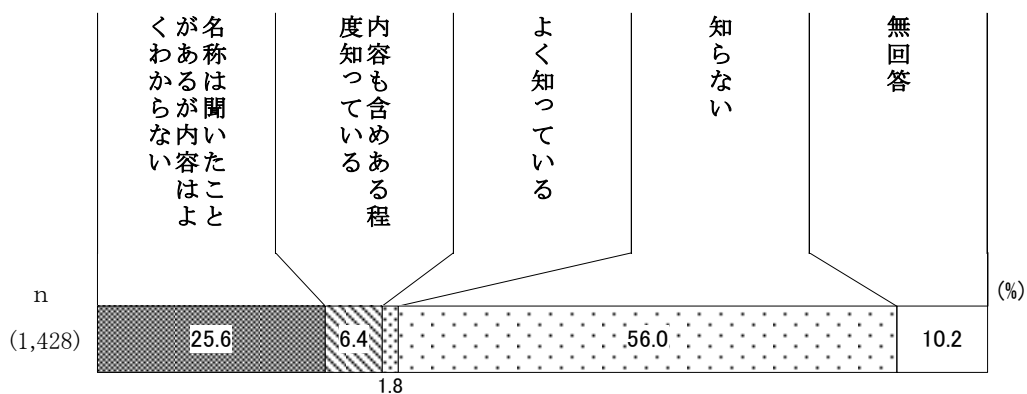
成年後見制度を利用する場合、どのように利用したいかでは、「介護保険サービス等を受ける際の契約手続き」が34.7%で最も多く、「預貯金や財産などの管理」が20.7%、「消費者被害等の財産被害の防止」が14.9%となっている。



## 3 市民後見人制度の認知度

Q3：市民後見人についてご存知ですか。(〇は1つ)

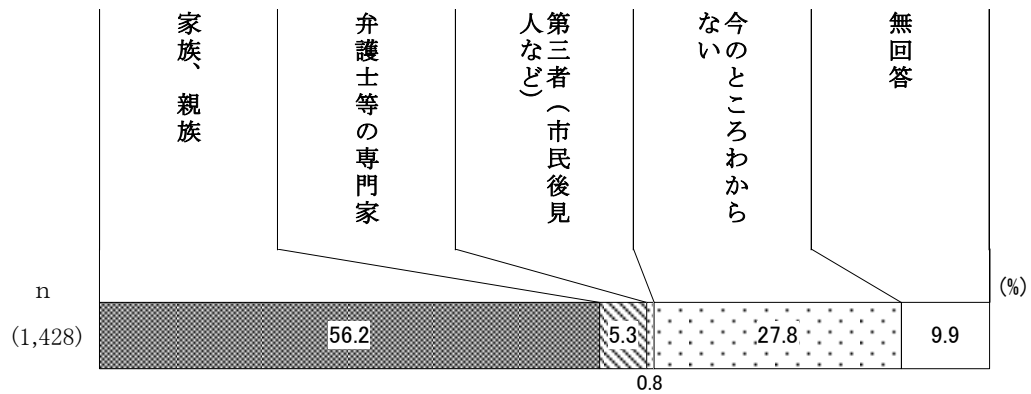
市民後見人の認知度は、「知らない」が56.0%で最も多く、「名称は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が25.6%となっている。



#### 4 成年後見制度を利用する場合に、依頼したい後見人

Q4：あなたが、もし成年後見制度を利用するとしたら、誰に後見人を頼みたいですか。(〇は1つ)

成年後見制度を利用する場合に、依頼したい後見人は、「家族、親族」が56.2%で最も多くなっている。一方、「今のところわからない」が27.8%となっている。

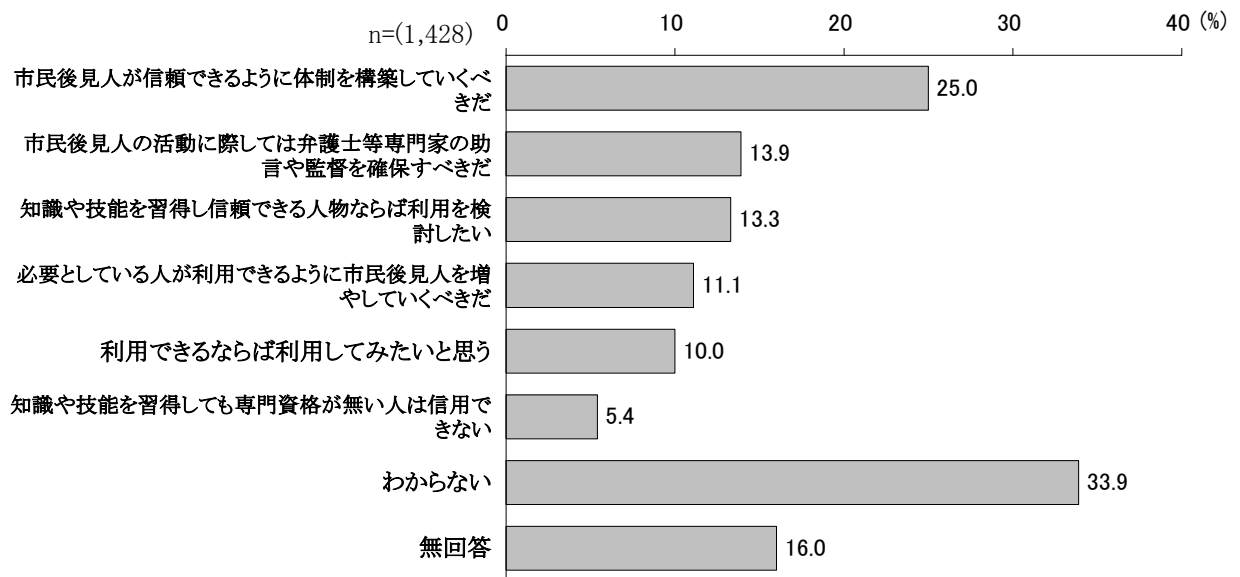




## 5 市民後見人制度のあり方に対する考え方

Q5：今後、成年後見制度を利用する方がますます増えていった場合、市民後見人を養成し、活用する仕組みが必要になっていきます。あなたは市民後見人のあり方についてどう考えますか。また、何を望みますか。（〇は2つまで）

市民後見人のあり方に対する考え方では、「市民後見人が信頼できるように体制を構築していくべきだ」が25.0%で最も多く、次いで「市民後見人の活動に際しては弁護士等専門家の助言や監督を確保すべきだ」が13.9%、「知識や技能を習得し信頼できる人物ならば利用を検討したい」が13.3%となっている。



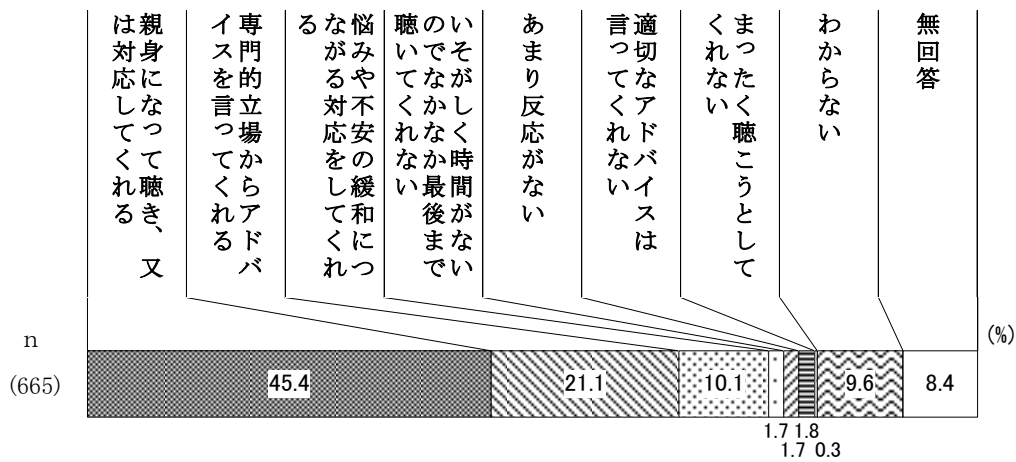
# 11 ケアマネジャーについて

【要介護1～5の方のみ】

## 1 ケアマネジャーのサービス利用に関する相談等への対応

Q1：ケアマネジャーは、あなたや家族からのサービス利用に関する相談や、日常生活の悩みや不安の訴えについてどのように対応してくれていますか。（〇は1つ）

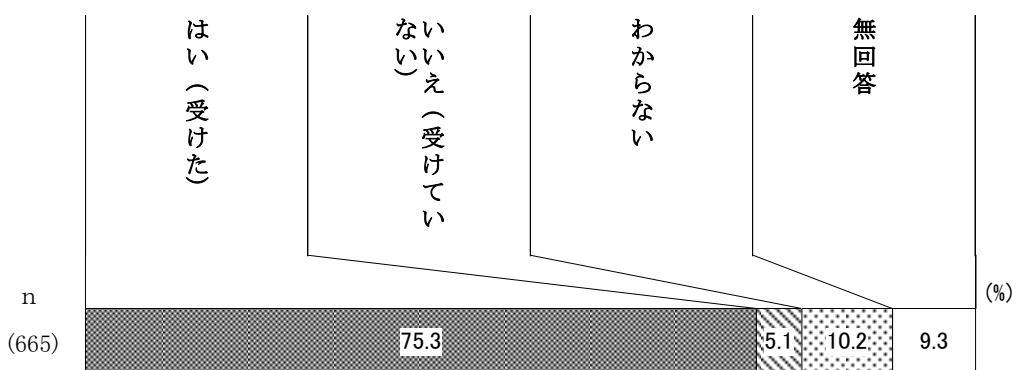
ケアマネジャーのサービス利用に関する相談等への対応は、「親身になって聴き、又は対応してくれる」が45.4%で最も多く、次いで「専門的立場からアドバイスを言ってくれる」が21.1%、「悩みや不安の緩和につながる対応をしてくれる」が10.1%となっている。



## 2 介護サービス利用決定に当たってのケアマネジャーからの提案や説明

Q2：あなたは、介護サービスの利用を決定するに当たり、ケアマネジャーから、ご自身の心身の状況や生活環境に見合った介護サービスの利用の仕方について提案や十分な説明を受けましたか。（〇は1つ）

介護サービス利用決定に当たってのケアマネジャーからの提案や説明を受けたかでは、「はい（受けた）」が75.3%で最も多くなっている。

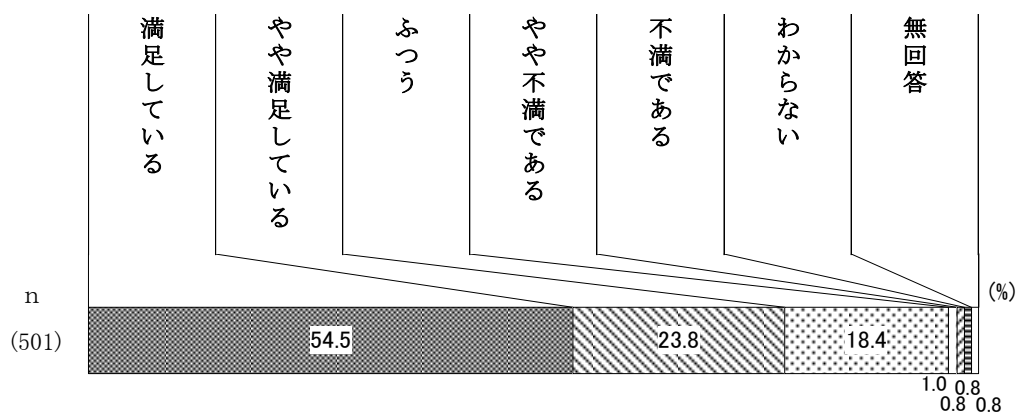


## 2-1 ケアマネジャーに対する総合的な満足度

(Q2で「1. はい(受けた)」と回答した方のみ)

Q2-1: ケアマネジャーについて、あなたの総合的な満足度を教えてください。(〇は1つ)

介護サービス利用決定に当たったケアマネジャーからの提案や説明を受けたと回答した方に、ケアマネジャーに対する総合的な満足度をたずねたところ、「満足している」が54.5%で最も多く、「やや満足している」(23.8%)を合わせた《満足している》は78.3%となる。一方、「やや不満である」(1.0%)と「不満である」(0.8%)を合わせた《不満である》は1.8%となっている。

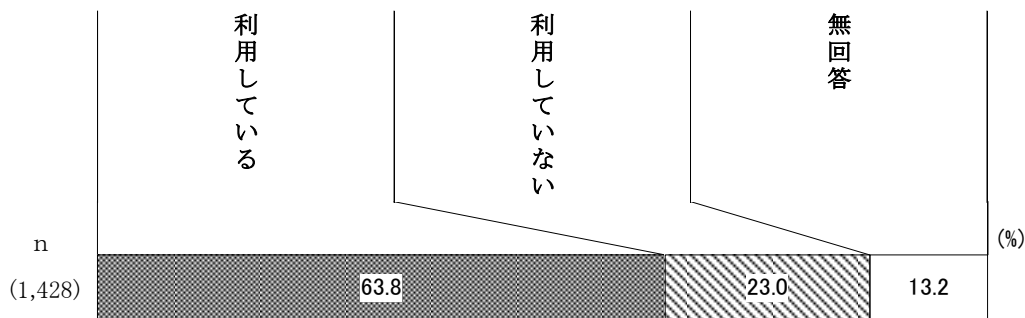


## 12 介護保険サービスについて

### 1 介護保険サービス利用状況

Q1：現在、あなたは介護保険サービスを利用していますか。（○は1つ）

介護保険サービス利用状況では、「利用している」が63.8%で、「利用していない」が23.0%となっている。

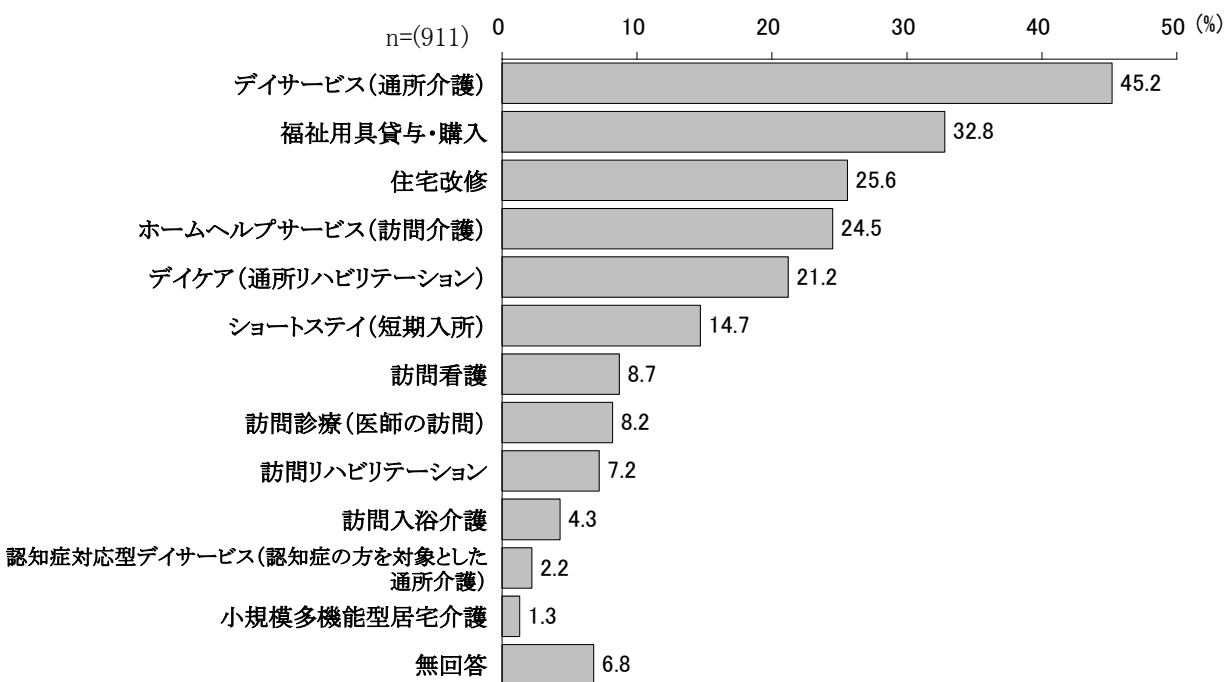


#### 1-1 現在利用しているサービス

（介護サービスを利用している方のみ）

Q1-1：現在、あなたが利用しているサービスは何ですか。（○はいくつでも）

介護サービスを利用していると回答した方に、利用しているサービスをたずねたところ、「デイサービス（通所介護）」が45.2%で最も多く、次いで「福祉用具貸与・購入」が32.8%、「住宅改修」が25.6%、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」が24.5%となっている。

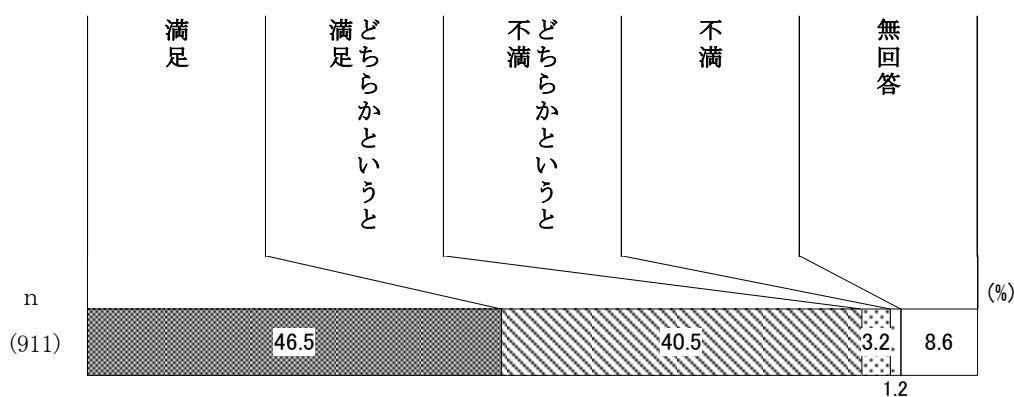


## 1-2 介護保険サービスを利用した満足度

(介護サービスを利用している方のみ)

Q1-2：介護保険サービスを利用した満足度についてお聞かせください。(〇は1つ)

介護サービスを利用していると回答した方に、利用した満足度をたずねたところ、「満足」が46.5%で最も多く、「どちらかという満足」(40.5%)を合わせた《満足》は87.0%となる。一方、「どちらかという不満」(3.2%)と「不満」(1.2%)を合わせた《不満》は4.4%となっている。

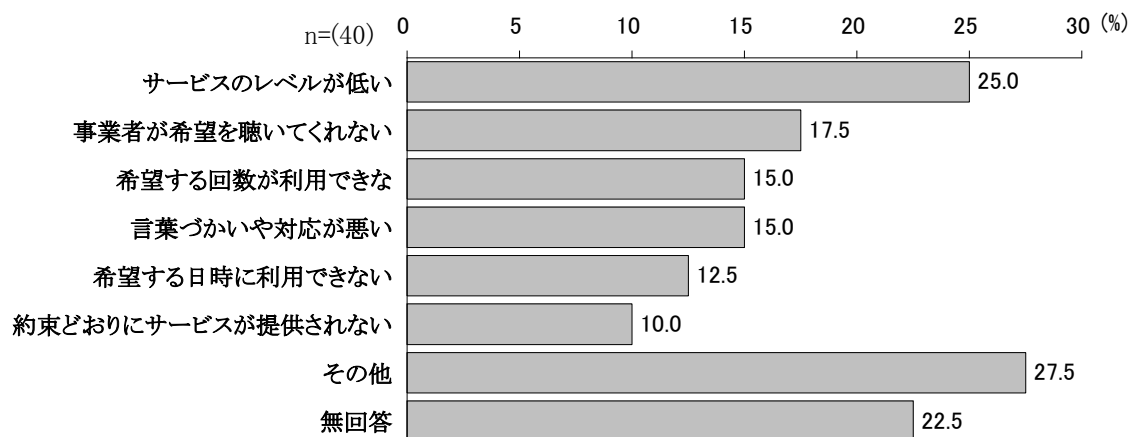


### 1-2-1 サービスの内容に不満がある原因

(介護サービスを利用して不満を感じた方のみ)

Q1-2-1：サービスの内容に不満がある原因は何ですか。(〇はいくつでも)

介護サービスを利用して不満を感じたと回答した方に、その原因をたずねたところ、「サービスのレベルが低い」が25.0%で最も多く、次いで「事業者が希望を聴いてくれない」が17.5%、「希望する回数が利用できな」と「言葉づかいや対応が悪い」がともに15.0%となっている。

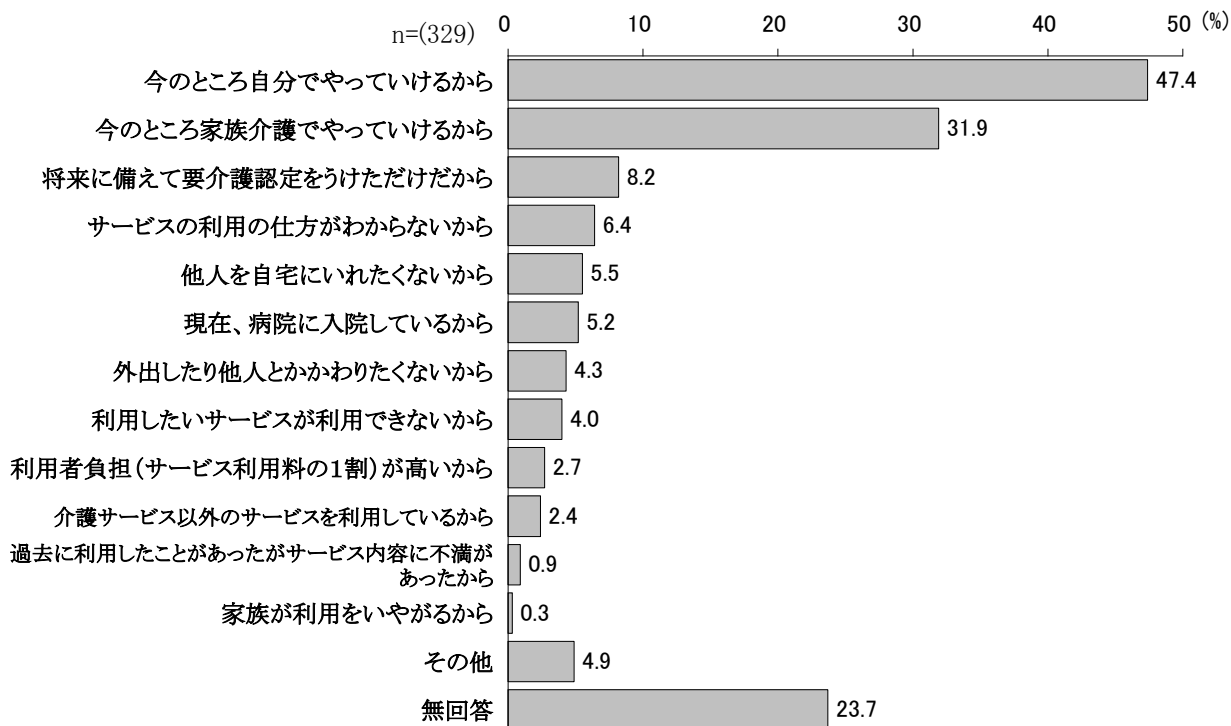


### 1-3 介護サービスを利用していない理由

(介護サービスを利用していない方のみ)

Q1-3: 介護サービスを利用していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

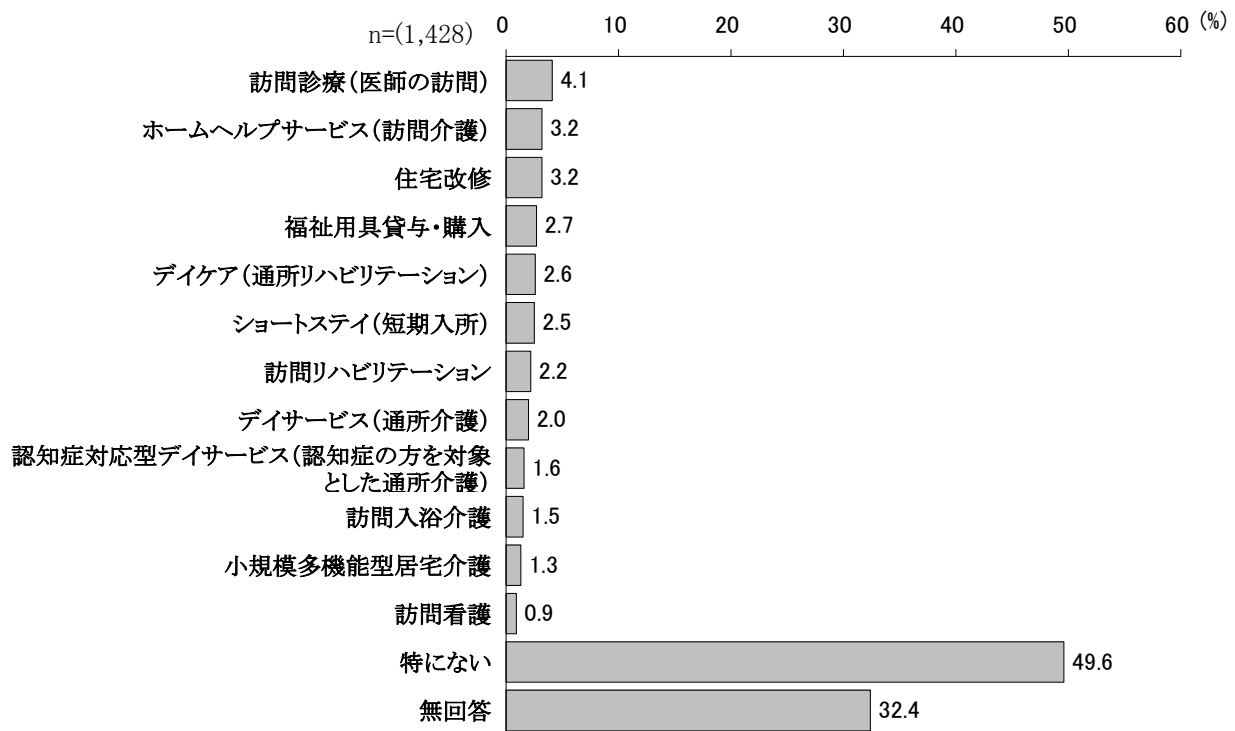
介護サービスを利用していないと回答した方に、その理由をたずねたところ、「今のところ自分でやっていけるから」が47.4%で最も多く、次いで「今のところ家族介護でやっていけるから」が31.9%となっている。



## 2 利用したいのに利用できない在宅サービス

Q2：現在、あなたが、利用したいのに利用できない在宅サービスはありますか。(〇はいくつでも)

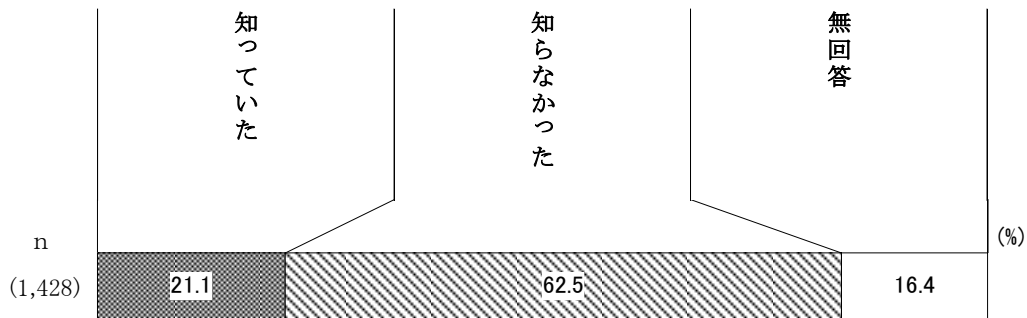
利用したいのに利用できない在宅サービスでは、「特にない」が49.6%で最も多くなっている。一方、利用できない在宅サービスとしては「訪問診療（医師の訪問）」が4.1%、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」と「住宅改修」がともに3.2%となっている。



### 3 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの認知度

Q3：あなたは、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスを知っていましたか。(〇は1つ)

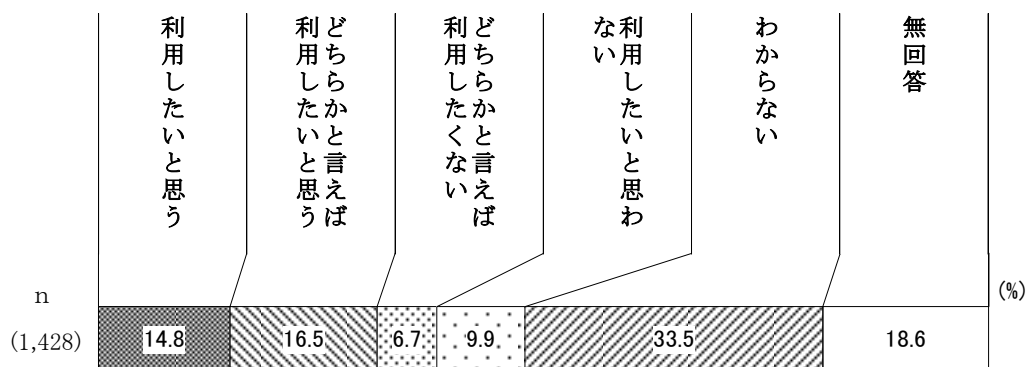
定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの認知度では、「知っていた」が21.1%で、「知らなかった」が62.5%となっている。



### 4 24時間対応型の在宅サービスの利用意向

Q4：あなたは、こうした24時間対応型の在宅サービスを利用してみたいと思いますか。(〇は1つ)

24時間対応型の在宅サービスの利用意向では、「利用したいと思う」(14.8%)と「どちらかと言えば利用したいと思う」(16.5%)を合わせた《利用したい》が31.3%となる。一方、「どちらかと言えば利用したくない」(6.7%)と「利用したいと思わない」(9.9%)を合わせた《利用したくない》は16.6%となっている

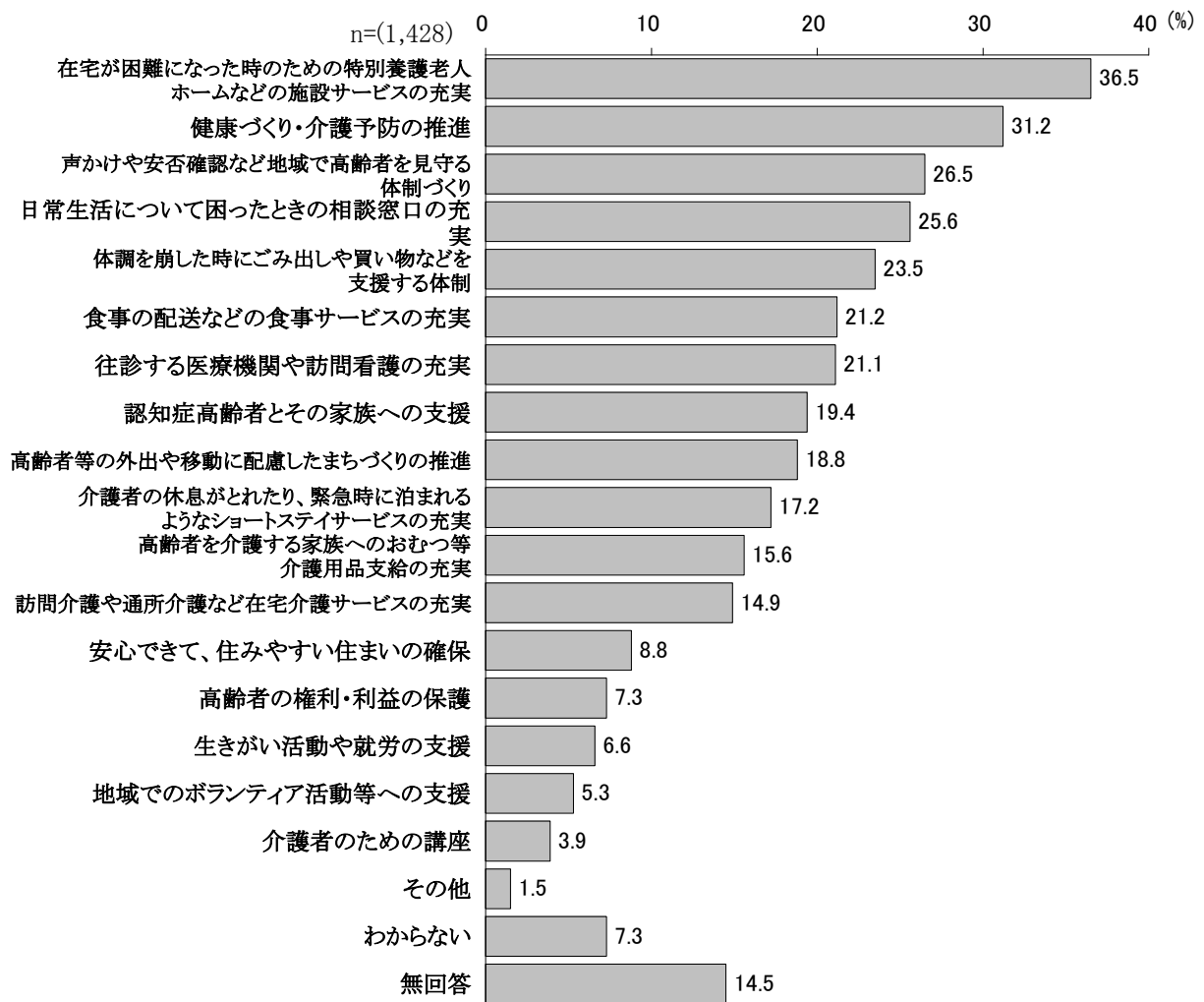




## 5 住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために特に力を入れていくべきもの

Q5：できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために、特に力を入れていくべきものはどれだと思いますか。（〇は5つまで）

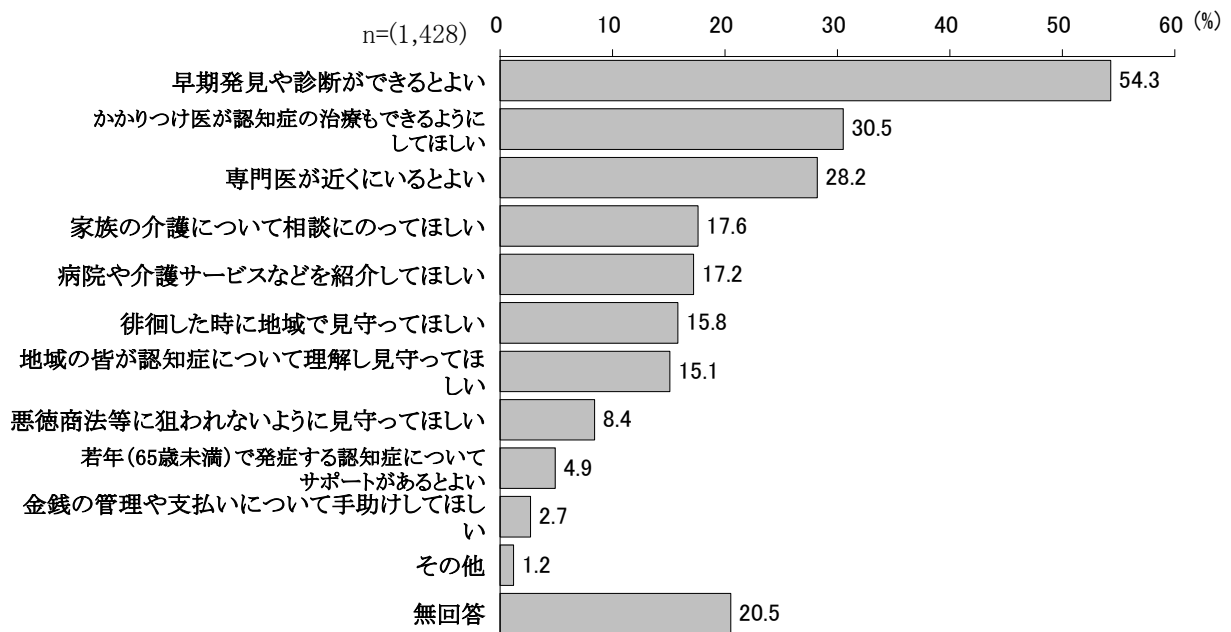
住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために特に力を入れていくべきものと思うものは、「在宅が困難になった時のための特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が36.5%で最も多く、次いで「健康づくり・介護予防の推進」が31.2%、「声かけや安否確認など地域で高齢者を見守る体制づくり」が26.5%、「日常生活について困ったときの相談窓口の充実」が25.6%、「体調を崩した時にごみ出しや買い物などを支援する体制」が23.5%となっている。



## 6 認知症対策をすすめていくうえで重点を置くべきこと

Q6：今後、認知症対策をすすめていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。（〇は3つまで）

認知症対策をすすめていくうえで重点を置くべきことでは、「早期発見や診断ができる」とよいが54.3%で最も多く、次いで「かかりつけ医が認知症の治療もできるようにしてほしい」が30.5%、「専門医が近くにいとよい」が28.2%となっている。

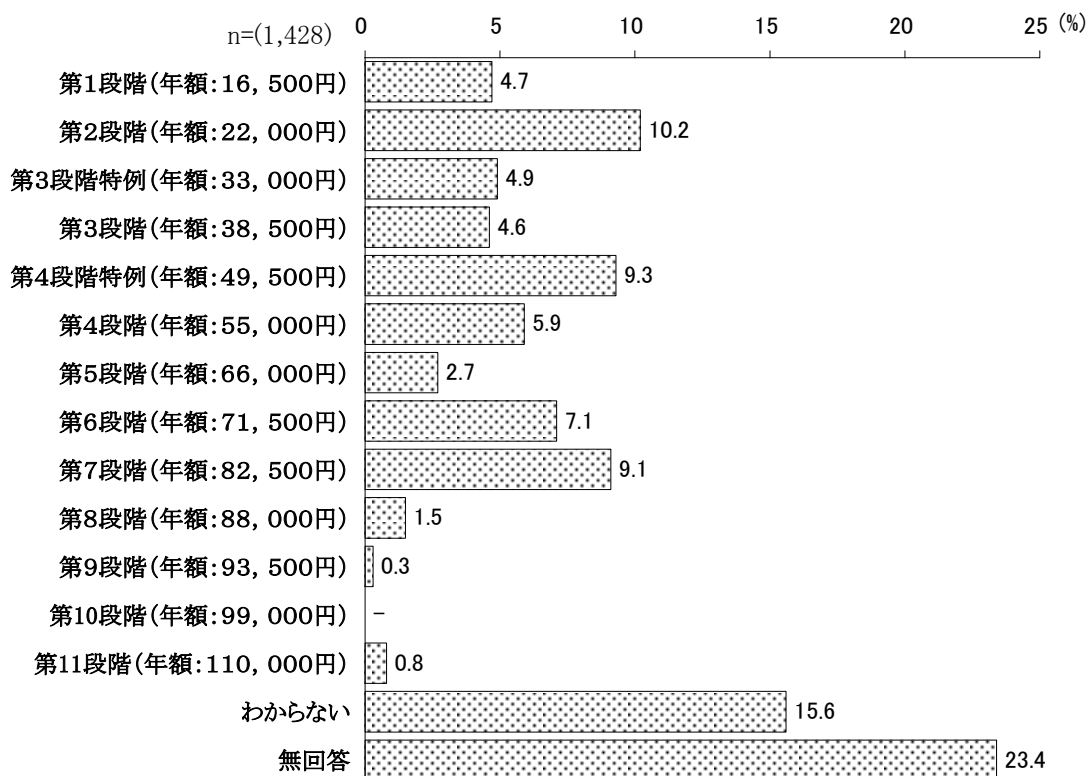


## 13 介護保険料について

### 1 介護保険料段階

Q1：あなたの介護保険料段階は次のうちどれですか。（○は1つ）

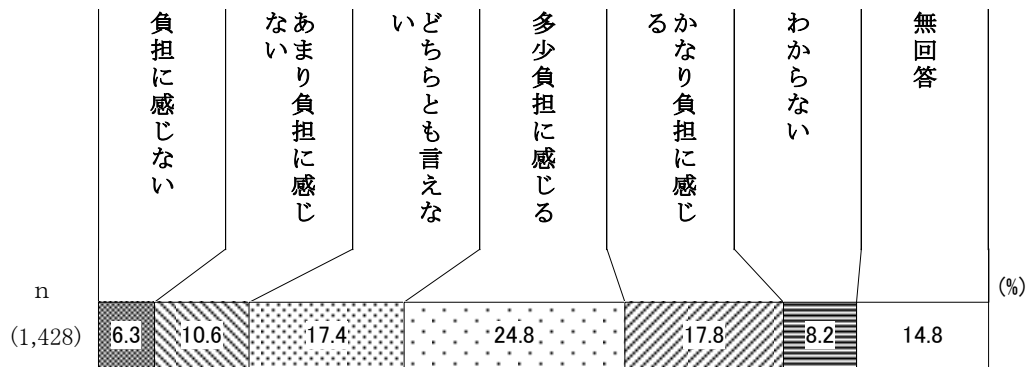
介護保険料段階では、「第2段階（年額：16,500円）」が10.2%で最も多く、次いで「第4段階（年額：49,500円）」が9.3%、「第7段階（年額：82,500円）」が9.1%となっている。



## 2 介護保険料の支払いについての感じ方

Q2：介護保険料の支払いについてどのように感じていますか。(〇は1つ)

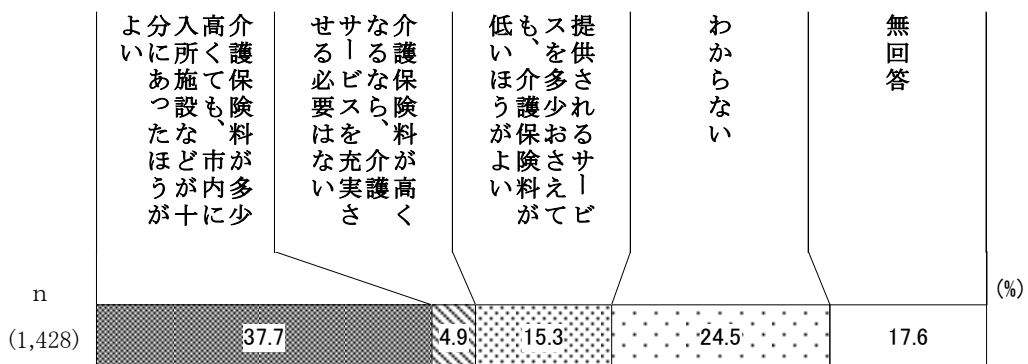
介護保険料の支払いについての感じ方では、「多少負担に感じる」が24.8%で最も多く、これに「かなり負担に感じる」(17.8%)を合わせた《負担に感じる》は42.6%となる。一方、「あまり負担に感じない」(10.6%)と「負担に感じない」(6.3%)を合わせた《負担に感じない》は16.9%となっている。



## 3 介護保険料と介護保険サービスについての考え

Q3：介護保険料と介護保険サービスについて、どのように思われますか。(〇は1つ)

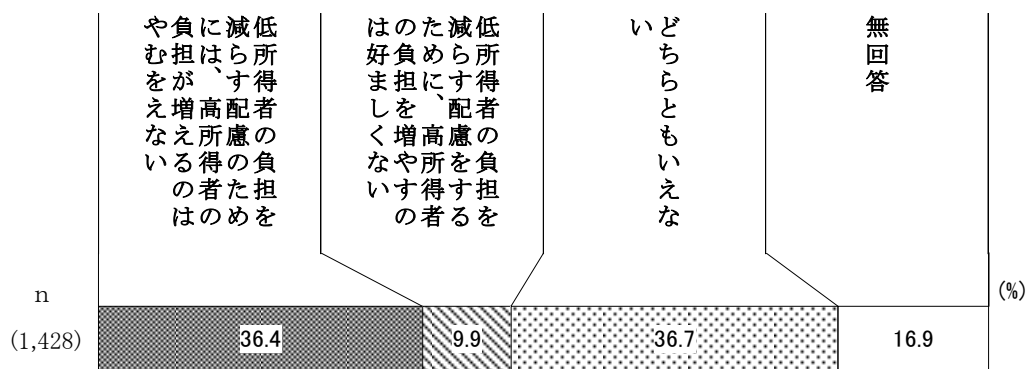
介護保険料と介護保険サービスについての考えは、「介護保険料が多少高くても、市内に入所施設などが十分にあったほうがよい」が37.7%で最も多く、次いで「わからない」が24.5%、「提供されるサービスを多少おさえても、介護保険料が低いほうがよい」が15.3%となっている。



#### 4 市の介護保険料段階のあり方についての考え

Q4：流山市では、介護保険料について、所得に応じた負担をしていただくため11段階（13区分）の保険料段階を設けています。保険料段階のあり方について、あなたはどのようにお考えですか。（〇は1つ）

市の介護保険料段階のあり方についての考えは、「どちらともいえない」が36.7%で最も多く、次いで「低所得者の負担を減らす配慮のためには、高所得者の負担が増えるのはやむをえない」が36.4%、「低所得者の負担を減らす配慮をするために、高所得者の負担を増やすのは好ましくない」が9.9%となっている。



## 14 評価項目別の結果

### 1 基本チェックリスト項目による判定

ここでは、基本チェックリストによる二次予防事業対象者の判定基準に従い、各機能のリスク該当者（判定基準に該当した方）の割合を算出している。

各機能の判定基準は、次のとおりである。（ア）～（エ）のリスクが1つでもある場合、「二次予防事業対象者」となる。

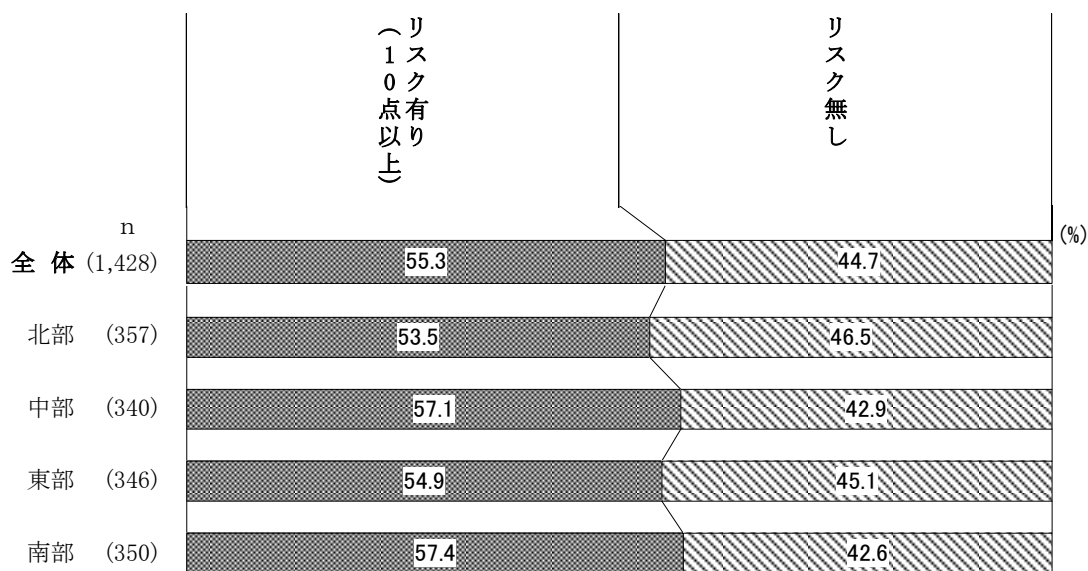
項目		配点		
1	バスや電車で、一人で外出していますか	0.はい	1.いいえ	（ア）虚弱 20項目のうち、 点数が10点以上の方
2	日用品の買い物をしていますか	0.はい	1.いいえ	
3	預貯金の出し入れをしていますか	0.はい	1.いいえ	
4	友人の家を訪ねていますか	0.はい	1.いいえ	
5	家族や友人の相談にのっていますか	0.はい	1.いいえ	
6	階段を、手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0.はい	1.いいえ	（イ）運動器の機能 低下 5項目のうち、 点数が3点以上の方
7	椅子に座った状態から、何もつかまらずに立ちあがっていますか	0.はい	1.いいえ	
8	15分くらい続けて歩いていますか	0.はい	1.いいえ	
9	この1年間に転んだことがありますか	1.はい	0.いいえ	（ウ）低栄養 2項目のうち、 点数が2点以上の方
10	転倒に対する不安は大きいですか	1.はい	0.いいえ	
11	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1.はい	0.いいえ	（エ）口腔機能の 低下 3項目のうち、 点数が2点以上の方
12	身長 _____cm , 体重 _____kg	※BMI < 18.5なら 「1.」		
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい	0.いいえ	
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい	0.いいえ	閉じこもり 1項目のうち、 点数が1点以上の方
15	口の渇きが気になりますか	1.はい	0.いいえ	
16	週に1回以上は外出していますか	0.はい	1.いいえ	認知機能の低下 3項目のうち、 点数が1点以上の方
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1.はい	0.いいえ	
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると 言われますか	1.はい	0.いいえ	
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0.はい	1.いいえ	うつ傾向 5項目のうち、 点数が2点以上の方
20	今日が何月何日かわからないときがありますか	1.はい	0.いいえ	
21	（ここ2週間） 毎日の生活に充実感がない	1.はい	0.いいえ	
22	（ここ2週間） これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなった	1.はい	0.いいえ	
23	（ここ2週間） 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	1.はい	0.いいえ	
24	（ここ2週間） 自分が役に立つ人間だとは思えない	1.はい	0.いいえ	
25	（ここ2週間） わけもなく疲れたような感じがする	1.はい	0.いいえ	

※調査の選択肢において、「できるけどしていない」、「できない」と回答したものを「1. いいえ」とした。

## 1-1 虚弱

全体では、「リスク有り（10点以上）」は55.3%となっている。

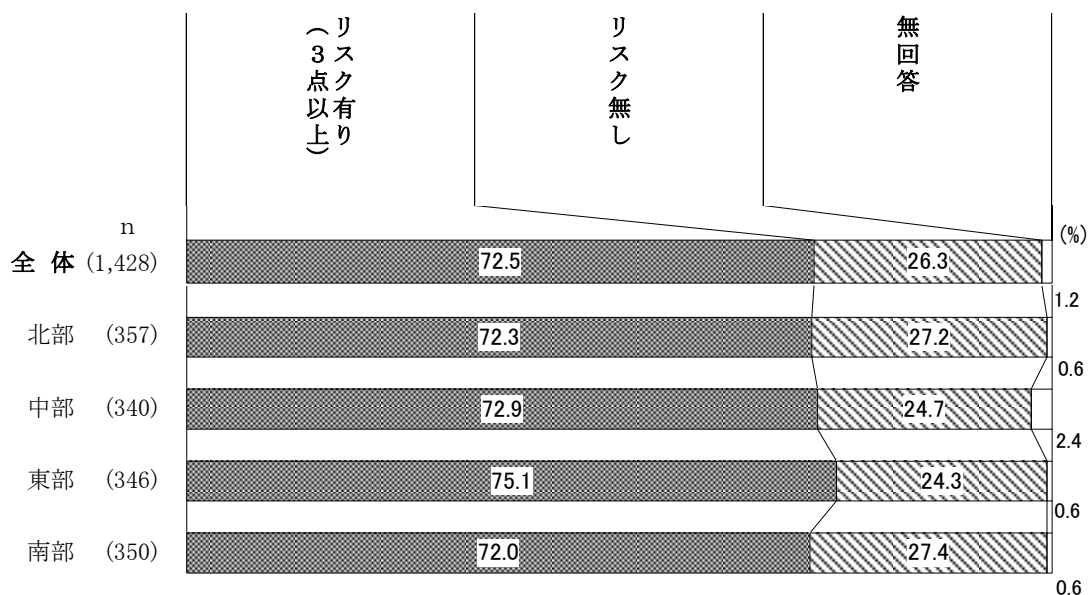
居住地区別で見ると、「リスク有り（10点以上）」は、南部（57.4%）と中部（57.1%）が、全体より高い割合となっている。



## 1-2 運動器の機能低下

全体では、「リスク有り（3点以上）」は72.5%となっている。

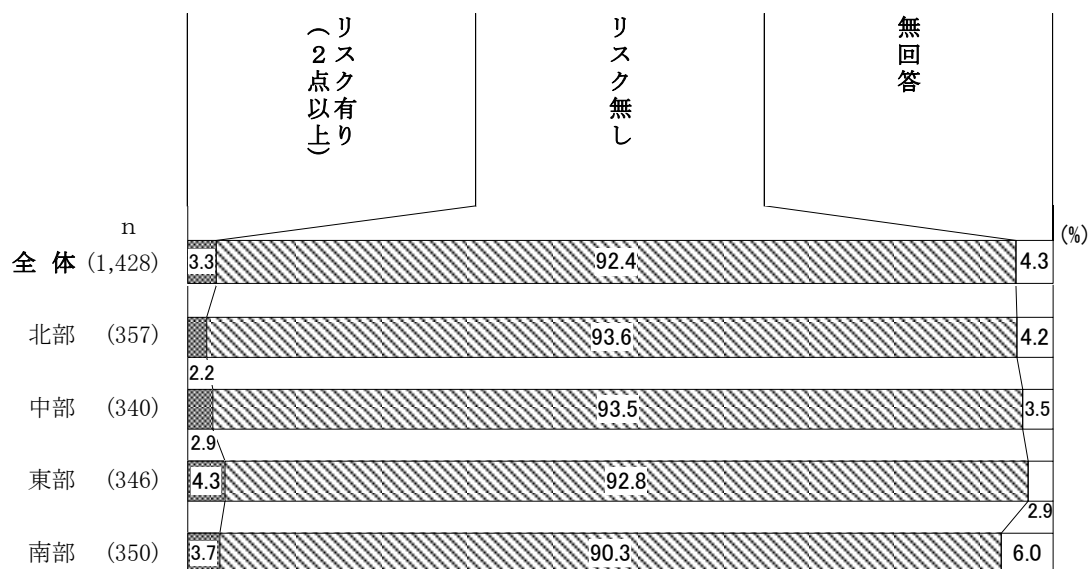
居住地区別で見ると、「リスク有り（3点以上）」は、東部（75.1%）と中部（72.9%）が、全体より高い割合となっている。



### 1-3 低栄養

全体は、「リスク有り（2点以上）」が3.3%となっている。

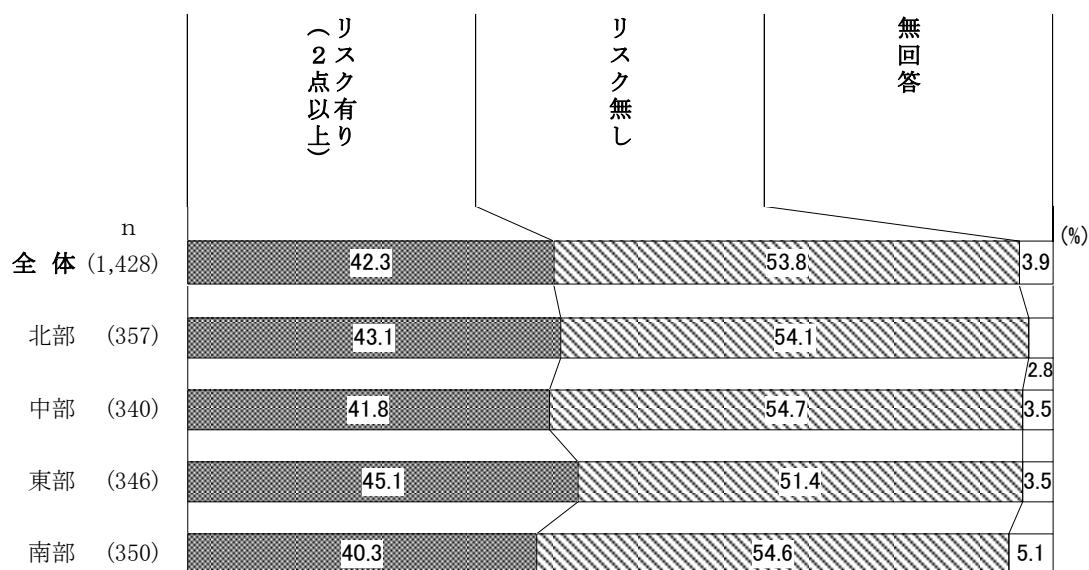
居住地区別で見ると、「リスク有り（2点以上）」は、東部（4.3%）と南部（3.7%）が、全体より高い割合となっている。



### 1-4 口腔機能の低下

全体では、「リスク有り（2点以上）」は42.3%となっている。

居住地区別で見ると、「リスク有り（2点以上）」は、東部（45.1%）と北部（42.3%）が、全体より高い割合となっている。

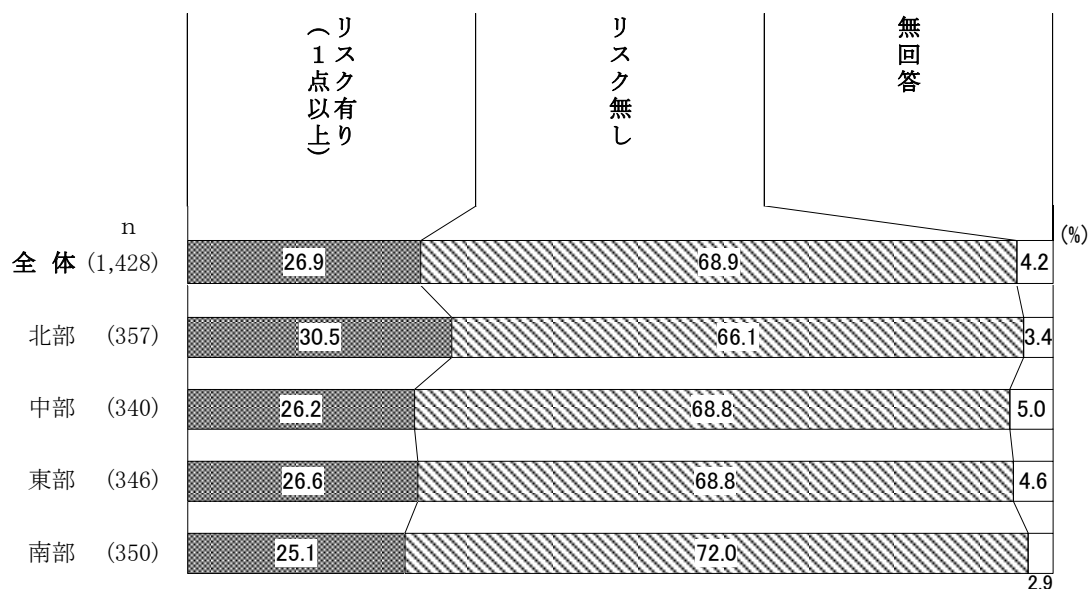




### 1-5 閉じこもり

全体では、「リスク有り（1点以上）」は26.9%となっている。

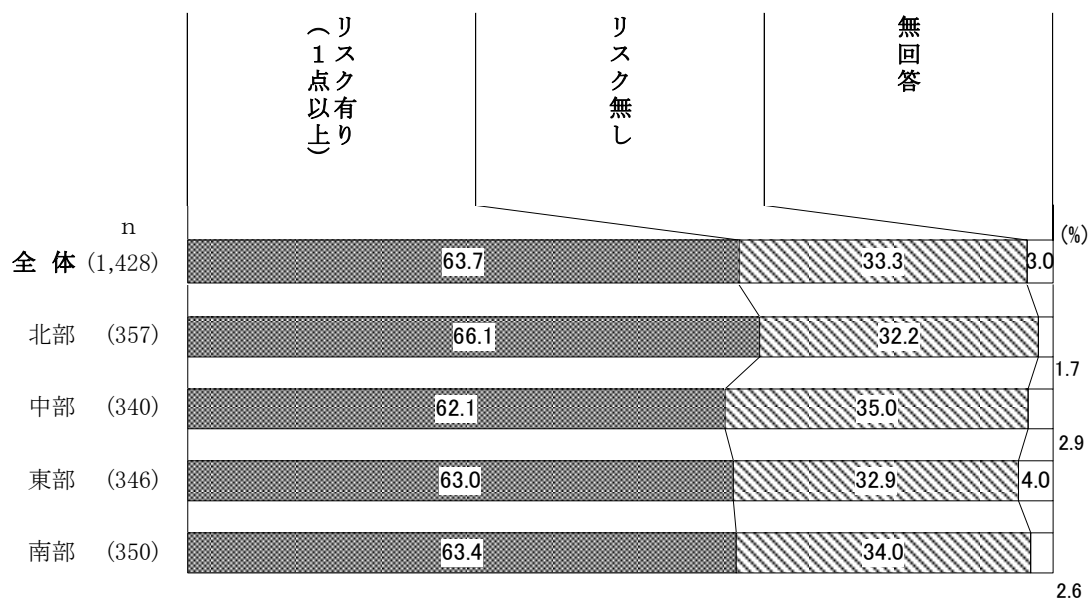
居住地区別でみると、「リスク有り（1点以上）」は、北部（30.5%）が、全体（26.9%）より高い割合となっている。



### 1-6 認知機能の低下

全体では、「リスク有り（1点以上）」は63.7%となっている。

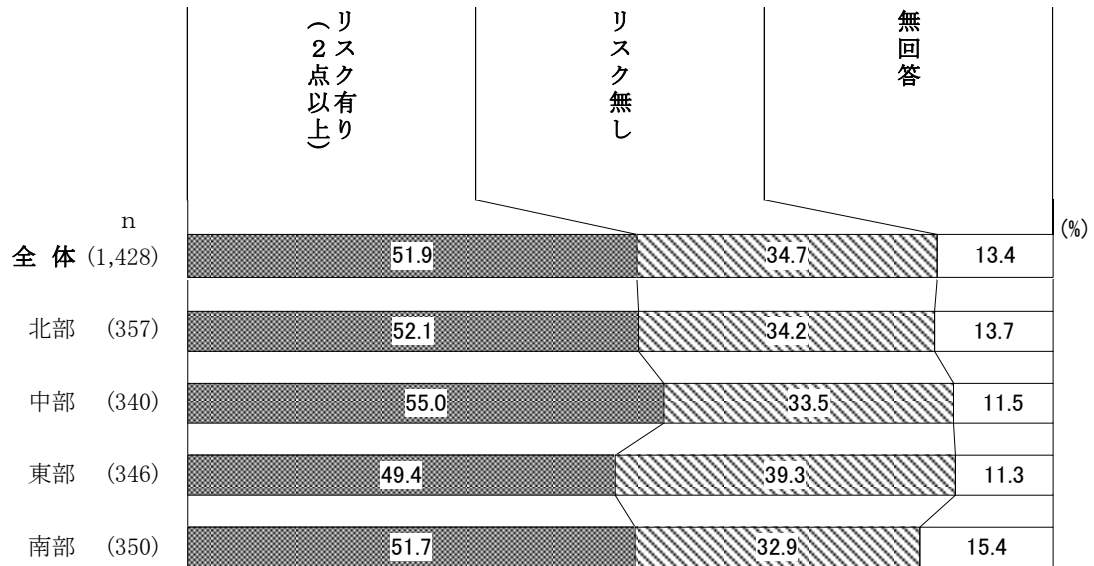
居住地区別でみると、「リスク有り（1点以上）」は、北部（66.1%）が、全体（63.7%）より高い割合となっている。



## 1-7 うつ傾向

全体では、「リスク有り（2点以上）」は51.9%となっている。

居住地区別で見ると、「リスク有り（2点以上）」は、中部（55.0%）が、全体（51.9%）より高い割合となっている。



## 2 老研式活動能力指標による評価

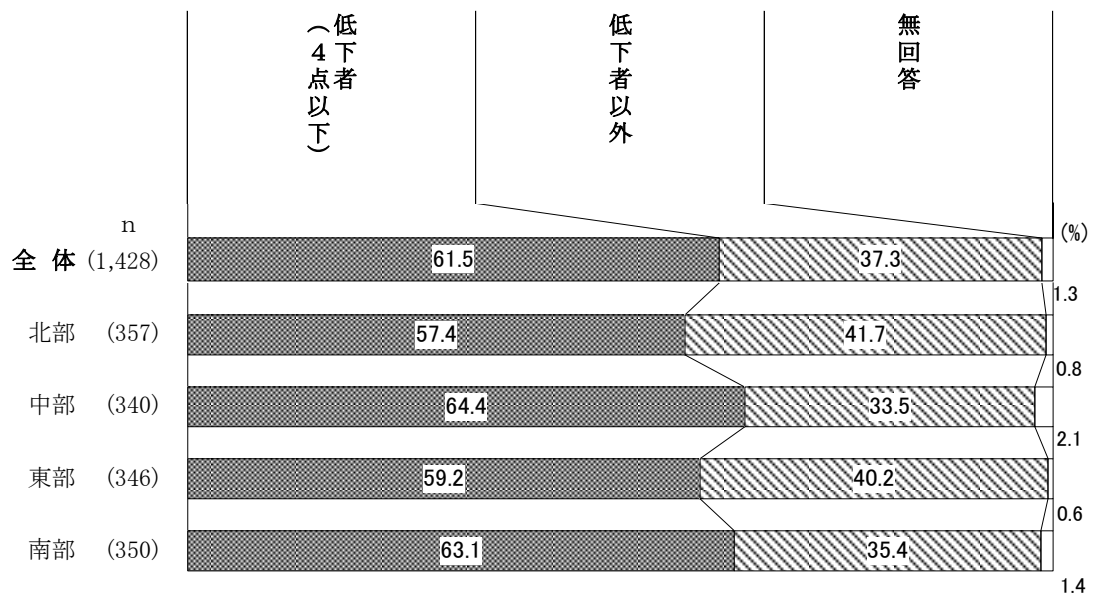
### 2-1 手段的自立

老研式活動能力指標による手段的自立度（IADL）の評価方法は、次のとおりである。なお、下表のとおり各項目の選択肢に1点または0点が設定され、5点満点中、4点以下が手段的日常生活動作の低下者となる。

項目		配点（5点満点）		
1	バスや電車で一人で外出しているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない
2	日用品の買物をしているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない
3	自分で食事の用意をしているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない
4	請求書の支払いをしているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない
5	預貯金の出し入れをしているか	1.できる	1.できるけどしていない	0.できない

全体では、「低下者（4点以下）」は61.5%となっている。

居住地区別でみると、「低下者（4点以下）」は、中部（64.4%）と南部（63.1%）が、全体より高い割合となっている。



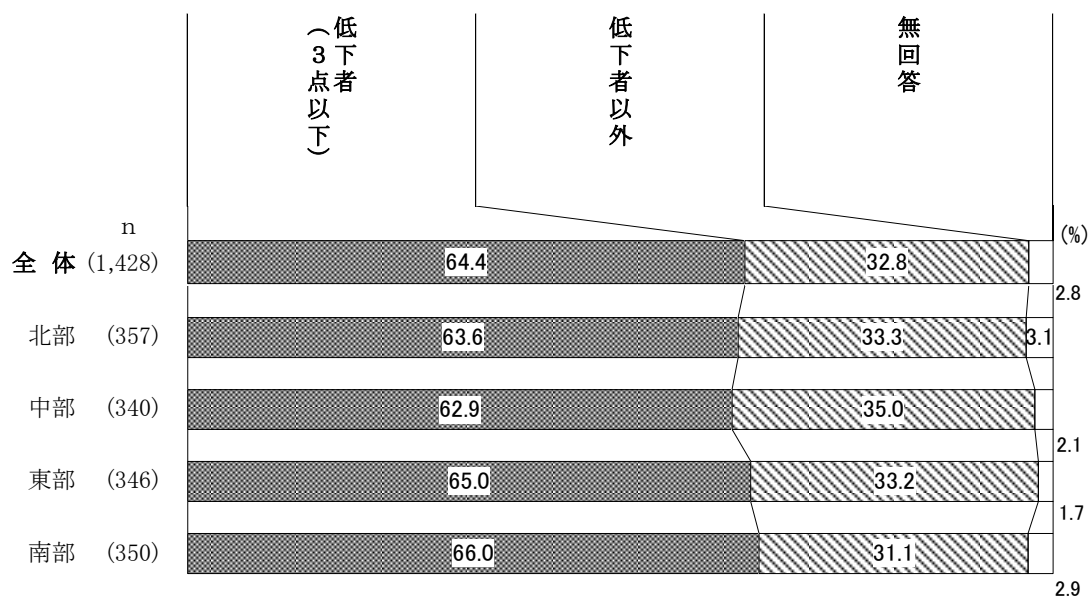
## 2-2 知的能動性

老研式活動能力指標による知的能動性の評価方法は、次のとおりである。なお、下表のとおり各項目の選択肢に1点または0点が設定され、4点満点中、3点以下が知的能動性の低下者となる。

項目		配点（4点満点）	
1	年金などの書類が書けるか	1.はい	0.いいえ
2	新聞を読んでいるか	1.はい	0.いいえ
3	本や雑誌を読んでいるか	1.はい	0.いいえ
4	健康についての記事や番組に関心があるか	1.はい	0.いいえ

全体では、「低下者（3点以下）」は64.4%となっている。

居住地区別でみると、「低下者（3点以下）」は、南部（66.0%）と東部（65.0%）が、全体より高い割合となっている。



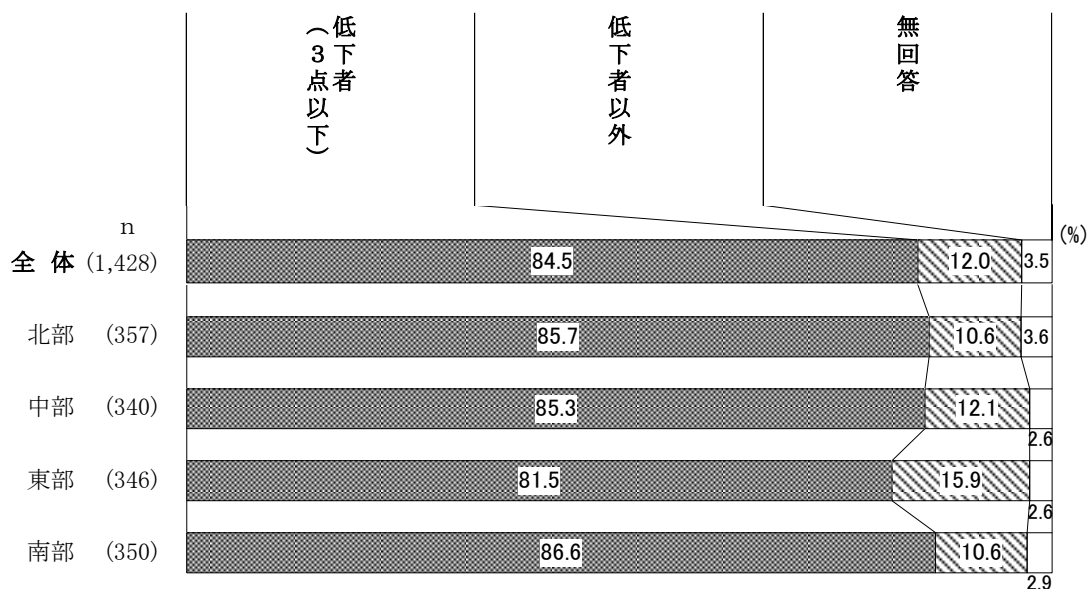
## 2-3 社会的役割

老研式活動能力指標による社会的役割の評価方法は、次のとおりである。なお、下表のとおり各項目の選択肢に1点または0点が設定され、4点満点中、3点以下が社会的役割の低下者となる。

項目		配点（4点満点）	
1	友人の家を訪ねるか	1.はい	0.いいえ
2	家族や友人の相談にのっているか	1.はい	0.いいえ
3	病人を見舞うことができるか	1.はい	0.いいえ
4	若い人に自分から話しかけることがあるか	1.はい	0.いいえ

全体では、「低下者（3点以下）」は84.5%となっている。

居住地区別でみると、「低下者（3点以下）」は、南部（86.6%）、北部（85.7%）、中部（85.3%）が、全体より高い割合となっている。



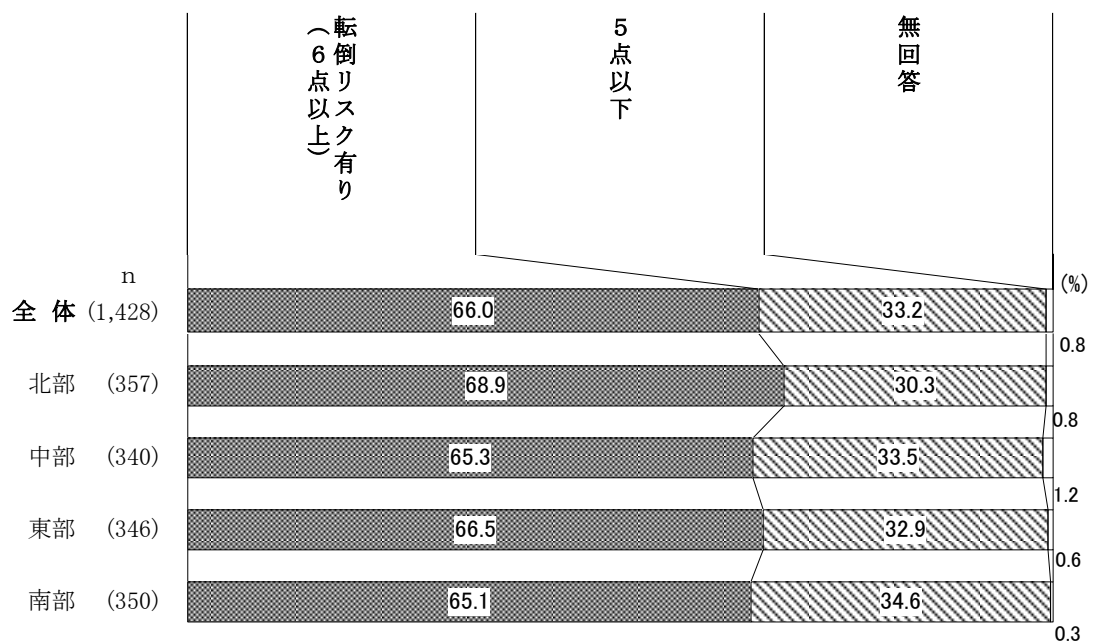
### 3 転倒リスク評価

基本チェックリストの運動器の機能低下とは別に、転倒リスクを評価した方法は、次のとおりである。なお、下表のとおり各項目の選択肢に5点、2点、0点が設定され、13点満点中、6点以下が「転倒リスク有り」となる。

項目		配点（13点満点）	
1	1年間に転んだことはあるか	5.はい	0.いいえ
2	背中が丸くなってきたか	2.はい	0.いいえ
3	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うか	2.はい	0.いいえ
4	杖を使っているか	2.はい	0.いいえ
5	医師の処方した薬の数	2.5種類以上	

全体では、「転倒リスク有り（6点以下）」は66.0%となっている。

居住地区別でみると、「転倒リスク有り（6点以下）」は、北部（68.9%）と東部（66.5%）が、全体より高い割合となっている。



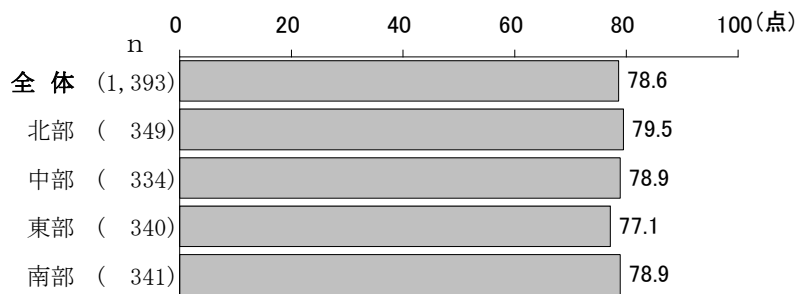
#### 4 バーセルインデックス

バーセルインデックスは、基本的な日常生活動作（ADL）を評価する方法の一つで、食事、移動、整容、トイレ、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の10項目を、それぞれ数段階の選択肢で評価するものである。下表のとおり各項目の選択肢に点数が設定されており、完全に自立している場合は10項目で100点満点となる。

項目		配点（100点満点）
1	食事は自分で食べられますか	10.できる 5.一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる 0.できない
2	寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか	15.受けない 10.一部介助があればできる 5.全面的な介助が必要 （かつ、座っていることができるか「できる」「支えが必要」） 0.全面的な介助が必要 （かつ、座っていることができるか「できない」）
	座っていることができますか	
3	自分で洗面や歯磨きができますか	5.できる 0.一部介助があればできる 0.できない
4	自分でトイレができますか	10.できる 5.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 0.できない
5	自分で入浴ができますか	5.できる 0.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 0.できない
6	50m以上歩けますか	15.できる 10.一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 0.できない
7	階段を昇り降りできますか	10.できる 5.介助があればできる 0.できない
8	自分で着替えができますか	10.できる 5.介助があればできる 0.できない
9	大便の失敗がありますか	10.ない 5.ときどきある 0.よくある
10	尿もれや尿失禁がありますか	10.ない 5.ときどきある 0.よくある

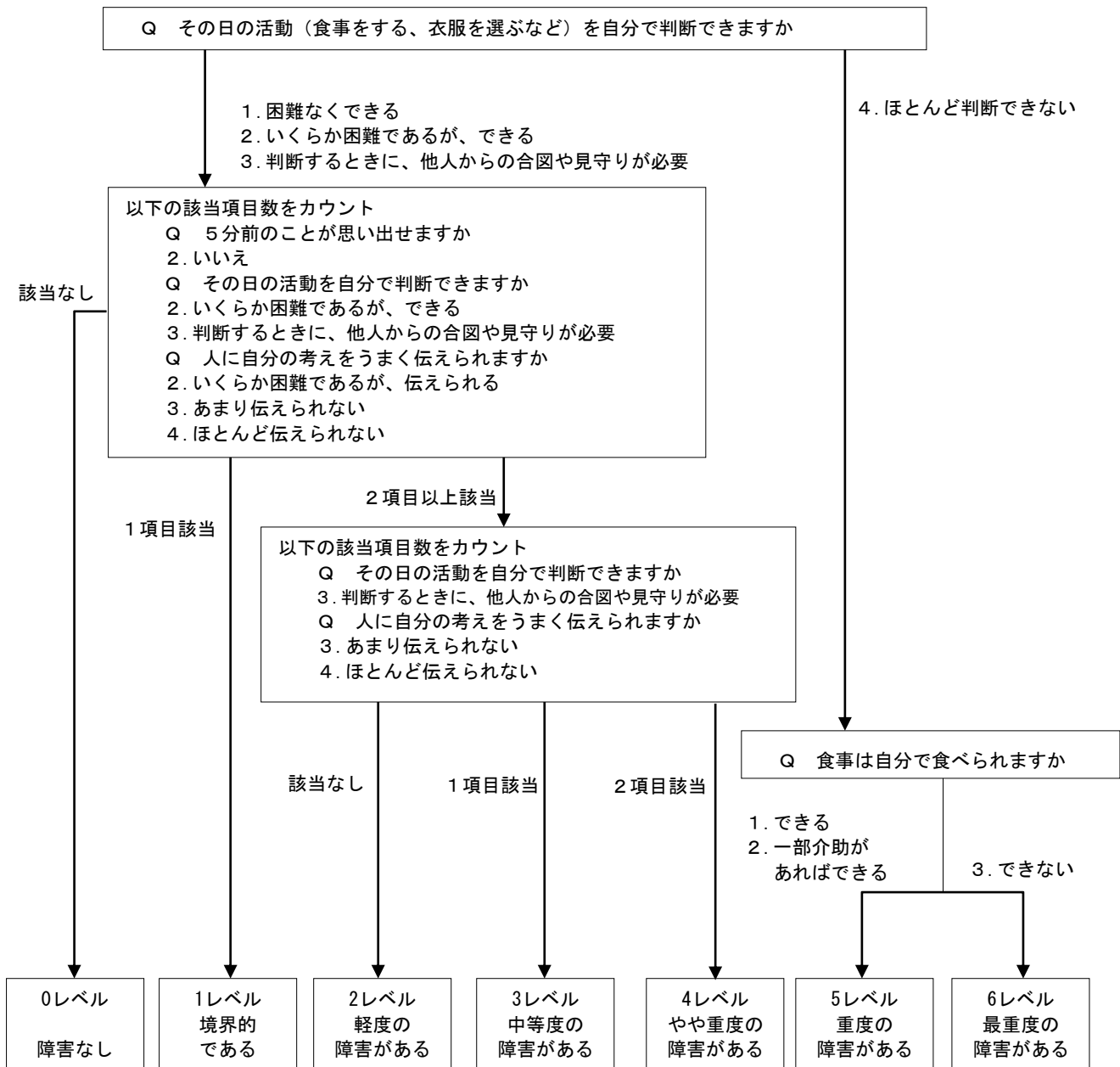
バーセルインデックスによる点数の平均は、78.6点である。

地区別では東部が他の地区に比べて77.1点と低い。



## 5 認知機能障害程度評価

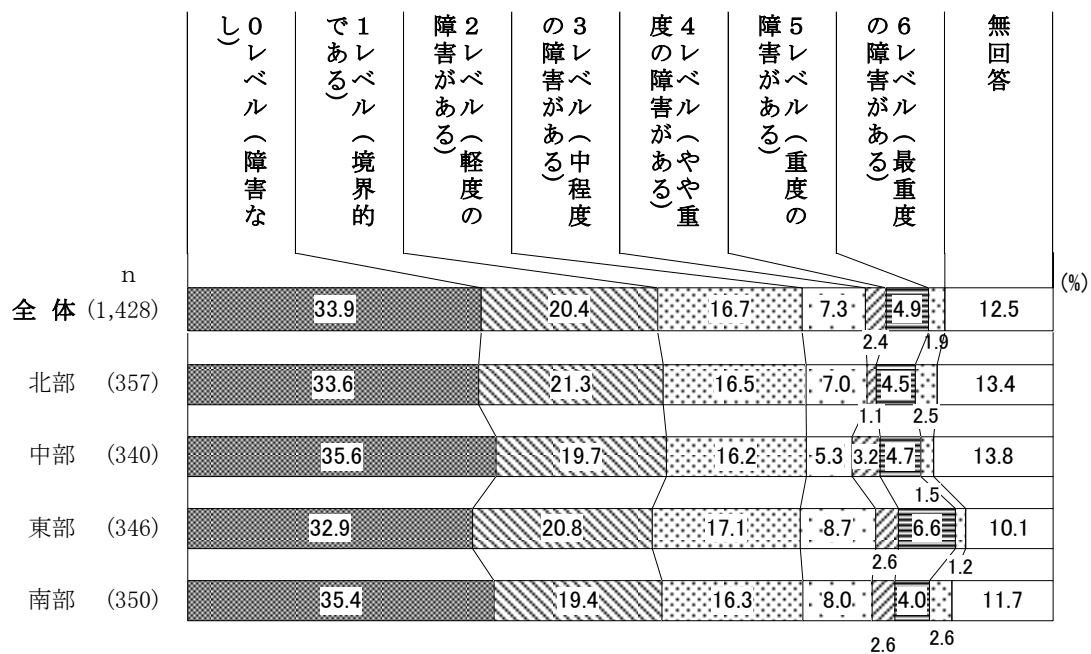
認知機能の障害程度の指標として有用とされる認知機能障害程度（C P S ; Cognitive Performance Scale）による評価方法は、次のとおりである。





全体では、認知機能障害程度評価の「0レベル（障害なし）」が33.9%となっている。

居住地区別でみると、「0レベル（障害なし）」は、中部（35.6%）と南部（35.4%）が、全体より高い割合となっている。



# 第4章 介護保険サービス提供事業者調査

## 1 事業所の概要について

### 1 事業所の概要

Q2：貴事業所の概要について記入してください。

実施事業が通所介護（デイサービス）の場合は、Q2-1にもお答えください。

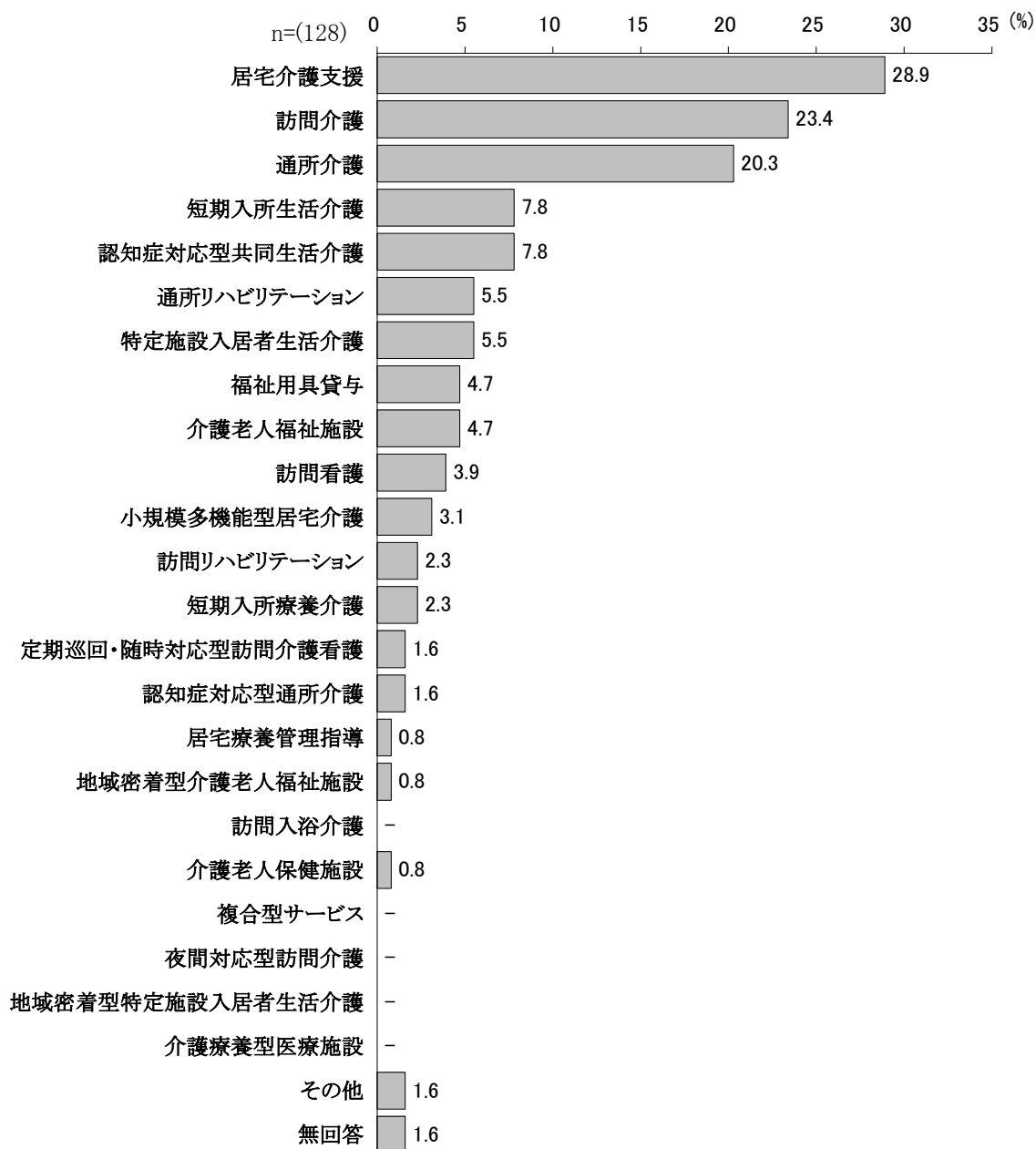
#### ①法人の種類

法人の種類では、「株式会社・有限会社」が44.5%で最も多く、次いで「社会福祉法人」が28.9%、「医療法人」と「特定非営利活動法人（NPO）」がそれぞれ10.9%となっている。



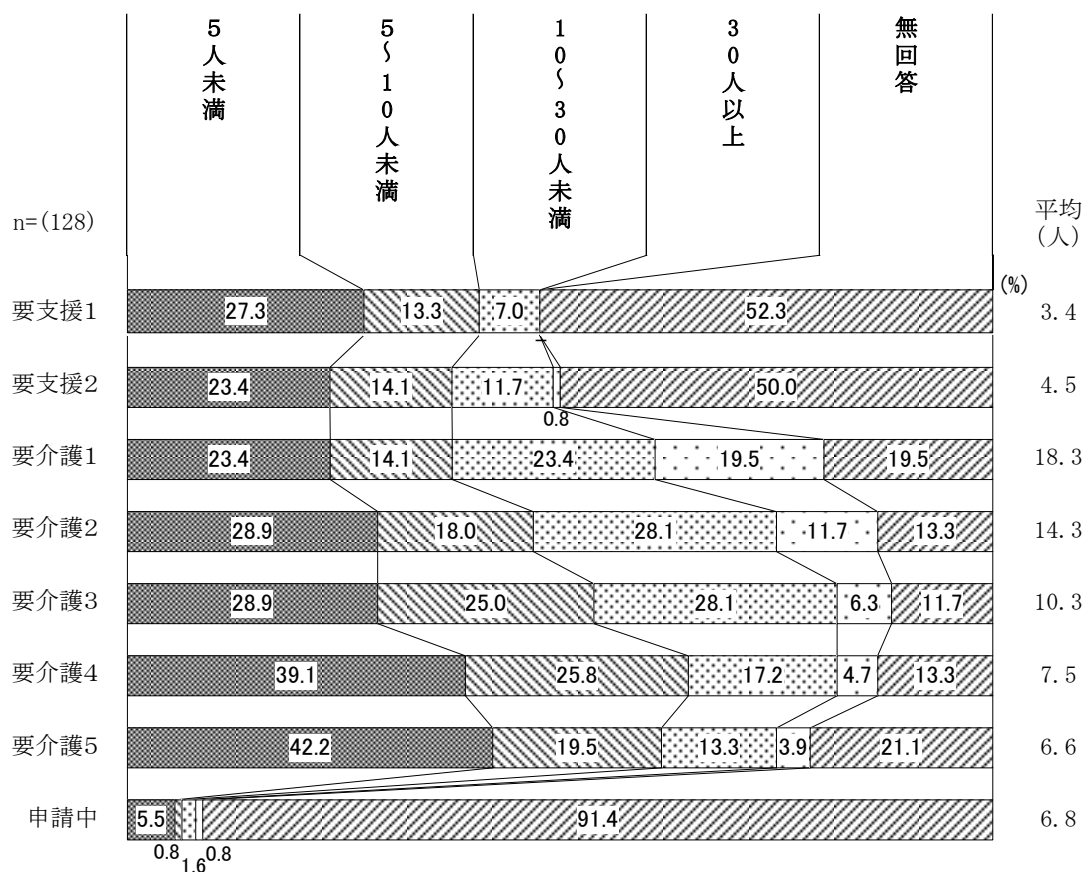
## ②実施事業

実施事業では、「居宅介護支援」が 28.9%で最も多く、次いで「訪問介護」が 23.4%、「通所介護」が 20.3%となっている。



### ③流山市の利用者数

利用者数では、「5人未満」は要介護5で42.2%、要介護4で39.1%と高い。「30人以上」は、要介護1で19.5%、要介護2で11.7%と高くなっている。また、利用者の平均人数では、要介護1が18.3人で最も多く、次いで要介護2が14.3人、要介護3が10.3人となっている。



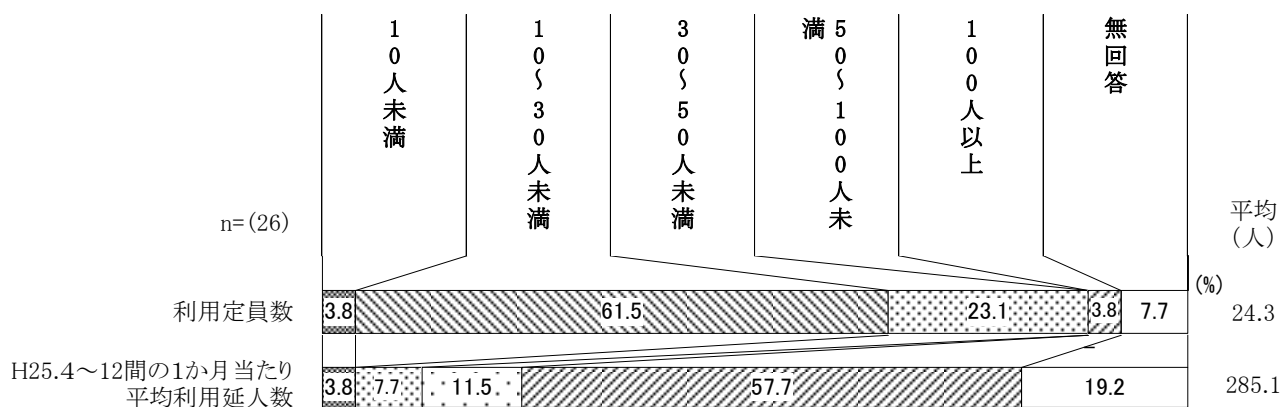
### 1-1 実施事業が通所介護を実施している場合の利用定員数と平均利用延人数

(Q2②で「6. 通所介護」と回答した事業所の方のみ)

Q2-1：貴事業所が、通所介護を実施している場合、以下に記入してください。

都道府県に届け出ている利用定員数は、「10～30人未満」が61.5%で最も多く、次いで「30～50人未満」が23.1%、「10人未満」と「100人以上」が3.8%となっている。

平成25年4月から同年12月までの間の1か月当たり平均利用延べ人数では、「100人以上」が57.7%で最も多く、「50～100人未満」が11.5%、「30～50人未満」が7.7%となっている。



## 2 事業所が提供しているサービスについて

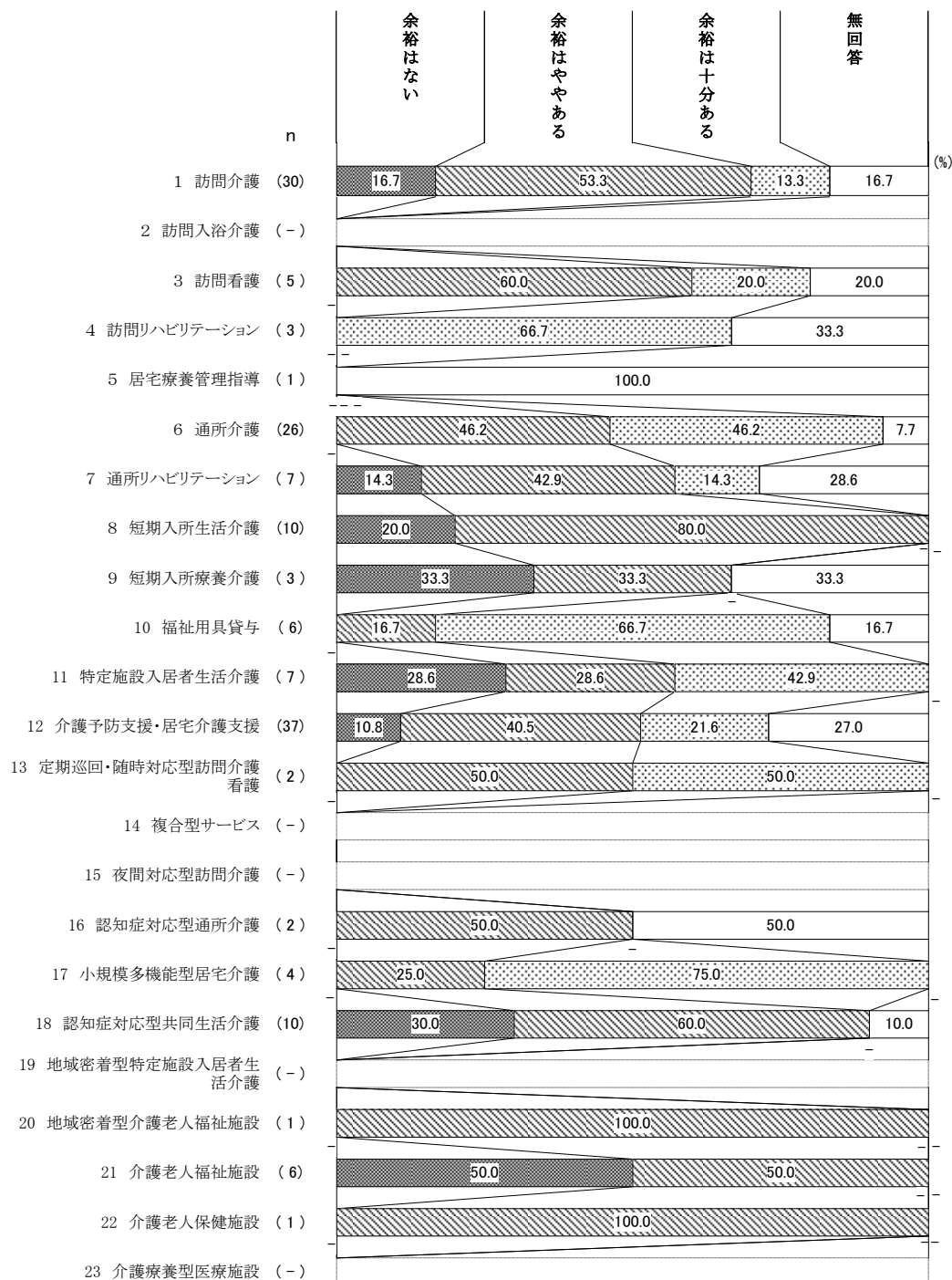
### 1 事業所が提供している介護サービスについて

Q3：貴事業所が提供している介護サービスの種類ごとに、以下の質問にお答えください。

(それぞれに○は1つ)

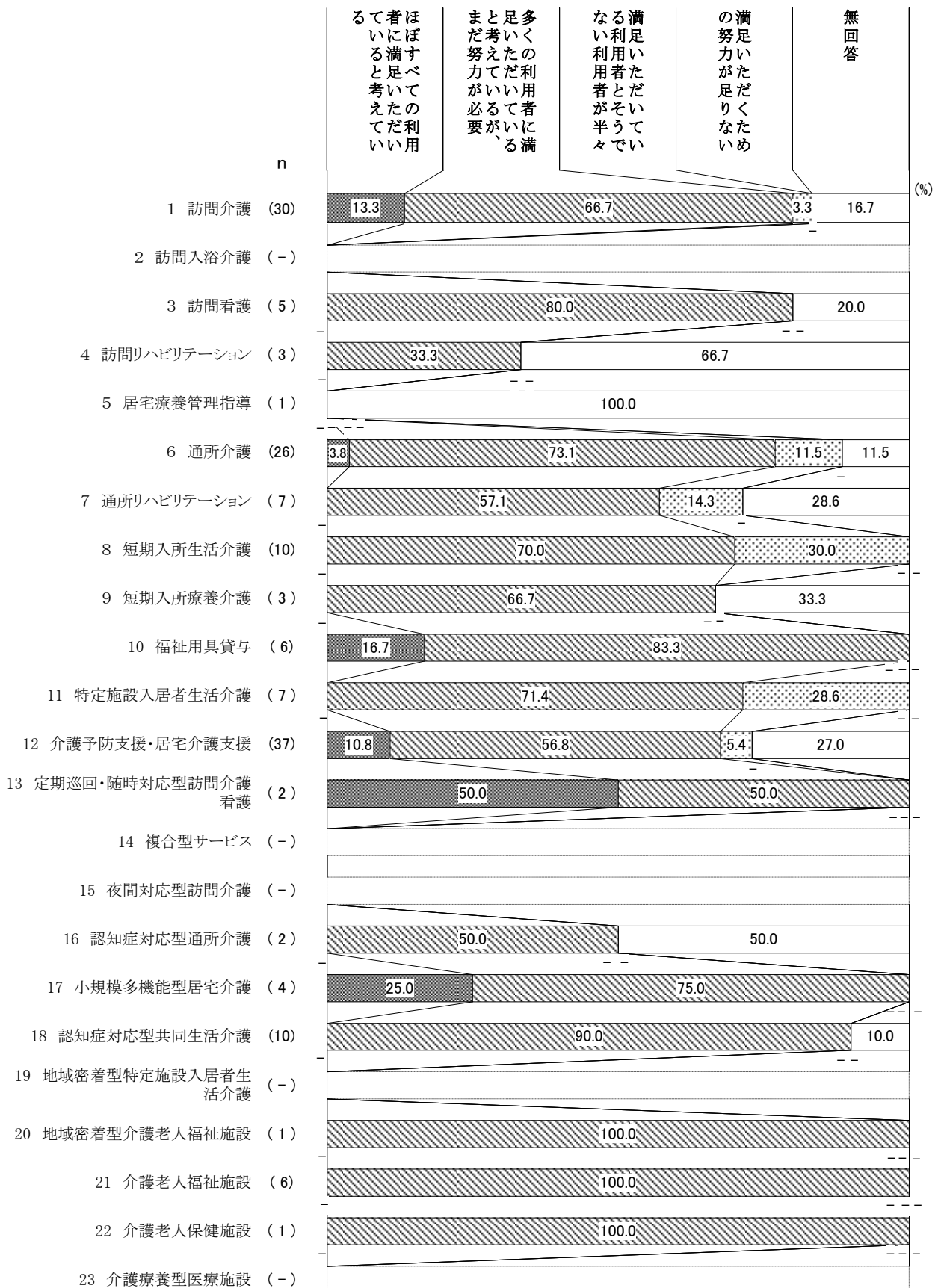
#### ■ A 利用者からの利用申込みへの対応

※nの数が少ないことから、参考として図示する。



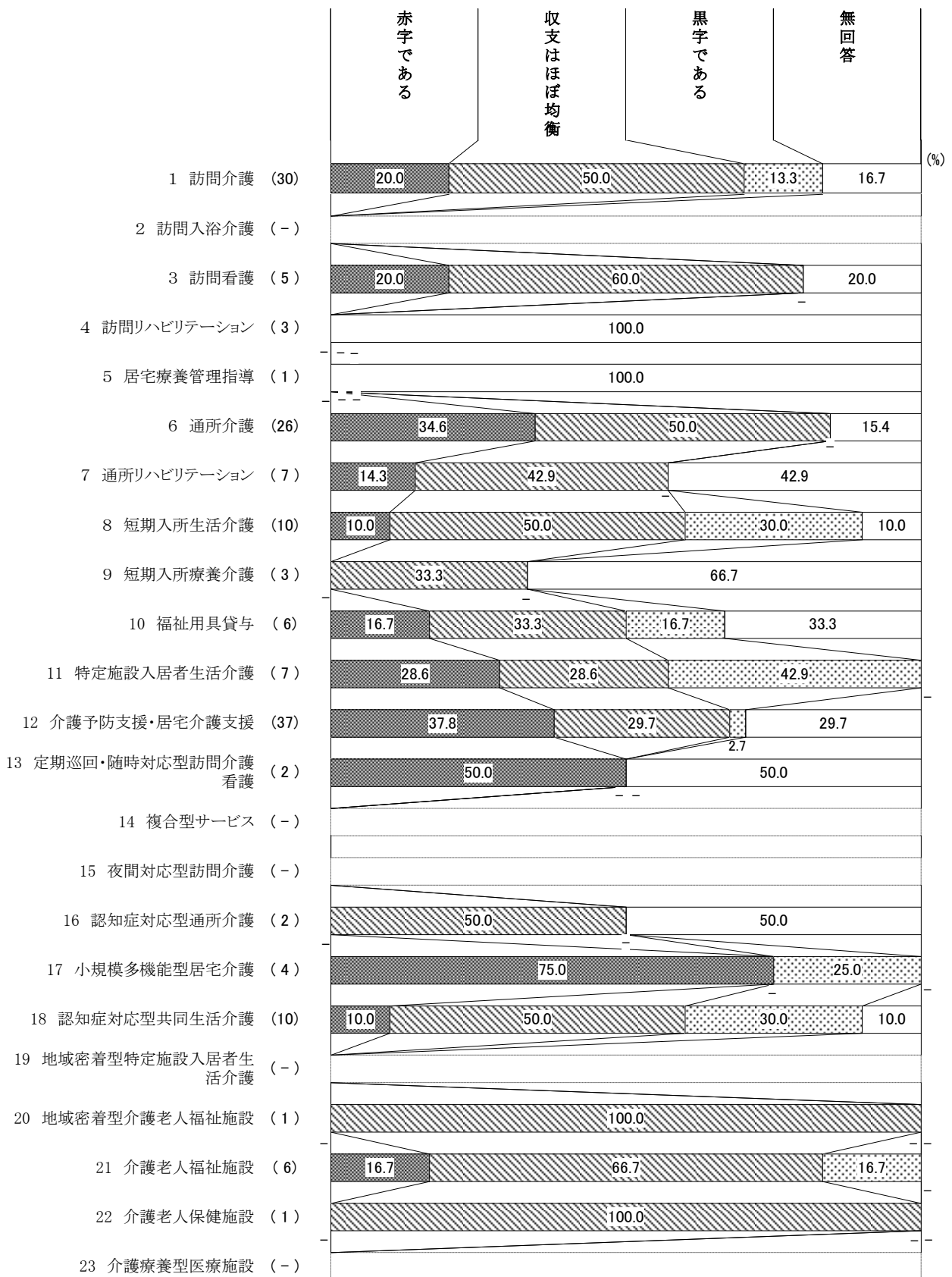
## ■ B 利用者のサービスの満足度（自己評価）

※nの数が少ないことから、参考として図示する。



## ■ C 事業所（施設）の収支状況

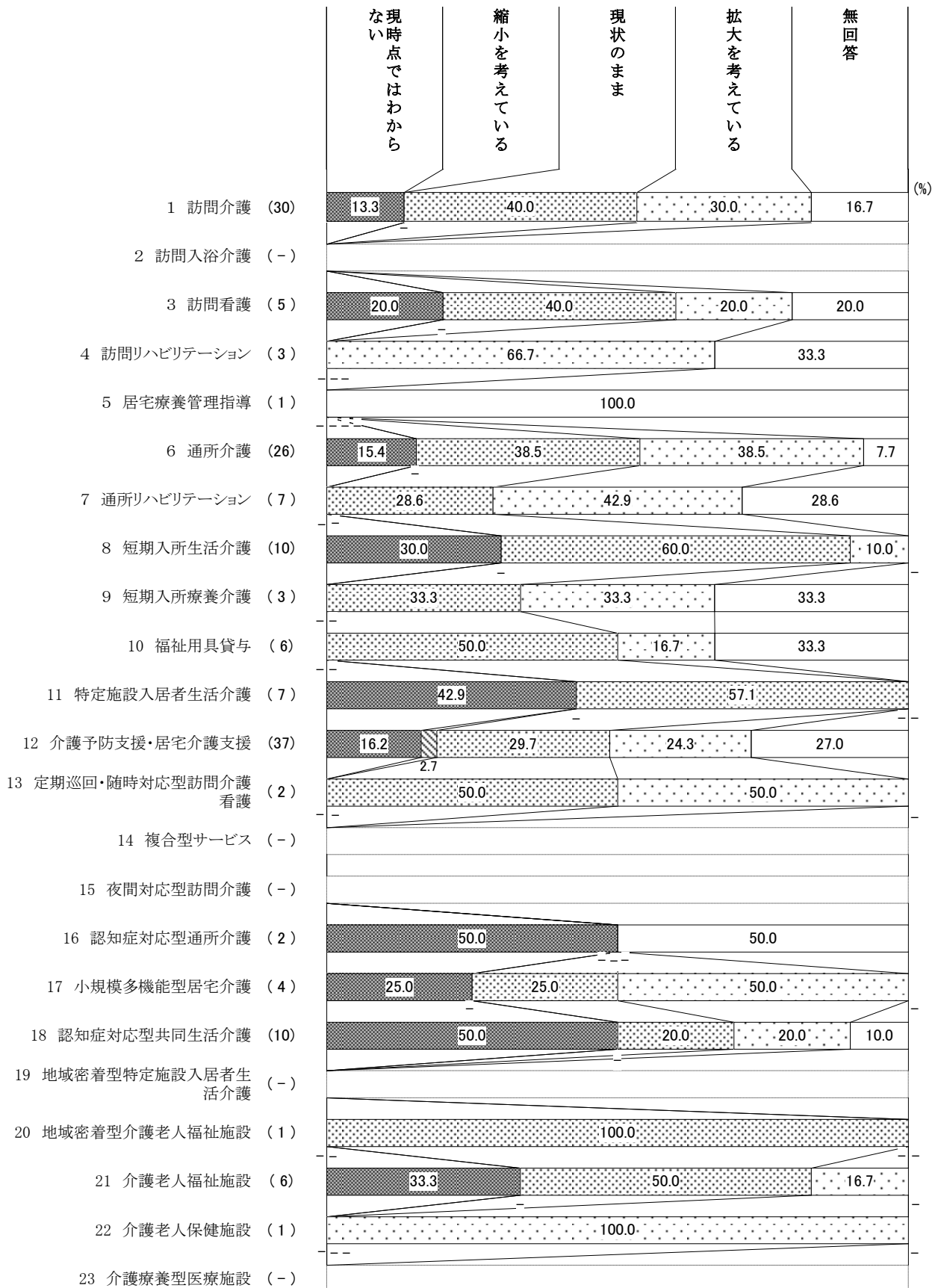
※nの数が少ないことから、参考として図示する。





## ■ D 今後の事業展開

※nの数が少ないことから、参考として図示する。



### 3 今後の介護保険サービスの事業予定について

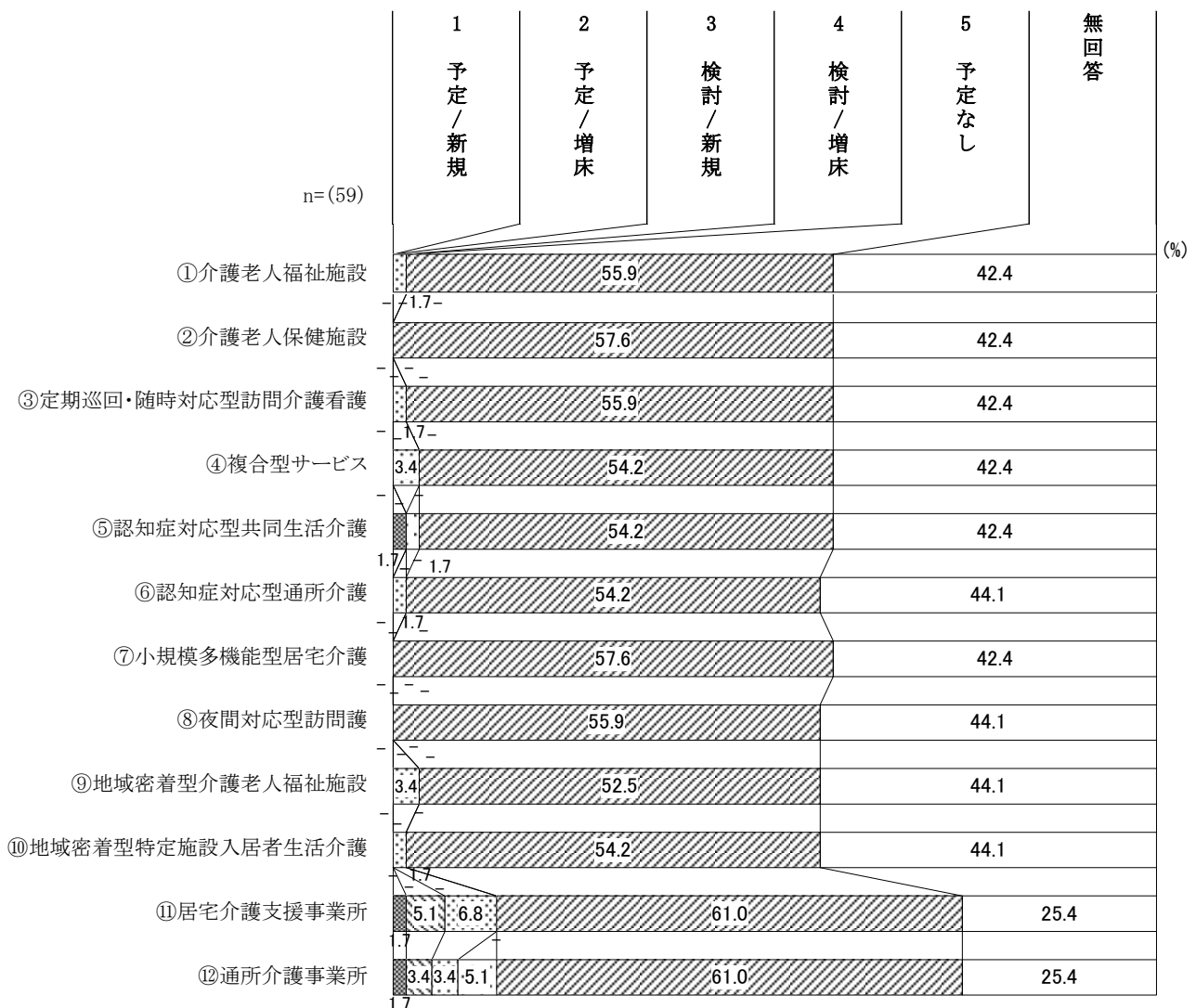
#### 1 事業所における各サービスの今後の予定

Q4：貴事業所では、以下に掲げるサービス等のうち、流山市をサービス提供地域として、今後、新たに実施する予定若しくは検討、既存施設の増床の予定若しくは検討又は既提供サービスの拡大（事業所の増設、定員数の増員など）の予定若しくは検討をしているものがありますか。

（各サービスについて〇は1つ）

\* 「予定」・「検討中」の場合は、新規・増床・拡大の種別もお答えください。

※すべての施設における回答率が5割に満たないためコメントは省略。



<b>⑫通所介護事業所</b>  ＊要介護１～要介護５の認定者を対象とした通所介護としてお答えください。	予定している	検討中	５．今のところ 予定はない
	１．新規 ２．増床	３．新規 ４．増床	
	＊新規又は拡大（検討中含む）を選択した場合、下欄に、 予定・検討している利用定員数を記入してください（明らかでない場合は、「未定」と記入）。		

通所介護事業所の新規・拡大提供を予定している又は検討している８事業所（＝法人）に利用予定人数をうかがったところ、６事業所（＝法人）から具体的な人数の回答が得られた。

利用予定人数	事業所 （法人）数
１８人	１件
２０人	２件
２５人	２件
３５人	１件
無回答	２件

(Q4で「予定している」又は「検討中」のいずれかを選択した事業所の方のみ)

Q4-1: その開設(増床等)の時期や場所、方向性などについて、現在の進捗状況、検討状況を可能な限り具体的に教えて下さい。

法人	事業所	サービス区分	予定有・検討の区分 新規・増床	開設(増床等)の時期や場所、方向性などについて、現在の進捗状況、検討状況
1		①介護老人福祉施設	検討中-新規	〇〇〇周辺にてH27年頃の開設を考えておりますので、市からの情報提供をお待ちしている状態です。又、GH以外にも特養、ミニ特養など市のニーズに合わせた必要なサービス提供を一番に考え、取り組んでいく用意をしております。
		⑤認知症対応型共同生活介護	予定有-新規	
2		⑪居宅介護支援事業所	検討中-新規	・居宅支援→時期: 26年度下期/場所: 〇〇〇/ 進捗: 収支等含め検討中 ・通所介護→時期: 26年6月/進捗: 人材採用準備中
		⑫通所介護事業所	検討中-増床	
3		③定期巡回・随時対応型訪問介護看護	検討中-新規	〇〇〇が△△年△△月に移転を予定しており、その後〇〇〇のスペースが空くので、そこにおける複合的な医療と介護の事業を検討しています。当院におけるこれまでの活動の中で、様々な理由で困難なケースが多数あります。その方々はどんなサービスがあれば、在宅で長く暮らすことができるのだろうか、という視点で事業内容を検討しています。 認知症対応につきましても、在宅の医師と精神科医師との連携を強めたシステムづくりを検討中です。又、退院直後の医療依存度の高い方々にも安心して在宅で療養できるようなサービス体系を構築していくことを念頭に検討しています。具体的には上記サービスについて、それぞれ検討しており、時期としましては病院移転後、速やかに改修し、できるだけ早い段階で2016年度中には開設したい。
		④複合型サービス	検討中-新規	
		⑥認知症対応型通所介護	検討中-新規	
		⑨地域密着型介護老人福祉施設	検討中-新規	
		⑩地域密着型特定施設入居者生活介護	検討中-新規	
		⑫通所介護事業所	検討中-新規	
4	a	④複合型サービス	検討中-新規	平成27年~28年に向けて通所サービスを拡げたい。本体の老健が在宅復帰強化型(在宅復帰率50%以上)を目指しているため(26年度中達成予定)、利用者家族のフォローアップを考えている。サテライトデイケアが認められれば、リハビリ専門の短時間(1~2h)デイケアを行いたい。要介護及び要支援からの脱却(卒業)を推進していきたい。リハビリ強化型デイもしくはクリニックデイ。
		⑫通所介護事業所	検討中-新規	
	b	④複合型サービス	検討中-新規	平成27~28年にリハビリ特化型の通所系サービスを行いたい。在宅復帰強化型(在宅復帰率50%)から在住に帰った利用者をフォローアップできる在宅生活を継続できる施設を考えていきたい。そのために短時間リハ(デイケア又はデイサービス)にて機能維持をしていきたい。住宅型(サ付)又はサテライトもあればよいと思う。サテライトがあればショートを使って支えていけるので。
		⑫通所介護事業所	検討中-新規	
	c	④複合型サービス	検討中-新規	老健本体のショートステイが不足していると感じています。ニーズはあるので、場所や複合型として事業展開することを検討しています。
		⑫通所介護事業所	検討中-新規	
d		⑪居宅介護支援事業所	検討中-新規	27年度 サテライトもしくはサ付に付随

法人	事業所	サービス区分	予定有・検討の区分 新規・増床	開設（増床等）の時期や場所、方向性などについて、現在の進捗状況、検討状況
6	⑫通所介護事業所	予定有－増床	〇〇〇を借りることができれば、6月を目途に開設を予定。借りられない場合、現在の施設を拡充し、今年中に定員増を予定。	
7	⑪居宅介護支援事業所	予定有－新規	4月1日開設に向け準備中。当事業所内にて開設予定。	
8	⑫通所介護事業所	検討中－増床	H26. 4～6月あたりで定員増（15人→18人）を検討しています。	
9	⑫通所介護事業所	検討中－増床	職員体制、お客様ニーズを見て検討して参ります。	
10	⑨地域密着型介護老人福祉施設	検討中－新規	未定	
11	a ⑪居宅介護支援事業所	予定有－増床	H26. 7. 1サービス付高齢者住宅を開設に合わせて、デイサービス開所予定です。それに伴いケアマネジャーを増員します。	
	⑫通所介護事業所	予定有－新規		
	b ⑫通所介護事業所	予定有－新規	H26. 7. 1開所予定。場所は流山市〇〇〇に建設中	
12	⑪居宅介護支援事業所	検討中－新規	出来れば訪問介護事業に専念したいが、税金を使って運営されている地域包括支援センターや社協のケアマネが、自らが所属する事業所関連の事業所に優先的に仕事を回してしまっているため（抱え込み問題）、当事業所も不本意ではあるが、居宅介護支援事業所（ケアマネ事業所）の開設を考えている。しかし、ケアマネの確保は難しい。	
13	⑫通所介護事業所	予定有－増床	【開設の時期】…H26年5月予定 【場所】…既存のデイサービスの上の階 【方向性】…現サービスの満足度が高く、空き待ちをされている方もいる為、現サービスと同じ方向性（小規模、短時間、リハビリ中心のデイサービス）でと考えている。現在申請に向けて順調に進んでいます。	
14	①介護老人福祉施設	予定有－新規	〇〇〇の隣に特養開設予定	
15	⑪居宅介護支援事業所	検討中－増床	当事業所においては、現在居宅支援の余裕もあり、現ケアマネジャーもベテランであり、もし利用者様の増加が見込まれる場合は、新たに新人ケアマネジャーを採用するつもりでもありますが、営業的な時間もない為、現状を変える事は難しいと思われまます。	

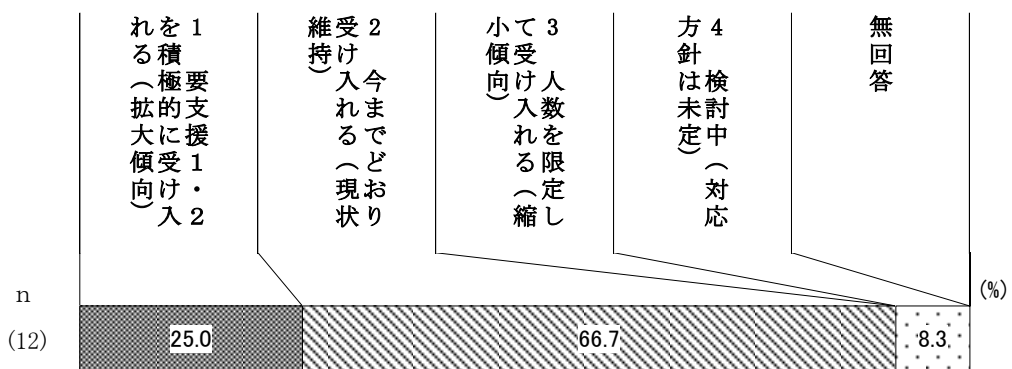
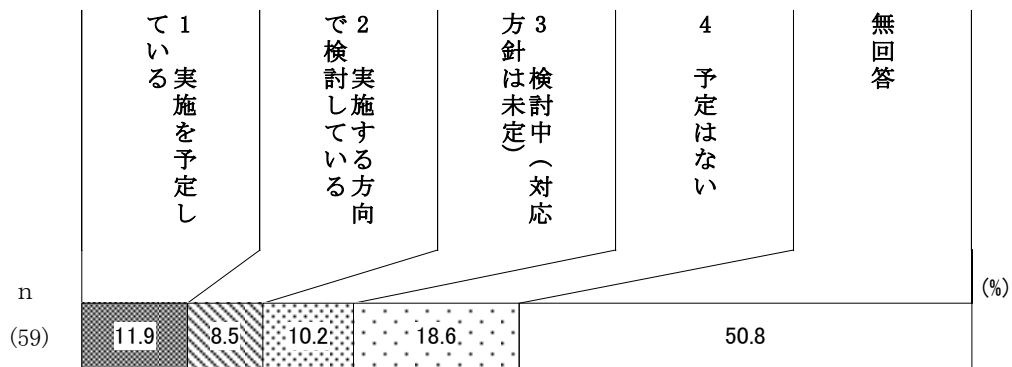
## 4 要支援1・要支援2の方を対象とした訪問介護及び通所介護について

### 1 介護予防事業の実施に関する意向

Q5：貴事業所における平成27年度以降の要支援1・要支援2の方を対象とした介護予防事業の実施に関する意向をお聞かせください。

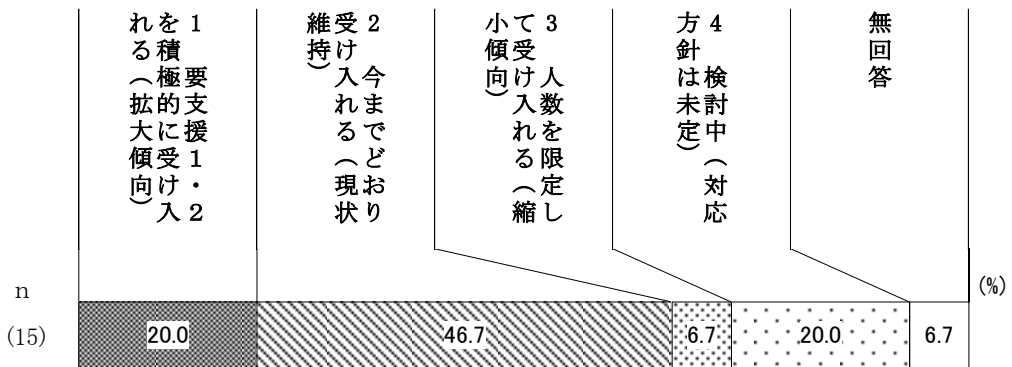
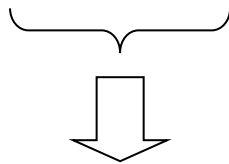
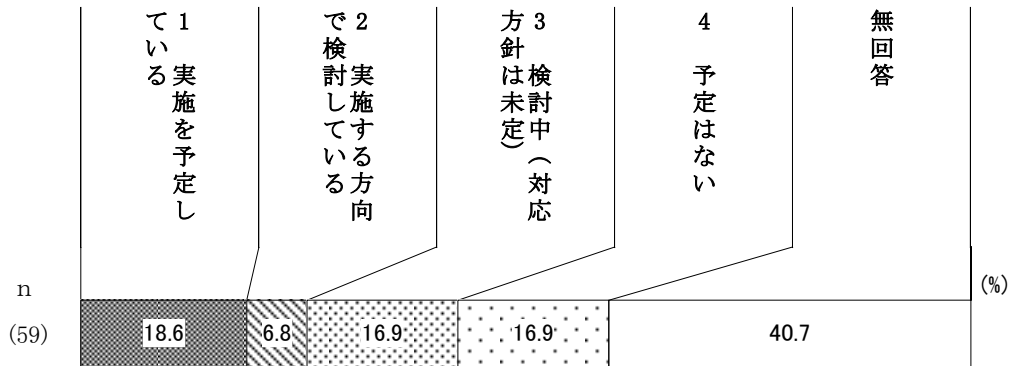
#### ①訪問介護事業（要支援1・要支援2対象）

※回答数（n）における無回答の割合が50%を超えているためコメントは省略。



## ②通所介護事業（要支援1・要支援2対象）

※回答数（n）における無回答の割合が50%を超えているためコメントは省略。



(Q5 で「1. 実施を予定している」又は「2. 実施する方向で検討している」を選択した事業所の方のみ)

Q5-1: 要支援1及び要支援2の方に対しては、ADLやIADLの向上に資するようなサービスを働きかけることにより、機能の向上を図ることができる可能性が高いと指摘されています。制度改正後は、サービスの内容をどのようにするかは市町村の裁量が大きくなる予定です。流山市としては、今までの介護予防訪問介護及び介護予防通所介護に加え、要支援認定者にとって効果的な内容となる介護予防事業を検討していきたいと考えています。

貴事業所では、平成27年度以降における要支援認定者に効果的なプログラムとして、独自に検討しているサービス内容がありますか。

サービス区分	効果的なプログラムとして検討中あるいは、考えられるプログラム内容
① 訪問介護事業	<p>ヘルパーはリハビリ指導などはできませんので、要支援者の在宅生活を維持するために、絶対必要なサービスですが、ADL等を向上させるサービスとなるかは疑問です。「現状維持するサービス」も重要ではないですか。</p> <p>買い物同行、家の中から一歩外へ出るような働きかけ</p> <p>利用者ごとに対応して行きたいと考えています。</p> <p>生活支援事業の充実</p> <p>ご利用者様と一緒に家事支援を行い、ご利用者様の身体機能の向上と保持を図っていく。</p> <p>現状において要支援での利用が無い為、具体的事例に基づいた検討ができていない状況です。</p> <p>自立支援に向けてのサービスのあり方</p> <p>これまで一緒に行うことを前提に活動サービス展開をしてきました。今後も同様、それ以上に強化した声かけ、理解を求めていきたいと思えます。</p> <p>生活活動の時間や体操を取り入れる提案をします。</p> <p>基本的にはサービスを一緒に行うよう計画し、自分でできる事についてはアドバイスができるよう体制を整えるようにしていく。</p> <p>どうしても家政婦扱いされる方がまだおられるようです。その辺りの事を、出来る事の範囲を再度文書化し、周知徹底していただきたい。買い物等を含めた散歩の同行も良いのでは…。</p>
② 通所介護事業	<p>パワリハを利用した筋肉維持、向上、また、歩行能力改善に向けた散歩プログラムの導入</p> <p>ガイドラインが出てからが基本計画となりますが、現時点では現在設置しているマンションの活用をもう少し検討していきたいと思っています。</p> <p>敷地内にある畑で農作業(野菜作り)、花壇の手入れ等に今まで通り取り組んでいく。</p> <p>高齢者にも安全なトレーニングマシンの利用の他、機能訓練士による四肢可動域訓練、平行棒内での下肢筋力トレーニングやステップ昇降等ADLの向上を目指したサービス内容とする予定。</p> <p>ウォーキング、予防体操</p> <p>運動メニューを提供することで、体のコンディションを整える。転倒の不安。外出への不安を減らすことができる。(活動を支援する)グループをたちあげ、他者交流、活動支援、生活の活性化を支援する(外出や料理、スポーツなど)。</p> <p>運動メニューと記憶を組み合わせ、認知機能の改善へ働きかけることもできる。</p> <p>高齢者ふれあいの家支援事業(気晴らし喫茶室)の充実</p> <p>現状PT職員を採用し、機能訓練を実施しております。専門職の知識をさらに高め、質の高いメニュー作りを行う予定。</p> <p>日常生活での向上に取り組む。意欲向上の取り組み</p> <p>現時点での要支援1・2の利用がない為、独自に検討しているプログラムはありません。</p> <p>高齢者向けのトレーニングマシンを導入し、パワーリハビリテーション手法に基づく機能訓練を中心に、歩行動作、階段昇降、入浴動作など日常生活動作の改善に資する訓練を実施する。</p> <p>活動の活性化を図るようご本人が動くことを前提としたサービス。個々の機能訓練を組み込んだ日中活動を考えています。</p> <p>他、具体的な自立に向けたプログラムを検討中です。</p> <p>生活リハビリを中心として考え、外出、外食、他者との交流の機会と散歩などでの体力維持を行っていきます。</p>

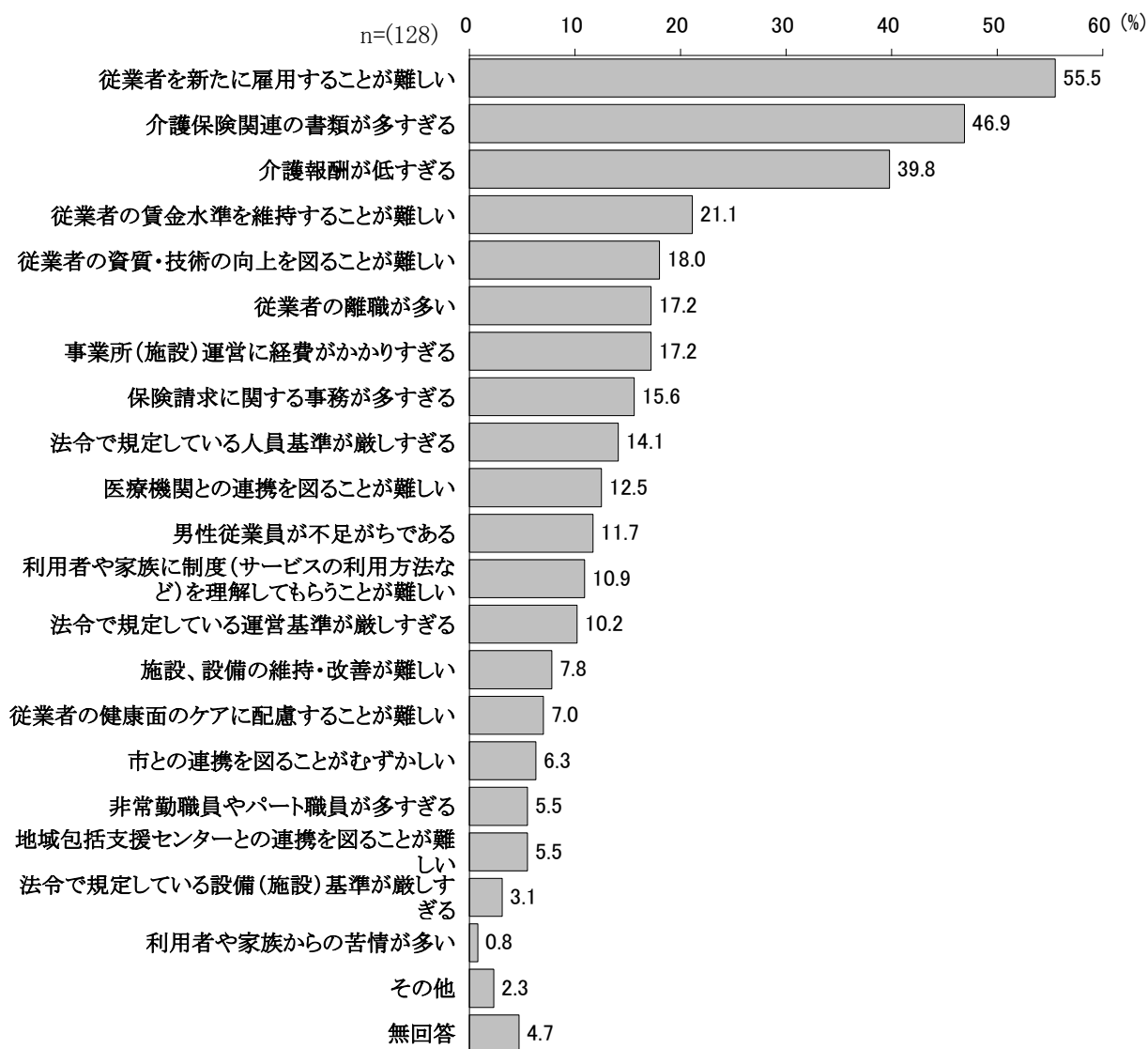


## 5 サービス運営について

### 1 円滑な事業運営を進めていくうえで、支障となっていること

Q6：現在、貴事業所の円滑な事業運営を進めていくうえで、支障となっていることがありますか。(〇はいくつでも)

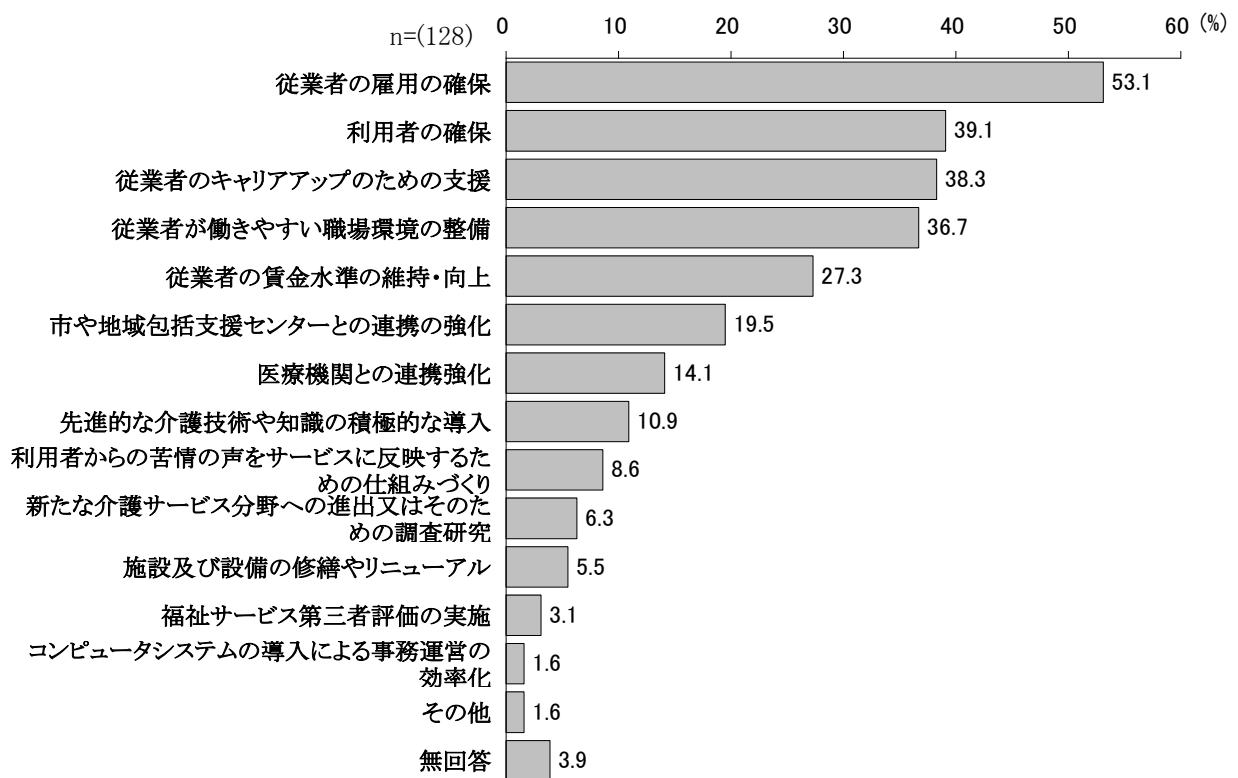
円滑な事業運営を進めていくうえで、支障となっていることは、「従業員を新たに雇用することが難しい」が55.5%で最も多く、次いで「介護保険関連の書類が多すぎる」が46.9%、「介護報酬が低すぎる」が39.8%、「従業員の賃金水準を維持することが難しい」が21.1%となっている。



## 2 事業運営を進めていくうえで、今後優先的に取り組んでいこうと考えていること

Q7：貴事業所の事業運営を進めていくうえで、今後優先的に取り組んでいこうと考えていることありますか。（優先順位の高いものから〇は3つまで）

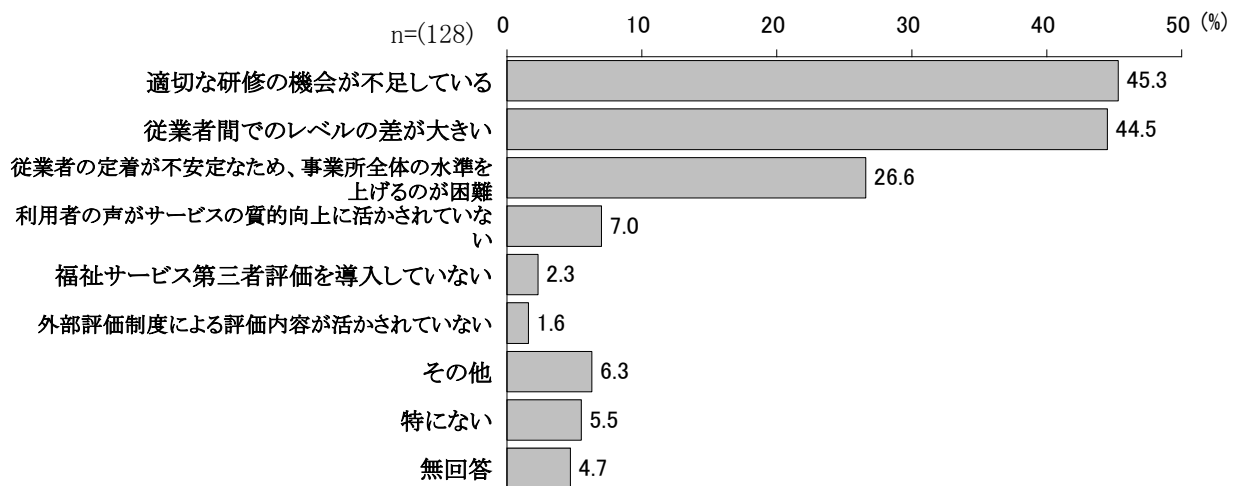
事業運営を進めていくうえで、今後優先的に取り組んでいこうと考えていることは、「従業員の雇用の確保」が53.1%で最も多く、次いで「利用者の確保」が39.1%、「従業員のキャリアアップのための支援」が38.3%、「従業員が働きやすい職場環境の整備」が36.7%となっている。



### 3 サービスの質的向上を図るうえでの課題

Q8：介護知識や介護技術などをレベルアップし、サービスの質的向上を図るうえでの課題は何が  
ありますか。（〇はいくつでも）

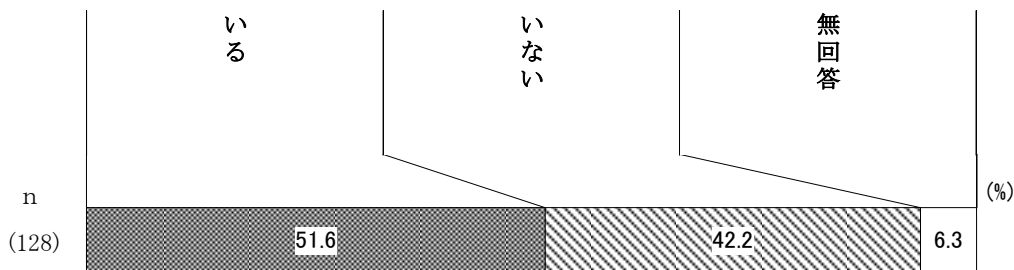
サービスの質的向上を図るうえでの課題は、「適切な研修の機会が不足している」が45.3%で最も多くなっており、次いで「従業者間でのレベルの差が大きい」が44.5%、「従業者の定着が不安定なため、事業所全体の水準を上げるのが困難」が26.6%となっている。



#### 4 対応に困難な利用者の有無

Q9：貴事業所では、対応に困難な利用者がいますか。（〇は1つ）

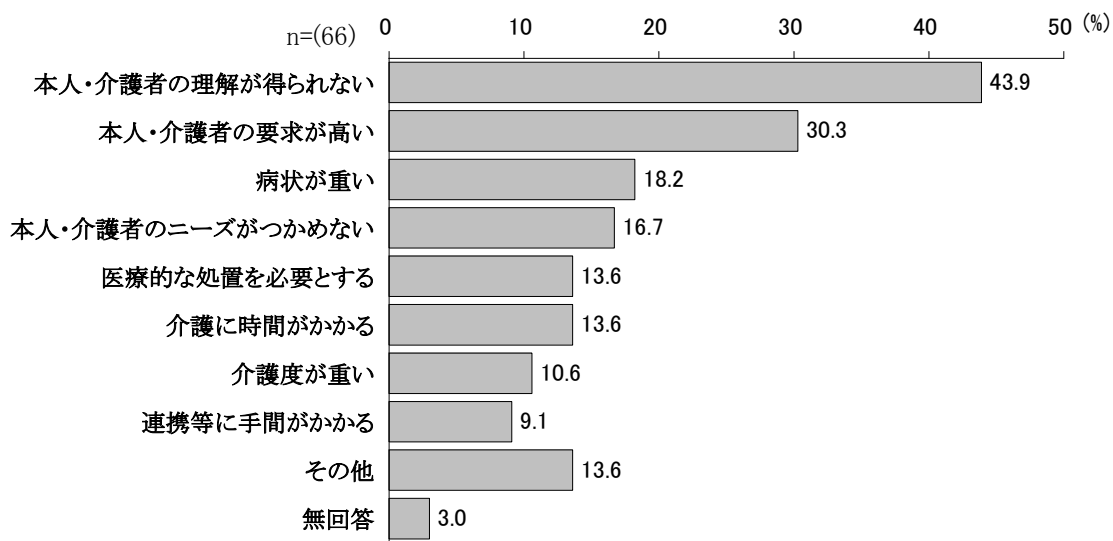
対応に困難な利用者の有無は、「いる」が51.6%で、「いない」が42.2%となっている。



##### 4-1 対応が困難と感じる事

(Q9で「1. いる」を選択した事業所の方のみ)  
 Q9-1：対応が困難と感じる事はどんなことですか。（〇は3つまで）

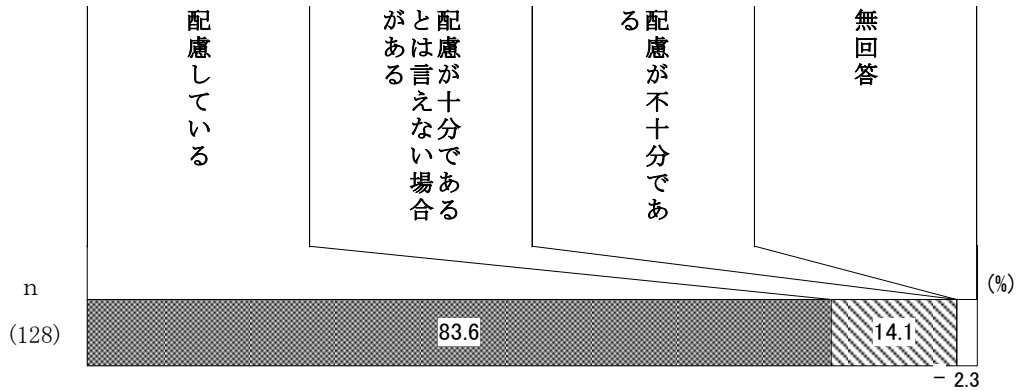
対応に困難な利用者がいると回答した方にその内容をたずねたところ、「本人・介護者の理解が得られない」が43.9%で最も多く、次いで「本人・介護者の要求が高い」が30.3%、「病状が重い」が18.2%となっている。



## 5 利用者や介護者のプライバシーへの配慮

Q10：利用者や介護者のプライバシーに配慮していますか。(〇は1つ)

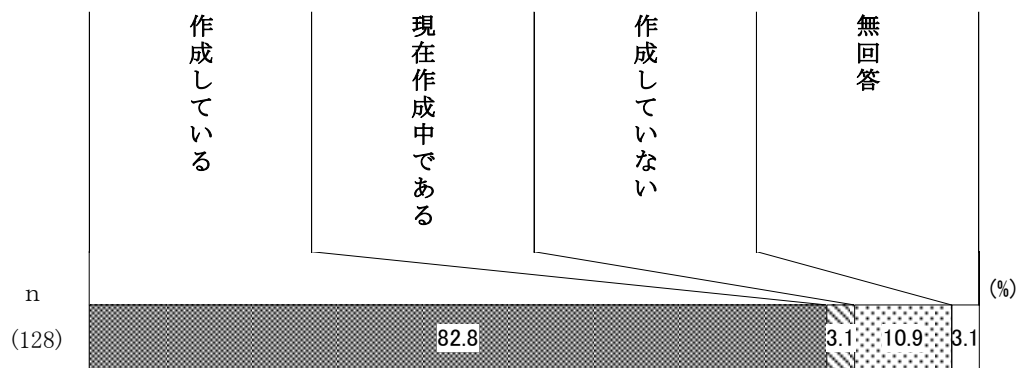
利用者や介護者のプライバシーへの配慮では、「配慮している」が83.6%で、「配慮が十分であるとは言えない場合がある」が14.1%となっている。



## 6 利用者や介護者のプライバシー保護のためのマニュアルの作成

Q11：利用者や介護者のプライバシー保護のためのマニュアルを作成していますか。(〇は1つ)

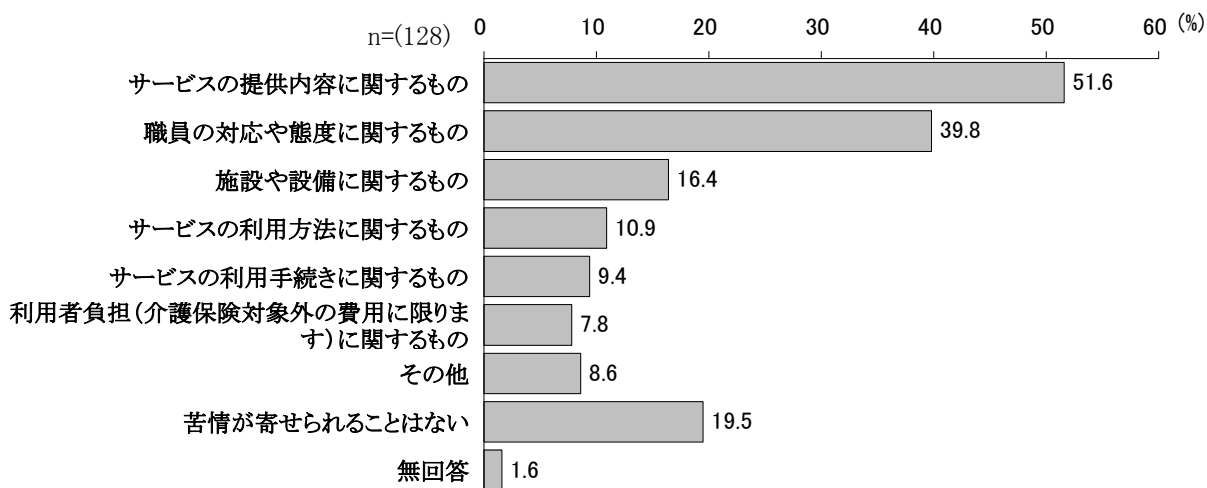
利用者や介護者のプライバシー保護のためのマニュアルの作成状況は、「作成している」が82.8%で最も高く、「作成していない」が10.9%、「現在作成中である」が3.1%となっている。



## 7 利用者や介護者からの苦情の内容

Q12：利用者や介護者からどのような苦情が寄せられることがありますか。比較的多い順に3つをお聞かせください。（多い順に、○は3つ）

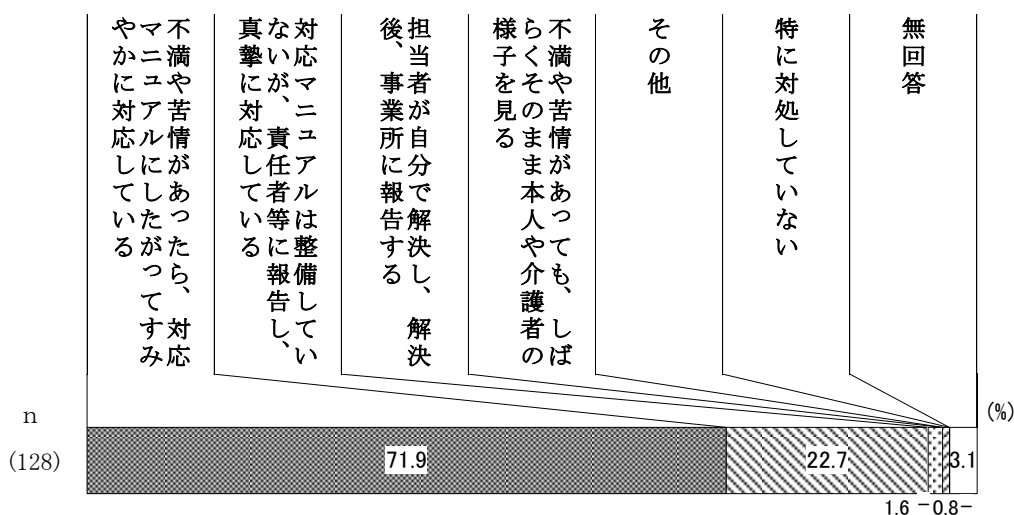
利用者や介護者からの苦情の内容では、「サービスの提供内容に関するもの」が51.6%で最も多く、次いで「職員の対応や態度に関するもの」が39.8%、「施設や設備に関するもの」が16.4%となっている。



## 8 利用者や介護者から不満や苦情があった場合の対処方法

Q13：利用者や介護者から不満や苦情があった場合は、どのように対処していますか。（○は1つ）

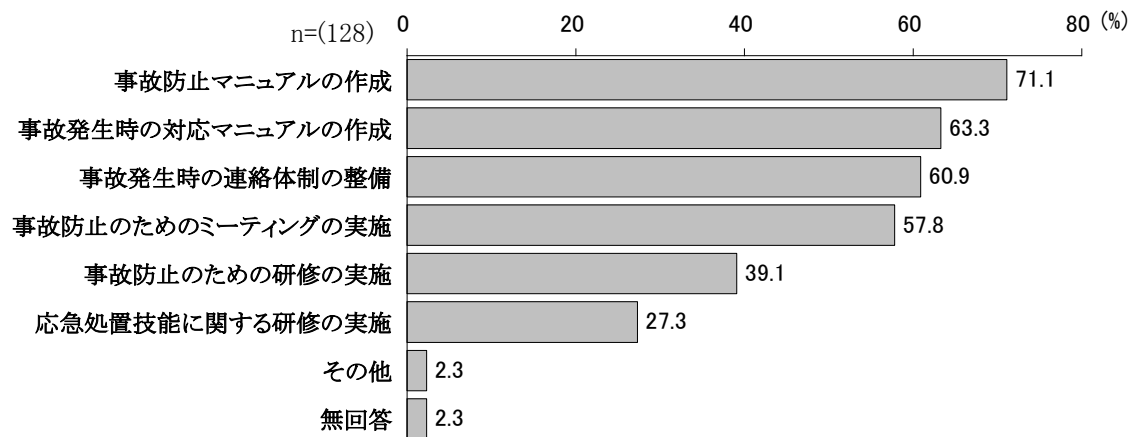
利用者や介護者から不満や苦情があった場合の対処方法は、「不満や苦情があったら、対応マニュアルにしたがってすみやかに対応している」が71.9%で最も多く、次いで「対応マニュアルは整備していないが、責任者等に報告し、真摯に対応している」が22.7%となっている。



## 9 事故防止等のためにしている取組み

Q14：事故防止等のためにどのような取組みをしていますか。（〇はいくつでも）

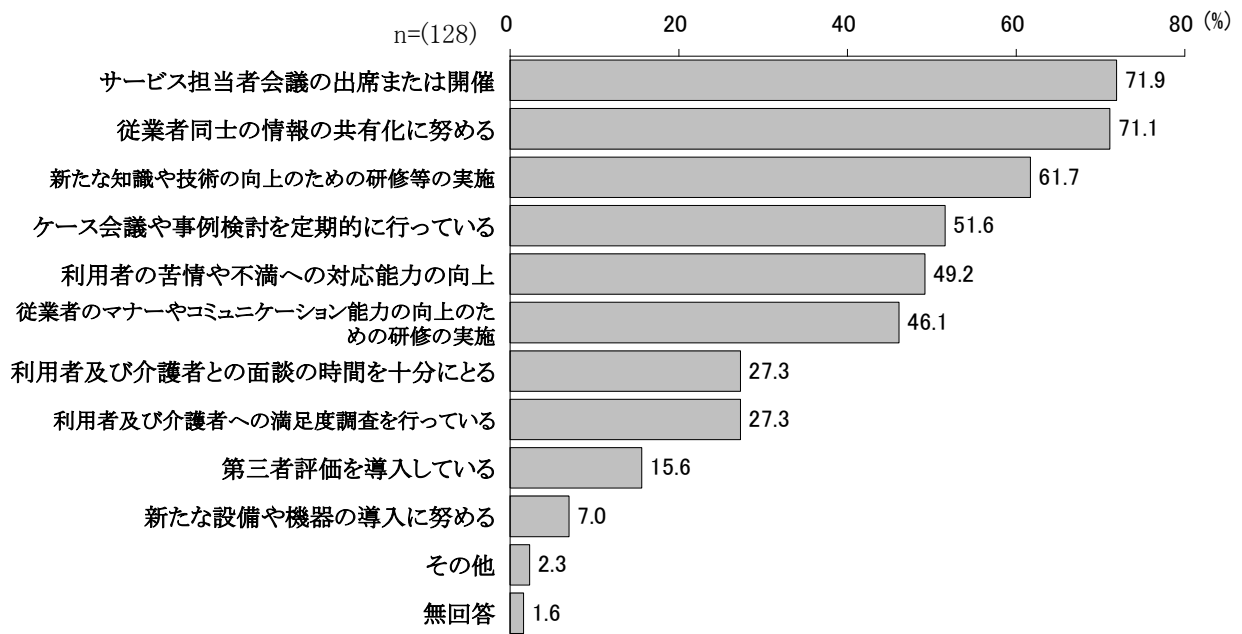
事故防止等のためにしている取組みは、「事故防止マニュアルの作成」が71.1%で最も多く、次いで「事故発生時の対応マニュアルの作成」が63.3%、「事故発生時の連絡体制の整備」が60.9%、「事故防止のためのミーティングの実施」が57.8%となっている。



## 10 サービスの質を高めるために事業所が行っていること

Q15：サービスの質を高めるために貴事業所が行っていることはどんなことですか。（〇はいくつでも）

サービスの質を高めるために事業所が行っていることは、「サービス担当者会議の出席または開催」が71.9%で最も多く、次いで「従業員同士の情報の共有化に努める」が71.1%、「新たな知識や技術の向上のための研修等の実施」が61.7%となっている。



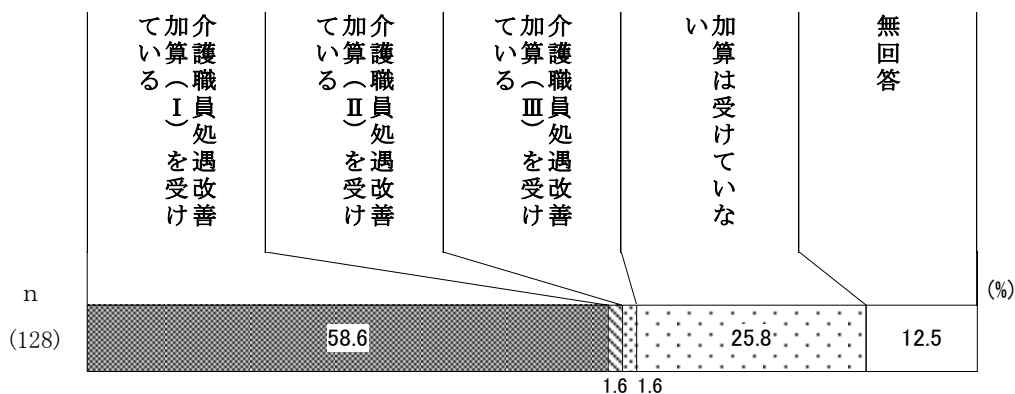


## 6 従業員の処遇について

### 1 平成24年4月の介護報酬改定に伴う介護職員処遇改善加算の需給状況

Q16：貴事業所の平成24年4月の介護報酬改定に伴う介護職員処遇改善加算の需給状況についてお尋ねします。(〇は1つ)

平成24年4月の介護報酬改定に伴う介護職員処遇改善加算の需給状況についてたずねたところ、「介護職員処遇改善加算（Ⅰ）を受けている」が58.6%で最も多く、次いで「加算は受けていない」が25.8%となっている。

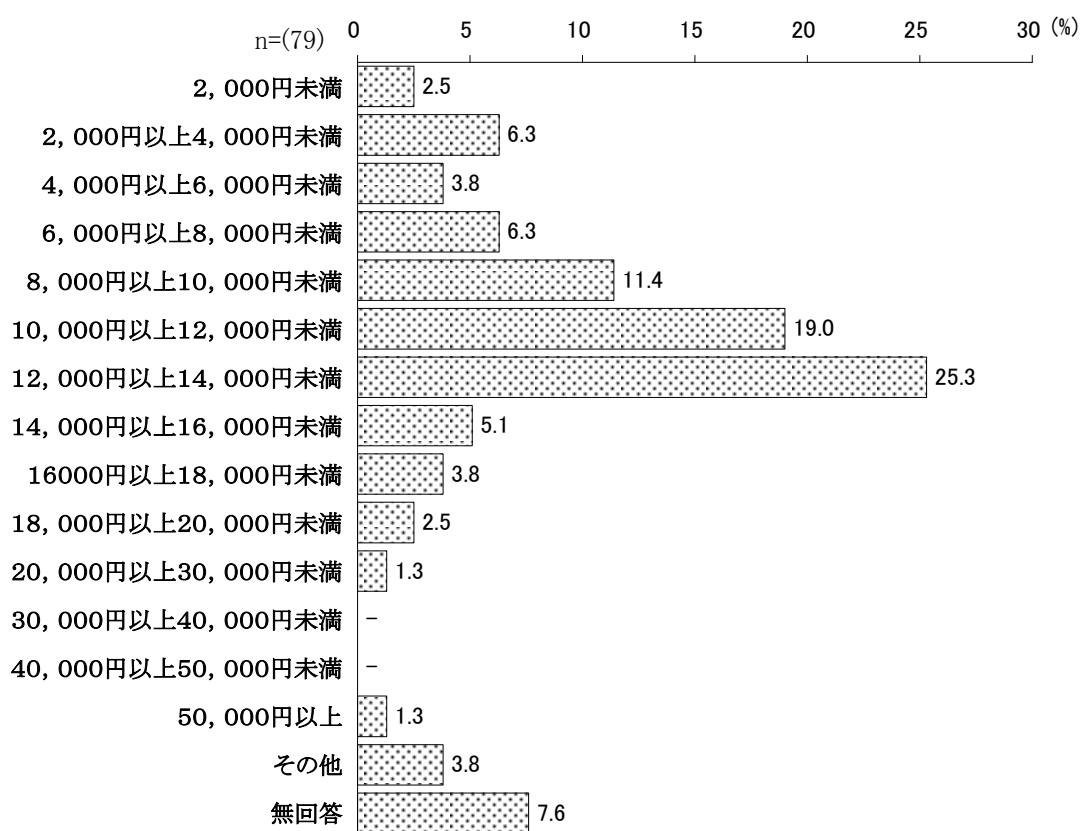


## 1-1 介護職員処遇改善加算による給与月額での増額

(Q16で「介護職員処遇改善加算を受けている」と回答した事業所の方のみ)

Q16-1：平成24年3月まで実施されていた介護職員処遇改善交付金の交付及び介護職員処遇改善加算の創設を通じ、これらの措置が導入される前に比べ、対象となる従業者の給与は、月額でどの程度増額されましたか。なお、一時金として対応した場合は、月額換算した場合の額を選択してください。(〇は1つ)

介護職員処遇改善加算による給与月額での増額は、「12,000円以上14,000円未満」が25.3%で最も多く、次いで「10,000円以上12,000円未満」が19.0%、「8,000円以上10,000円未満」が11.4%となっている。

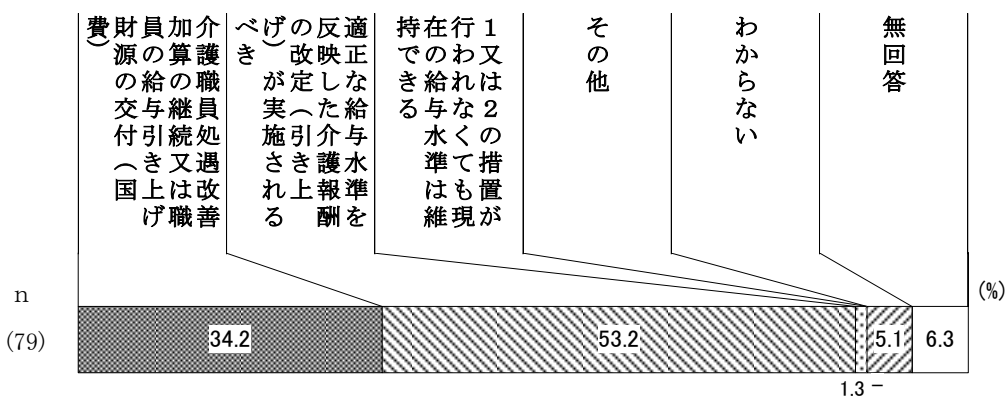


1-2 従業員の現在の給与水準を保っていくために必要だと考えること

(Q16で「介護職員処遇改善加算を受けている」と回答した事業所の方のみ)

Q16-2：貴事業所においては、今後も、従業員の現在の給与水準を保っていくためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は1つ)

従業員の現在の給与水準を保っていくために必要だと考えることは、「適正な給与水準を反映した介護報酬の改定(引き上げ)が実施されるべき」が53.2で最も多く、「介護職員処遇改善加算の継続又は職員の給与引き上げ財源の交付(国費)」が34.2%となっている。

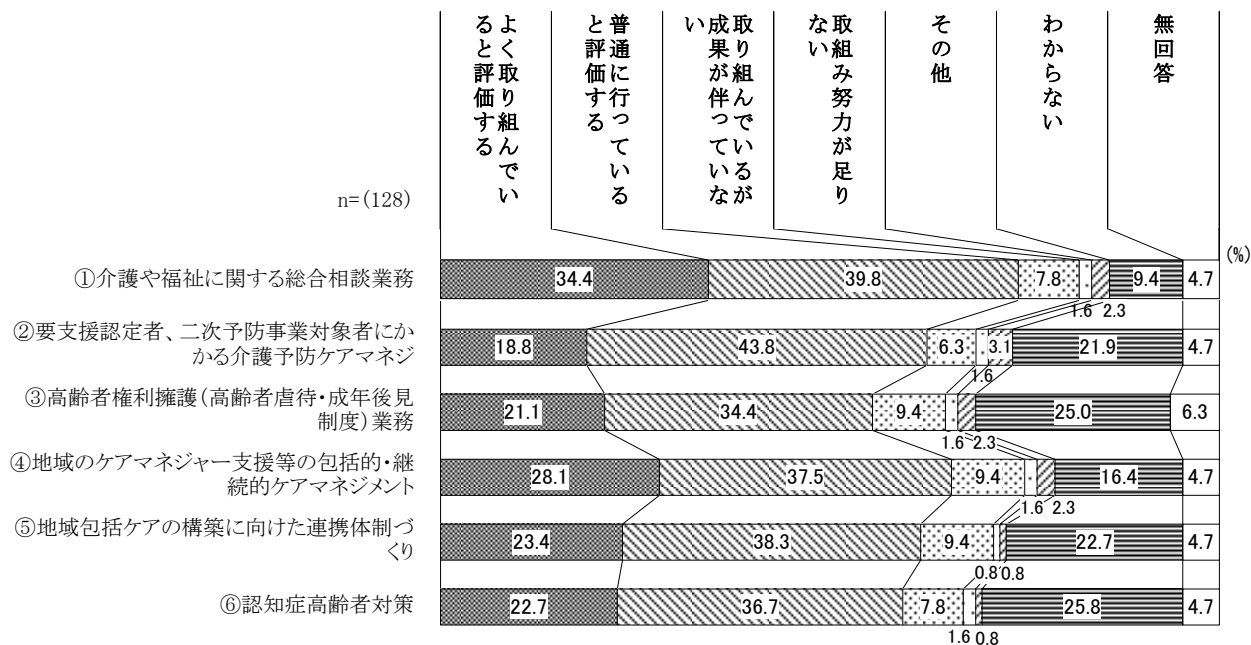


## 7 地域包括支援センターについて

### 1 業務ごとの取組状況の評価

Q17：地域包括支援センターでは以下のような業務を担っていますが、これらの業務ごとに取組状況をどのように評価しますか。（それぞれに〇は1つ）

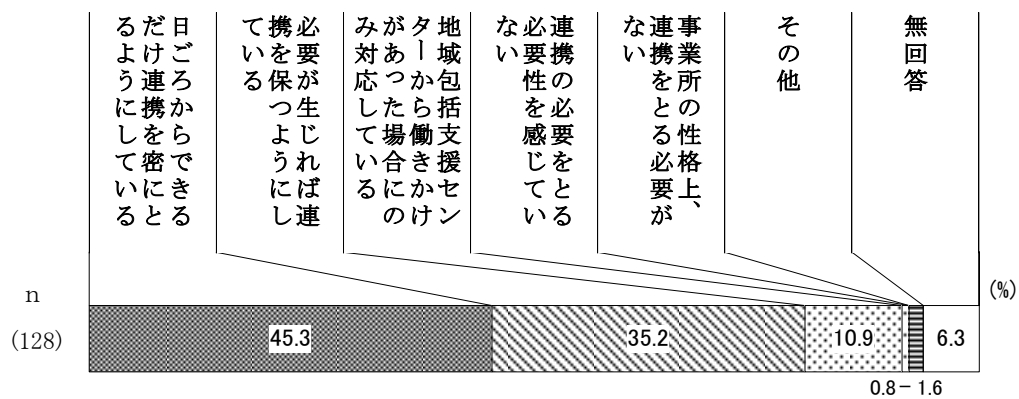
地域包括支援センターで担っている業務ごとの取組状況に対する評価をたずねたところ、「良く取り組んでいると評価する」は、①介護や福祉に関する総合相談業務が34.4%と最も多く、次いで④地域のケアマネジャー支援等の包括的・継続的ケアマネジメントが28.1%、⑤地域包括ケアの構築に向けた連携体制づくりが23.4%となっている。



## 2 地域包括支援センターとの連携についての姿勢

Q18：貴事業所は、地域包括支援センターとの連携についてどのようにとらえていますか。（〇は1つ）

地域包括支援センターとの連携についての姿勢では、「日ごろからできるだけ連携を密にとるようにしている」が45.3%で最も多く、次いで「必要が生じれば連携を保つようにしている」が35.2%、「地域包括支援センターから働きかけがあった場合にのみ対応している」が10.9%となっている。



### 3 地域包括支援センターの活動に期待する点や力を入れてほしい点

Q19：今後、地域包括支援センターの活動に期待する点、力を入れてほしい点があれば記入してください。

#### <地域事業所との信頼・連携・サポートを期待>

- ・これからもケアマネの相談を受け、サポートをしてほしい。困難ケースなどを相談した時、解決の方向性を示す力量を身につけてほしい。
- ・困難ケースの相談 ケアマネジャーに対する支援
- ・活動が地域に根ざすような働きかけ、地域の活性化
- ・もっと身近に相談できる機関であってほしいと思います。
- ・活動内容を具体的にわかりやすくPRして、相談しやすい身近なものになって欲しい。
- ・もっと地域にある通所介護事業所を信頼して欲しい。
- ・包括内の職員により連携に差がある。フットワークの良い人はありがたい。包括により情報量に差がある。ある程度情報を把握して信頼してほしい。包括が把握している人を居宅につなぐのが、遅すぎると感じる時がある。その人の状況により早く連携してほしい。
- ・活動内容がよくわからないので、活発な活動を期待します。
- ・一人暮らしの人やご家族がいても協力が得られない場合、在宅ケアマネだけでは負担が大きいため、要介護状態でも関わりを持つようにしてもらいたい。
- ・活発な活動に期待します。
- ・相談をしやすい雰囲気をつくってほしい。
- ・ケアマネジャーの支援、相談対応の充実・専門職が揃っているのも、もっとアピールして活動をわかりやすくしてほしい。身近な存在で気軽に相談できる場所であってほしい。
- ・地域包括ケアを推進する上で、協力体制を強化していきたい。
- ・施設業務であるが、あまり接点を感じないように思う。対応については良く出来ていると思う。
- ・地域に合ったサービスや活動とうまく連携し、高齢者の窓口になってほしい。
- ・地域連携
- ・地域包括との連携について密にとりたいと思っているが、なかなか思うようにいかない。相談窓口としての役割も担っているので、積極的に相談にのってもらいたい。

#### <スタッフの力量のアップ・平準化>

- ・包括によって又、包括の中でもスタッフによって、対応や取り組み姿勢、力量の差が大きい。一定水準に引き上げるための研修等に取り組んでほしい。
- ・包括職員全体の理解力の強化
- ・介護保険法運用にあたって、様々な事例における疑問、悩みの相談等に地域のリーダーとして対応して欲しい。これまでも努力されていると感じているが、これまで以上に。

## <情報の交換・開示>

- ・管轄地区でのケアマネのつどいが定期的に行われているが、事例検討が主で事業所間での情報交換（ケアマネがどこまで関われるか等）がもう少しほしい。ケアマネのつどいのテーマを1本にしぼり、多面的な面での検討会もよい。介護保険改正問題点の検討も入れ、意見を反映してもらいたい。
- ・地域の情報の開示。
- ・弊社としても、地域包括（北部）さんへの訪問が出来ずにいるのが現状です。北部地区に事業所を構える以上、地域密着を目標とし、事業展開を思っています。そして地域住民へのお役立てに努められればと思う次第です。情報等いただければ幸いです。
- ・ケアマネの費用は税金を使っているため、受付件数が何件あって、その処理はこうした（手配事業所）ということ、地域を担当している全事業所に報告すること。要は情報公開の更なる徹底。
- ・どのような活動をされているか、あまり理解していないので、もう少し業務内容等の情報発信をお願いしたい。

## <手続き・対応をスムーズに>

- ・福祉サービス（配食サービスなど）手続きをもう少しスムーズにして欲しい。
- ・要支援と要介護の見極めは難しいと思いますが、明らかに要介護に当たるとおられるご利用者様に対しての対応が遅い場合があります。速やかに要介護に移行していただきたいです。

## <満足している>

- ・今のままで充分です。
- ・中部包括支援センターには本当に助けて頂いています。
- ・困難ケースの相談にはとても良く対応してくれている。

## <その他>

- ・地域包括ケアの推進、その中に在宅支援施設として老健を組み入れて欲しい。
- ・期待しても中途半端な結果になってしまう。責任感を強くもってほしい。
- ・地域の人が相談しやすい窓口、駅の近くなど、行きやすい場所にあると良いと思う。
- ・市町村によって予防プランに関する帳票（特に請求に関するもの）が異なるため、統一してもらえると助かる。
- ・地域包括支援センターとの格差をなくして欲しい。言いやすい環境づくりをしてほしい。
- ・子供がいない高齢者対策（成年後見制度等）、施設としては保証人がいないと困る為（急変時、他界時）
- ・「地域包括支援センター」という名称は地域の人になじまない。硬くとっつきにくいイメージがあり、何をしているところかはっきりわからない。“お役所言葉”は使わない方が良い。もっとなじみ易い名称と場所の検討が先決。活動に期待する以前のことですが。
- ・一度深刻な相談をしたら市の（〇〇課）職員へ“たらい廻し”された。包括支援センターで親身になって聞いてくれた感じはなく残念だ。
- ・認知者の自動車運転

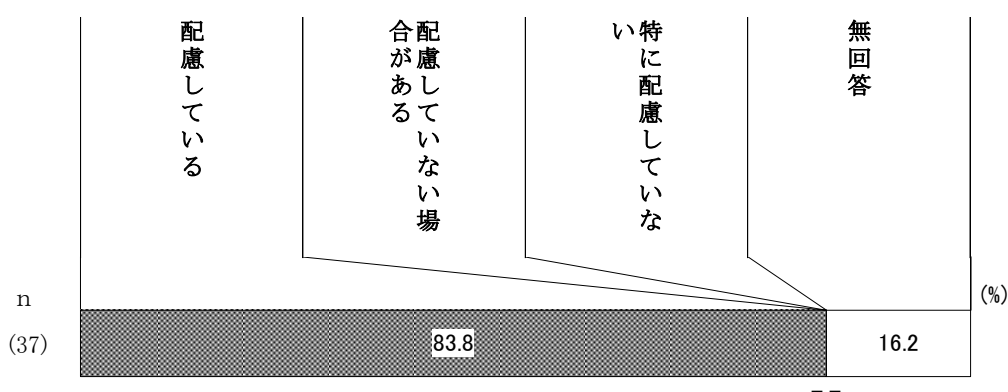
## 8 居宅介護支援事業所について

【居宅介護支援事業所のみ】

### 1 ケアプラン作成にあたっての利用者が複数のサービスから選べるような配慮

Q20：貴事業所のケアマネジャーは、ケアプランの作成にあたっては、利用者が複数のサービスの中から選べるよう配慮していますか。（〇は1つ）

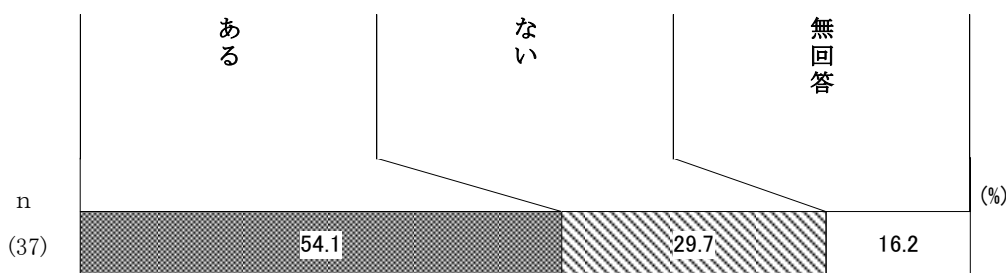
ケアプラン作成にあたっての利用者が複数のサービスから選べるような配慮は、「配慮している」が83.8%を占めている。



### 2 流山市内で供給量が不足していると感じる在宅サービスの有無

Q21：貴事業所では、ケアプランを作成するにあたり流山市内でサービスの供給量が不足していると感じる在宅サービス（地域密着型サービスを含む。）があると捉えていますか。ある場合には、そのサービス名称を記入してください。（〇は1つ。1に〇の場合は必要事項を記入）

流山市内で供給量が不足していると感じる在宅サービスの有無は、「ある」が54.1%で、「ない」が29.7%となっている。

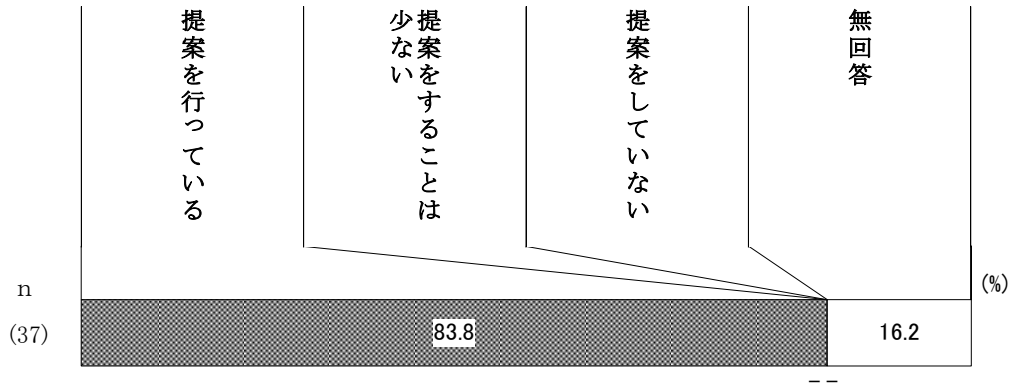




### 3 サービス提供後、サービス利用の見直しについての提案

Q22：貴事業所のケマネジャーは、サービスが提供された後に、（利用者の状態の変化に応じて）サービス利用の見直しについて、利用者や家族に何らかの提案を行っていますか。（〇は1つ）

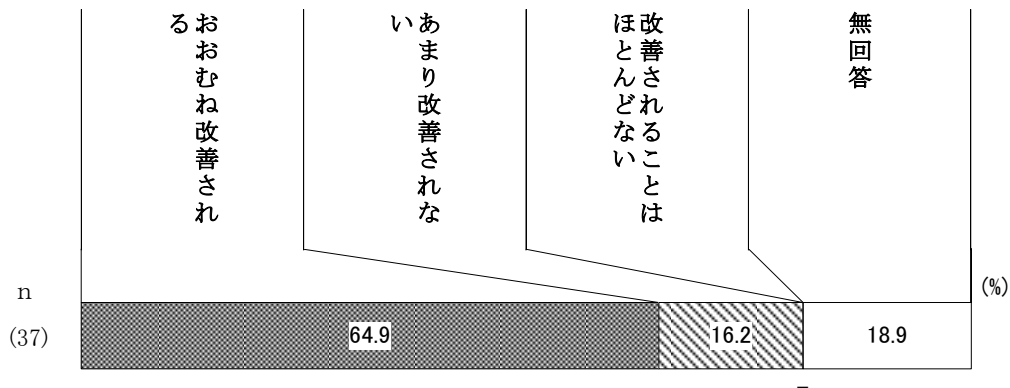
サービス提供後、サービス利用の見直しについての提案では、「提案を行っている」が83.8%を占めている。



#### 4 サービス利用による利用者の心身状態の改善への影響

Q23：貴事業所では、サービスの利用による利用者の心身の状態の改善への影響について、どのように捉えていますか。（〇は1つ）

サービス利用による利用者の心身状態の改善への影響は、「おおむね改善される」が64.9%で最も多く、「あまり改善されない」が16.2%となっている。

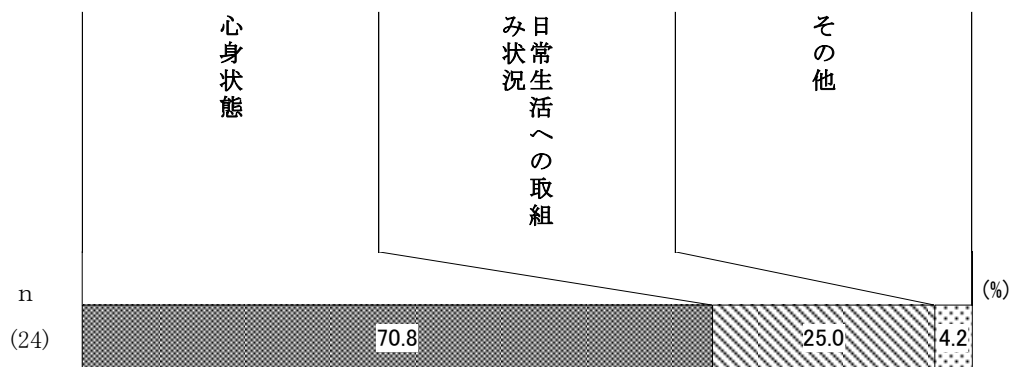


##### 4-1 改善した内容

（Q23で「1. おおむね改善される」と回答した事業所の方のみ）

Q23-1：改善した場合は、どのような点で改善が見られますか。（〇は1つ）

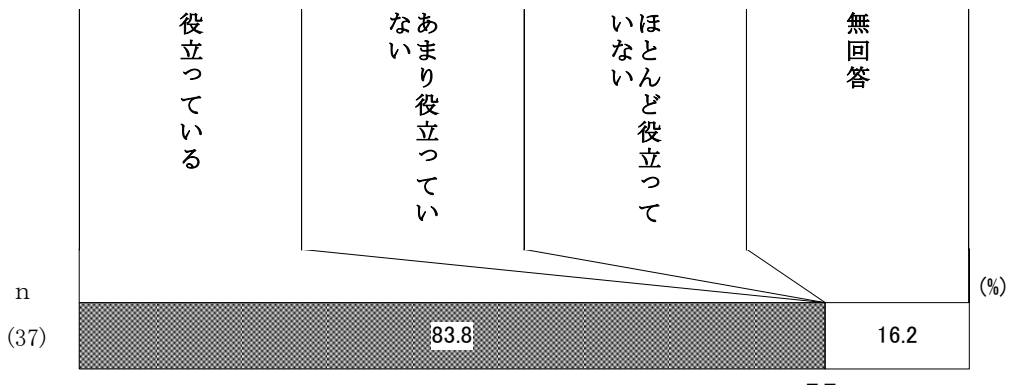
サービス利用による利用者の心身状態はおおむね改善されると回答した方に、改善した内容をたずねたところ、「心身状態」は70.8%で、「日常生活への取組み状況」が25.0%となっている。



## 5 利用者の介護者負担軽減についての認識

Q24：貴事業所では、サービス利用が、利用者の介護者の負担の軽減に役立っていると捉えていますか。（〇は1つ）

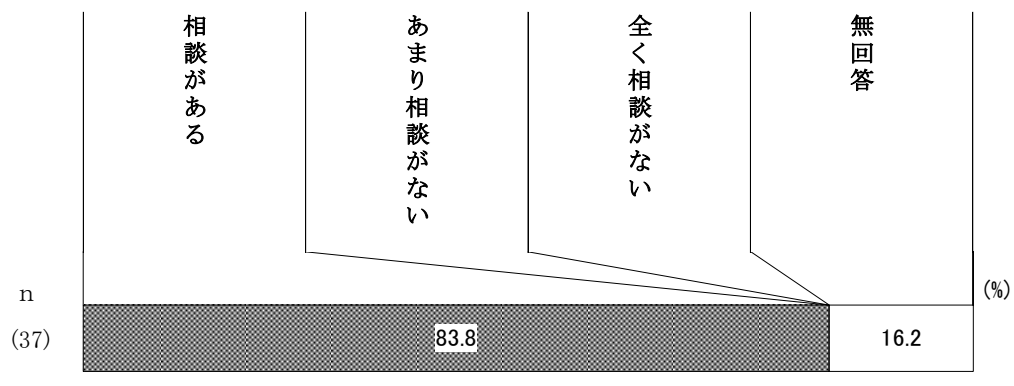
サービス利用が、利用者の介護者の負担の軽減に役立っているかでは、「役立っている」が83.8%を占めている。



## 6 ケアマネジャーへの利用者や介護者からの相談の有無

Q25：貴事業所のケアマネジャーには、利用者や介護者から、普段から相談がありますか。（電話やファクスによる場合を含む）（〇は1つ）

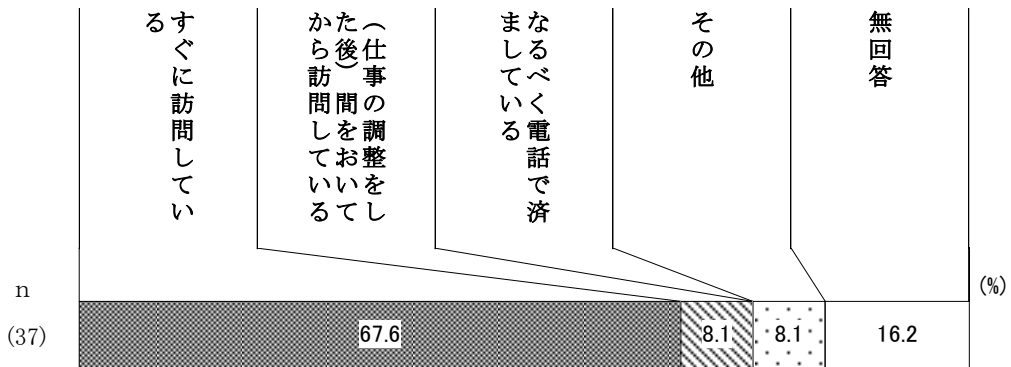
ケアマネジャーへの利用者や介護者からの相談の有無では、「相談がある」が83.8%を占めている。



## 7 利用者や介護者から訪問の要請があった場合のケアマネジャーの対処

Q26：貴事業所のケアマネジャーは、利用者や介護者から訪問の要請があった場合は、どのように対処している傾向ですか。（○は1つ）

利用者や介護者から訪問の要請があった場合のケアマネジャーの対処では、「すぐに訪問している」が67.6%で最も多く、次いで「（仕事の調整をした後）間をおいてから訪問している」と「その他」がともに8.1%となっている。



## 8 流山市で進めている「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の利用者を増加・定着させるための課題

Q27：流山市では、高齢者が住み慣れた地域でできる限り暮らし続けられるよう支援する地域包括ケアシステムの中核となるサービスとして「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の定着を進めていますが、今後サービス利用者を増加・定着させていくためには、どのような点が課題と捉えていますか。貴事業所のお考えを記入してください。

### <サービスの内容に関する課題>

- ・介護度のしぼりやサービス内容も身体を重点にして行って欲しい。
- ・訪問介護と連携して行かないと在宅サービスはきめ細かな対応は無理と思う。介護と医療は一体で考える必要がある。
- ・限度額を超えてしまうような重度者などへのサービスとして、包括払いにしていくだけでもサービスは受けられる…というものだと思いますが、実際重度者に介護者がいればレスパイトも必要で、このサービスだけでは完結しないところに定着の難しさがあると思います。又、独居で認知症があっても同様です。プラスショート機能があるともう少し利用が増えると思います。複合型の“通い”のない流山市で現在、1ヶ所ある事業所さんは、流山全域と聞いていますが、中学校区に区切った方がより効率的でこのサービスの機能を生かせると思います。
- ・看護の質が向上していれば良いのですが、現状では、家族の方々が安心してまかせられる内容ではないように思われ、施設に預ける形が主流になってしまうと思います。

### <滞在時間が短い、時間を選べない、夜間時間帯の心配>

- ・定期巡回サービスを希望するような家族は、日常の家事にも困難を感じている事が多い。1時間程度滞在する訪問介護を全く受けられないのでは、利用は難しい。利用者がサービスを利用したい時間帯は重なってしまうのでは。必要な時間に来てくれないのでは利用者数は伸びないと思う。そもそも「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」サービスが地域サービスの中核になるとは思えません。細切れの時間以外は、家族が付きっきりという感じでは。このサービスを使うことによってデイやショートも制限されてしまうし、使い勝手はよくないと思います。
- ・夜間、訪問する事に対する家族の理解が得られない。
- ・訪問時間が短く支援内容が限られてしまう。排泄介助だけではなく、付随する支援も必要。
- ・人員によるためか、希望の時間帯や曜日に入れられない時がある。
- ・夜間訪問時の家族の理解（鍵の保管や戸締り等）や、本人、家族がサービスを必要だと認識することが難しい点
- ・24時間対応が可能であること

### <料金が高い、割高>

- ・身体状況が中重度の方に適しているサービスと思われる。一体型、連携型の選定方法にもよるが、月単位のサービス費用が割高の為、他サービスの併用が難しい場合があるのでは。
- ・料金が低い。

- ・単位が決まっているため、徐々に取り入れていくには費用負担が大きくなることもあり、導入しづらい。

### <他のサービス（訪問介護事業所）との併用ができない>

- ・他の訪問介護事業所との併用ができない。
- ・他のサービスとの併用がしづらい（限度額）（訪介の併用ができない）。
- ・他サービスの併用で限度枠内の調整・給付費が決まっている為、他のサービスの導入が難しい。

### <訪問介護員の人数不足>

- ・所属しているヘルパー数
- ・必要とされるサービス時間が重なるので、人員がどうしても足りないように思われる。現在利用申し込みをしても断られる状況。サービスの供給量が足りていない。
- ・定期巡回、随時対応型訪問介護看護のサービスが機能すると住み慣れた地域で暮らし続けられると思いますが、残念ながら機能していません。当事業所でも5名新規依頼しましたが、時間が重なり人が手配できないと断られてしまいました。ぜひ新しい事業者を増やしていただきたいと希望します。
- ・事業所の職員確保が課題です。
- ・人材の確保・夜間帯や早朝の職員体制。

### <その他>

- ・定期巡回事業所が少なく、なじみの訪問介護員を望む人にとっては、関わる人が全員違う不安があり、サービス形態としては良いが、介護度が重くなる程に需要があるので、なじみの事業所の連携や加入で実現できないでしょうか。
- ・軽度者に対し、安否確認の中にも生活援助など柔軟に対応できるような事業所、職員の充実
- ・訪問看護事業者が限られてしまう。東葛病院系との連携を図りたい。
- ・利用に関しての制約が多い。
- ・ケアマネジャー及び市民へ発信。
- ・事務処理が複雑。
- ・利用料が安い。
- ・地域包括ケアシステムが「生活の質」に基づき包括ケアシステムに向けるが、その際に自己決定が原則ではあるが、常に利用者が望むということではなく、望んでも望まなくてもシステム化となってしまう事での不自由をもたらす事の課題があるのかと思います。利用者の普及には老々介護、独居の方など利用される方が多くなるかと思いますが、ケアマネ会での制度的な説明や事業所などとの信頼関係を構築し、流山市内全体に展開し、保険者が積極的に関与することでサービス利用者の増加、定着につながると思います。
- ・地域包括ケアシステムは医療、介護、看護と各職種が全体として、お互いにカバーしながら持続可能となるように、職種分業がいかに可能とすることが出来るかが課題と思われる。
- ・独居（高齢者世帯）の場合、生活援助への取り組みが必要と思われる。
- ・是非定着させてほしい。回数とか単位の問題から利用者にとって使いづらいサービスになるかもしれない。
- ・介護と看護の連携力の強化。

- ・実際にプラン作成にイメージした内容と現実にサービス導入しようとした時のギャップがあった。
- ・現在1名様利用されており大変助かっているが、随時依頼の際に30分待たなければならない場合もあり、“待ち切れないので自分で（介護者）やってしまった方が良い”との声がある。双方ともに止むを得ないことではある。地域内に拠点が複数あれば待ち時間が少なくて済むのか。定期、朝、夕、随時4～5回／月などの場合、単位数をもう少し減じることができないか。回数、時間帯によって単位数にいくつかの段階を持たせられないかと感じた事がある。利用開始後の定着して来た段階で変動に応じて。
- ・介護と看護両方のニーズがある人にとっての利点はあるかと思います。高齢者のみの世帯や独居の人を中心に周知が出来れば、今後は増加定着していくと思います。

## 9 居宅介護支援事業所の事業者指定権限が、県から流山市移行することが検討されていることで期待すること

Q28：現在国で進められている介護保険制度改正では、平成30年度から、居宅介護支援事業所の事業者指定権限が、都道府県から市町村に移行することが検討されています。権限の移行後は事業者指定のほか、事業所を対象とした研修等の事業者育成も流山市が担うこととなります。こうした権限の移行に際し、流山市に期待することがあれば教えてください。

### <研修会の開催・充実>

- ・制度改正があった時など、これまで県が実施していたような説明会をしっかりとってほしい。
- ・何の研修をしたいのか確認し、少人数で出来る研修があればいいと思います。
- ・研修会（地域ケア会議等）の定期開催。
- ・流山市で研修等ができれば近いので回数を増やし、内容のあるものにして欲しいと思います（千葉市まで行くのは大変です）。市内の事業所の交流もして欲しいです。
- ・研修内容の充実 助川未枝保ケアマネの講義を受けたい。
- ・改正後早めの研修をお願いしたい。地域に合ったご指導を期待しています。
- ・色々な経験豊富な方の講演をたくさん催してほしい。
- ・ケアマネジャーの質の向上に繋がるような、有意義な研修の開催をお願いしたい。
- ・これまで研修は千葉市で行われ、参加にあたり時間等が負担だった。流山市の研修となれば参加しやすいし、質問もしやすくなると思う。
- ・研修の充実化を図ってほしいと思います。
- ・研修が身近な場所で受けられることは大変有難いと思う。

### <書類の簡略化・統一化>

- ・書類作成が多く、ご利用者の支援の時間がとりにくい状況です。書類の簡略化を希望します。サービス計画書の書き方等少しずつ変わってきています。研修を開いたり、きちんとした形で示してほしい。業務に関してアドバイスしてくれる体制を作っていただきたい。よくある質問の問答集を出す等、文書で確認できるようにしてほしい。
- ・減算対処になる必要書類の統一化・帳票類の簡略化を研究してほしい。
- ・指定を受ける書類の多さに大変な思いを致しました。今後高齢者が増加していくので、居宅支援事業所が追いつかない気もしますので、書類の簡素化を図ってほしいと思います。

### <市・職員の対応に関する要望>

- ・相談内容によって担当者がきちんと決められていて、分かるようにしてほしい。
- ・事業者指導は四角四面に実施するのではなく、事業所の取り組み等聞きながら、温和に実施してほしい。一方、明らかな不正に対しては厳しく対応して頂いた方がいいと思います。ローカルルールは作らないでいただきたい（予防プラン受託に関して大変困難な思いをしました）。
- ・市の職員もケアマネの資格を取得する必要があると感じる。看護師、保健師、その他の資格保有者は積極的に講習や試験を受け、包括支援センター、居宅介護支援事業に（市職員として）対等な意見



交換ができ、より理解が深まり、仕事がスムーズに運べると思う。市職員に理解してもらえずギクシャクすること多々あるため、先進市を参考にしてほしい。

- ・権限の移行は素晴らしいのですが、市町村の偏りが心配されます。利用者の住所地が他県他市にある場合等、制度内容、手続き、申請等を一律化し、事務処理の簡素化、介護保険の主旨、具体的な関わり等を透明化し、問題点等臨機応変に解決して結果を関係者に説明していければと思います。
- ・事業所の指定、更新は事業所にとっても気になる大切な事です。更新に間に合うように事前に通知してほしい。
- ・流山市の見解をはっきり示してほしい（Q&Aなど）。

### <とても心強い・安心>

- ・今までも市のケアマネ連絡会等においてや医師との連携などのサポート、支援いただいていたと感じています。とても心強いです。引き続き宜しくお願い致します。
- ・市で行っていただいたほうが、気持ちとしても近いので安心できる。
- ・一人の利用者様を看させていただくのに、同じ目線で見えていただきたく思います。ですが流山市は他の市町村と比べ、レベルは高いと思います。みなさん熱心に話をして下さいます。

### <その他>

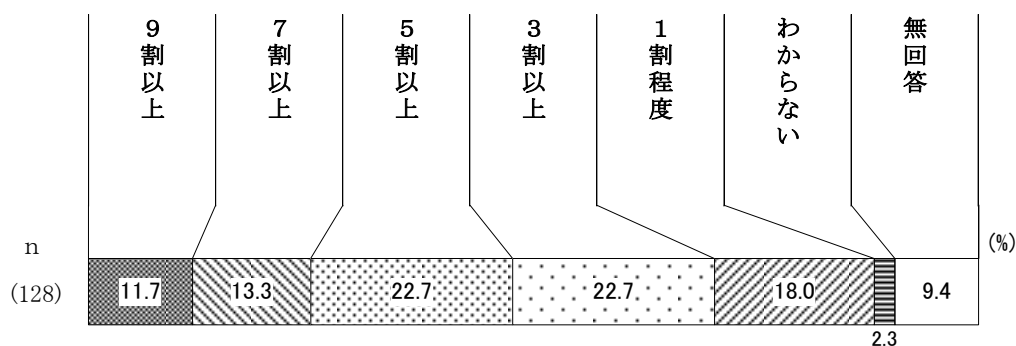
- ・地域ケア会議の推進。
- ・研修以外にもサービス事業者とケアマネの交流など、地域の情報交換の場が定期的にあると良いかも知れません。

## 9 認知症対策について

### 1 サービス利用者のうち認知症を抱える方の割合

Q29：貴事業者のサービス利用者に、認知症を抱える方（認知症自立度Ⅱ a以上の方、及びⅡ aに該当すると思われる方）はどのくらいいますか。（○は1つ）

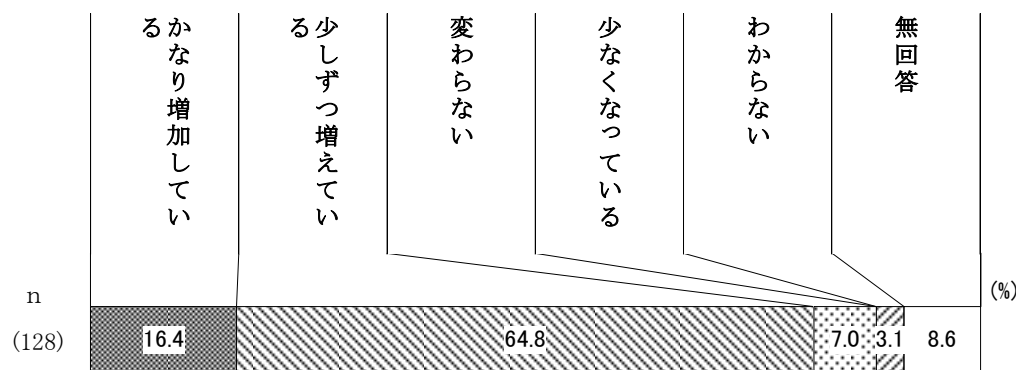
サービス利用者のうち認知症を抱える方の割合は、「3割以上」と「5割以上」がともに22.7%で最も多く、次いで「1割程度」が18.0%となっている。「9割以上」から「1割程度」を合わせた《認知症を抱える方がいる》は88.3%となる。



### 2 以前と比べた認知症を抱える利用者の状況

Q30：以前と比べ、認知症を抱える利用者は増えていると感じていますか。（○は1つ）

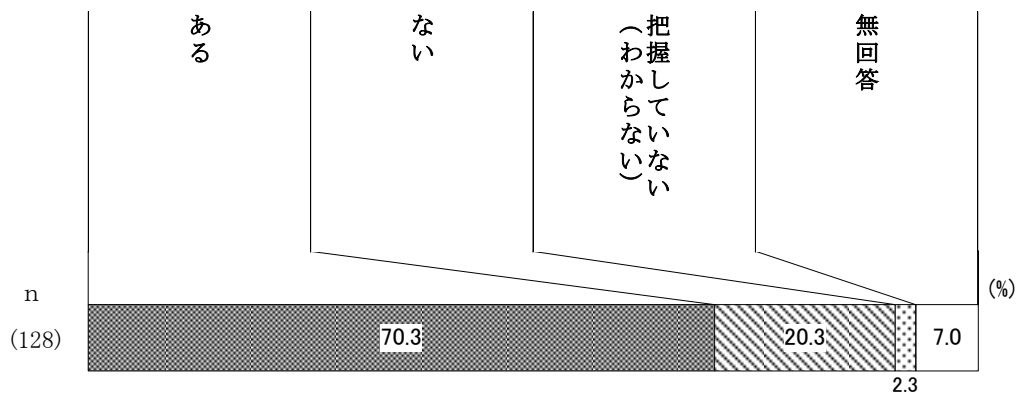
以前と比べた認知症を抱える利用者の増減では、「少しずつ増えている」が64.8%で最も多く、これに「かなり増加している」(16.4%)を合わせた《増加している》は81.2%となる。



### 3 認知症を抱える利用者への対応で困ったことの有無

Q31：貴事業所では、認知症を抱える利用者への対応で困ったことはありますか。（〇は1つ）

認知症を抱える利用者への対応で困ったことの有無は、「ある」が 70.3%で、「ない」が 20.3%となっている。

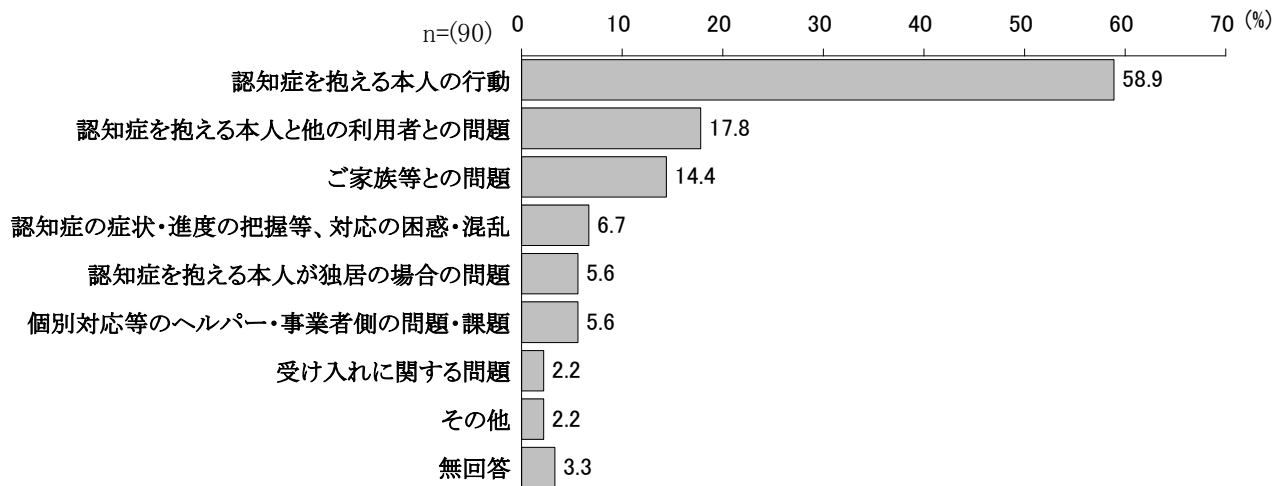


#### 4 認知症を抱える利用者への対応で困ったことの有無

(Q31で「1. ある」と回答した事業所の方のみ)

Q31-1：貴事業所では、認知症を抱える利用者への対応で困ったことはありますか。

(〇は1つ)



※以下は事例の抜粋

##### <認知症を抱える本人の行動> (53件)

- ・自宅への帰宅願望が強く、頑固に訴えられ気持ちを静めていただくのに時間を要する。攻撃的な訴えである為、他の利用者さんの迷惑にもなる。
- ・スタッフへの暴言、暴力（手を上げようとする）
- ・ヘルパーが家の中に入れない。入浴拒否
- ・帰宅願望、昼夜逆転、徘徊、失禁、介護拒否、意志疎通困難など

##### <認知症を抱える本人と他の利用者との問題> (16件)

- ・物盗られ妄想で他のご利用者と口論になった。
- ・他の利用者への暴言、暴力、破壊行為等
- ・大声、暴力がある方で、他の利用者様への対応が困った。

##### <ご家族等との問題> (13件)

- ・家族が認知症の親を理解していない。自宅で1人で生活できるレベルではないのに、自宅に戻らせた。
- ・認知症を発見し早期に専門医につなげたいが、家族が専門医受診を拒否している。
- ・帰宅願望、介護拒否に対する暴力行為、被害妄想によりご家族がその事についてすべてを信用してしまう。

##### <認知症の症状・進度の把握等、対応の困惑・混乱> (6件)

- ・環境変化することで認知機能の低下している方は、利用から数日は不穏を起しやすく、慣れてい

ただくまで時間を要する。

- ・スタッフがいた時のフォロー、メンタル面など（スタッフによって認知症理解度が異なる）。
- ・短期記憶障害が出現しはじめたが、しっかりした部分もあるために困惑、混乱してしまう。

#### ＜認知症を抱える本人が独居の場合の問題＞（5件）

- ・独居のため、ゴミだらけの家に野良猫10匹と住んでいる。
- ・独居のため、朝の準備に時間がかかる。
- ・独居の方の場合のご本人の意志の確認が困難、徘徊、災害時の対応に不安を感じている。

#### ＜個別対応等のヘルパー・事業者側の問題・課題＞（5件）

- ・転倒リスクのある方にずっと付き添いが出来ない。又、拘束も出来ないため、介護職員の体力や精神に負担がかかっている。
- ・個別の対応（常にマンツーマンである必要性）

#### ＜受け入れに関する問題＞（2件）

- ・利用していたサービス事業所（デイサービス、ショートステイ）で受け入れ困難となった。入院必要な病状でも入院できなかった。
- ・家族、利用者の受け入れが難しい点

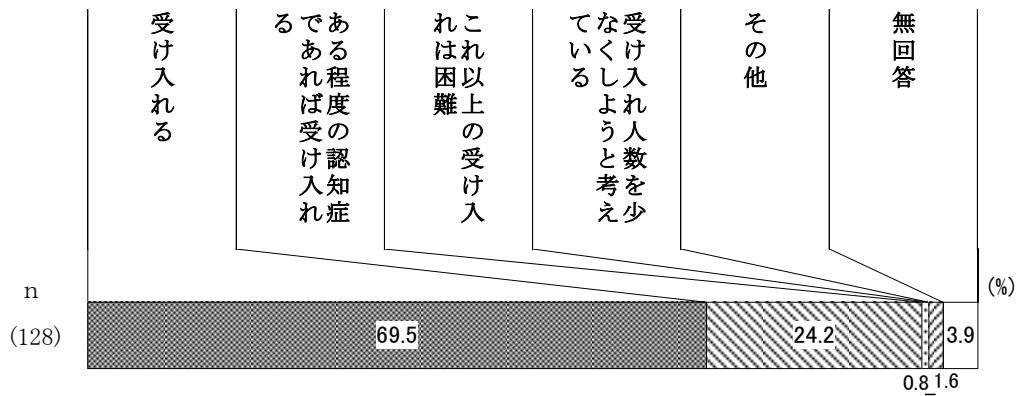
#### ＜その他＞（2件）

- ・高齢世帯で二人とも認知症を発症していた（子供なし）。
- ・老々介護で介護力の負担が大きい等。

## 5 認知症を抱える利用者の受け入れにおける考え

Q32：今後、認知症を抱える利用者の受け入れについて、どのように考えていますか。  
(定員の充足状況を考慮せずにお答えください。○は1つ)

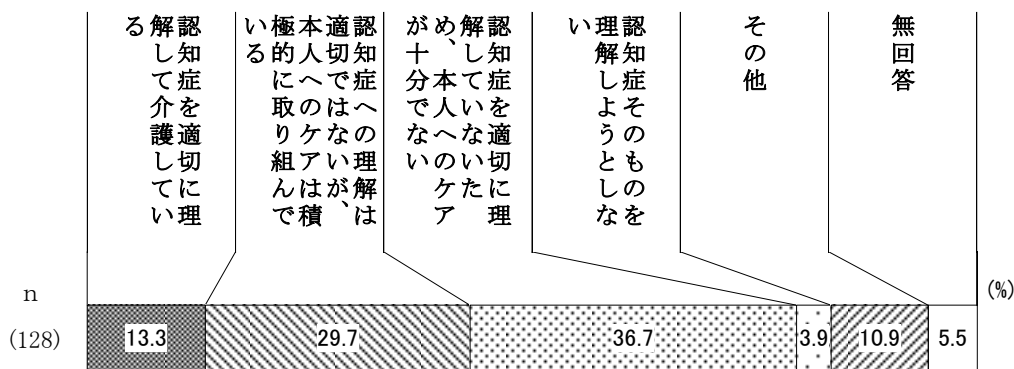
認知症を抱える利用者の受け入れにおける考えでは、「受け入れる」が69.5%で最も多く、次いで「ある程度の認知症であれば受け入れる」が24.2%となっている。



## 6 認知症を抱える利用者の家族（介護者）についての印象

Q33：認知症を抱える利用者の家族（介護者）について、どのように感じていますか。（〇は1つ）

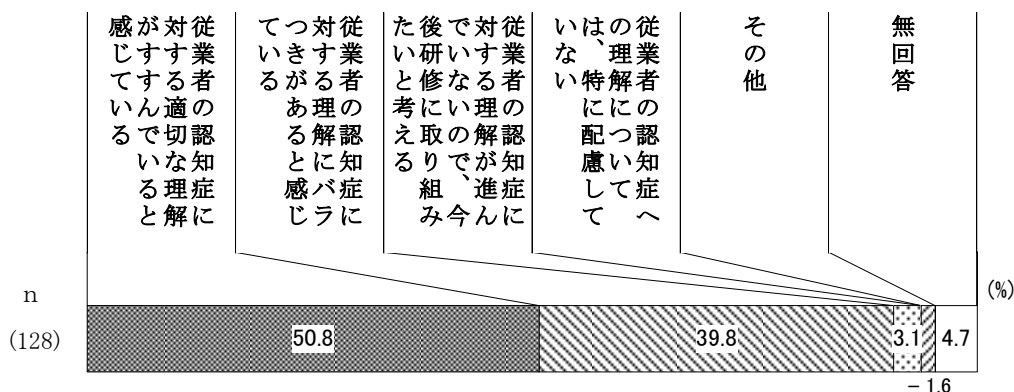
認知症を抱える利用者の家族（介護者）についての印象は、「認知症を適切に理解していないため、本人へのケアが十分でない」が36.7%で最も多く、次いで「認知症への理解は適切ではないが、本人へのケアは積極的に取り組んでいる」が29.7%、「認知症を適切に理解して介護している」が13.3%となっている。



## 7 事業所の従業員の認知症への理解、取り組みについての姿勢

Q34：貴事業所の従業員の認知症への理解、取り組みについて、お答えください。（〇は1つ）

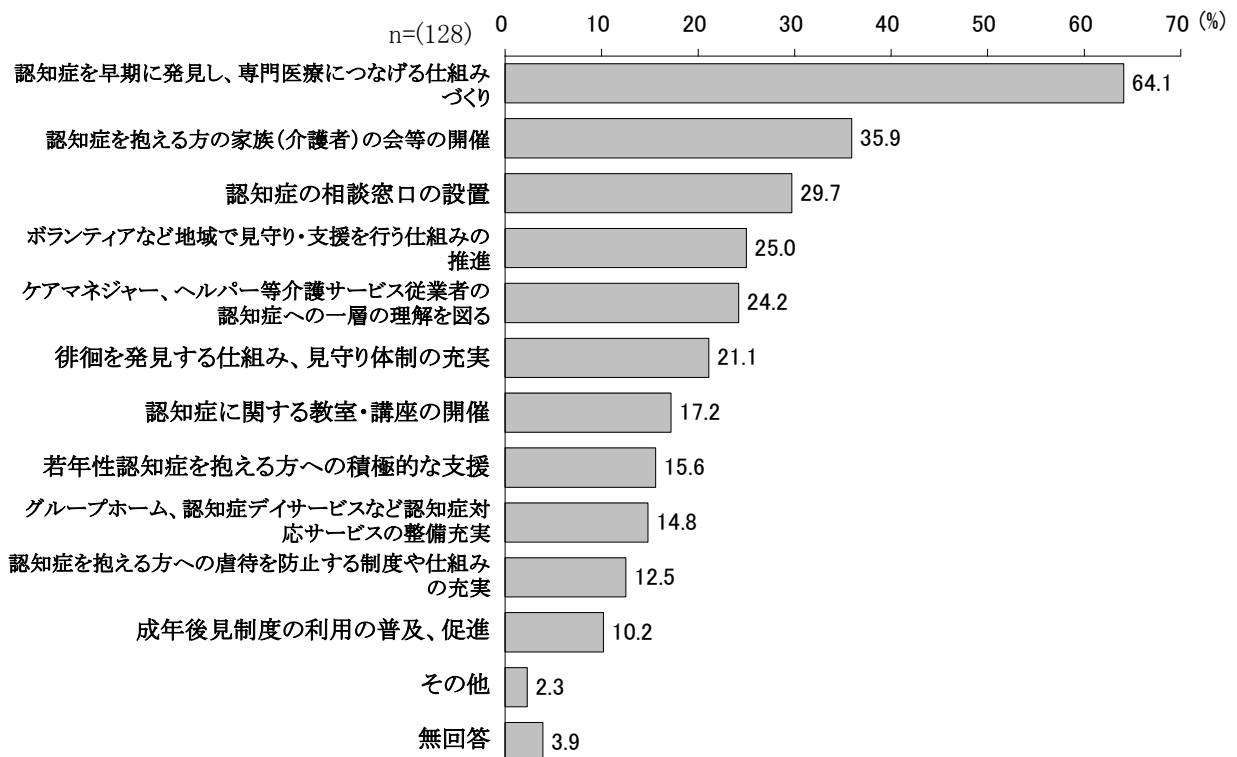
事業所の従業員の認知症への理解、取り組みについての姿勢は、「従業員の認知症に対する適切な理解がすすんでいると感じている」が50.8%で最も多く、次いで「従業員の認知症に対する理解にバラつきがあると感じている」が39.8%となっている。



## 8 認知症対策として重要であるとする取組み

Q35：認知症を抱える方は今後ますます増えていくと予測されていますが、認知症対策としてどのような取組みが重要であるとお考えですか。（〇は3つまで）

認知症対策として重要であるとする取組みは、「認知症を早期に発見し、専門医療につなげる仕組みづくり」が64.1%で最も多く、次いで「認知症を抱える方の家族（介護者）の会等の開催」が35.9%、「認知症の相談窓口の設置」が29.7%、「ボランティアなど地域で見守り・支援を行う仕組みの推進」が25.0%となっている。





## 9 介護保険サービスの組み合わせ

### 【居宅介護支援事業所のみ】

Q36：認知症の方へのケアプランについて、どのような介護保険サービスの組み合わせにより利用する方が多いですか。（貴事業所で典型的な利用例に○を付し、3つまで教えてください）

認知症の方へのケアプランについて、典型的な組み合わせの形を最大3つまで回答していただいたところ、85件の回答が得られた。

回答いただいたサービスの組み合わせを集約したところ、『「訪問介護」「通所介護」』が14.1%で最も多く、次いで『「訪問介護」「通所介護」「ショートステイ」』と『「通所介護」「ショートステイ」』が11.8%となっている。

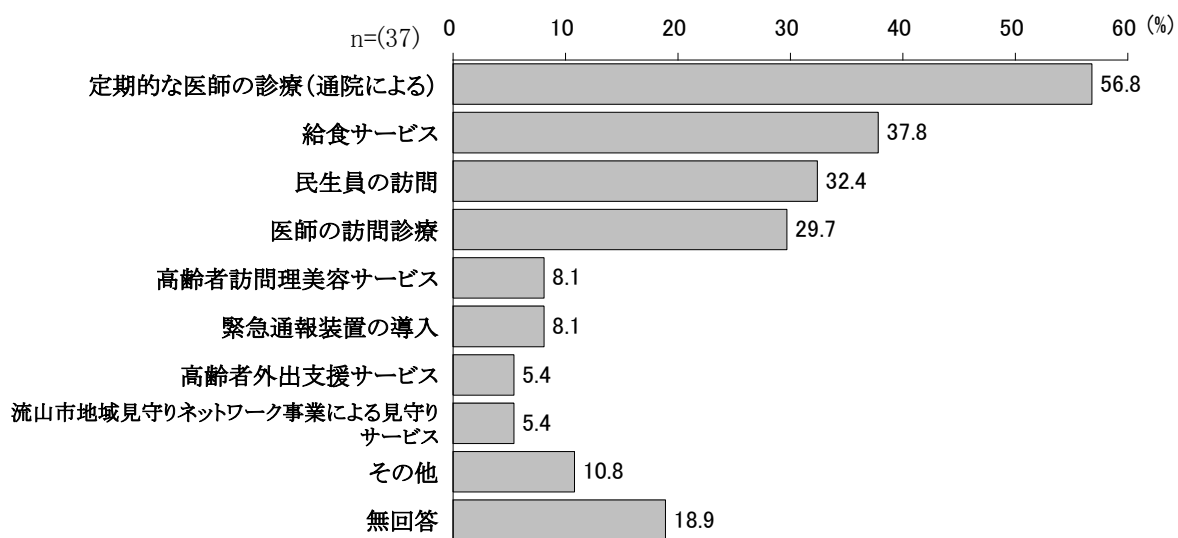
	組み合わせ数	件数	構成比
「訪問介護」「通所介護」	2サービス	12	14.1
「訪問介護」「通所介護」「ショートステイ」	3サービス	10	11.8
「通所介護」「ショートステイ」	2サービス	10	11.8
「訪問介護」「訪問看護」「通所介護」	3サービス	5	5.9
「通所介護」	1サービス	5	5.9
「訪問看護」「通所介護」「ショートステイ」	3サービス	4	4.7
「訪問介護」「通所リハビリ」	2サービス	3	3.5
「訪問看護」「通所介護」	2サービス	3	3.5
「訪問介護」	1サービス	3	3.5
「訪問介護」「通所リハビリ」「ショートステイ」	3サービス	2	2.4
「訪問介護」「訪問看護」「通所リハビリ」	3サービス	2	2.4
「小規模多機能型居宅介護」	1サービス	2	2.4
「居宅療養管理指導」「通所介護」「ショートステイ」	3サービス	1	1.2
「通所介護」「通所リハビリ」「ショートステイ」	3サービス	1	1.2
「訪問介護」「居宅療養管理指導」「ショートステイ」	3サービス	1	1.2
「訪問介護」「居宅療養管理指導」「通所介護」	3サービス	1	1.2
「訪問介護」「通所介護」「通所リハビリ」	3サービス	1	1.2
「訪問介護」「認知症対応型通所介護」「ショートステイ」	3サービス	1	1.2
「訪問介護」「訪問看護」「ショートステイ」	3サービス	1	1.2
「訪問介護」「訪問看護」「居宅療養管理指導」	3サービス	1	1.2
「訪問介護」「訪問看護」「訪問リハビリテーション」	3サービス	1	1.2
「訪問看護」「居宅療養管理指導」「認知症対応型通所介護」	3サービス	1	1.2
「訪問看護」「認知症対応型通所介護」「ショートステイ」	3サービス	1	1.2
「訪問入浴介護」「訪問看護」「居宅療養管理指導」	3サービス	1	1.2
「通所リハビリ」「ショートステイ」	2サービス	1	1.2
「通所介護」「通所リハビリ」	2サービス	1	1.2
「通所介護」「認知症対応型通所介護」	2サービス	1	1.2
「訪問介護」「ショートステイ」	2サービス	1	1.2
「訪問介護」「居宅療養管理指導」	2サービス	1	1.2
「訪問介護」「認知症対応型通所介護」	2サービス	1	1.2
「訪問介護」「訪問リハビリテーション」	2サービス	1	1.2
「訪問介護」「訪問看護」	2サービス	1	1.2
「訪問看護」「小規模多機能型居宅介護」	2サービス	1	1.2
「訪問入浴介護」「訪問看護」	2サービス	1	1.2
「通所リハビリ」	1サービス	1	1.2
「訪問看護」	1サービス	1	1.2
合計		85	100.0

## 10 認知症の方が介護保険サービス以外のサービス・制度で利用しているもの

【居宅介護支援事業所のみ】

Q37：認知症の方へのケアプランについて、介護保険サービス以外のサービス・制度で利用しているものがあれば、教えてください。（利用が多いと思われる順に、〇は3つまで）

認知症の方が介護保険サービス以外のサービス・制度で利用しているものは、「定期的な医師の診療（通院による）」が56.8%で最も多く、次いで「給食サービス」が37.8%、「民生員の訪問」が32.4%、「医師の訪問診療」が29.7%となっている。



Q38：認知症の方へのケアプランについて、介護保険サービス以外のサービス・制度として、今後どのようなものが作られることを期待しますか、教えてください。

### <見守り>

- ・認知症の方の見守りサービス
- ・現在もあると思いますが、地域の見守りネットワークや地域社会との関わりが多く持てるように期待します。
- ・近隣や地域（地区）による見守り支援・近隣の見守りシステム（短時間の安否確認等）
- ・近隣や地域が市全体で見守れるような町になることが理想です。
- ・地域の見守りの確立
- ・見守り
- ・「流山市地域見守りネットワーク事業による見守りサービス」について重要だと思いますが、あまり市民には知られていないのでは。徘徊している方を見かけた時、すぐに連絡できるよう広く周知させて下さい。

### <外出支援（閉じこもり予防）>

- ・閉じこもり予防の為の外出支援
- ・個別に外出支援などを行える団体
- ・外出支援・閉じこもりによる認知症進行を防止する体制の構築（傾聴、話し相手、見守り、徘徊対応、散歩など）

### <専門医師・保健師等の訪問>

- ・保健師さんが訪問し、体調の確認をしていく。
- ・精神科医や町医者への往診
- ・認知症状に詳しい専門の医師が診察（訪問）出来る在宅医療が必要（病状の変化に対応していただけるなど）

### <認知症で病気の方のショートステイ先が少ない>

- ・急な依頼があっても受け入れ可能な自費でのショートステイ。
- ・認知症で病気（例えば糖尿病でインスリン注射が必要）のある方のショートステイ先が少なく、緊急の場合（葬式で家族が遠くまで行くなど）、空いてなくて困った事があった。

### <認知症に正しく対応できる医療機関と専門職>

- ・認知症対策は一般への啓発も大切ですが、医療の側では認知症を正しく診断できる医療も不足しています。せっかく早期に相談に行っても「なんでもない」と帰されてしまう事も多く、そのうち悪化してしまいます。

- ・ B P S D の激しい人にも対応できる医療機関と、その後の対応をしてくれる地域の専門職。
- ・ 認知症コーディネーターの配置。

### ＜地域の集いに参加できるような場所づくり、声かけ運動の連携＞

- ・ 核家族または日中留守の方へは、通所、小規模で毎日のサービスを重視しています。介護保険 1 割負担の料金も重くなりますので、地域の集いを多くし、安心できる集まりの場へ参加できる地域風土を元気なうちから参加できるような場所づくり、声かけ運動の連携が多くあればと思います。本人のできる能力を引出し、役割が喜びとなる場になればと思います。
- ・ 若年性認知症の方が利用できる制度や場所を作してほしい。
- ・ 地域の見守りで気軽に立ち寄り、集える場。

### ＜民生委員の訪問強化・周知＞

- ・ 民生委員の訪問強化。
- ・ 民生委員についても周知されていないのでは。

### ＜その他＞

- ・ 今後、認知症の高齢者「団塊の世代」の方が増大する事が予測されるが、今までの地域精神保健医療体制の制度から福祉混合再編による、利用者、家族のための地域におけるサービス提供、地域における精神保健に問題のある方の地域住民と地域社会の為のサービスの提供等で、重度の認知症の方も住み慣れた地域で生活出来る事を望みたいと思います。
- ・ 特技を活かしたサークル教室（教える立場になれる場）
- ・ 介護保険では安否確認のみ支援はできないが、安否確認や水分の促し、少し話しをする程度の支援が必要なケースがあり（日中独居など）、これに対応できるサービスがあると助かります。
- ・ 病院への通院の付き添いがサービスとして明確に利用できると良い。
- ・ (Q37であげられた) 認知症の方へのケアプランについて、医師の訪問診療、定期的な医師の診療（通院による）等、すべての項目で十分に活用できるようにしてほしい。
- ・ 行政のネットワーク取り組み
- ・ 地域住民への認知症の正しい理解と対応方法についての普及活動
- ・ 話し相手

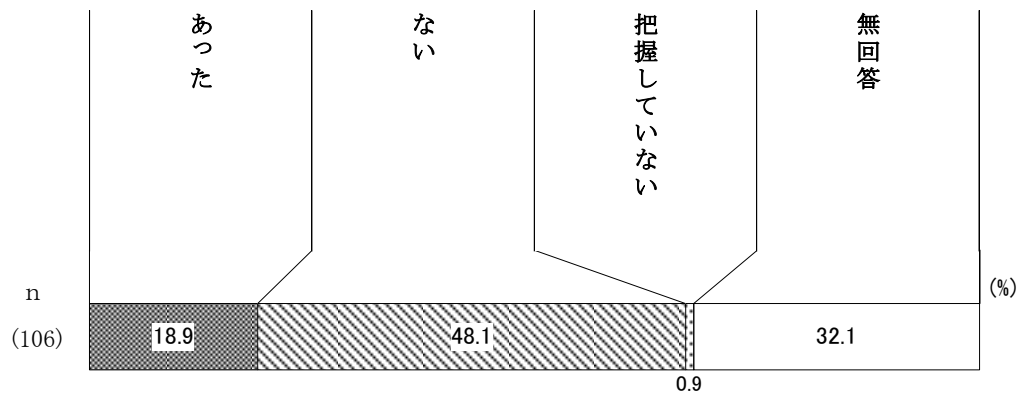
## 10 高齢者権利擁護（虐待）について

【居宅サービス事業者のみ】

### 1 過去1年間で利用者に家庭内における虐待と思われる状態を発見したことの有無

Q39：過去1年間で、貴事業者のサービス利用者に、家庭内における虐待と思われる状態を発見したことがありますか。（〇は1つ）

過去1年間で、利用者に家庭内における虐待と思われる状態を発見したことの有無は「あった」は18.9%で、「ない」が48.1%となっている。



## 1-1 虐待の事例

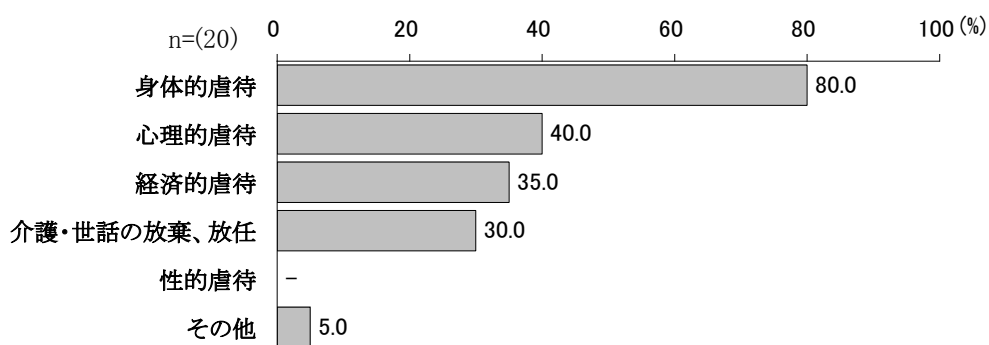
【居宅サービス事業者のみ】

(Q39で「1. ある」と回答した事業所の方のみ)

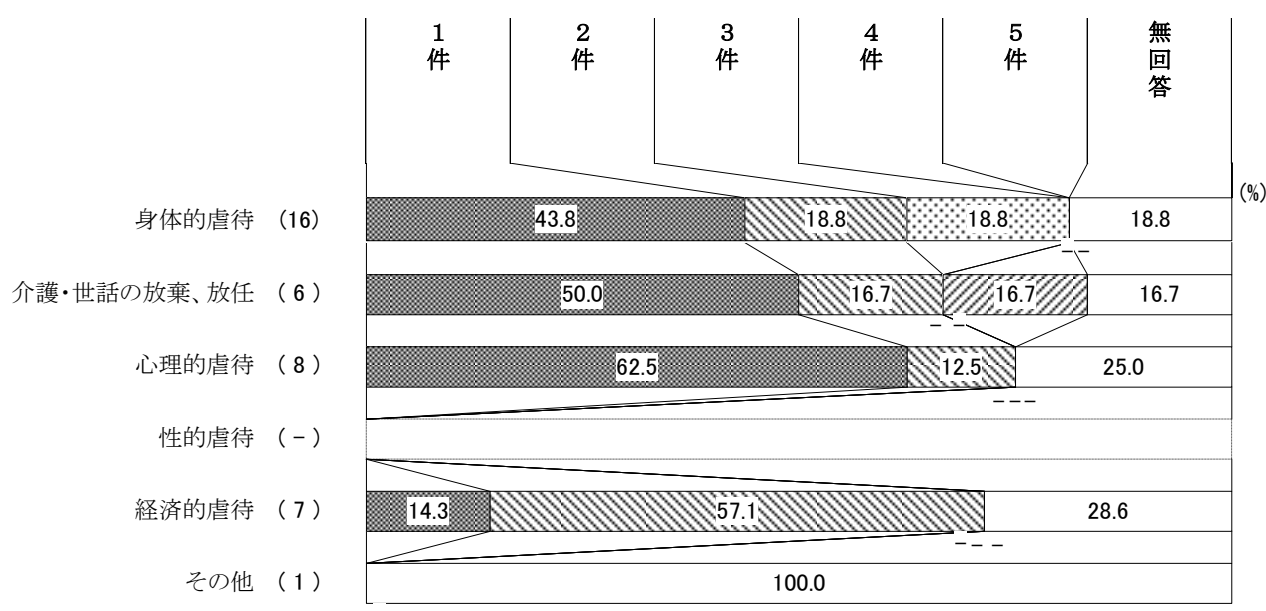
Q39-1: どのような事例が何例くらいありましたか。わかる範囲内でお答えください。

(〇はいくつでも。また、〇をつけた場合は【 】内に事例数を記入)

虐待と思われる状態を発見したことがあると回答した方にどのような事例があったかをたずねたところ、「身体的虐待」が80.0%で最も多く、次いで「心理的虐待」が40.0%、「経済的虐待」が35.0%、「介護・世話の放棄、放任」が30.0%となっている。



※nの数が少ないことから、参考として図示する。



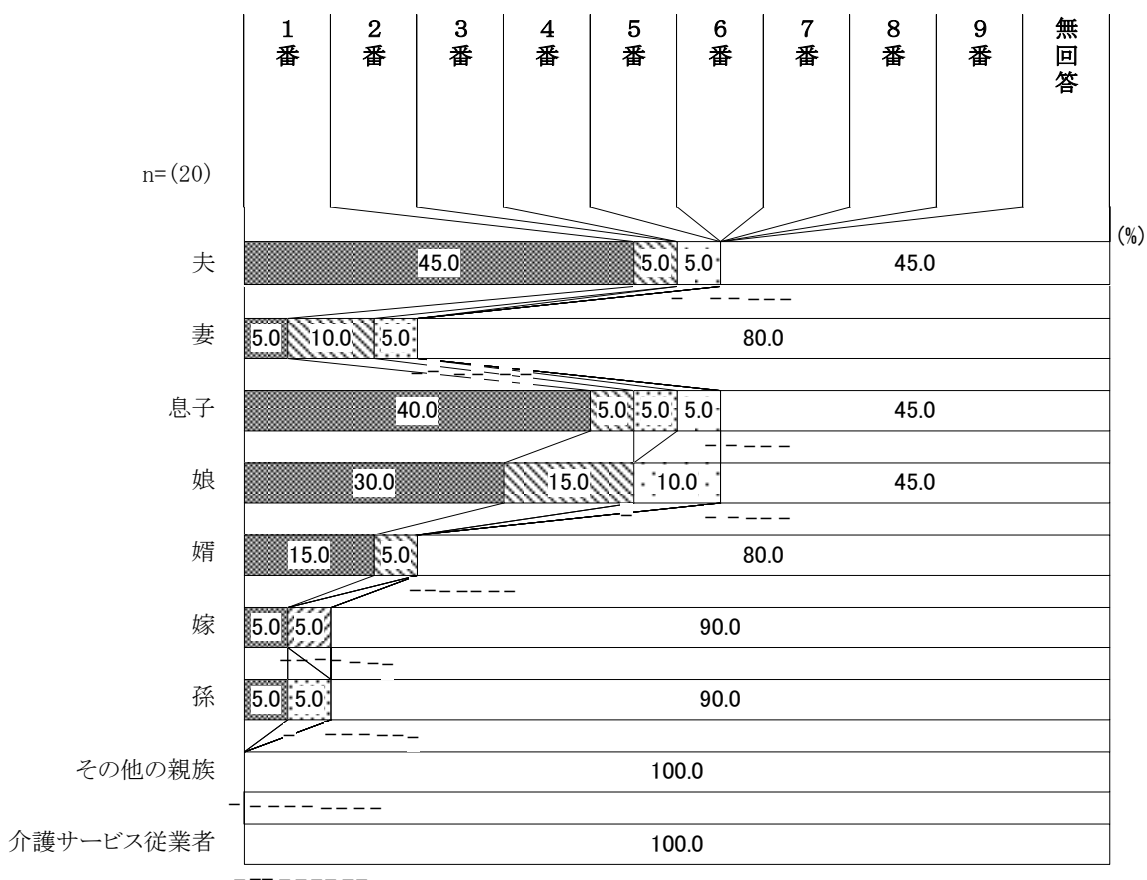
1-2 虐待をした人

【居宅サービス事業者のみ】

(Q39で「1. ある」と回答した事業所の方のみ)

Q39-2：虐待をした人はどの例が多いですか。多い順番に（ ）内に数字を付してください。

虐待をした人の例をたずねたところ、「1番」では、夫が45.0%で最も多く、次いで、息子が40.0%、娘が30.0%となっている。



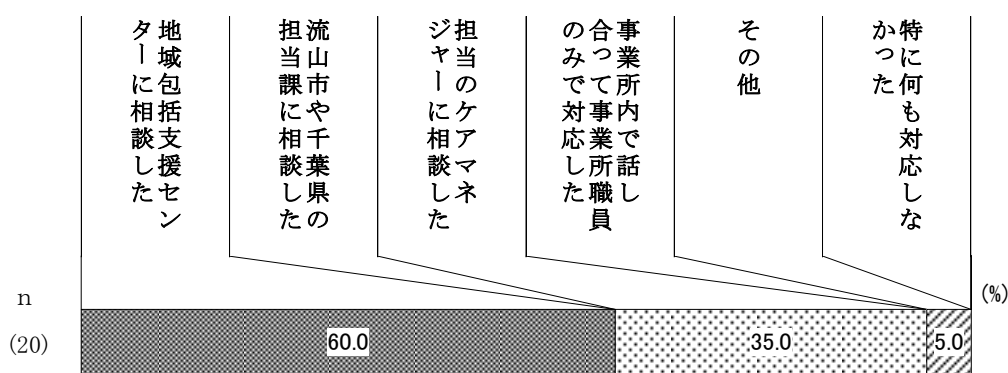
### 1-3 虐待と思われる状態を発見した場合の対応

【居宅サービス事業者のみ】

(Q39で「1. ある」と回答した事業所の方のみ)

Q39-3：虐待と思われる状態を発見した場合、どのような対応をしましたか。(〇は1つ)

虐待と思われる状態を発見した場合の対応は、「地域包括支援センターに相談した」が60.0%で最も多く、次いで「担当のケアマネジャーに相談した」が35.0%となっている。

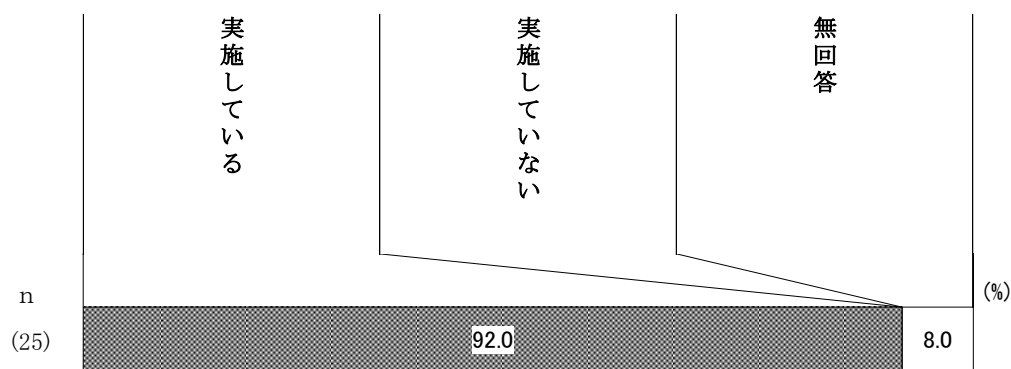


### 2 身体拘束に対する取組みや検討会などの実施状況

【施設サービス事業者のみ】

Q40：貴施設において、身体拘束に対する取組みや検討会などを実施していますか。(〇は1つ)

身体拘束に対する取組みや検討会などの実施状況は、「実施している」が92.0%を占めている。



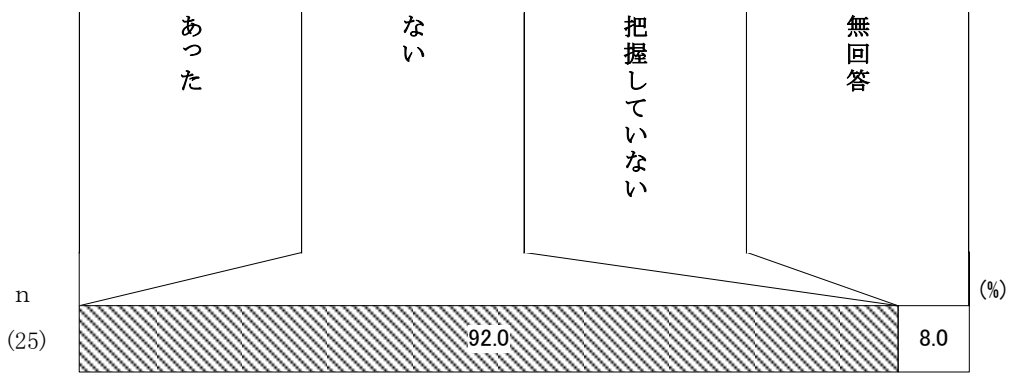


### 3 過去1年間に施設内で従業者による高齢者虐待と思われる状態の発生の有無

#### 【施設サービス事業者のみ】

Q41：過去1年間で、貴施設内で、従業者による高齢者虐待と思われる状態が発生したことがありますか。(○は1つ)

過去1年間に施設内で従業者による高齢者虐待と思われる状態の発生の有無は、「ない」が92.0%を占めている。



#### 【施設サービス事業者のみ】

(Q41で「1. あった」と回答した事業所の方のみ)

Q41-1：どのような事例が何例くらいありましたか。わかる範囲内でお答えください。

(○はいくつでも。また、○をつけた場合は事例数を記入)

過去1年間に施設内で従業者による高齢者虐待と思われる状態があったと回答した事業所はなかった。

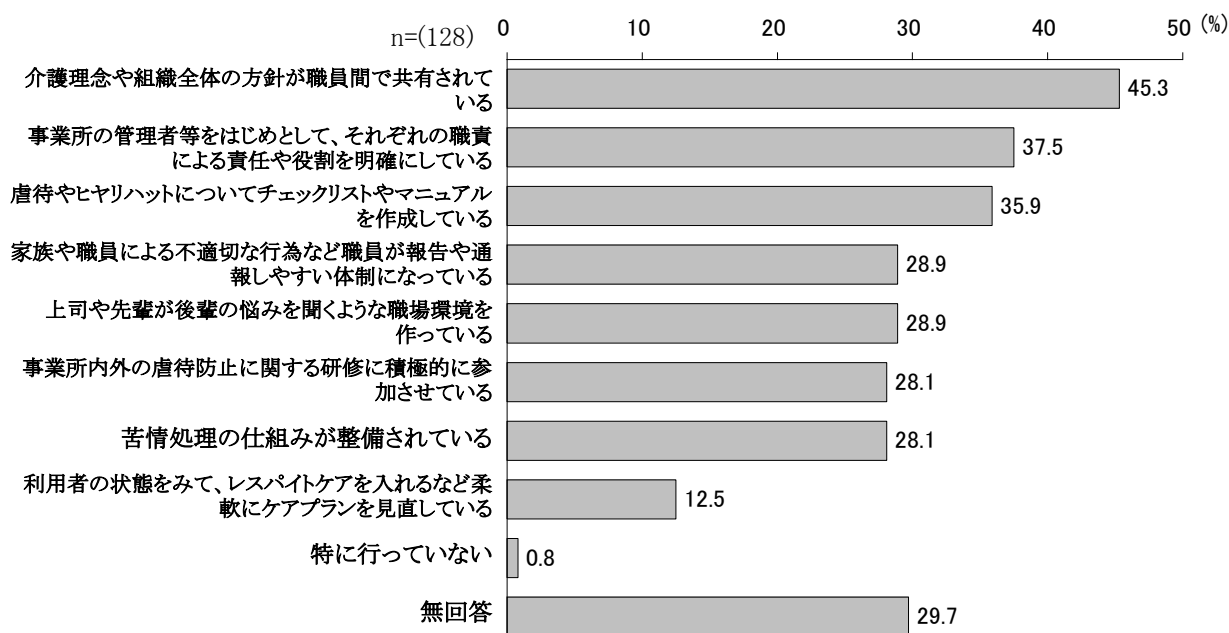
Q41-2：虐待と思われる状態が発生した場合、どのような対応をしましたか。(○はひとつ)

過去1年間に施設内で従業者による高齢者虐待と思われる状態があったと回答した事業所はなかった。

#### 4 虐待や不適切な行為の防止策や対応策として施設で行っていること

Q42：虐待や不適切な行為の防止策や対応策として、貴施設が行っていることはどんなことですか。（〇はいくつでも）

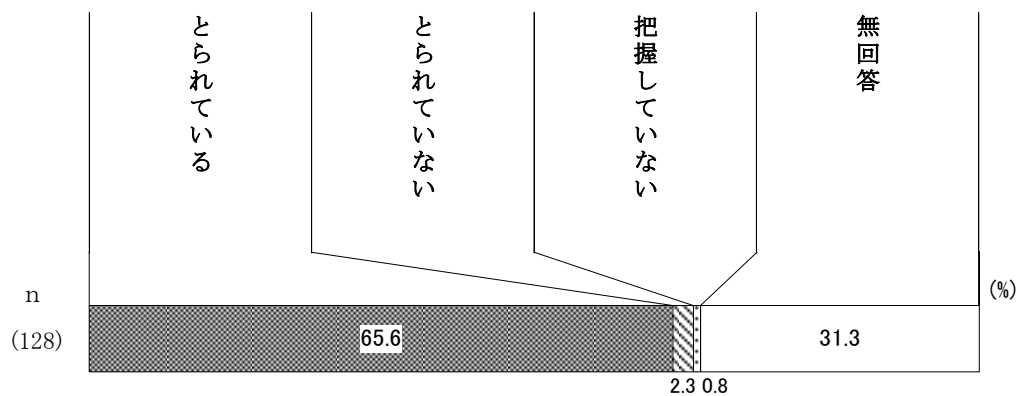
虐待や不適切な行為の防止策や対応策として施設で行っていることでは、「介護理念や組織全体の方針が職員間で共有されている」が45.3%で最も多く、次いで「事業所の管理者等をはじめとして、それぞれの職責による責任や役割を明確にしている」が37.5%、「虐待やヒヤリハットについてチェックリストやマニュアルを作成している」が35.9%となっている。



## 5 従業員が、他の従業員による虐待を目撃した場合の報告体制

Q43：貴事業所では、従業員が、他の従業員による虐待（疑いを含む）を目撃した場合には、担当者等に報告するなどの体制がとられていますか。（○は1つ）

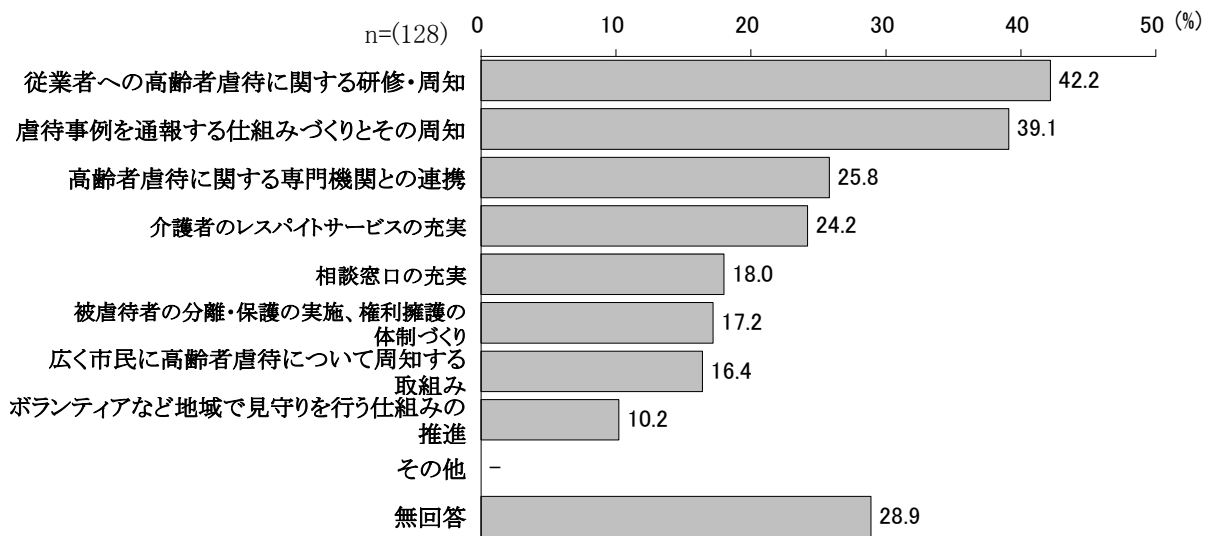
従業員が、他の従業員による虐待を目撃した場合の報告体制は、「とられている」が65.6%を占めている。



## 6 高齢者虐待を防止するために重要であると考える取組み

Q44：高齢者虐待を防止するには、どのような取組みが重要であるとお考えですか。（重要性が高い順に〇は3つまで）

高齢者虐待を防止するために重要であると考える取組みは、「従業者へ的高齢者虐待に関する研修・周知」が42.2%で最も多く、次いで「虐待事例を通報する仕組みづくりとその周知」が39.1%、「高齢者虐待に関する専門機関との連携」が25.8%、「介護者のレスパイトサービスの充実」が24.2%となっている。

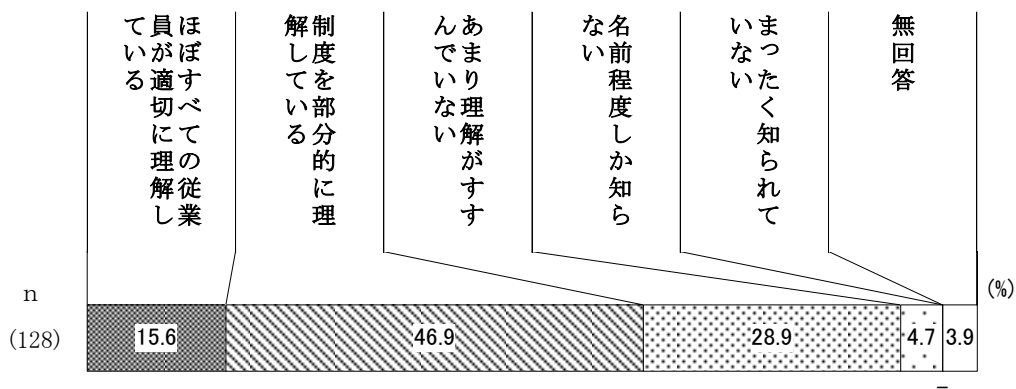


# 11 高齢者権利擁護（成年後見制度）について

## 1 従業員の成年後見制度への理解度

Q45：貴事業所では、従業員の方々に、成年後見制度への理解がすすんでいますか。（〇は1つ）

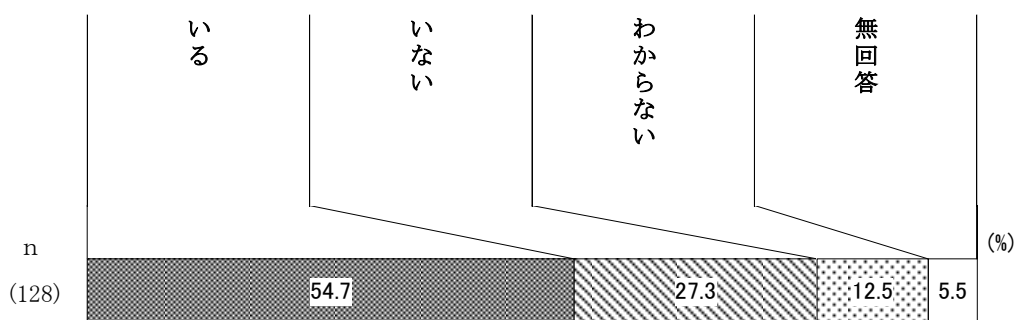
従業員の成年後見制度への理解度は、「制度を部分的に理解している」が46.9%で最も多く、次いで「あまり理解がすすんでいない」が28.9%、「ほぼすべての従業員が適切に理解している」が15.6%となっている。



## 2 成年後見制度の利用が望ましいと思われるサービス利用者の有無

Q46：貴事業所のサービス利用者には、成年後見制度の利用が望ましいと思われる方がいますか。（〇は1つ）

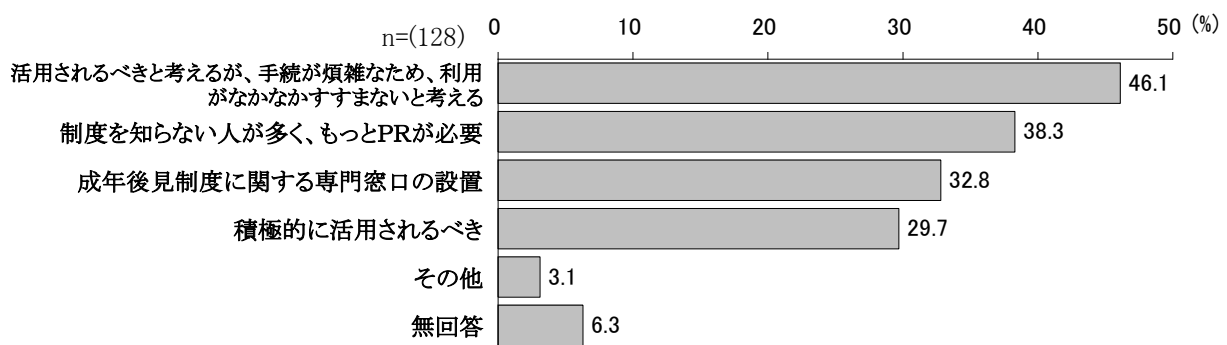
成年後見制度の利用が望ましいと思われるサービス利用者の有無は、「いる」が54.7%で、「いない」が27.3%、「わからない」が12.5%となっている。



### 3 成年後見制度の利用に対する考え

Q47：今後、認知症を抱える方の増加が予測されていることから、成年後見制度の必要性が高まると予測されていますが、成年後見制度の利用についてどのように思いますか。（〇は2つまで）

成年後見制度の利用に対する考えは、「活用されるべきと考えるが、手続きが煩雑なため、利用がなかなかすすまないと考える」が46.1%で最も多く、次いで「制度を知らない人が多く、もっとPRが必要」が38.3%、「成年後見制度に関する専門窓口の設置」が32.8%、「積極的に活用されるべき」が29.7%となっている。

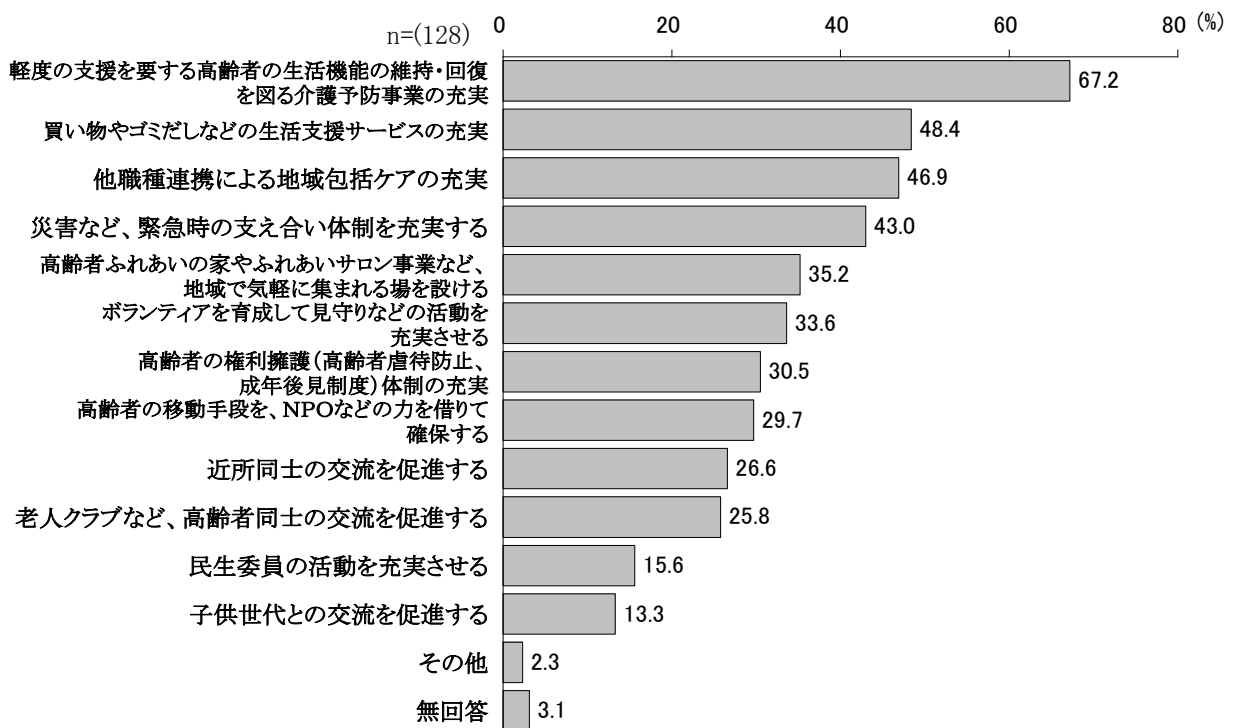


## 12 今後の高齢者介護について

### 1 高齢者が住み慣れた地域でできる限り住み続けていくために重要だと思うこと

Q48：高齢者が住み慣れた地域でできる限り住み続けていくためには、どのようなことが重要だと考えますか。(〇は5つまで)

高齢者が住み慣れた地域でできる限り住み続けていくために重要だと思うことは、「軽度の支援を要する高齢者の生活機能の維持・回復を図る介護予防事業の充実」が67.2%で最も多く、次いで「買い物やゴミだしなどの生活支援サービスの充実」が48.4%、「他職種連携による地域包括ケアの充実」が46.9%、「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が43.0%となっている。



## 2 介護保険制度や介護保険サービス、制度改正についての意見等

Q49：介護保険制度や介護保険サービスについて、日頃からお考えのことを自由にお書きください。現在国で検討されている介護保険制度改正に対する意見・要望を記入いただいても結構です。

### <制度の見直し・充実>

- ・介護保険の訪問介護では、ヘルパーが認知症の方の見守りや話し相手が禁止されている。デイサービスに行ってくれない人もいるので、家族がとてもストレスを感じてしまう。「1時間でも2時間でも解放してほしい」という願いに応えられない。ボランティアによる見守りなんて難しいと思います。制度の充実を望みます。
- ・老々介護、家族が仕事での日中独居、1人暮らしと介護環境的に問題な人が多くなりますが、早くにサービスを要請する事で安心を得られる事が多いですが、未だに税金のムダ使いをする事になると控え目な人もいます。少しのサービスからとなると、ケアマネ的相談業務（関係者）が対象者の目線で対応できる事です。改正においては予防重視は以前から施行がありますが、浸透時間がかかるようですが原因とされる事が早くに把握され、実行者の特定専門家がコーディネーターとなるのでしょうか、未だに現場では出会えません。高齢者住宅が増えていますが、内容の実態はどうなのでしょう。小規模多機能等の地域性は線引きで不便です。市の権限の広域化を考えられないのでしょうか。
- ・高齢者が困っている事が介護保険にはなく、自責でのサービスになってしまう事が多く、介護保険サービスの多様化とインフォーマルサービスの充実が必要と思われれます。
- ・改正のたびに時間が短縮され、ケアが細切れになっています。独居の方はヘルパー以外には話し相手がいなくても多いですが、それも時間がないので、ゆっくりお話を聞けず、ヘルパーは切ない思いでいます。
- ・ヘルパーさんを利用されている方の多くが、制度が改正される度に厳しくなって、今までしてもらえた事がしてもらえない等の不満を言っています。デイサービスを実施している立場からしても、3年に一度大きく制度改正があり、提供時間を変更したり、介護報酬が変わる等対応が大変です。この先どのような制度改正が行われるのかと不安で、ずっと介護事業を続けていけるのかといつも思っています。
- ・要支援の方が今までのように介護保険を使えなくなることで、とても不安だという声をよくお聞きするので、今までのサービスと同様なものが継続して利用できるようにしてもらいたいです。利用者負担の場合も利用の壁になると思うので、皆さんが利用しやすい介護保険であってほしいと思います。
- ・定期巡回随時対応型訪問介護看護、小規模多機能居宅介護の充実により、住みなれた地域で最後まで住み続けることが可能になりますので、地域密着型サービスの充実をお願いします。
- ・老健からのサテライトデイケアサービスを認めて欲しい。短時間リハで基礎体力を上げ、運動量を提供し、介護保険からの離脱を促進したい。又訪問リハを充実させ、日常の中の自立を、より外に向けても進めたい。デイケア、デイサービス等も公共交通機関を利用しての通いも認められるようにして欲しい。確かに従前、介護保険の中でリハ資格者が期待通りの成果はあげていなか



った事は否めないも、この4～5年成果は出ているし、これからは更に職能団体としても力を入れているので、活用して欲しい。

- ・介護保険制度の内容が複雑で分かりにくい。
- ・本当に求められているサービスと法令で提供できるサービスが異なっているしばりが多く、又、訪問介護も24時間提供できる事業所が無い為、介護者の負担軽減につながらない。
- ・居宅介護支援での事業所紹介に関して、併設されている居宅介護支援事業所には、その施設の中で使われているサービスを利用したいので、ケアマネも一緒にと依頼される事が多く、そのような方ばかり受け入れているともちろん集中減算になり、ただでさえ赤字の事業所が更に苦しくなってしまう現状があります。
- ・介護療養型施設の廃止に伴い、特養の医療ニーズが高くなってきている。特養でもナースの夜勤者をとれるような体制を望みます。
- ・介護保険制度、介護保険サービスの適用範囲の拡大とともに、必要性のないサービスや重要度の低いサービスには、規模、範囲を縮小していくことは仕方ないと思うが、社会は急激な変化や対応は望んでいない。よってこのようなアンケートを何度となく実施し、サービスにおいて効果的な資本の投入をお願いします。

### <サービスの見直し・充実>

- ・利用者中心の介護保険になって欲しいです。予算や計画も大切ですが、サービスが不足している方がたくさんいます。
- ・市内に老健は2ヶ所です。ハートケア流山は認知症の方への対応、特に入所、ショートステイで受け入れ、身体機能の向上、認知症状の軽減を図れるよう、ケアが充実してきたと思います。認知症の重度化を遅延し、自立度の高い状態で地域で生活していただけるよう、支援体制が整ったと思います。軽～中程度で改善を図れるよう支援したいと思います。老健のリハとしてはデイ、ショート、入所と全てにおいて在宅支援、自立支援をしています。リハとしては多くの市民の方の健康や予防へも関与すべきと考えています。要支援、要介護を改善すべく、多くの方へリハが提供出来るよう、短時間リハ特化型も始めました。デイとデイサービスと良い連携が出来て、介護度の改善（重度化防止）を図ることができればと考えています。サービスの特徴が良い方向で生かせるとよいと思っています。
- ・限られた財源の中で介護保険サービス（利用者の負担をなるべく増やさず）を続けていくためにも、訪問介護での生活援助の見直し等必要。

### <事業所・従事者の処遇・報酬>

- ・サービス向上云々よりも、先ず介護（すべての職種）において、専門性を持たせ処遇をもっと良くしなければならぬと感じる。誰でもできる（従事者となる）介護保険制度がプロ意識の欠落をまねき、本来の制度が求めるものから実態を遠ざけていると思う。
- ・介護報酬の問題が一番。事業所の健全な運営と従業者の生活水準を上げる。国の言う適正化から予算縮小の事でみんな苦しむ。国こそ適正に介護保険を使ってほしい。
- ・24年度の介護報酬改定では支援時間の短縮等単価の改定により、運営が一段と厳しくなった。従業者の定着化を図るためには、介護報酬単価の引き上げが不可欠。
- ・介護職についている従業者が給与が上がりにくい現状（保険制度のため）からなかなか定着しな

い。そのためスタッフのスキルが上がりにくい状況がある。

- ・介護職員への待遇（特に給与面）がアップしないと介護スタッフの定着は良くならない。
- ・高齢社会の日本にとって、介護保険制度は必須のものであり、多くの家族が助けられていると思う。今後とも改善、充実を図ってもらいたいと思う。介護サービスを支えるのは介護スタッフである。これら介護スタッフの中で現役をリタイアし、社会貢献の為に介護の仕事に入って来た人達は低い給与でもよいと思うが、家庭を持ち、子供を教育しなくてはならない若い人達にとっては、現状の給与レベルはあまりにも低すぎる。中核的な人材に現状の2倍程度の給与が支払えることが必要だと思う。
- ・介護報酬、収入（スタッフ）
- ・制度の見直しが多く報酬も少ない中で、わずかな不備でも減額されてしまい、行っている内容との矛盾により、経営もますます苦しくなるように思われます。恐らくこの事業自体が国のお荷物となっているのでしょうか。今後の改正も厳しくなると思われ、夢の無い仕事のように思われ、若い世代の方々の離職は進むと思います。我々も介護を必要とする世代ですが、将来の不安は増すばかりです。まじめに経営をしていますが、苦しくなるばかりです。
- ・人材不足も深刻なので介護報酬を上げるなどして、賃金アップするなど、働く人のモチベーションが上がるような形を望みます。
- ・職員となる従業者の給与が低い事が離職の原因では。民間給与との差はかなりある。また、看護師と同等の賃金に上げなければ、ますます高齢社会になっていくのに、支えていく人が不足していく。
- ・介護サービスに対し、まだまだ理解が低いと感じます。医療看護と同じくらい、専門的な分野の職種だと思いますが、賃金や処理面もまだまだ充実していないと感じます。若い男性が長く働けないのはそういうところに原因があると思います。

### <書類の増大・変更による事務負担>

- ・全体としてすべてのサービス利用に対する書類の数が多いと思います。ご利用者の負担やその作成の時間は事業所の負担になっています。
- ・制度の改正が多すぎる。介護保険サービスが使いにくくなっている。書類の簡素化が必要。現状ではケアマネジャーは書類関係に時間を取られてしまい、ご利用者支援の時間が取りにくくなっている。ご利用者中心の介護保険なのではないでしょうか。
- ・書類が多いので簡略化してほしい。ケアマネが事情（疾病等）で出勤ができない期間が長期（2～3ヶ月）に及ぶ場合の救済処置を検討してほしい。
- ・単位の微増にもかかわらず、法改正の度に契約書類一式、PCソフトなど全て変更を余儀なくされる。利用者の手も煩わせることがあまりにも多い。
- ・改正が頻回すぎる。単位が細かく計算が複雑

### <人材の確保・スキルアップ>

- ・介護保険制度は安心して年を重ねていける良い制度であると思っておりますが、担い手不足ではないかと懸念しています。介護に携わる労働者が誇りを持って仕事ができるよう、ソフト面での整備も大事かと思っております。
- ・国の施策として増加する認知症高齢者を在宅で介護する方向で考えているが、在宅在宅と頑張っ

ていて結局みられなくなり、ひどい状態でグループホームへ入居になることがある。グループホームはミニ特養化するばかりである。ケアマネジャーはしっかり家族の意向、経済状況、今後の見通し等見極め本当に在宅でいけるのか、早めに施設を探すのか責任の重い仕事ではある。ケアマネの資質の向上も図ってほしい。

- ・ どんどん介護保険サービス事業所が増えてきているが、軽度であればスムーズに受け入れられるが、認知症が進行していくと対応困難として断られてしまう。断る前に課題をさぐり、解決策と一緒に考えるなどの努力がほしい。ケアマネには更新の為に研修があるが、他の資格にはない為、研修も受けず資質や技術不足を感じる。
- ・ スタッフの質、サービスが高齢者の介護予防、生活を維持できると考えます。高齢者が増加する中で、人材の不足は多く見られており、人材の確保という所では正直、不安が大きい。長く仕事ができる環境、安定が重要である為、制度については早期の見直しが必要と考えます。

### <制度・サービスの理解不足・周知不足>

- ・ 介護保険のサービス内容やその仕組みについて理解されていない方が多く、サービス導入がスムーズに行われていない。医師も介護保険サービスについての理解がまちまちである。
- ・ 現時点においても制度の認知度が低い高齢者が多いと思う。
- ・ 制度やサービスがきちんと正確に利用者に伝わっていないようです。受ける側にも正確に知ろうとしない点もありますが。
- ・ 「地域包括支援センター」は地域の中でよく理解できていない。「出前相談」を自治会館、福祉会館等で行う方法、ピーアールを図る。
- ・ 介護保険サービスの利用者さんへの理解が難しすぎます。法改正での説明が困難になり、またニーズと離れていく事も。

### <介護保険料・施設利用料に関すること>

- ・ 介護保険料の負担も年々増えており、10年後、20年後がとても不安。
- ・ 国は新設する特養にはユニット型を推奨しています。国民年金だけの収入の方や低所得者はユニット型の施設には持ち出しになってしまいます。多床室の施設なら何とか支払可能です。40年間真面目に年金を払い続けても老後の選択が出来ないという事は理不尽です。

### <認定調査に関すること>

- ・ 要支援のご利用者様についての認定調査が、適切に行われているのかが疑問です。ご自分でできるのにヘルパーに全部頼む傾向があります。何度もケアマネ、提供責任者が伺い、指導を促してやっと渋々納得されるご利用者様もいます。認定調査の方法工夫を検討して頂きたいと思います。
- ・ 要介護認定調査の結果が本人の状態とつり合っていないケースが見受けられる。区分支給限度基準額の見直し（要介護5の方の中には足りないと思われるケースがある）。

### <市の施策に対する要望>

- ・ 重度の方の在宅介護で、待機をあまりせずに受け入れ可能な施設の確保、介護者の負担軽減のための施策の検討はあるのでしょうか。又、在宅で認知症の家族を抱えている家族の支援策は具体的に検討されるのか。又、団塊世代の方が高齢となり今後ますます認知症の方が増える事が予想

されますが、認知症通所介護等が利用できる事業所がもっと必要かと思われませんがその施策はあるのでしょうか。ケアマネジャーに制度改正の説明責任を負わせるのではなく、保険者として納得のいく説明と同意を求める責任があるのかと思います。今後の対応はいかがでしょうか。予防給付の境界域の方、低所得層の方の利用料負担の限度額すれすれの方、医療ニーズの高い方への流山市独自の救済策があるのでしょうか。

- ・利用者さんに経済的な負担を強いるサービスへと改定ごとになっている。財源が不足することを理由にしているが、財源の分配割合がそもそも間違っている。「介護の社会化」と措置から契約へと、介護保険が始まったのにお金のない人は、自由にサービスを選ぶことができません。せめて流山市では出来る限り福祉、介護へ予算をつけるよう努力していただきたいと思います。

## <その他>

- ・高齢者世帯は子どもたちに負担をかけたくないと考えて暮らしているのではと思います。行政や地域が介入していかなければ住み続けることは困難です。その窓口の相談業務は時間がかかるものです。そのため相談業務にあたる人員の増員が必要だと思います。窓口に来られない方もいます。訪問をするような体制が必要です。相談業務担当者（市、包括）などは病気、特養、老健でそれぞれ研修などしてから業務につけば説明も出来るのではないかと考えます。
- ・平成27年度以降の要支援1、要支援2の方を対象として、訪問介護及び通所介護サービスの保険給付サービスから市町村の実施に関して、どのようになっていくか不安がある。今後他のサービスにも広がっていくことへの不安もある。
- ・行政の下請で立ち位置が不明確。しかも自ら介護事業をして民間活力を阻害している社協は、介護保険制度の悪評高かった情報公表制度のように、有名無実化すべきである。しかし、社協を介護保険制度において機能させるならば、地域包括支援センターの機能を全て税金を使って社協に任せ、社協は訪問介護やデイサービスなど他のサービスを一切行わずにケアマネ事業に特化すべきである。こうすれば多額の税金を使って大病院等に委託している地域包括支援センターの抱え込み問題は解決する。
- ・高齢の社会を楽しめるような制度になってもらいたい。
- ・子どもがいない高齢者対策
- ・介護度5の高い人より、介護度の低い認知症の方についての対応が大変である。この点を考慮してほしい。
- ・宿泊デイサービスに関してガイドラインにもでき、安心して営業できると思っていました。その後、市政報告を出された社民党の方の記事がポストに入っており、絶句してしまいました。どれだけの調査をし、現場を見学したのか、宿泊デイで働いているご利用様を第一に考えているスタッフの気持ちを考えてくれないのか悲しくなりました。ご利用様もご家族の都合で特養、グループホームの空き待ち、急用でもショートが空いていないそれぞれの事情があり、宿泊デイを利用しています。夜間の避難訓練も定員も夜は5名以下と守っています。憤りを感じました。
- ・地域の中に高齢者や子供がふれあえる場を設けて活動が行えるよう、行政は民間委託で運営費を計上したらどうか。この方法は参画できる団体はあるはずです。地域住民に期待するのは無理。
- ・横出しサービスと云われるものが行政区によって差異があること。行政が率先して（補助する等）加えて行くことで、軽度の利用者の在宅生活が継続出来、介護度の高まりを防止出来て行く可能性がある。介護保険制度では身体、生活の区分を無くし、率先して自分で動くことをしていかな

ければ、説明しても不満が滞る結果となっていくと思われる。

- 介護が必要な方を支え合うために必要な制度。介護者を抱えるご家族の肉体的、精神的な負担を少しでもカバーし、高齢者の方が可能な限り尊厳のある自立した生活ができるようにサービスを行っていきたいと思います。
- 地域包括ケアシステムを作り上げ、地域で支えていく仕組みづくりも必要である。医療との連携、多職種との連携により、いち早く変化をとらえられ、治療等が出来れば地域で暮らせるのではと思う事もある。